

**2021年度
ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目
200・300番台
講義概要（シラバス）**



法政大学

科目一覧

【発行日：2021/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【F9102】 Natural Science A [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	1
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6001】 第三外国語としての朝鮮語 A [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	2
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6002】 第三外国語としての朝鮮語 B [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	3
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6003】 第三外国語としての朝鮮語中級 [梁 禮先] 春学期授業/Spring	4
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6005】 第三外国語としての朝鮮語 A [吉良 佳奈江] 春学期授業/Spring	5
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6006】 第三外国語としての朝鮮語 B [吉良 佳奈江] 秋学期授業/Fall	6
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6051】 日本語コミュニケーション A [江村 裕文] 春学期授業/Spring	7
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6052】 日本語コミュニケーション B [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	8
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6101】 漢字・漢文学 A [加納 留美子] 春学期授業/Spring	9
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6102】 漢字・漢文学 B [加納 留美子] 秋学期授業/Fall	10
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6103】 教養ゼミ I [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	11
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6104】 教養ゼミ II [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	12
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6109】 身体表現論 A [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	13
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6110】 身体表現論 B [深谷 公宣] 秋学期授業/Fall	14
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6111】 美術論 A [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	15
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6112】 美術論 B [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	17
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6113】 芸術と人間 A [岡村 民夫] 春学期授業/Spring	19
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6114】 芸術と人間 B [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	20
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6115】 仏教思想論 A [計良 隆世] 春学期授業/Spring	21
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6116】 仏教思想論 B [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	22
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6117】 行為の理論 A [山口 誠一] 春学期授業/Spring	23
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6118】 行為の理論 B [山口 誠一] 秋学期授業/Fall	24
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6119】 教養ゼミ I [森村 修] 春学期授業/Spring	25
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6120】 教養ゼミ II [森村 修] 秋学期授業/Fall	26
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6121】 中国の民族と文化 A [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	28
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6122】 中国の民族と文化 B [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	29
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6125】 古代日本・中国の法と社会 A [岡野 浩二] 春学期授業/Spring	30
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6126】 古代日本・中国の法と社会 B [岡野 浩二] 秋学期授業/Fall	31
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6127】 アジア・太平洋島嶼国際関係史 A [新崎 盛吾] 春学期授業/Spring	32
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6128】 アジア・太平洋島嶼国際関係史 B [水谷 明子] 秋学期授業/Fall	34
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6129】 教養ゼミ I [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	35
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6130】 教養ゼミ II [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	36
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6133】 キリスト教思想史 A [酒井 健] 春学期授業/Spring	37
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6134】 キリスト教思想史 B [酒井 健] 秋学期授業/Fall	38
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6135】 教養ゼミ I [江村 裕文] 春学期授業/Spring	39

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6136】教養ゼミⅡ [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	40
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6137】異文化コミュニケーション論 A [山本 そのこ] 春学期授業/Spring	41
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6138】異文化コミュニケーション論 B [山本 そのこ] 秋学期授業/Fall	42
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6141】教養ゼミⅠ [川鍋 義一] 春学期授業/Spring	43
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6142】教養ゼミⅡ [川鍋 義一] 秋学期授業/Fall	44
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6143】イギリスと帝国 A [大澤 広晃] 春学期 授業/Spring	45
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6144】イギリスと帝国 B [大澤 広晃] 秋学期 授業/Fall	46
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6201】法哲学 A [内藤 淳] 春学期授業/Spring	47
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6202】法哲学 B [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	48
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6203】教養ゼミⅠ [木村 正俊] 春学期授業/Spring	49
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6204】教養ゼミⅡ [木村 正俊] 秋学期授業/Fall	50
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6207】福祉社会論 A [菅野 摂子] 春学期授業/Spring	51
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6208】福祉社会論 B [菅野 摂子] 秋学期授業/Fall	52
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6209】人文地理学セミナー A [米家 志乃布] 春 学期授業/Spring	53
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6210】人文地理学セミナー B [米家 志乃布] 秋 学期授業/Fall	54
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6212】文化人類学方法論 B [石森 大知] 秋学 期授業/Fall	55
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6213】教養ゼミⅠ [上村 剛] 春学期授業/Spring	56
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6214】教養ゼミⅡ [上村 剛] 秋学期授業/Fall	57
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6215】人間行動学 A [海部 紀行] 春学期授業/Spring	58
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6216】人間行動学 B [海部 紀行] 秋学期授業/Fall	60
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6223】教養ゼミⅠ [金子 匡良] 春学期授業/Spring	62
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6224】教養ゼミⅡ [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	63
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6301】自然環境のしくみとその変貌 A [加藤 美 雄] 春学期授業/Spring	64
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6302】自然環境のしくみとその変貌 B [加藤 美 雄] 秋学期授業/Fall	65
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6305】計算と言語のしくみ [倉田 俊彦] 春学期 授業/Spring	67
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6306】コンピュータと数理の活用 [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	68
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6307】確率の世界 A [池田 宏一郎] 春学期授 業/Spring	69
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6308】確率の世界 B [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	70
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6311】相対性理論と宇宙 A [石川 壮一] 春学 期授業/Spring	71
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6312】相対性理論と宇宙 B [石川 壮一] 秋学 期授業/Fall	72
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6313】現代の錬金術 A [井坂 政裕] 春学期授 業/Spring	73
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6314】現代の錬金術 B [井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	74
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6315】原子核と素粒子 A [吉田 智] 春学期授 業/Spring	75
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6316】原子核と素粒子 B [吉田 智] 秋学期授 業/Fall	76
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6317】教養ゼミⅠ [島野 智之] 春学期授業/Spring	77
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6318】教養ゼミⅡ [島野 智之] 秋学期授業/Fall	78
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6323】イオンの科学 A [向井 知大] 春学期授 業/Spring	79
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6324】イオンの科学 B [向井 知大] 秋学期授業/Fall	80

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6325】 光と色の科学 A [中島 弘一] 春学期授 業/Spring	81
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6326】 光と色の科学 B [中島 弘一] 秋学期授業/Fall	82
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6327】 物質の科学 A [中田 和秀] 春学期授業/Spring	83
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6328】 物質の科学 B [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	85
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6329】 I T リテラシー [児玉 靖司] 春学期授 業/Spring	86
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6330】 コンピュータ科学 [児玉 靖司] 秋学期授 業/Fall	87
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6335】 人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授 業/Spring	88
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6336】 Human Impact on the Global Environment [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	89
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6337】 ボルボックス生物論 A [植木 紀子] 春学 期授業/Spring	90
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6338】 ボルボックス生物論 B [植木 紀子] 秋学 期授業/Fall	91
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6339】 教養ゼミ I [中田 和秀] 春学期授業/Spring	92
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6340】 教養ゼミ II [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	93
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6401】 教養ゼミ I [LASSEGARD JAMES] 春 学期授業/Spring	94
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6402】 教養ゼミ II [LASSEGARD JAMES] 秋 学期授業/Fall	96
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6421】 第三外国語としてのドイツ語 A [笠原 賢介] 春学期授業/Spring	97
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6422】 第三外国語としてのドイツ語 B [笠原 賢介] 秋学期授業/Fall	98
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6423】 ドイツ語コミュニケーション中級 A [Annette Gruber] 春学期授業/Spring	99
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6424】 ドイツ語コミュニケーション中級 B [Annette Gruber] 秋学期授業/Fall	100
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6425】 教養ゼミ I [辻 英史、竹本 研史] 春学 期授業/Spring	101
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6426】 教養ゼミ II [辻 英史、竹本 研史] 秋学 期授業/Fall	102
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6427】 ドイツの思想 A [笠原 賢介] 春学期授 業/Spring	103
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6428】 ドイツの思想 B [笠原 賢介] 秋学期授 業/Fall	104
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6429】 ドイツ語圏の文学 A [柳橋 大輔] 春学 期授業/Spring	105
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6430】 ドイツ語圏の文学 B [柳橋 大輔] 秋学 期授業/Fall	106
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6431】 比較文化 A [DIETMAR HEIDENREICH] 春学期授業/Spring	107
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6432】 比較文化 B [DIETMAR HEIDENREICH] 秋学期授業/Fall	108
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6433】 ドイツ語圏の芸術 A [林 志津江] 春学 期授業/Spring	109
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6434】 ドイツ語圏の芸術 B [林 志津江] 秋学 期授業/Fall	111
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6501】 スポーツ科学 A [西村 一帆] 春学期授 業/Spring	112
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6502】 スポーツ科学 B [西村 一帆] 秋学期授 業/Fall	113
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6505】 スポーツ科学 A [落合 久夫] 春学期授 業/Spring	114

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6506】 スポーツ科学 B [落合 久夫] 秋学期授業/Fall	115
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6507】 スポーツ科学 A [前原 千佳] 春学期授業/Spring	116
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6508】 スポーツ科学 B [前原 千佳] 秋学期授業/Fall	118
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6509】 スポーツ科学 A [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	119
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6510】 スポーツ科学 B [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	121
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6511】 スポーツ科学 A [落合 久夫] 春学期授業/Spring	122
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6512】 スポーツ科学 B [落合 久夫] 秋学期授業/Fall	123
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6513】 スポーツ科学 A [吉田 康伸] 春学期授業/Spring	124
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6514】 スポーツ科学 B [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	125
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6515】 スポーツ科学 A [秋本 成晴] 春学期授業/Spring	126
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6516】 スポーツ科学 B [秋本 成晴] 秋学期授業/Fall	128
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6517】 スポーツ科学 A [中澤 史] 春学期授業/Spring	129
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6518】 スポーツ科学 B [中澤 史] 秋学期授業/Fall	131
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6519】 スポーツ科学 A [笠井 淳] 春学期授業/Spring	132
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6520】 スポーツ科学 B [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	133
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6523】 教養ゼミⅠ [伊藤 マモル] 春学期授業/Spring	134
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6524】 教養ゼミⅡ [伊藤 マモル] 秋学期授業/Fall	136
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6529】 スポーツ科学 A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	138
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6530】 スポーツ科学 B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	139
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6531】 教養ゼミⅠ [林 容市] 春学期授業/Spring	140
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6532】 教養ゼミⅡ [林 容市] 秋学期授業/Fall	142
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6601】 第三外国語としてのフランス語 A [コル バイユ ステイーブ] 春学期授業/Spring	143
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6602】 第三外国語としてのフランス語 B [コル バイユ ステイーブ] 秋学期授業/Fall	144
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6605】 教養ゼミⅠ [大中 一彌] 春学期授業/Spring	145
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6606】 教養ゼミⅡ [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	147
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6607】 教養ゼミⅠ [PHILIPPE JORDY] 春学 期授業/Spring	148
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6608】 教養ゼミⅡ [PHILIPPE JORDY] 秋学 期授業/Fall	150
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6609】 フランス語コミュニケーション (中・上級) A [PHILIPPE JORDY] 春学期授業/Spring	151
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6610】 フランス語コミュニケーション (中・上級) B [PHILIPPE JORDY] 秋学期授業/Fall	152
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6701】 第三外国語としてのロシア語 A [木部 敬] 春学期授業/Spring	153
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6702】 第三外国語としてのロシア語 B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	154
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6703】 第三外国語としてのロシア語中級 A [エ レーナ 三神] 春学期授業/Spring	155
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6704】 第三外国語としてのロシア語中級 B [エ レーナ 三神] 秋学期授業/Fall	156

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6705】 実用ロシア語 A [エレーナ 三神] 春学期授業/Spring	157
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6706】 実用ロシア語 B [エレーナ 三神] 秋学期授業/Fall	158
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6707】 ロシア語講読 A [木部 敬] 春学期授業/Spring	159
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6708】 ロシア語講読 B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	160
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6709】 時事ロシア語 A [油本 真理] 春学期授業/Spring	161
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6710】 時事ロシア語 B [油本 真理] 秋学期授業/Fall	162
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6801】 第三外国語としての中国語 A [岩田 和子] 春学期授業/Spring	163
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6802】 第三外国語としての中国語 B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	164
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6809】 中国語コミュニケーション中級 A [周 重雷] 春学期授業/Spring	165
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6810】 中国語コミュニケーション中級 B [周 重雷] 秋学期授業/Fall	166
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6811】 中国語翻訳・通訳 A [薬 進] 春学期授業/Spring	167
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6812】 中国語翻訳・通訳 B [薬 進] 秋学期授業/Fall	168
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6813】 中国語翻訳・通訳 C [高田 裕子] 春学期授業/Spring	169
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6814】 中国語翻訳・通訳 D [高田 裕子] 秋学期授業/Fall	170
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6815】 中国語講読 A [岩田 和子] 春学期授業/Spring	171
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6816】 中国語講読 B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	172
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6819】 資格中国語中級 A [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	173
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6820】 資格中国語中級 B [渡辺 昭太] 秋学期授業/Fall	175
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6821】 資格中国語上級 A [康 鴻音] 春学期授業/Spring	176
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6822】 資格中国語上級 B [康 鴻音] 秋学期授業/Fall	177
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6823】 教養ゼミⅠ [岩田 和子] 春学期授業/Spring	178
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6824】 教養ゼミⅡ [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	179
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6901】 第三外国語としてのスペイン語 A [杉下 由紀子] 春学期授業/Spring	180
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6902】 第三外国語としてのスペイン語 B [杉下 由紀子] 秋学期授業/Fall	181
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6905】 スペイン語上級 A [大西 亮] 春学期授業/Spring	182
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6906】 スペイン語上級 B [大西 亮] 秋学期授業/Fall	183
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6907】 スペイン語コミュニケーション中級 A [瓜 谷 アウロラ] 春学期授業/Spring	184
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6908】 スペイン語コミュニケーション中級 B [瓜 谷 アウロラ] 秋学期授業/Fall	185
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6909】 教養ゼミⅠ [久木 正雄] 春学期授業/Spring	186
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6910】 教養ゼミⅡ [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	187
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6911】 スペイン語講読 A [若林 大我] 春学期授業/Spring	188
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6912】 スペイン語講読 B [若林 大我] 秋学期授業/Fall	189

BIO200LA

Natural Science A

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

GBP/SCOPE/IGESS 1～4 年※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

【到達目標】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems, 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course, and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

Although this course deals with various topics from the perspective of "sustainability", the course is divided roughly into two parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem and biodiversity, that is to say, the natural world that surrounds us and provides us with essential resources. The second part will focus on environmental and social problems related to agriculture (food production) and use of other natural resources in order to explore our personal involvement in these issues.

The course will be taught mainly in lecture-style classes, however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group activities and discussion. In addition to in-class interactions, students will utilize the learning assistance system (Hoppii) to express their opinions/reactions and to submit questions regarding the materials presented in each class so as to help the instructor to grasp students' progress as well as to address their concerns, as needed. Note that, if the university's action policy level is set to 2, in principle, this class will be taught online via zoom. Details will be announced via the "Hosei portal to pick up information (Hoppii)".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.
Week 3	Water cycle and the use of water resource	Water will be focused as an essential matter for sustaining life and ecosystem, and the water cycle and use of water resource will be discussed.
Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is resource development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system as needed. Standard amount of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40 %), a final assignment (40 %), and participation (20%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course material by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】

Although it is not always possible to strike a good balance between lecture and active student participation, additional efforts will be made to make the course more participatory.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to secure access to Hoppii.

Students will also need to be able to participate in online class, as needed.

【Outline and objectives】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です。ハングルの文字と発音の基礎を学び、文法の初歩を学びます。ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・「～は～です、ます」「～があります、います」などを理解し、簡単な読み書きができるようになる。
- ・簡単なあいさつや簡単な会話が話せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、オンライン授業（ZOOM によるリアルタイム授業）です。双方向授業となりますので、マイクが必須です。授業の開始日は 4 月 13 日。前日までに、学習支援システムの「お知らせ」に、ZOOM の URL を掲示します。基本的に「授業計画」に沿って進めます。基本的な流れは、以下の通りである。

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・前回学んだことについて毎回小テストをおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・小テストでの間違いの多かった箇所などについて、次の授業時に全体に向けてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。朝鮮語・韓国語の呼称の説明など。
2	第1課：文字と発音（1）	単母音、初声その1。
3	第1課：文字と発音（1）	半母音 Y、終声その1。
4	第2課：文字と発音（2）	初声その2、有声音化
5	第2課：文字と発音（2）	半母音 W、二重母音、連音化
6	第3課：文字と発音（3）	初声その3、初声その4
7	第3課：文字と発音（3）	終声その2、濃音化
8	第4課：～は韓国人です	助詞「は」。指定詞「です」。鼻音化。
9	第4課：～は～と申します	「ですか？」「と申します」
10	第5課：専攻は韓国語ですか？	もう一つの「です」「ですか？」
11	第5課：専攻は韓国語ではありません	「～ではありません」否定形。激音化。
12	第6課：教室は階段の横にあります	存在詞「あります」「います」「ありません」「いません」

- 13 第6課：教室は 204 助詞「に」、2 字母パッチム、漢
号室です。
14 期末試験 春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください。
・疑問点が生じたらすぐに質問してください。
・わからないことを放置しないようにしてください。
・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編〜コツコツ学び、カジュアルに話そう〜』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／韓日辞典』

【成績評価の方法と基準】

小テスト・課題の提出 30 %、授業への参画度 40 %、期末試験 30 %。欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

Wi-Fi 環境の整備。

【Outline and objectives】

This course is an elementary Korean course. In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.

LANK300LA

第三外国語としての朝鮮語 B

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語 A」を修了したレベルの人対象の講座です。具体的には、ハングルの読み書きの基礎を理解し、「～は～です」「～は～ではありません」「あります」「います」、漢数詞の学修を終えている必要があります。テキストの 6 課までの内容を習得していることが必要です。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・ヘヨ体で、現在形、過去形が使えるようになる。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、オンライン授業（ZOOM によるリアルタイム授業）です。双方向授業となりますので、マイクが必須です。授業開始前日までに、学習支援システムの「お知らせ」に、ZOOM の URL を掲示します。基本的に「授業計画」に沿って進めます。基本的な流れは、以下の通りである。

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・前回学んだことについて毎回小テストをおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・小テストで間違いの多かった箇所などについて、次の授業時に全体に向けてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	第 4 課～第 6 課の総復習。
2	第 7 課：何の本を読んでいますか？	ヘヨ体の作り方（1）
3	第 7 課：午後、時間大丈夫ですか？	助詞「を」「も」
4	第 8 課：テコンドーを教えてください。	ヘヨ体の作り方（2）
5	第 8 課：スクールで試験を受けます	助詞「で」「に」、指示詞「こそあど」、
6	第 9 課：電車で学校に通っています。	ヘヨ体の作り方（3）
7	第 9 課：何時におきますか？	助詞「～から～まで」（場所）、固有数詞。
8	第 10 課：野球が好きです	ヘヨ体の作り方（4）
9	第 10 課：野球を見に行きます。	～しに行きます。助詞「～から～まで」（時間）、曜日
10	第 11 課：時間ありませんでした。	過去形の作り方
11	第 11 課：どこか具合悪いですか？	語幹の用言、＋用言（否定形）
12	第 12 課：両親が来られます	尊敬形

- 13 第 12 課：何をするつ ～するつもりです。～したいでもりですか？ 温泉に す。
行きたいです。
- 14 期末試験 秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください。
・疑問点が生じたらすぐに質問してください。
・わからないことを放置しないようにしてください。
・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コツコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、睦宗均、山田恭子著、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／韓日辞典』

【成績評価の方法と基準】

小テスト・課題の提出 30 %、授業への参画度 40 %、期末試験 30 %。
欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用。

【Outline and objectives】

This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 6 of the text book.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語中級 2017 年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語初級で学んだ知識を利用し、実践的に書く・読む練習を繰り返すことで朝鮮語の基礎を確実に身に付けることを目標にします。基礎的朝鮮語の会話にも挑戦していきます。

【到達目標】

基本会話ができることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

発音練習、作文練習、会話練習、読む練習などを毎回繰り返しながら授業を進めていきます。
諸事情により、対面・非対面授業で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	授業の進め方などにつ	授業の進め方について説明します いてと簡単な復習
第二回	今日も友達に会います	読む練習と否定形について か 1
第三回	今日も友達に会います	発音について か 2
第四回	今、何時ですか 1	会話の練習
第五回	今、何時ですか 2	数詞について
第六回	ここはデパートですか	発音練習と読む練習について 1
第七回	ここはデパートですか	連体形について 2
第八回	私の家族です 1	推量について
第九回	私の家族です 2	文章と会話
第十回	景福宮はどこですか 1	変則用言
第十一回	景福宮はどこですか 2	発音と会話
第十二回	日記を読む	発音と読解
第十三回	日記を書く	会話の文章
第十四回	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート、課題を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教室用テキスト『朝鮮語中級』（梁禮先）

【参考書】

「朝鮮語辞書」－朝鮮語の辞書ならどちらのものでもよし。

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト、課題など 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

発音をもっとやりたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

いろいろな事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline and objectives】

Our goal is to make sure to establish a strong foundation in Korean skills by harnessing the skills previously acquired in the introductory course and practicing writing and reading repeatedly. We will also try to have conversations in Korean.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です。ハングルの文字と発音の基礎を学び、文法の初歩を学びます。ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

- ・ハングルを読み正確に発音できるようになります。
- ・「～は～です、ます」「～があります、います」などを理解し、簡単な読み書きができるようになります。
- ・簡単なあいさつや簡単な会話が話せるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は Zoom を利用したオンライン授業です。課題の提出など、学習支援システムを利用して行うので確認してください。

基本的な流れは、以下の通りです。

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・授業ごとに新しい内容を学びます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて定着を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。朝鮮語・韓国語の呼称の説明など。
2	第1課：文字と発音 (1)	単母音、初声その1。
3	第1課：文字と発音 (1)	半母音 Y、終声その1。
4	第2課：文字と発音 (2)	初声その2、有声音化
5	第2課：文字と発音 (2)	初声その2、連音化
6	第3課：文字と発音 (3)	初声その3、初声その4
7	第3課：文字と発音 (3)	終声その2、濃音化
8	第4課：～は韓国人です	助詞「は」。指定詞「です」。鼻音化。
9	第4課：～は～と申します	ですか？」「と申します」
10	第5課：専攻は韓国語ですか？	もう一つの「です」「ですか？」
11	第5課：専攻は韓国語ではありません	「～ではありません」否定形。激音化。
12	第6課：教室は階段の横にあります	存在詞「あります」「います」「ありません」「いません」
13	第6課：教室は 204 号室です。	助詞「に」、2 字母パッチム、漢数詞。

14 期末試験 春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。
- ・わからないことを放置しないようにしてください。
- ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コツコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／韓日辞典』

【成績評価の方法と基準】

授業への出席・参加度、小テスト、課題提出によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This class is the first step in learning Korean.

Students will learn Korean characters, pronunciation and basic grammar.

And will be able to have simple conversations.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 B

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語 A」を修了したレベルの人対象の講座です。具体的には、ハングルの読み書きの基礎を理解し、「～は～です」「～は～ではありません」、「あります」「います」、漢数詞の学修を終えている必要があります。テキストの 6 課までの内容を習得している必要があります。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになります。
- ・ヘヨ体で、現在形、過去形が使えるようになります。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は Zoom を利用したオンライン授業です。

課題の提出など、学習支援システムを利用して行うので確認してください。

基本的な流れは、以下の通りです。

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・授業ごとに新しい内容を学びます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて定着を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	第 4 課～第 6 課の総復習。
2	第 7 課：何の本を読んでいますか？	ヘヨ体の作り方（1）
3	第 7 課：午後、時間大丈夫ですか？	助詞「を」「も」
4	第 8 課：テコンドーを教えています。	ヘヨ体の作り方（2）
5	第 8 課：スクールで試験を受けます	助詞「で」「に」、指示詞「こそあど」、
6	第 9 課：電車で学校に通っています。	ヘヨ体の作り方（3）
7	第 9 課：何時におきますか？	助詞「～から～まで」（場所）、固有数詞。
8	第 10 課：野球が好きです	ヘヨ体の作り方（4）
9	第 10 課：野球を見に行きます。	～しに行きます。助詞「～から～まで」（時間）、曜日
10	第 11 課：時間がありませんでした。	過去形の作り方
11	第 11 課：どこか具合悪いですか？	語幹の用言、+用言（否定形）
12	第 12 課：両親が来られます	尊敬形
13	第 12 課：何をしますつもりですか	? 温泉に行きたいです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。
- ・わからないことを放置しないようにしてください。
- ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コツコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、睦宗均、山田恭子著、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／韓日辞典』

【成績評価の方法と基準】

授業の出席・参加度、小テスト、課題提出により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is for those who have completed Korean A as a Third Foreign Language.

Students must have understood the basics of reading and writing Hangul and complete the Chinese numerals. And need to have studied up to the 6th chapter of the text.

LANj300LA

日本語コミュニケーション A

2017 年度以降入学者

江村 裕文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国人留学生在が「日本語」という言語をある程度マスターすれば、一般の日本人母語話者（日本人）とスムーズにコミュニケーションができてと考えている人が多い。つまり、コミュニケーションにおいて大切なのは「言語」だと。コミュニケーションにおいて「言語」が大切であることはいうまでもないが、だからといって「言語」がある一定以上できるようになったからといってその知識は日本人とのコミュニケーションを保証してはくれない。

なぜなら、コミュニケーションには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。コミュニケーションは相互行為である。コミュニケーションが成り立たなかったとしても、一方だけに責任があるというわけではない。双方がそれぞれの反応が相手の期待する行動ではないとき、コミュニケーションはブレイクしてしまう。

日本語という「言語」を一つのチャンネルとして成り立たせるには、「言語」以外の要素を考慮しなければならない。この授業の名称が「日本語コミュニケーション」であるのは、日本語という「言語」によるコミュニケーションにおいて必要な知識と技能を、外国人側も日本人側も等しく身に着けることが目的だからである。

【到達目標】

文化とは何か、および文化が異なるとはどういうことか、について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

おもに「文化」と「言語」をテーマにして講義します。必要に応じて、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ヒト・グループ・個人といった基本的な発想から、ヒトについて概観します
2	「食べる」について	「文化」の例として「食べる」を取り上げます
3	「装う（着る）」について	「文化」の例として「装う（着る）」を取り上げます
4	「文化」の定義	「文化」とは何かを考える際に考慮すべき諸項目について紹介します
5	「コード・メッセージ」について	コード・モデルを紹介します
6	「言語」について	コード・モデルのもとになった言語のとらえ方を紹介します
7	文献購読	ことばと文化について、復習を兼ねて文献を読みます
8	「音」の単位について i	コードの単位の一つである「音」の単位について紹介します
9	「音」の単位について ii	コードの単位の一つである「音」の単位について紹介します

10	「意味」の単位について	コードの単位の一つである「意味」の単位について紹介します
11	「文の構造」について	「文の構造」について解説します
12	「文法カテゴリー」について i	数・人称・クラス等の「文法カテゴリー」について紹介します
13	「文法カテゴリー」について ii	数・人称・クラス等の「文法カテゴリー」について紹介します
14	授業内試験	以上13回分の内容について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「文化」なり「言語」なりの説明に、具体的な実例をあげますが、その個々の例を覚える必要はありませんが、講義をよく聴いて自分なりに真剣に考えてみてください。そのときに深刻に考えないように注意してください。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、まずは平凡社『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点40点、試験の得点60点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な枠組みは設定していますが、具体例等について受講者の個人的な情報をさらに活用していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

日本文化の体现者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。また、「文化人類学」「言語学」「社会学」等の知識があったほうが望ましいですが、必須の条件ではありません。

【Outline and objectives】

For Communication, verbal is necessary but not enough, also necessary non-verbal components, they are general speaking "Culture".

In Spring, we will discuss as a topic, what is "Culture" and what is the differences of "Culture".

LANj300LA

日本語コミュニケーション B

2017 年度以降入学者

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国人留学生在が「日本語」という言語をある程度マスターすれば、一般の日本人母語話者（日本人）とスムーズにコミュニケーションができると考えている人が多い。つまり、コミュニケーションにおいて大切なのは「言語」だと。コミュニケーションにおいて「言語」が大切であることはいうまでもないが、だからといって「言語」がある一定以上できるようになったからといってその知識は日本人とのコミュニケーションを保証してはくれない。

なぜなら、コミュニケーションには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。コミュニケーションは相互行為である。コミュニケーションが成り立たなかったとしても、一方だけに責任があるというわけではない。双方がそれぞれの反応が相手の期待する行動ではないとき、コミュニケーションはブレイクしてしまう。

日本語という「言語」を一つのチャンネルとして成り立たせるには、「言語」以外の要素を考慮しなければならない。この授業の名称が「日本語コミュニケーション」であるのは、日本語という「言語」によるコミュニケーションにおいて必要な知識と技能を、外国人側も日本人側も等しく身に着けることが目的だからである。

【到達目標】

文化の異なりについて理解し、その壁を乗り越えてコミュニケーションを成立させる能力を培うこと。コミュニケーションが成立しないときには、相手との協力のもと、関係を修復できる知識と能力を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は、おもに「言語」と「コミュニケーション」をテーマにして講義します。

また、必要に応じてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	試験解説・春学期のまとめ・「ことば」について	春学期の内容と試験について解説し、一般に「ことば」について解説します
2	「音声コミュニケーション」の特徴	ヒトの言語は動物のコトバとどこが異なるのか、について解説します
3	「意味」について	「意味」とは何かについて、総括的に概観します
4	「構造」について	「構造」とは何かについて、総括的に概観します
5	日本語の諸問題 i	外国人にとって問題となる日本語の問題を取り扱います
6	日本語の諸問題 ii	外国人にとって問題となる日本語の問題を取り扱います
7	「宗教」について i	「言語」のまとめとして「宗教」を取り上げます

8	「宗教」について	ii 「言語」のまとめとして「宗教」を取り上げます
9	「コミュニケーション」の定義	「コミュニケーション」とはなにかについて解説します
10	「言語」と「ことば」について	「言語」と「ことば」の相違について解説します
11	「コミュニケーション」の要素 i	「コミュニケーション」の要素について解説します
12	「コミュニケーション」の要素 ii	「コミュニケーション」の要素について解説します
13	「コミュニケーション」の制約	「コミュニケーション」における制約について解説します
14	最終試験	講義の内容に関して試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「コミュニケーション」における日本語という言語について、日本での言語生活を反省して、誤解した、誤解された等の具体例を発表できるように準備してもらいたいと思います。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、基本的なものとして平凡社の『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点30点、試験の得点30点、レポートの得点40点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションは双方向であり、問題がおこるのは、どちらか一方の問題ではないという点を確認しておきたいと思います。

【その他の重要事項】

日本文化の体現者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。また、「文化人類学」「言語学」「社会学」等の知識があったほうが望ましいですが、必須の条件ではありません。

【Outline and objectives】

In Autumn, we will discuss on "Language" and "Communication".

LIT300LA

漢字・漢文学 A

2017 年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。

中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業形態】対面授業を基本にリアルタイム・オンライン授業とのハイブリッド型によって行う。講義形式。

受講生は、直接教室に来るかもしくは zoom を利用して受講するかを選択すること。後者の場合、出席確認を取る為毎回必ず顔を出して受講する必要があるので注意されたい。

毎回資料を配布し、それをもとに教員の解説しながら進める。

授業終了時に授業に関する感想や質問を Hoppii に入力してもらう。幾つかの感想や質問については、次回授業の初めに取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

それとは別に、何度か授業内容に関連して課題を出すことがある。その場合も全員 Hoppii に回答するように指示を出す。

【教科書など】指定教科書はなし。適宜レジュメや関連資料を配布する。

【対象学年】2 年生以上。1 年生は受講不可。この授業を履修し単位を取得した学生も不可。

【通信環境】リアルタイム・オンラインでの受講を希望する場合、毎週月曜 4 限の時間帯に zoom へ安定してアクセスできるよう、インターネット環境を整えておくこと。資料のダウンロードや課題の提出は、各自で Hoppii にアクセスする必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・中国史の概要紹介
第 2 回	漢字のなりたち	・「六書」の紹介 ・漢字の起源と歴史 ・「字謎」の紹介

第 3 回	権力者と文字による予言	・ 予言の種類 ・ 歴史書に見える予言 ・ 「拆字」の紹介
第 4 回	文字が左右した運命①	・ 「志怪」と「伝奇」 ・ 文字が動かした寿命 ・ 読めない文字
第 5 回	文字が左右した運命②	・ 三つの予言 ・ 詩を用いた予言
第 6 回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・ 近代諸国での流行 ・ 中国の「扶鸞」信仰
第 7 回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・ 「扶鸞」の方法と来歴 ・ 「扶鸞」の流行と評価
第 8 回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・ 宋代知識人の体験 ・ 明代のオカルト趣味 ・ 近代中国と「扶鸞」信仰
第 9 回	恋愛作品と文字	・ 『詩経』と「楽府」 ・ 恋のうたと言葉遊び
第 10 回	知識人の頓智と奇想	・ 外交における機知 ・ 知識人の応酬
第 11 回	伝統的「姓名」観	・ 避諱の制 ・ 姓名が左右した運命
第 12 回	創作活動と文字①	・ 「推敲」 ・ 現実と表現の衝突
第 13 回	創作活動と文字②	・ 詩が招いた幸運と悲運 ・ 「詩讖」の説
第 14 回	期末課題	試験もしくはレポート発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜成績評価＞

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

＜基準＞

- ・ 授業における取り組み（態度・意見）
- ・ 指示された課題に対応する能力
- ・ 授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.

From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck ; they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easily find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.

Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.

LIT300LA

漢字・漢文学 B

2017 年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業形態】対面授業を基本にリアルタイム・オンライン授業とのハイブリッド型によって行う。講義形式。

受講生は、直接教室に来るかもしくは zoom を利用して受講するかを選択すること。後者の場合、出席確認を取る為毎回必ず顔を出して受講する必要があるので注意されたい。

毎回資料を配布し、それをもとに教員の解説しながら進める。授業終了時に授業に関する感想や質問を Hoppii に入力してもらう。幾つかの感想や質問については、次回授業の初めに取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

それとは別に、何度か授業内容に関連して課題を出すことがある。その場合も全員 Hoppii に回答するように指示を出す。

【教科書など】指定教科書はなし。適宜レジュメや関連資料を配布する。

【対象学年】2 年生以上。1 年生は受講不可。この授業を履修し単位を取得した学生も不可。

【通信環境】リアルタイム・オンラインでの受講を希望する場合、毎週月曜 4 限の時間帯に zoom へ安定してアクセスできるよう、インターネット環境を整えておくこと。資料のダウンロードや課題の提出は、各自で Hoppii にアクセスする必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 授業内容の説明 ・ 「ゆめ」の多義性 ・ 中国の夢分類
第 2 回	古代中国の吉夢	・ 誕生の予言 ・ 優れた人材を教示 ・ 栄達の予言

第3回	古代中国の凶夢①	・死期を悟る ・病魔の会話
第4回	古代中国の凶夢②	・国家滅亡の暗示 ・不明瞭な悪夢
第5回	知識人たちが得たお告 げ	・文学的才能の獲得と喪失 ・創作のヒント
第6回	夢主に働きかける夢①	・夢と夢主 ・夢と現実の関連性 ・宗教的神秘体験
第7回	夢主に働きかける夢②	・死者の訴え ・前世の自分の訴え
第8回	復讐する死者	・生者に託した復讐 ・死者による復讐 ・復讐の為の転生
第9回	人外との交流	・助命嘆願 ・報恩と復讐 ・逆恨み
第10回	夢と恋愛文学	・夢での逢瀬 ・恋愛成就の神 ・夫婦の別離と再会
第11回	夢の世界の冒険	・怪異との接触 ・儚い栄達 ・動物への変身
第12回	他人と共有された夢	・「二人同夢」 ・危機の通達 ・夢での邂逅
第13回	日本における夢	・他人が見る夢 ・日本文学における夢
第14回	期末課題	試験またはレポート発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜成績評価＞

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

＜基準＞

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin to Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.

Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.

In addition, this class will intends to talk about the stories of Japanese dreams.

LIT300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：文芸創作の実践 A

藤村 耕治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものかを、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現（クリエイティブ・ライティング）における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（ディテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでももらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今semesterで書いた作品は、秋semesterで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばいいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めあう。

第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。
第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十二回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十三回	総括①	今セメスターにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
第十四回	総括②	今セメスターにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。
創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は、各自の力に応じて、1週間にもなれば2時間にもなります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 50 %、授業内討議への積極的な参加 30 %、期末に課すレポート（自分以外の受講生の作品〔三作以上〕への批評文）20 %。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度休講（担当者サバティカルのため）により、なし。

【Outline and objectives】

Through practical writing of poetry, essays and novels, students acquire the ability to express their own worldview and imagination.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：文芸創作の実践 B

藤村 耕治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。

また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（ディテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでももらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今セメスターでは、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	作品読解・分析の方法①	学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第三回	作品読解・分析の方法②	引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第四回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。

第五回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。
第六回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第七回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析⑤	受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。
第九回	校正の方法①	作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。
第十回	校正の方法②	作品集に掲載する作品について、自身で校正する。
第十一回	作品集の編集①	本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。
第十二回	作品集の編集②	自分の作品および他の受講者の作品を校正する。
第十三回	作品集の編集③	念校し、校了とする。
第十四回	作品集の編集④	納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。
創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は各自の力に応じて、1週間にもなれば2時間にもなります。

編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらうこともあります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 35 %、授業内討議および編集作業への積極的な参加 35 %、期末に課すレポート（自分以外の受講者の作品〔三作以上〕への批評文） 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度休講（担当者サバティカルのため）により、なし。

【Outline and objectives】

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express their own world view and imagination.
In addition, learning the basic skills of proofreading and editing by creating a collection works.

ART300LA

身体表現論 A

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、ストレート・ブレイとは異なる身体運動の形態としてバレエにも着目する。通常、西洋演劇史とバレエの歴史は分けて記述されるが、本講義では出来るだけ関連付けながら捉えてみたい。

【到達目標】

- ・西洋演劇とバレエの歴史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・演劇・バレエ作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講生は授業の最後、または授業後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。
- ・リアクション・ペーパーに対しては、必要に応じてコメントを付し、毎回、提出者全員に返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語等の紹介
2	古代ギリシア演劇	原始社会から古代文明における演劇の発生について
3	中世演劇	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の舞踊への影響、「死の舞踊」のモチーフ、等について
4	エリザベス時代演劇	イギリス、エリザベス時代の演劇、特にシェイクスピアについて
5	フランス古典主義演劇とバレエの誕生	フランス古典主義演劇と、バレエ誕生の経緯について
6	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
7	ロマンティック・バレエ	バレエの依拠する物語や伝説、特に『ジゼル』、『 Coppélia』について
8	クラシック・バレエの発生	バレエの技術的変容と定型化、特に『白鳥の湖』について
9	クラシック・バレエの展開	クラシック・バレエからモダン・バレエ、モダン・ダンスへの展開について
10	近代演劇	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンドベリ、チェーホフについて
11	現代演劇	19世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
12	モダン・ダンス（1）	バランシン、カニンガム、ノイマイヤー等の実践について

- 13 モダン・ダンス（2） ペジャール、パウシユ、フォーサ
イス等の実践について
- 14 まとめ 授業のまとめと参考文献の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記【参考書】の文献をできるだけ読むように努める。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

『ギリシア悲劇〈1〉～〈4〉』（ちくま文庫）
シェイクスピア（福田恆存訳）『ハムレット』（新潮文庫）
シェイクスピア（安西徹雄訳）『リア王』（光文社古典新訳文庫）
日本演劇学会『ベスト・プレイズ西洋古典戯曲』（相田書房）
岩瀬孝『フランス演劇史序説』（早稲田大学出版部）
邦正美『舞踊の文化史』（岩波新書）
鈴木晶『バレエの魔力』（講談社現代新書）
長野由紀『バレエの見方』（新書館）
三浦雅士『バレエ入門』（新書館）
舞踊教育研究会『舞踊学講義』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

学期末レポート 50 % : 演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body that is embedded in daily life and reveals the possibility for new body movement. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. As well as straight play, we will also focus on ballet, another mode of theatrical performance. Although the histories of these two forms are usually described separately, this course will try to conceive the common elements, too.

ART300LA

身体表現論 B

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀以降拡大する大衆文化に見られる身体表現のあり方を概観する。このことにより、身体表現が生活のなかで孕む問題点や文化的意義を浮き彫りにする。大衆文化はメディア産業と強く関連するため、受講生のメディア・リテラシーへの意識づけも考慮しながら講義する。

【到達目標】

- ・大衆文化における各種の身体表現について考察し、記述できる。
- ・身体運動を、社会生活を営む視点から考える認識枠組を身につける。
- ・大衆文化の身体性について評価する批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講生は授業の最後、または授業後にリアクション・ペーパーを執筆し、提出する。
- ・リアクション・ペーパーに対しては、必要に応じてコメントを付し、毎回、提出者全員に返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語等の紹介
2	演芸	ミュージック・ホール、チャップリン、キートン等コメディアン身体表現について
3	レビュー	キャバレー、フレンチ・カンカン、レビュー、日本の「歌劇団」について
4	ミュージカル（1）	ミュージカルとオペラとの差異、ミュージカルにおける身体表現等について
5	ミュージカル（2）	ミュージカルにおける身体表現について（事例紹介）
6	反リアリズム演劇	20世紀日本のアングラ演劇、代表的な演出家の身体表現について
7	ジャズ・ダンス、タップ・ダンス	ジャズ・ダンス、タップ・ダンス等の各種ダンスの身体表現について
8	ミュージック・ビデオ	ミュージック・ビデオの身体表現について
9	映画（1）	男性的な英雄の系譜と英雄像について
10	映画（2）	ポップ・アイコンとしてのヘップバーンとモンローについて
11	アニメーション	アニメーションの歴史と身体表現について
12	テーマパーク	ディズニーランドの空間構成と身体表現について

- 13 事例研究（１） 『マイ・フェア・レディ』、『雨に唄えば』、『ファニー・ガール』を題材に、ミュージカル映画の女性像について考える。
- 14 事例研究（２）とまとめ 『ミー・アンド・マイ・ガール』を題材に、レビューの女性像について考える。／講義のまとめと参考文献の紹介。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記【参考書】に挙げた参考文献をできるだけ読むように努める。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

井野瀬久美『大英帝国はミュージック・ホールから』（朝日選書）
岩崎昶『チャーリー・チャップリン』（講談社現代新書）
ビートたけし『浅草キッド』（新潮文庫）
リサ・アビニャネジ『キャバレー ヨーロッパ世紀末の飲食文化（上）（下）』（サントリー）
小山内伸『ミュージカル史』（中央公論新社）
本橋哲也『深読みミュージカル』（青土社）
スタニスラフスキー（山田肇訳）『俳優修業』（未来社）
マイケル・チェーホフ（ゼンヒラノ訳）『演技者へ！』（晩成書房）
鈴木忠志『演劇とは何か』（岩波新書）
蜷川幸雄・長谷部浩『演出術』（ちくま文庫）
浅利慶太『劇団四季メソッド「美しい日本語の話し方」』（文春新書）
油井正一『ジャズの歴史物語』（角川ソフィア文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%：当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

学期末レポート 50 %：大衆文化における身体表現の意義を論じることができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course will offer a survey of body movement in popular culture that has been expanding since the nineteenth century, so that students will be aware of specific issues or cultural values seen in contemporary life. The course will also take the media industry into consideration, since it is closely linked to popular culture, which will enhance their level of media literacy.

ART300LA

美術論 A

2017 年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術論 A では、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要と思われる西洋近代美術史がテーマとなります。

特に

- ・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論
 - ・各時代のアーティストの実践（アイディアや制作論）
- について段階的に幅広く学んでいきます。

【到達目標】

・西洋美術の思想や基本的な考え方について、具体的な作品例を中心に学ことができます。

・美術に関するいくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について学ぶことができます。

・ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

『ワークショップ』

各単元で学んだ内容を基にディスカッション、作品制作や展覧会企画、美術批評にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

導入（10 分）

毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝えるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。

講義（40 分）

その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

レクチャー・パフォーマンス（30 分）

その回の講義と関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。

授業内レポート（20 分）

毎回の授業の最後に、講義やレクチャーパフォーマンスと関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くことになります。授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

- ・Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）
- ・Zoom（ミーティング）
- ・Google Classroom、Google Form（授業内容の告知、授業全般に関するフィードバック、課題提出、）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/12	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方

4/19	古代美術	講義 原始美術/先史美術 メソポタミア美術 エジプト美術 ギリシャ美術 ローマ美術 レクチャー・パフォーマンス 「ラスコーの壁画」「ローマ帝国」
4/26	中世美術	講義 初期キリスト美術 ビザンティン美術 初期中世美術 ロマネスク美術 ゴシック美術 レクチャー・パフォーマンス 「キリスト教と美術」
5/10	ワークショップ 1 古代、中世美術	単元の復習 ワークショップ 「伝える方法・絵から文字へ」
5/17	近世美術	講義 ルネサンス美術 バロック美術 ロココ美術 レクチャー・パフォーマンス 「レオナルド・ダ・ヴィンチ」
5/24	近代美術 1	新古典主義 ロマン主義 写実主義 レクチャー・パフォーマンス 「ギュスターヴ・クールベ 写実主義の思想」
5/31	ワークショップ 2 近世、近代美術	単元の復習 ワークショップ 「デッサンの手法」
6/7	近代美術 2	印象派 ポスト印象派 新印象派 レクチャー・パフォーマンス 「印象派」
6/14	近代美術 3	野獣派 キュビズム 表現主義 ナビ派 世紀末芸術 象徴主義（ロシア象徴主義） 素朴派 レクチャー・パフォーマンス 「ピカソとブラック」
6/21	ワークショップ 3 近代美術	単元の復習 ワークショップ 「アバンギャルドのアート」
6/28	現代美術 1	未来派 ダダイズム シュルレアリズム デ・ステイル バウハウス ロシア構成主義 ワークショップ 「シュルレアリスムの実験」
7/5	現代美術 2	レトリズム 抽象表現主義 ネオダダ ポップアート レクチャー・パフォーマンス 「第二次世界大戦前後」

7/12	現代美術 3	ミニマルアート コンセプチュアルアート 新表現主義 YBA リレーショナル・アート ソーシャリー・エンゲージド・アート レクチャー・パフォーマンス 「スクールレポリューションとアート」
7/19	現代美術 ワークショップ 4	単元の復習 ワークショップ 「テキストとアート」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014 年
高階秀爾『カラー版西洋美術史』美術出版社、2002 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

楽しく解りやすい授業をしていきたいと思います。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021 年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトには授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30 分程度のものを 2、3 本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

オンラインミーティング・講評会

リクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn the basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.

1. Art history and art theory which is the basis for understanding art

2. Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism

We will learn about these in a step-by-step manner.

ART300LA

美術論 B

2017 年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術 B では、古代から現代までの日本美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要と思われる西洋近代美術史がテーマとなります。

特に

- ・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論
- ・各時代のアーティストの実践（アイディアや制作論）

について段階的に幅広く学んでいきます。

【到達目標】

- ・日本美術に関するいくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について探ります。
- ・ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基にディスカッション、作品制作や展覧会企画、美術批評にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

導入（10 分）

毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝えるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。

講義（40 分）

その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

レクチャー・パフォーマンス（30 分）

その回の講義と関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。

授業内レポート（20 分）

毎回の授業の最後に、講義やレクチャーパフォーマンスと関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くことになります。授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

・Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）

・Zoom（ミーティング）

・Google Classroom、Google Form（授業内容の告知、授業全般に関するフィードバック、課題提出、）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
9/20	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
9/27	古代美術 1	縄文・弥生・古墳時代
10/4	古代美術 2	飛鳥・白鳳時代 平安時代
10/11	ワークショップ（1）	プレゼンテーションとディスカッション
10/18	中世美術	鎌倉・室町時代
10/25	近世美術	桃山・江戸時代

11/1	ワークショップ（2）	プレゼンテーションとディスカッション
11/8	近代美術 1	明治時代 西洋画と日本画
11/15	近代美術 2	大正デモクラシー 戦争画
11/29	ワークショップ（3）	プレゼンテーションとディスカッション
12/6	戦後美術	アンデパンダン/ネオダダ/ハイ レッドセンター/実験工房/もの派/ もの派以降
12/13	現代美術 1	インスタレーション・パフォーマンス
13	現代美術 2	1990 年代、ゼロ年代、ミレニアム以降
14	ワークショップ（4）	プレゼンテーションとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014 年

辻惟雄『カラー版 日本美術史』美術出版社、2002 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

楽しく解りやすい授業をしていきたいと思います。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021 年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30 分程度のものを 2、3 本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

オンラインミーティング・講評会

リクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【Outline and objectives】

We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.

・ Art history and art theory which is the basis for understanding art

・ Work production, including more practical content
・ planning of art exhibitions
・ Art criticism.

We will learn about these in a step-by-step manner.

ART300LA

芸術と人間 A

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとどのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を、長年もっとも具体的に検討してきた表現領域である。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、各々の映画の表現を学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深める。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を学ぶ。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を拡げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、コメントシートを書いてもらったりすることになる。フィードバックは授業内ないし hoppii で優れたコメントシートを紹介して行う。

初回に、定員を 50 名以内に絞り込むための選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、必ずこれに出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	地を歩く	ジョン・フォード 宮崎駿
3	地を走る	チャールズ・チャップリン バスター・キートン
4	地で踊る	フレッド・アステア ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	S・エイゼンシュテイン アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	キング・ヴィダー ニコラス・レイ
7	列車に乗る	リュミエール兄弟 エドウィン・S・ポーター アベル・ガンズ
8	列車に乗る 2	アルフレッド・ヒッチコック 黒澤明
9	自動車に乗る	フランク・キャプラ ジャン＝リュック・ゴダール
10	ドアを開け閉めする	エルンスト・ルビッチ 諏訪敦彦
11	壁の向うを聴く	アルフレッド・ヒッチコック ロベール・ブレッソン
12	窓を見る	アルフレッド・ヒッチコック マルグリット・デュラス
13	鏡を見る	ジョセフ・ローゼー オーソン・ウェルズ

14 まとめ

講義のまとめや補足
課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントを読む。映画館や DVD で映画を分析的に観賞する。

本授業の準備時間は 30 分を標準とし、復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回選抜試験を受けること。毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline and objectives】

In this class, we study the interaction between human behavior and space in classical films.

岡村 民夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとどのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を、長年もっとも具体的に検討してきた表現領域である。本講義は「芸術と人間 A」の発展形にあたる。主に古典的作品を通し、映画が都市や自然をどのように表象しているのかを学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深める。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を学ぶ。自分の観る映画のジャンル・年代・地域を拓げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、出席カードに感想を書いてもらったりすることになる。フィードバックは授業内ないし hoppii で優れたコメントシートを紹介して行う。

初回に定員を 50 名以内に絞り込むための選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、「芸術と人間 A」を履修していない学生は必ずこれに出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	高層都市	フリッツ・ラング キング・ヴィダー
3	迷宮都市	ジェック・タチ オーソン・ウェルズ
4	記憶都市	アルフレッド・ヒッチコック ヴィム・ヴェンダース
5	日本家屋	成瀬巳喜男 小津安二郎
6	廃墟	ロベルト・ロッセリーニ 黒沢清
7	水と船	フリードリヒ・ムルナウ 溝口健二
8	川	ジャン・ルノワール チャールズ・ロートン
9	雨	山中貞雄 相米慎二
10	水の宇宙	アンドレイ・タルコフスキー
11	風	ジャン・エプスタン 宮崎駿
12	森と動物	宮崎駿 アビチャボン・ウィラセタクン
13	補足	講義で十分扱えなかったテーマや映画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントを読む。映画館や DVD で映画を分析的に観賞する。

本授業の準備時間は 30 分を標準とし、復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。

【学生の意見等からの気づき】

コメントシートを早めに返却する。

【その他の重要事項】

初回選抜試験を受けること。毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline and objectives】

In this class, we study the interaction between human behavior and space in classical films.

PHL300LA

仏教思想論 A

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期仏教思想・仏教史

釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。

この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。（初期仏教の学習だけでは仏教思想の本質の理解として不十分です。秋学期の「仏教思想論 B」も必ず履修してください。）

【到達目標】

・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることから考え、理解する。

・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、対面授業とオンライン授業（Zoom によるリアルタイム授業）とを組み合わせたハイブリッド授業となります。各授業回の授業形態は「学習支援システム」でお知らせします。

対面でもオンラインでも授業は講義形式です。

毎回、資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5 回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	仏教成立の経緯（1）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第 2 回	仏教成立の経緯（2）	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第 3 回	仏教の成立	仏陀の生涯
第 4 回	仏教の教育指導法（説法）	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第 5 回	仏教の基本思想（1）	五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印） 「諸行無常」 比較思想的考察

第 6 回	仏教の基本思想（2）	「一切皆苦」 4つの真理（四諦説） 十二支縁起 八支聖道・中道 『はじめての説法』
第 7 回	仏教の基本思想（3）	仏陀のさとり得た真理とその特徴 『梵天勧請』 『縁』経、他 比較思想的考察
第 8 回	仏教の基本思想（4）	「諸法無我」 人無我と法無我 ミリンダ王経 律蔵文獻 戒・波羅提木叉
第 9 回	仏教教団と教団運営	『ダンマパダ』 『スッタニパータ』 「慈しみ」他 『スッタニパータ』 「田を耕すバーラドヴァージャ」 他
第 10 回	初期仏典講読（1）	『スッタニパータ』 真理についての争い
第 11 回	初期仏典講読（2）	筆記試験
第 12 回	初期仏典講読（3）	まとめ・解説
第 13 回	初期仏典講読（4）	
第 14 回	授業内試験・まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料等の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK 出版新書、2013 年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績+平常点（40%）により評価します。

学期末レポート試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

殆どの学生にとって、仏陀自身の思想・本来の仏教思想を学ぶのは初めてのことだと思います。資料を深く読み、仏陀・仏教の思想を正しく真直ぐに捉え理解していただきます。解説は丁寧にを行います。

【Outline and objectives】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.

The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

PHL300LA

仏教思想論 B

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期・部派仏教から大乘仏教への展開：世界観・人生観の変遷
 インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乘仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化したのか、これらを学びながら、インド大乘仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。
 （本授業は、初期仏教思想の理解・知識を前提としています。春学期の「仏教思想論 A」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乘仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
 ・仏教思想はどのように多様化したのか、その理由を理解する。
 ・初期・部派仏教から大乘仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
 ・大乘仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。
 対面でもオンラインでも授業は講義形式です。毎回、資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。
 単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5 回実施予定）。
 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	この授業について なぜ仏教思想は多様化したのか？ 諸部派成立から大乘仏教へ
第 2 回	部派仏教（説一切有部）の思想（1）	有部・経量部・『俱舍論』 ダルマの体系（1）： 五位七十五法
第 3 回	部派仏教（説一切有部）の思想（2）	ダルマの体系（2）： 有為ダルマの二性質
第 4 回	部派仏教（説一切有部）の思想（3）	物質論 原子（極微）論
第 5 回	部派仏教（説一切有部）の思想（4）	仏教がとらえる内的世界（心・心作用） 心作用の区分け（6 心所）
第 6 回	仏教の世界観	『俱舍論』が説く世界観 大乘仏教の世界観
第 7 回	大乘仏教（1）	大乘仏教の教理的特徴
第 8 回	大乘仏教（2）	大乘諸経典 『般若経』の空思想

第 9 回 大乘仏教（3）

ナーガールジュナの哲学

二真理説

空・仮・中

第 10 回 大乘仏教（4）

縁起の思想（1）

外縁起・内縁起

『入楞伽経』

『稲苢経』

第 11 回 大乘仏教（5）

縁起の思想（2）

縁起二種観察法

『稲苢経』・『稲苢経註』

第 12 回 大乘仏教（6）

大乘仏教・後期中観思想の人生観

1

到達目標・理想的境地・中道

大乘仏教・後期中観思想の人生観

2

仏陀・経典の権威について

第 14 回 まとめ・授業内試験

筆記試験

まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習：テキスト・プリント資料の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか アビダルマ仏教の科学的の世界観』、Dojin 選書、2013 年

桜部健・上山春平著『仏教の思想 2 存在の分析＜アビダルマ＞』、角川ソフィア文庫、1996 年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績＋平常点（40%）により評価します。

授業内筆記試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

初めてインド本来の大乘仏教思想を学び、その人生観等に新鮮な驚きを感じる学生が多いようです。初期仏教より思想内容が高度になりますが、丁寧な解説を心掛けたいと思います。

【Outline and objectives】

This is a course to learn Indian Hinayana (ZrAvakayAna) Buddhism and Mahayana (BodhisattvayAna) Buddhism.

The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.

PHL300LA

行為の理論 A

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文明の課題は、クリエイティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米の合理主義は、自己創造的なライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで行為の自己創造性の根源への道を考察します。

【到達目標】

合理主義的行為を再検討し、＜クリエイティブな行為＞を解明できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立て体的に組合わせながら、講義を行います。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。課題レポートは授業終了時に提出してもらい、次回授業で講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スライド形式による授業内容紹介
2	序論	自己をクリエートする 21 世紀精神へ
3	I 行為の構造	合理主義的行為論
4	II 自己表現としての行為	ヘーゲルの自己表現論
5	III 行為の根源	《自己決定と不可避の行為とは両立するか？》
6	III 行為の根源	《善を知っているのに悪を行うとは？》
7	III 行為の根源	《行為は始める前に生ずる》
8	III 行為の根源	《行為には骨（こつ）がある》
9	III 行為の根源	《行為の失敗こそ大切である》
10	III 行為の根源	《体で動かずに心で動く》
11	III 行為の根源	《どうあってもよい行為とは？》
12	III 行為の根源	《意図を超えて因果はめぐる》
13	III 行為の根源	《運命とは自己自身である》
14	春 semester のまとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山口誠一著『クリエートする哲学—新行為論入門—』（弘文堂）の内容を教室のスクリーンにプロジェクター投射します。

【参考書】

毎回の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学年度末試験を基準（60%）として、授業時課題レポート（20%）と出席回数（20%）も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】

PC 接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with the process for making the selfcreation of action, with texts drawn from many languages.

PHL300LA

行為の理論 B

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文明の課題は、クリエイティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米の合理主義は、クリエイティブなライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで科学技術によってますます高度化する現代情報消費社会で追究されるべき行為の創造性を主にニーチェの行為論を手がかりに考察します。

【到達目標】

合理主義的行為を再検討し、＜クリエイティブな行為＞を解明できます。なお、その際、米国のネオプラグマティズム最新動向も検討します。また、現代文明の預言者ニーチェの思想をてがかりにしながら、広い視野から深く考察できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。課題レポートは授業終了時に提出してもらい、次回授業で講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ニーチェの行為論	スライド形式による授業内容紹介
2	自己をクリエートする行為とは？	ヘーゲルからニーチェへの展開を通して自己創造を解明する
3	動機なき行為とは、	フランスの思想家カミュの『異邦人』を映画で鑑賞しながら行為の動機を相対化する。
4	行為の意図・動機への疑念	ニーチェによる合理主義的行為批判を紹介する。
5	身体自己と目的意識との関係	権力への意志としての身体自己を解明する。
6	しくじり行為	フロイトの精神分析を手がかりに行為の身体自己の無意識性を解明する。
7	「大きな理性」としての身体自己	身体自己が意識に命令して行為が現実化することを解明する。
8	目的論の相対化	作用原因としての身体自己を解明する。
9	道徳的責任からの解放	無垢な人間のライフスタイルを解明する。
10	自己創造としての行為	作用原因としての身体自己による創造的行為を解明する。
11	自己創造としての弁証法的対話	対話を通して対話者の新たな自己が創造されてゆくメカニズムを解明する。

- | | | |
|----|------------|-------------------------------|
| 12 | 幻影・仮象に生きる | 幻影・仮象による自己創造がネーミングに到ることを解明する。 |
| 13 | 自己創造としての変身 | ネーミングによる変身が自己創造であることを解明する。 |
| 14 | まとめ | 行為論 B の総括・授業内試験 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にスクリーンにテキストをプロジェクター投射します。また、学習支援システムでも事前に配布します。

【参考書】

毎回の授業で紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

学年度末試験を基準 (60%) として、授業時課題レポート (20%) と出席回数 (20%) も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】

PC 接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with Nietzsche's theory of action, with texts drawn from Japanese, English and German.

PHL300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：反出生主義の哲学——「生まれてこない方がよかった」というのは本当か？

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

2000 年代になってにわかに議論が喧しくなってきた哲学的問題に、「反出生主義（Antinatalism）」がある。端的に言えば、「生まれてこないほうが良かった」という思想である。それゆえ、「反出生主義」とは、「存在してしまうことの害悪」をなるべく減ずるために、将来生まれてくる可能性のある人々の誕生を防ぐことは道徳的に正しいという議論である。

哲学的に見れば、「反出生主義」の思想は、19 世紀の哲学者アルトゥル・ショーペンハウアー（1788-1860）のペシミズムに遡ることができる。彼の影響のもとに、ニーチェは、『悲劇の誕生』のなかで、「人間にとってもっとも善いことは、生まれなかったこと、存在しないこと、何者でないことだ。次に善いことは、すぐに死ぬことだ」と書き記している。

こうした「反出生主義」が再び議論を巻き起こしている背景には、デイヴィッド・ベネター（南アフリカ・ケープタウン大学准教授）が『生まれてこなかったほうが良かった——存在してしまうことの害悪（David Benatar, Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence）』（2006）を出版したことがある。森岡正博（早稲田大学教授）によれば、ベネターの哲学は、基本的にはショーペンハウアーの『意志と表象の世界』（1819 正編/1843 続編）の思想を引き継いでいるが、彼が「反出生主義」を分析哲学の手法を用いて哲学のテーマとしたことは評価できる。

そこで 2021 年度の本授業は、ベネターのテキストを取り上げ、「反出生主義」の思想を考察することにした。

【授業の目的】

本授業の目的は、ベネターの『生まれてこないほうが良かった』を検討することによって、「反出生主義」の現代的意義を考察する。ちなみにベネターによれば、生まれてくる人たちの誕生を防ぐことによって、この世界の害悪を減らしていくことが重要であり、それゆえ、人工妊娠中絶は肯定される。最終的に、彼は「人類は絶滅したほうがよい」という結論に至る。

本授業では、第一に、「たとえ質の高い人生であったとしても、私たちの人生は非常に悪いものだ」というベネターの主張に対する反論を検討する。

第二に、どのような意味で、ベネターの「反出生主義」を否定する「誕生肯定の哲学」（森岡正博）は可能かを検討する。

結果的に、私たちは「生まれてきたほうがよかった」といいうのかという問題を哲学的に検討する。

【到達目標】

- ①ベネターの「反出生主義」の思想を学ぶことができる。
- ②哲学的なテキストを読むことができる。
- ③レジュメを書くことができる。
- ④ベネター以外の「反出生主義」の思想を学ぶことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) 基本的に「演習」形式で行う。
- (2) 毎回、担当者を決め、レジュメを作成してもらう。
- ◆レジュメには、①担当箇所の翻訳と解説、②用語説明、③考察、④問題点を記載する。
- (3) 授業の進め方
- ①特定質問者を決めて、担当者の発表に対して、質問を行う。

②それ以外の授業参加者と教員を含めて質疑を行い、問題点について議論する。

(4) フィードバックの方法

・授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・授業の進め方についての説明 ・発表の順番等の決定
第 2 回	第 1 章 序論①	・誰がそんなに幸運なのか ・反出生主義と出生を促進する偏見
第 3 回	第 1 章 序論②	・本書の概要
第 4 回	第 2 章 存在してしまうことが常に害悪である理由①	・存在してしまうことが害悪であるということがあり得るか？
第 5 回	第 2 章 存在してしまうことが常に害悪である理由②	・なぜ存在してしまうことは常に害悪であるのか
第 6 回	第 3 章 存在してしまうことがどれほど悪いのか①	・人生の良さと悪さの差が人生の質にはならない理由 ・なぜ人生の質の自己判断は信頼できないのか
第 7 回	第 3 章 存在してしまうことがどれほど悪いのか②	・人生の質に関する三つの見解と三つの見解どれをとっても人生はうまくいかない理由 ・苦痛の世界
第 8 回	第 4 章 子どもを持つということ：反出生の見解①	・子作り ・子供を作る理由
第 9 回	第 4 章 子どもを持つということ：反出生の見解②	・障碍とロングフルライフ（望まずに生まれた命） ・生殖補助と人工生殖 ・将来生まれてくる人間を単なる手段として考えること
第 10 回	第 5 章 妊娠中絶：「妊娠中絶賛成派」の見解①	・四種類の利害〔interest〕 ・どの利害が道徳に係るのか？ ・いつから意識が生じ始めるのか？
第 11 回	第 5 章 妊娠中絶：「妊娠中絶賛成派」の見解②	・存在し続けることへの利害 ・黄金律 ・「私たちと同じような未来」 ・結論
第 12 回	第 6 章 人口と絶滅①	・人口過剰 ・人口に関する道徳理論に潜む問題を解決する
第 13 回	第 6 章 人口と絶滅②	・段階的絶滅 ・絶滅
第 14 回	第 7 章 結論	・反直観的であるという反論に反論する ・楽観主義者への応答 ・死と自殺 ・宗教的見解 ・人間嫌い人間好き

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・担当者は、テキストの該当箇所のレジュメを発表前日までに教員に提出すること。
- ・特定質問者は、テキストの該当箇所に関する質問を 3 つ以上考え、簡単な質問表を作ってくること（発表当日でよい）
- ・それ以外の参加者は、該当箇所について質問を 1 つは考え、当日の議論に参加する準備をすること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) デイヴィッド・ベネター『生まれてこないほうが良かった——存在してしまうことの害悪』、すずさわ書店、2017 年
- (2) David Benatar, Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence, Oxford University Press, 2006.

【参考書】

- (1) 「特集 反出生主義を考える——「生まれてこないほうが良かった」という思想」、『現代思想』、青土社、2019 年 11 月号

(2) 吉沢文武「ベネターの反出生主義をどう受けとめるか」、『現代思想』「特集 倫理学の論点 23」所収、青土社、2019 年 9 月号

◆その他については、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

・個別報告発表 (50 %) (回数および内容による評価)

・特定質問担当 (30 %) (質問内容による評価)

・討論参加 (20 %) (内容による評価)

※ 以上に基づいて、総合的に評価する。

※ なお、無断欠席は認めない。

※要注意

・リアルタイムオンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

最近の大学生の中には、基本的なテキスト読解が不十分な者が見受けられる。テキストを「読む」というのは、テキストを「読み解く」のであって「読み込む」のではないことは肝に銘じるべきである。「読み込む」ということは、自分の考えをテキストに投影することであり、それは単なる勝手な解釈に過ぎない。それでは、真にテキストを「読解する」ことにならない。あくまで「虚心坦懐」にテキストに向かい、「眼光紙背を徹する」態度でテキストに向かわなければ、哲学的なテキストを「読む」ことはできない。

また、担当者はレジュメを作成する上で、引用されているテキストはもちろん、それ以外にも用語・概念などについて、徹底的に下調べを行うべきである。担当者以外に対して、教員から授業中に質問することが多々あるので、担当者と同様に準備を怠らないでほしい。

演習とは **practice** (=実践) を意味しているものであり、テキストを「読む」という実践は五感を十分に活用することです。授業に参加する皆さんは、哲学を「実践する」態度で臨んでもらいたい。

【受講上の注意】

本授業は、哲学・倫理学、思想の分野に深くコミットしているために、自身の思考の鍛錬を要する。テキストを読むこと、それに基づいて自分の思考を実践すること、これらの作業は哲学研究にとって必須のものと心得てもらいたい。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to examine the contemporary significance of "anti-birth" with special reference to Benatar's "I was better off not being born." By the way, according to Benatar, it is important to reduce the harm of this world by preventing the birth of newborns, and therefore abortion is affirmed. Eventually, he comes to the conclusion that humanity should be extinct. Therefore, this class first examines the rebuttal of Benatar's assertion that "even if it is a quality life, our lives are very bad." Second, we examine in what sense a "birth affirmation philosophy" (Masahiro Morioka) that denies Benatar's "anti-birth" is possible. As a result, we consider philosophically the question of whether we should have been born.

PHL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：「反出生主義の哲学」の批判——「生まれてこない方がよかった

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

2000 年代になってにわかに議論が喧しくなってきた哲学的問題に、「反出生主義 (Antinatalism)」がある。端的に言えば、「生まれてこないほうが良かった」という思想である。それゆえ、「反出生主義」とは、「存在してしまうことの害悪」をなるべく減ずるために、将来生まれてくる可能性のある人々の誕生を防ぐことは道徳的に正しいという議論である。

哲学的に見れば、「反出生主義」の思想は、19 世紀の哲学者アルトゥール・ショーペンハウアー (1788-1860) のベシミズムに遡ることができる。彼の影響のもとに、ニーチェは、『悲劇の誕生』のなかで、「人間にとってもっとも善いことは、生まれなかったこと、存在しないこと、何者でないことだ。次に善いことは、すぐに死ぬことだ」と書き記している。

こうした「反出生主義」が再び議論を巻き起こしている背景には、デイヴィッド・ベネター (南アフリカ・ケープタウン大学准教授) が『生まれてこなかったほうが良かった——存在してしまうことの害悪 (David Benatar, Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence)』(2006) を出版したことがある。森岡正博によれば、ベネターは、基本的にはショーペンハウアーの『意志と表象の世界』(1819 正編/1843 続編) の思想を引き継いでいるが、彼が「反出生主義」を分析哲学の手法を用いて哲学のテーマとしたことである。

そこで 2021 年度の本授業は、「春学期」で取り上げたベネターのテキストを批判的に検討する。その際に、森岡正博の『生まれてこないほうが良かったのか——生命の哲学へ!』(2020) を取り上げ、「反出生主義」の批判から、「誕生肯定」の哲学へと至る道を探る。

【授業の目的】

本授業の目的は、ベネターの『生まれてこないほうが良かった』を検討することによって、「反出生主義」の現代的意義を考察する。ちなみにベネターによれば、生まれてくる人たちの誕生を防ぐことによって、この世界の害悪を減らしていくことが重要であり、それゆえ、人工妊娠中絶は肯定される。最終的に、彼は「人類は絶滅したほうがよい」という結論に至る。

そこで本授業では、第一に、「たとえ質の高い人生であったとしても、私たちの人生は非常に悪いものだ」というベネターの主張に対する反論を検討する。

第二に、どのような意味で、ベネターの「反出生主義」を否定する「誕生肯定の哲学」(森岡正博) は可能かを検討する。結果的に、私たちは「生まれてきたほうがよかった」といいうるのかという問題を哲学的に検討する。

【到達目標】

- ①森岡正博の「誕生肯定」の思想を学ぶことができる。
- ②哲学的なテキストを読むことができる。
- ③レジュメを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) 基本的に「演習」形式で行う。
- (2) 毎回、担当者を決め、レジュメを作成してもらう。

◆レジュメには、①担当箇所の翻訳と解説、②用語説明、③考察、④問題点を記載する。

◆特定質問者を決めて、担当者の発表に対して、質問を行う。

(3) それ以外の授業参加者と教員を含めて質疑を行い、問題点について議論する。

(4) フィードバックの方法

◆授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・ 当番の順番を決定する ・ 授業の概要説明
第2回	第1章 「おまえは生きなければならぬ!」①	1. メフィストと「否定する精神」 2. 「お前は生きなければならぬ!」
第3回	第1章 「おまえは生きなければならぬ!」②	3. 救済されたファウストの魂 4. 『ファウスト』と誕生否定
第4回	第2章 誕生は害悪なのか①	1. オイディプス王 2. 世界と人生に対する呪詛
第5回	第2章 誕生は害悪なのか②	3. ベネターの「誕生害悪論」 4. 反出生主義の射程
第6回	第3章 ショーペンハウアーの反出生主義①	1. 生命論へと変換されたカント哲学 2. 生きようとする意志 3. いっさいの生は苦しみである
第7回	第3章 ショーペンハウアーの反出生主義②	4. 「無意志」の状態こそが最高善である 5. 自殺について 6. 死によっても壊れ得ないもの 7. ショーペンハウアーの影響
第8回	第4章 輪廻する不滅のアーマン①	1. 輪廻思想の誕生 2. 熟睡によって到達する本来の自己
第9回	第4章 輪廻する不滅のアーマン②	「お前がそれである」
第10回	第5章 ブッダは誕生をどう考えたのか①	1. 一切皆苦 2. 涅槃寂靜
第11回	第5章 ブッダは誕生をどう考えたのか②	3. 生まれてこないほうが良かったのか? 4. 原始仏教と自殺
第12回	第6章 ニーチェー—生まれてきた運命を愛せるか①	1. 生を肯定する哲学者 2. 永遠回帰 3. 運命愛
第13回	第6章 ニーチェー—生まれてきた運命を愛せるか②	4. 在るところのものに成ることを欲する 5. ニーチェと誕生肯定
第14回	第7章 誕生を肯定すること、生命を哲学すること	1. 誕生害悪論を再考する 2. 善から悪が生成することは悪なのか? 3. 子どもを産むことをどう考えるか 4. 誕生肯定の哲学へ! 5. 生命の哲学へ!

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・ 担当者は、テキストの該当箇所のレジュメを発表前日までに教員に提出すること。

・ 特定質問者は、テキストの該当箇所に関する質問を3つ以上考え、簡単な質問表を作ってくること（発表当日でよい）

・ それ以外の参加者は、該当箇所について質問を1つは考え、当日の議論に参加する準備をすること。

・ 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

森岡正博『生まれてこないほうが良かったのか? ——生命の哲学へ!』（筑摩選書、2020年）

【参考書】

(1) デイヴィッド・ベネター『生まれてこないほうが良かった——存在してしまうことの害悪』、すずさわ書店、2017年

(2) 「特集 反出生主義を考える——「生まれてこないほうが良かった」という思想」、『現代思想』、青土社、2019年11月号

(3) 吉沢文武「ベネターの反出生主義をどう受けとめるか」、『現代思想』「特集 倫理学の論点 23」所収、青土社、2019年9月号

◆ その他については、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

・ 個別報告発表（50%）（回数および内容による評価）

・ 特定質問担当（30%）（質問内容による評価）

・ 討論参加（20%）（内容による評価）

※ 以上に基づいて、総合的に評価する。

※ なお、無断欠席は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

最近の大学生の中には、基本的なテキスト読解が不十分な者が見受けられる。テキストを「読む」というのは、テキストを「読み解く」のであって「読み込む」のではないことは肝に銘じるべきである。「読み込む」ということは、自分の考えをテキストに投影することであり、それは単なる勝手な解釈に過ぎない。それでは、真にテキストを「読解する」ことにならない。あくまで「虚心坦懐」にテキストに向かい、「眼光紙背を徹する」態度でテキストに向かわなければ、哲学的なテキストを「読む」ことはできない。

また、担当者はレジュメを作成する上で、引用されているテキストはもちろん、それ以外にも用語・概念などについて、徹底的に下調べを行うべきである。担当者以外に対して、教員から授業中に質問することが多々あるので、担当者と同様に準備を怠らないでほしい。

演習とは **practice** (=実践) を意味しているものであり、テキストを「読む」という実践は五感を十分に活用することです。授業に参加する皆さんは、哲学を「実践する」態度で臨んでもらいたい。

【受講上の注意】

本授業は、哲学・倫理学、思想の分野に深くコミットしているために、自身の思考の鍛錬を要する。テキストを読むこと、それに基づいて自分の思考を実践すること、これらの作業は哲学研究にとって必須のものと心得てもらいたい。単に、カルチュラル・スタディーズや、ポスト・コロニアリズム研究などとは異なるので、注意を要する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 現代哲学（現象学・構造主義以後のフランス哲学）・現代倫理学（ケアの倫理学・応用倫理学）

<研究テーマ> 生命体・地球を含む「生の倫理学」（例えば、暴力や虐待、テロなどによるトラウマや PTSD に苦しむ人々を「生・生活・人生・生命（life）」という観点からケアしていくためにしなければならない義務・責任を考察する）

<主要研究業績>

1. 【共著】森村修「『社会政治的トラウマ』の倫理」、牧野英二・小野原雅夫・山本英輔・斎藤元紀編『哲学の変換と知の越境』所収、法政大学出版局、2019年【臨床哲学・生の倫理学】

2. 【共著】森村修「アマルティア・セン——自由と正義のアイデア」、榎木玲子／法政大学国際文化学部編『〈境界〉を生きる思想家たち』所収、法政大学出版局、2016年【現代倫理学】

3. 【共著】森村修「ヨーロッパ」という問題—テロと放射能時代における哲学」、熊田泰章編『国際文化研究への道：共生と連帯を求めて』所収、彩流社、2013年【現代哲学】

4. 【論文】森村修「市川白弦の『空-無政府-共同体論(Ś ūnya-Anarchist-Communism)』——小笠原秀実の仏教アナキズムと西谷啓治の自衛論批判をめぐって」、法政大学国際文化学部編『異文化 20』、2019年【日本哲学】

5. 【論文】森村修「技術は「ヒューマニズムを超える」か? (1) —ハイパー・ニヒリズム時代におけるハイデガーの「技術哲学」(1)」、法政大学国際文化学部編『異文化 19』論文編、2018年【現代ドイツ哲学・応用倫理学】

6. 【論文】森村修「パウル・ツェランという問題 (1) —ガダマーとデリダの「途切れない対話」(1)」、法政大学国際文化学部編『異文化』論文編、2017年【現代ドイツ・フランス哲学】

7. 【論文】森村修「思想の翻訳と文字の問題——比較思想から問文化性の比較思考へ」、比較思想学会編『比較思想研究』第42号、2016年【日本哲学・Intercultural Philosophy】
8. 【論文】森村修「センの「道徳哲学」(1)——バトナム「事実／価値二分法の崩壊」論を手がかりに(1)」、法政大学国際文化学部編『異文化17』論文篇、2016年【現代倫理学】
9. 【論文】森村修「『性的差異』のケア倫理学——フェミニズム倫理学と和辻倫理学における「肉体」の問題」、『比較思想研究』第41号、2015年【日本哲学・ケアの倫理学】
10. 【論文】森村修「喪と／あるいはメランコリー(1)——デリダの〈精神分析の哲学〉(1)」、法政大学国際文化学部編『異文化16』論文篇、2015年【現代哲学】

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to examine the contemporary significance of "Antinatalism" with special reference to Benatar's "Better Never to Have Been." By the way, according to Benatar, it is important to reduce the harm of this world by preventing the birth of newborns, and therefore abortion is affirmed. Eventually, he comes to the conclusion that humanity should be extinct.

Therefore, this class first examines the rebuttal of Benatar's assertion that "even if it is a quality life, our lives are very bad." Second, we examine in what sense a "birth affirmation philosophy" (Masahiro Morioka) that denies Benatar's "anti-birth" is possible. As a result, we consider philosophically the question of whether we should have been born.

HIS300LA

中国の民族と文化 A

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。

漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を講義にて行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、秋学期の「中国の民族と文化 B」は春学期の学習を前提に授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第2回	漢文の基礎(1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第3回	漢文の基礎(2)	否定・可能
第4回	漢文の基礎(3)	使役・受身
第5回	漢文の基礎(4)	疑問・反語
第6回	漢文の基礎(5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第7回	漢文史料から見る歴史(1)	『史記』の描く春秋時代
第8回	漢文史料から見る歴史(2)	『史記』の描く戦国時代
第9回	漢文史料から見る歴史(3)	『史記』の描く前漢時代
第10回	漢文史料から見る歴史(4)	『後漢書』の描く後漢時代
第11回	漢文史料から見る歴史(5)	『三国志』の描く魏
第12回	漢文史料から見る歴史(6)	『三国志』の描く呉
第13回	漢文史料から見る歴史(7)	『三国志』の描く蜀
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008 年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000 年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999 年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %

試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。また、日本人学生でも、学習上の負担もあり、試験も簡単ではないので、安易な気持ちで履修するのはおやめください。

【Outline and objectives】

Outline: Studying ancient Chinese language and reading ancient Chinese texts

Objectives: Understanding the history and the culture of China

HIS300LA

中国の民族と文化 B

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。

漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。秋学期には比較的長い文章の読解を行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、春学期の「中国の民族と文化 A」の履修を前提として授業を進めていくので、秋学期だけの履修は避けていただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	漢民族の思想 (1)	『論語』と儒家
第 2 回	漢民族の思想 (2)	『論語』と政治
第 3 回	漢民族の思想 (3)	『孟子』と国家
第 4 回	漢民族の思想 (4)	『孟子』と性善説
第 5 回	漢民族の思想 (5)	『荀子』と性悪説
第 6 回	漢民族の思想 (6)	『荀子』と学問
第 7 回	漢民族の思想 (7)	『韓非子』と法家
第 8 回	漢民族の思想 (8)	『韓非子』と秦
第 9 回	儒家思想と政治の展開 (1)	唐の太宗と『貞観政要』
第 10 回	儒家思想と政治の展開 (2)	王安石と宋学
第 11 回	儒家思想と民族・学問 (1)	朱子学と歴史学
第 12 回	儒家思想と民族・学問 (2)	顧炎武の人生と明清交替
第 13 回	儒家思想と民族・学問 (3)	顧炎武の学問と国家観
第 14 回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008 年）

佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000 年）
 天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999 年）
 円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %

試験は漢文の読解力のみで評価します。

なお、試験は白文を読んでもらう予定です。入試漢文を前提とする
 と全くできないと思いますので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。また、日本人学生でも、学習上の負担もあり、試験も簡単ではないので、安易な気持ちで履修するのはおやめください。

【Outline and objectives】

Outline: Studying ancient Chinese language and reading ancient Chinese texts

Objectives: Understanding the history and the culture of China

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 A

2017 年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

【到達目標】

日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2 回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	仏教伝来	講義内容のガイダンス。尼・仏殿・法会の始まり
2	飛鳥寺	仏舍利・塔・仏像を備えた寺院の成立
3	法隆寺	推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の寺
4	大官大寺・薬師寺	天武・持統朝の仏教政策
5	平城京の寺院	大安寺・薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺・西大寺
6	国分寺・国分尼寺	国分寺建立の詔とその前後の実情
7	奈良時代の地方寺院	地方豪族の仏教受容と寺院建立
8	平安京周辺寺院	桓武朝の仏教統制と官寺・私寺
9	北魏の寺院	永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統制
10	隋・唐の各州の官寺	文帝の仏教政策、大雲寺・竜興寺・開元寺
11	長安の寺院	大興善寺と玄都観
12	中国の廃仏政策	三武一宗の法難、廃仏の実態と理由
13	日本と中国の寺院比較	日本の寺院、中国の寺院の共通点と相違点の考察
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

速水侑『日本仏教史 古代』（吉川弘文館、1986 年）
末本文美士編『新アジア仏教史 11 日本 1 日本仏教の礎』（佼成出版社、2010 年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018 年）
仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017 年）
藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013 年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50 %、毎回の出席確認の小テスト 50 % をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの 2 段階で評価する。オンライン授業に変更された場合、具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline and objectives】

Comparative study of ancient nations and society between Japan and China using temples

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 B

2017 年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代の日本と唐における仏教者による社会事業について比較研究する。(1) 唐の悲田養病坊、(2) 唐で学んだ日本の留学僧、唐から来日した僧、唐の影響を受けた日本の為政者、(3) 日本の悲田院とそれに類する施設を取り上げて説明する。

【到達目標】

古代の日本・唐において、僧尼や為政者が行った困窮者の救済事業、橋梁・宿泊施設など交通の整備などの社会事業の実情について理解する。また日本と唐でどのような継承関係や相違点があるのかを考える。そしてその内容を自身の文章で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2 回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	仏教と社会福祉事業の歴史、古代の日中関係の概観
2	道昭	入唐と玄奘への師事、帰国後の架橋と港の整備
3	行基	布施屋の設置
4	光明皇后	悲田院・施薬院の設置
5	鑑真	悲田と敬田、揚州での無捨大会
6	鑑真の関係者	普照の道路への果樹栽種提言、道忠の関東での布教
7	最澄	東国での布教、美濃での宿泊施設設置
8	空海	讃岐国満濃池の修築
9	則天武后	悲田養病坊の設置
10	武宗	廃仏と悲田養病坊のゆくえ
11	平安京の悲田院	平安時代の悲田院の活動と矛盾
12	地方の医療救済施設	武蔵・相模・筑前等の社会施設
13	日本と唐の社会事業の比較	日本・唐の類似点と相違点
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

新村拓『日本医療社会史の研究』（法政大学出版局、1985 年）
 林陸朗『光明皇后』（吉川弘文館、1961 年）
 石田瑞磨『鑑真』（大蔵出版、1974 年）
 速水侑編『行基』（吉川弘文館、2004 年）
 道端良秀『唐代仏教史の研究』（法蔵館、1957 年）
 追塩千尋『国分寺の中世の展開』（吉川弘文館、1996 年）
 勝浦令子「七・八世紀の仏教社会救済活動」（『史論』54 集、2003 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50 %、毎回の出席確認の小テスト 50 % をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの 2 段階で評価する。オンライン授業に変更された場合、具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline and objectives】

A comparative study of social services by Buddhists in Japan and the Tang Dynasty

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 A 2017 年度以降入学者

新崎 盛吾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今も多くの米軍基地が集中する沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策やアジア・太平洋島嶼との関係、辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意の形成過程などを学ぶ。沖縄は太平洋戦争の際に、日本軍による本土決戦の捨て石として住民を巻き込んだ地上戦を強いられ、県民の 4 人に 1 人が死亡する過酷な戦争被害を受けた。1972 年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれたため、日本が抱える米軍基地の約 7 割が集中する状況に陥っている。沖縄について学ぶことで、米国のアジア戦略、日本と朝鮮半島や中国と本との関係、日本が将来的に目指すべき外交戦略の方向性が見えてくる。

【到達目標】

- ・日米安保体制下で米軍基地が集中する沖縄の現状や、戦後から現在に至るまでの歴史的経緯を知る。
- ・辺野古の新基地建設など米軍の基地集中に反対する沖縄の民意が、どのように形成されてきたのかを理解する。
- ・沖縄の現状を通して、米国のアジア戦略、中国との対立構造、韓国や北朝鮮との関係性などを学び、アジアの中で日本が目指すべき外交戦略を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルスの感染拡大状況によるが、教室を使用できずにオンラインで授業を実施する場合は、本来の授業時間帯に合わせて会議システムの「Zoom」を使用し、双方向の授業を行う。その場合、授業時間中はカメラと音声をつなぐことを原則とするので、オンライン環境の整備が必要になる。特にグループディスカッションの際には必須。

毎回の授業後にリアクションペーパーの提出を求め、出欠判断の参考にする。期末試験の代わりにレポート提出を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業全体の流れを説明
2	沖縄の現状を学ぶ	戦後の沖縄の政治、経済、基地の状況についての概説
3	辺野古の新基地建設問題について	普天間飛行場の移設先となった辺野古の反対運動や歴史的な経緯
4	グループディスカッション	沖縄の基地問題の現状と辺野古について
5	普天間飛行場の移設と辺野古移基地建設が浮上した経緯	1995 年の少女暴行事件を契機に起きた基地返還問題と、日米政府の思惑
6	日本復帰後の沖縄の政治の流れと「オール沖縄」の台頭	1972 年の日本復帰後の歴代知事の取り組み、基地を巡る政治的な動き
7	沖縄戦の悲劇と実態	なぜ沖縄で地上戦が行われたのか。本土決戦の捨て石とされた理由

8	グループディスカッション	戦後に沖縄が置かれた立場と政治的な事情
9	沖縄を軍事基地化した米国の思惑	米国施政下の沖縄の状況と日本への復帰。基地集中と日米安保の背景
10	冷戦から現代までの米軍戦略の変化	時代ごとの米軍の戦略の変化、沖縄海兵隊の役割と実態
11	米軍の世界戦略と中国の台頭	中国の尖閣諸島への進出、米国のアジア戦略
12	朝鮮半島の諸問題	韓国、北朝鮮との間で積み残した戦後処理。朝鮮半島と日本の外交戦略
13	グループディスカッション	米国と日本、アジア諸国との関係性
14	まとめ	沖縄の実状から見る日本の外交戦略とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、2016年

【参考書】

・「沖縄から伝えたい。米軍基地の話。Q & A B o o k」沖縄県発行
<http://dc-office.org/wp-content/uploads/2017/04/QA20170406.pdf>

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出、アクティブラーニングへの参加度（50％）

期末レポート（50％）

指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は全てオンラインによる授業だったため、学生同士の意見交換や相互交流が十分にできなかった。今期もオンラインによる授業が続く場合は、グループディスカッションなどを通じて、個々の学生の見方を紹介するなどして講師からの一方的な伝達ではなく、学生に自主的に考えさせる授業を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

共同通信社の社会部系記者として約30年を過ごした経験を生かし、現役のジャーナリストの視点による授業を目指す。昨年は米大統領選や沖縄県選などの時事ニュースを盛り込み、日本のメディア事情にも言及した。

2014年から16年まで「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、メディア業界に就職を希望する学生の支援活動に取り組んできた。最近では、ジャーナリストを目指す日本と韓国の学生が交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に2回開催）の実行委員や、田中優子総長が編集委員を務める「週刊金曜日」と連携した学生向けの企画「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）の事務局長を務めている。

昨年は前期後期の授業だったが、今期は前期のみの課程のため、昨年の一年分の内容を半期に凝縮した内容となる。

【その他の注意事項】

①やむを得ない事情で欠席、遅刻する場合は、事前に理由を伝達すれば評価の際の考慮材料とする。

②事前連絡のない遅刻や途中退席、講義の進行や他の受講生の学習を妨げる行為には厳しく対処する。

③オンライン授業の場合、学生の姿が常時画面に映るよう、カメラオンを原則とする。どうしてもオンにできない場合は、事前に理由を伝えるよう求める。

【Outline and objectives】

Through the current situation and history of Okinawa, where many US military bases are still concentrated, we will learn about Japan's security policy, relations with the Asia-Pacific islands, and the process of forming the people's will of Okinawa against the construction of a new base in Henoko. During the Pacific War, Okinawa was forced into a ground battle involving residents as a waste stone of the "mainland decisive battle" by the Japanese army, and suffered severe war damage that killed one in four citizens of the prefecture. Since it was under the administration of the United States until it returned to Japan in 1972, about 70% of the US military bases in Japan are concentrated. By learning about Okinawa, we can see the direction of the US Asian strategy, the relationship between Japan and the Korean Peninsula and China, and the diplomatic strategy that Japan should aim for in the future.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 B 2017 年度以降入学者

水谷 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、沖縄近現代史を中心に、アジア・太平洋島嶼の国際関係から生じる現代社会の諸問題を検討し、この地域に生きる生活者としての問題意識を養います。

【到達目標】

沖縄は現在日本の一県、一地域ですが、前近代には琉球王府の統治する別の政治体制に属し、「琉球処分」による日本への併合、その後の「同化」政策、沖縄戦と戦後の米軍統治、「日本復帰」（沖縄返還）、その後も続く基地強化など外からの政策決定と、それに対する沖縄人のさまざまな異議申し立ての中で、独自の歴史を辿っています。沖縄近現代史を確認しつつ、アジア・太平洋国際関係の中で、沖縄が現在直面している課題・問題について具体的にリサーチし、議論します。生活者の視点から、国際関係の中で、地域の問題を考え、具体的にリサーチ、議論する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回の内容・テーマについて講義、授業内でのグループ・ディスカッションを中心に授業を進めます。各回のテーマについてリアクションペーパーを提出し、学期末には各自の問題関心に沿って、リサーチレポートを作成します。レポート作成に向けて、中間発表があります。ハイブリッド型で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目標と課題について確認します。
2	「琉球処分」ー東アジア史の視点から	「琉球処分」について内容を確認し、東アジア、世界史の視点から議論します。
3	近代沖縄の思想と文化	「同化」政策に対するアイデンティティーの模索と思想・文化について確認します。
4	沖縄戦ー住民虐殺・「集団自決」・マラリヤ強制疎開	沖縄戦への経緯と沖縄戦の特徴について国際関係史の視点から議論します。
5	占領とサンフランシスコ講和条約	占領政策とサンフランシスコ講和条約による戦後沖縄の状況について確認します。
6	「銃剣とブルドーザー」から島ぐるみ土地闘争・復帰運動へ	沖縄の基地化とそれに抗する運動の展開について確認します。
7	施政権返還と密約	「沖縄返還交渉」における日米外交の問題を密約から考えます。
8	「世替わり」後の沖縄と戦争の記憶	施政権返還後の沖縄の状況について、沖縄戦を記録する活動から考えます。
9	沖縄の課題（1）：戦争の記憶とその継承	教科書問題から戦争の記憶と継承について議論します。

- 10 沖縄の課題（2）：ア ジア・環太平洋の安全保障と在日米軍基地 沖縄の在日米軍基地について安全保障の観点より考えます。
- 11 沖縄の課題（3）：環 太平洋の自然と環境か 沖縄の課題を考えます。
- 12 沖縄の課題（4）：自 治・自立（自律）の思想と試み 沖縄における自治・自立（自律）の思想と試みを確認します。
- 13 沖縄の課題（5）：沖 縄のネットワーク：移 動の経験と考える 「移民県」と言われる沖縄の移動の経験から沖縄の課題解決の試みと可能性を考えます。
- 14 レポート中間発表 リサーチレポートの内容について発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
参考文献、レジュメ・資料について、読破し、理解した上で、リアクションペーパーを書く。レポート、レポート中間発表の準備をする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業ごとにレジュメを準備します。

【参考書】

宮里政玄ほか『沖縄「自立」への道を求めて』高文研、2009 年。
田仲康博『風景の裂け目ー沖縄、占領の今ー』せりか書房、2010 年。
川瀬光義『基地維持政策と財政』日本経済評論社、2013 年。
新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店、2016 年。
金城正篤ほか編著『沖縄県の百年』山川出版社、2005 年。
屋嘉比取『沖縄戦、米軍占領史を学びなおすー記憶をいかに継承するか』世織書房、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート（30%）
レポート中間発表（20%）
リサーチレポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

感染症拡大状況に応じて、ハイブリッド型で行うため、ネット接続に対応したパソコンまたはタブレットを準備してください。

【その他の重要事項】

オフィス・アワーは授業前後の休憩時間、または、E メール：mizakiko@tsuda.ac.jp あてにご連絡ください。

【Outline and objectives】

This course is to grasp and consider some problems caused in the international relations of Asia-Pacific, especially from the history of Okinawa after the annexation to modern Japan in 1879.

HIS300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住んでいて、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業（ZOOM によるリアルタイム授業）を基本とします。本授業の開始日は 4 月 9 日とし、前日までに ZOOM の URL を学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。

基本的な流れは、以下の通りである。

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン
3	第 1 章：在日朝鮮人世界の形成。1～3（併合前から関東大震災まで）	学生によるテキストの報告、映像
4	第 1 章：在日朝鮮人社会の形成。4～6（植民地支配と日本への定着化）	学生によるテキストの報告、映像
5	第 2 章：協和会体制と戦争動員。1～3（世界恐慌期の渡航・移民。協和会）	学生によるテキストの報告、映像
6	第 2 章：協和会体制と戦争動員 4～5（強制連行、強制労働）	学生によるテキストの報告、映像
7	フィールドワーク	「在日朝鮮人歴史資料館」見学

8	第 3 章：戦後在日朝鮮人社会の形成 1（戦後在日朝鮮人の出発）	学生によるテキストの報告、映像
9	第 3 章：戦後在日朝鮮人社会の形成 2, 3（占領政策、朝鮮戦争と在日朝鮮人）	学生によるテキストの報告、映像
10	第 3 章：戦後在日朝鮮人社会の形成 4（帰国運動）	学生によるテキストの報告、映像
11	第 4 章：2 世たちの模索 1（日韓会談と在日社会）	学生によるテキストの報告、映像
12	第 4 章：2 世たちの模索 2～4（在日社会の変容）	学生によるテキストの報告、映像
13	終章：グローバル化の中の在日朝鮮人	学生によるテキストの報告、映像
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

水野直樹・文京洙『在日朝鮮人 歴史と現在』（岩波新書）860 円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50 %、プレゼンテーション・期末レポート 50 %。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【学生が準備すべき機器他】

Wifi 環境

【その他の重要事項】

秋学期に開講される教養ゼミ「在日朝鮮人の歴史 B」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に活かきてきて、理解が深く広がります。

【Outline and objectives】

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved. The aim of this course is to learn them and understand their existence deeply.

HIS300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住んでいて、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。春学期開講の「在日朝鮮人の歴史A」を履修していることが望ましい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。総合科目なので、受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業（ZOOM によるリアルタイム授業）を基本とします。授業形態に変更のある場合は、その都度、学習支援システムを通じて連絡します。初回授業日の前日までに、ZOOM の URL を学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。

本授業は、ゼミ形式で進めます。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在、ひいては地球規模で展開するさまざまなコリアンの姿について、春学期に学習した基礎事項をもとに、テキストの内容をレポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。グローバル時代のコリアン活躍と苦悩は、日本を照らす鏡でもある。春学期よりも、さらに掘り下げた内容の報告と討論を行っていく。理解を補う補助資料として、随時、映像資料も視聴しながら進める。参加型授業である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアンと芸能界、スポーツ界のニューヒーローたち	学生によるテキストの報告、映像
3	在日コリアンと焼き肉文化	学生によるテキストの報告、映像
4	在日コリアンの民族教育	学生によるテキストの報告、映像
5	フィールドワーク	二八独立宣言記念碑、韓国 YMCA
6	在日コリアンとパチンコ産業	学生によるテキストの報告、映像
7	在米コリアンの社会史	学生によるテキストの報告、映像

8	ベトナム戦争とコリアン	学生によるテキストの報告、映像
9	まとめ①	映像（1）
10	済州島と在日コリアン	学生によるテキストの報告、映像
11	大震災と在日コリアン	学生によるテキストの報告、映像
12	在日コリアンとスポーツ選手	学生によるテキストの報告、映像
13	まとめ②	映像（2）
14	まとめの討論	在日コリアンの将来と日本社会の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナをよく張ってこくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野村進『コリアン世界の旅』（講談社文庫）885 円。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50 %、プレゼンテーション・期末レポート 50 %。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved. The aim of this course is to learn them and understand their existence deeply.

PHL300LA

キリスト教思想史 A

2017 年度以降入学者

酒井 健

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教の思想の変遷をその源であるユダヤ教から順次理解する。時代背景、歴史的背景をしっかりとさえる。

【到達目標】

キリスト教を学問の対象に据えて、客観的かつ公平な視点からキリスト教思想の重要な点を年代をおって考察する。信仰への道を説くのが授業の狙いではない。あくまで一つの宗教として、その特徴を、問題点も含めて冷静に考えていく。とりわけ以下の 3 点に留意する。

- 1) キリスト教とユダヤ教の相違を理解する。
- 2) 古代ローマの都市文明と初期キリスト教の関係を理解する。
- 3) 古代ローマ末期におけるキリスト教と異教の関係を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1) 講義形式。
- 2) 毎回、授業の終わりの 20 分を使って、その日の授業内容に関してかなりの分量の論述を書かせる。その意味でハードな授業になる。
- 3) 定員の 20 名を超えた場合は選抜を行うので受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。
- 4) 今年度の開校日は 4 月 12 日曜日（3 時限）とする。原則として教室での対面授業を予定しているが、社会状況に応じてオン・ラインでのズーム授業に転じる場合もある。
- 5) なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。また優れた課題回答に対しては授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介と選抜	今学期の授業の概要の説明。キリスト教を学ぶことの意義を中心に。定員超過の場合は選抜を行う。
第 2 回	ユダヤ教から	一神教の成り立ち。キリスト教の源流であるユダヤ教に立ち返って考察する。
第 3 回	ユダヤ教の特色	ユダヤ教の独自性（一神教と多神教の違いなど）
第 4 回	イエスとその時代	イエスの時代のユダヤ教（1）（律法主義に対するイエスの批判）
第 5 回	イエスの活動の意義	イエスの時代のユダヤ教（2）（神殿主義に対するイエスの批判）
第 6 回	イエスの死	イエスの処刑（イエスが十字架刑に処された理由）
第 7 回	残された人々	イエスの死と使徒の考え方（1）（使徒とエルサレム初期共同体）
第 8 回	パウロの解釈	イエスの死と使徒の考え方（2）（パウロの「十字架の神学」）

第 9 回	古代ローマ帝国	古代ローマ帝国とキリスト教（1）（ユダヤ教改革派からキリスト教の誕生へ）
第 10 回	聖書はなぜ書かれたか	古代ローマ帝国とキリスト教（2）（聖書の誕生）
第 11 回	キリスト教徒はなぜ増えたのか	古代ローマ帝国とキリスト教（3）（信者の増加と迫害）
第 12 回	大帝の決断	古代ローマ帝国とキリスト教（4）（コンスタンティヌス大帝の政策）
第 13 回	国教化へ	古代ローマ帝国とキリスト教（5）（キリスト教の国教化とローマ教会の組織力）
第 14 回	試験、まとめ	今学期の授業内容の復習を兼ねて論述試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キリスト教関係の新書を読んでおくこと。
授業で紹介したテーマについて基本的な歴史書にあたって復習しておくこと。
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回配布する担当教員作成のレジュメ。

【参考書】

授業内で詳しく紹介する。
『キリスト教の真実』（竹下節子著、ちくま新書）
『ロマネスクとは何か 石とぶどうの精神史』（酒井健著、ちくま新書）
『一神教の誕生 ユダヤ教からキリスト教へ』加藤隆著、講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

- 1) キリスト教の源からその初期の発展に関して、学問的に本質的な点を捉えられたかどうかを評価の基準にする。
- 2) 具体的には「到達目標」で示した 3 点をしっかり理解しておくこと。
- 3) 期末の論述試験 50%と授業への積極的な貢献度 50%（毎回論述する課題の内容等）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評である。受講生からの要望には耳を傾けているので、いつでも気軽に語ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【その他の重要事項】

1 年生のときに宗教論の授業を取っておくことが望ましいが、必要条件というわけではない。

【Outline and objectives】

This course introduces the Christian history from the Judaism to the Western Europe Middle Ages.

PHL300LA

キリスト教思想史 B

2017 年度以降入学者

酒井 健

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教思想の変遷を中世西欧社会から順次理解する。歴史的背景をしっかりとらえらる。

【到達目標】

キリスト教を学問の対象に据えて、客観的かつ公平な視点からキリスト教思想の重要な点を年代をおって考察する。中世西欧社会からイタリア・ルネサンス社会がとくに対象になる。とりわけ以下の 3 点に留意する。

- 1) 中世ヨーロッパにおけるキリスト教の基本的な特色を理解する。
- 2) ロマネスクとゴシックの異同をしっかりと理解する。
- 3) イタリア・ルネサンス時代のキリスト教の新たな展開を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1) 講義形式。
- 2) 毎回、授業の終わりの 20 分を使って、その日の授業内容に関してかなりの分量の論述 3 を書かせる。その意味でハードな授業になる。
- 3) 定員の 20 名を超えた場合は選抜を行うので受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。
- 4) 今年度の開校日は 9 月 20 日曜日（3 時限）とする。原則として教室での対面授業を予定しているが、社会状況に応じてオン・ラインでのズーム授業に転じる場合もある。
- 5) なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。また優れた課題回答に対しては授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介と選抜	今学期の授業の概要の説明。キリスト教思想を学ぶことの意義を中心に。
第 2 回	中世西欧とは何か	中世西欧に対する基本的な考え方。
第 3 回	根源的な変化と表面的な変化	古代ローマ社会から初期の中世社会への移行。
第 4 回	キリスト教と修道院	修道士の活躍（1）（禁欲主義の問題）
第 5 回	新たなキリスト教へ	修道士の活躍（2）（アイルランド系修道院と修道士の特徴）
第 6 回	政治からの変化	カロリング・ルネサンス（シャルルマーニュ大帝のキリスト教政策）
第 7 回	イスラムとの関係	イスラム世界との接触（1）（西ゴート王国の滅亡とイベリア半島のキリスト教）
第 8 回	十字軍とは何か	イスラム世界との接触（2）（十字軍の問題）
第 9 回	開花する中世西欧文化	ロマネスク文化（1）（西欧の地方へのキリスト教の伝播）

第 10 回	修道院の拡大	ロマネスク文化（2）（クリュニー会とシトー会）
第 11 回	ゴシックとは何か	ゴシック文化（1）（新都市住民の感性と新たな大聖堂建築）
第 12 回	中世神学の本質	ゴシック文化（2）（光の神学）
第 13 回	イタリアから	イタリア・ルネサンスの文化（キリスト教と芸術家）
第 14 回	試験、まとめ	今学期の内容の復習をかねて論述試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 基本的な入門書を読んでおいてほしい。
たとえば『世界の歴史（9）、ヨーロッパ中世』鯖田豊之著、河出文庫など
- 2) 本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回配布する担当教員作成のレジュメ。

【参考書】

授業のなかで詳しく紹介する。
『ゴシックとは何か』酒井健著、ちくま学芸文庫など。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 中世におけるキリスト教の発展を学問的にどれだけ捉えたかを基準にする。
- 2) 身体的には「到達目標」で示された 3 点の理解度を重視する。
- 3) 学期末の論述試験 50%と平素の授業態度（毎回提出の論述の内容など）50 %が具体的なデータになる。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評である。要望があれば気軽に伝えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【その他の重要事項】

春学期のこの授業の履修を勧めたい。

【Outline and objectives】

This course introduces the Christian history in the Western Europe Middle Ages.

ARSh300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

江村 裕文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】アラビア語の基礎。具体的には、アラビア文字の習得。簡単な挨拶表現・自己紹介程度のアラビア語を話す。

【目的】アフロアジア世界で1億人以上の話し手により使用されており、また国連の6番目の公用語である「アラビア語」を身近に感じること。

【到達目標】

1年間で、なんとか基本的な文法をマスターし、自力で先に勉強を進めていける素地を身に付けてもらいたいと希望します。

文法が理解できていないと辞書も引くことができないのがアラビア語の持つ困難点です。文の構造を踏まえて、辞書が引けるようになること、これが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画に沿って、発音・文字（母音・子音）、綴り方、単語（名詞・形容詞・動詞）、その変化形（つまり曲用と活用）、文を読むまでを、懇切丁寧に解説し、訓練していきます。

なお、よかった取り組みや改善点等があれば、その都度、テーマとして取り上げ、フィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 発音と文字 1	テキストの紹介、アラビア語に関する解説の後、発音と文字について学ぶ。 発音にはあまりこだわらないが、音韻の区別は理解すること。
2	発音と文字 2	アルファベットの前半の文字を学ぶ。
3	発音と文字 3	アルファベットの後半の文字を学ぶ。
4	テキストの紹介 第0課	テキストのつくりについて解説する。 文字と発音のおさらい
5	第1課	こちらはムハンマドさんです
6	第2課	これは何ですか
7	第3課	彼は教師ですか、それともエンジニアですか
8	第4課	あなたのお名前は？
9	第5課	天気はどうですか
10	第6課	アラビア語は美しく、楽しいです
11	第7課	この作家は有名です
12	第8課	その本は机の上にあります
13	第9課	彼はサウジアラビア出身です

14 授業内試験

「あいさつ」「名詞文」「形容詞文」についてアラビア語の作文を課す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5月の連休終了までに文字を覚えること。授業の予習としては、最低限という文法事項を学ぶことになっているのかは確認しておくこと。少なくとも2時間程度の復習は必ず行い、疑問点等のないようにしておくこと。少しでもわからないところがあるといういくつかのことは不可能になります。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストとしては、竹田敏之『アラビア語とことんトレーニング』白水社を予定しています。

辞書については、授業中に指示します。

【参考書】

英語・フランス語・ドイツ語で書かれたアラビア語の文法書が多くあるので、各自の興味に応じて適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期は、平常点40点、試験の得点60点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際にできるだけ学習者全員にとっての既習の言語、おもに英語の文法等を例にあげますが、その知識が整理できていないために無用の混乱・困難をきたすことがあります。たとえば英語に名詞の格はいくつあるか、人称とは何か、といった基本的なことがわかっていないがために、説明が通じないことがあります。理解できないことがあったらその都度質問をすることが肝要です。

普段あまり接しない言語を知ること、人間の言語に対してのみならず、人間の思考そのものや文化のありかたを考えるうえで非常に参考になります。

【Outline and objectives】

You can challenge to master one of the international languages, Arabic. Arabic language is a official language of U.N. It is necessary to understand Arabic to approach to the world of Islam, and Arabic Culture.

ARSh300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】アラビア語の基礎。具体的には、名詞・形容詞・前置詞・動詞の曲用・活用。辞書の使い方。

【目的】アフロアジア世界で1億人以上の話し手により使用されており、また国連の6番目の公用語である「アラビア語」の概要を把握すること。

【到達目標】

1年間で、なんとか基本的な文法をマスターし、自力で先に勉強を進めていける素地を身に付けてもらいたいと希望します。

文法が理解できていないと辞書も引くことができないのがアラビア語の持つ困難点です。文の構造を踏まえて、辞書が引けるようになること、これが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画に沿って、単語（名詞・形容詞・動詞）、その変化形（つまり曲用と活用）、文を読むまでを、懇切丁寧に解説し、訓練していきます。

普段あまり触れない言語の学習を通じて発見があった等の知見は、広く紹介し、学習のモチベーションに資するよう利用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	辞書 1	辞書の引き方を紹介する
2	辞書 2	辞書の引き方を訓練する
3	第10課・第11課	私は日本人です 駅はここから遠いですか
4	第12課・第13課	このカバンは誰の？ 神戸には美しいモスクがあります
5	第14課・第15課	あなたには兄弟か姉妹がいますか ムハンマドがザイドをたたいた
6	第16課・第17課	私はあなたを愛しています この2人の通訳はプロです
7	第18課・第19課	この町にはたくさんの大学があります 彼らはサウジアラビア出身の先生方です
8	第20課・第21課	これらのカバンはユースフのですか ここにモロッコ料理店はありますか
9	第22課・第23課	ムハンマドは学生ではありません ムハンマドは学生でした
10	第24課・第25課	私はその車の色が好きです 5冊の本を買いました

11	第27課・第28課	私たちはカイロ大学で学びました 飛行機は到着しましたか
12	第29課・第30課	誰がこの料理を作ったのですか フェズまで列車に乗りました
13	第32課・第33課	どちらにお住まいですか お仕事は何をしていますか
14	まとめとレポート提出	アラビア語の動詞のまとめ（p. 88-97）とレポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期からは、動詞の変化形に入ります。各授業ごとに2時間以上をあてて完全にマスターしてください。単純な形の間に、基本的な動詞の活用形を覚えておけば、応用の仕方がわかりますが、覚えておかないと、どんどん迷路に迷い込むことになっていきます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストとしては、竹田敏之『アラビア語とことんトレーニング』白水社 を予定しています。

辞書については、授業中に指示します。

【参考書】

英語・フランス語・ドイツ語で書かれたアラビア語の文法書が多くあるので、各自の興味に応じて適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期は、平常点40点、レポートの得点60点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際にできるだけ学習者全員にとっての既習の言語、おもに英語の文法等を例にあげますが、その知識が整理できていないために無用の混乱・困難をきたすことがあります。たとえば英語に名詞の格はいくつあるか、人称とは何か、といった基本的なことがわかっていないがために、説明が通じないことがあります。理解できないことがあったらその都度質問をすることが肝要です。

全員にとって有効であるようなコメントや質問等は、積極的に活用し、学習モチベーションに資するようにフィードバックしていきます。

【Outline and objectives】

You can challenge to master one of the international languages, Arabic. Arabic language is a official language of U.N. It is necessary to understand Arabic to approach to the world of Islam, and Arabic Culture.

LIN300LA

異文化コミュニケーション論 A 2017 年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、異文化接触、異文化混在の状況が加速度的に進んでおり、それに伴う文化の国際化や融合と共に、「違和感」や多文化間の摩擦も顕在化しつつある。しかし、そもそも「文化」とは何なのか。自分は、そして他者はどのような文化背景を持っているのか。また、「文化」と「言語」はどのように関係し合っているのか。

この授業では、普段あまり意識されていない日本語と日本文化の具体的な例を取り上げ、他の言語・文化と対照することで、意識化・相対化することを計る。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①言葉と文化の問題がいかに人の認識に関わるか理解する。
- ②自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ③異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ④実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ⑤異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第 1～3 回目は、講義形式。第 14 回目は期末試験を行う。
- ・第 4～13 回の授業内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。
- ・Google Classroom と ZOOM を使って授業を行う。
- 連絡や課題／試験の提示、リアクションペーパーも主に Google Classroom を使い、Hoppii は補助的な位置づけとなるので、履修が決定したら Google Classroom に登録すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・アンケート
第 2 回	ステレオタイプ①	・日本と日本人のイメージ ・春学期プレゼンテーションの割り当て
第 3 回	ステレオタイプ②	・メディアとステレオタイプ ・ステレオタイプの影響
第 4 回	文化によって異なる色彩認識について	・虹にはいくつの色があるのか。 太陽は世界のどこでも赤いのか。
第 5 回	カテゴリー分類の差異	・蛾と蝶が同じである理由
第 6 回	文化によって異なる羞恥心	・「恥かしさ」の基準
第 7 回	日本語と外国語①	・「日本語は曖昧」か？ ・コンテキスト依存度

第 8 回 日本語と外国語②

- ・人称
- ・指示詞

第 9 回 言語政策

- ・感情の表現
- ・母語に対する認識
- ・各国の言語政策
- ・外国語教育は必要か

第 10 回 日本語の表記について

- ・ラジオ型言語とテレビ型言語
- ・文字言語としての日本語と他言語との比較。
- ・音声言語としての日本語と他言語との比較

第 11 回 日本人の宗教観

- ・無神論・一神論・多神論

第 12 回 住居と自然

- ・自然との闘い／自然との共存

第 13 回 日本の「文化多様性」

- ・マイノリティ問題
- ・グローバル化と固有文化の維持

第 14 回 期末試験

- ・第 1～14 回のまとめ試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、授業前にテキストの次回授業該当箇所や、与えられた文献を読んでおくこと。
- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・本授業の復習・予習時間は、発表担当時は 5 時間以上（資料集め、その他含む）、平常時は 60 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配付する。

【参考書】

- 鈴木孝夫『日本語教のすすめ』新潮新書
 鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書
 鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書
 今井むつみ『ことばと思考』岩波新書
 高野陽太郎『日本人論の危険なあやまち』ディスカバー掲書
 G. ドイツチャー『言語が違えば世界も違って見えるわけ』
 R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
 その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度	20%
発表	30%
リアクションペーパー	20%
期末試験	30%

・4 回以上授業を欠席した場合、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン。
- ・ZOOM M 授業内の発表には PC が好ましい。
- ★事前に、グーグルクラスルームへの登録を行うこと。クラスコード：nzc7p5s
- ★タブレット端末、スマートフォンの場合は、授業実施開始前に ZOOM のアプリをダウンロードしておくこと。

【その他の重要事項】

- ★受講希望者数によっては、第 1 回目（4 月 12 日）の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は第 1 回目に必ず出席すること。
- ★授業の開始、休講、授業形態の変更などを法政大学学習支援システム Hoppii に掲示を行うので、頻りにチェックすること。

【Outline and objectives】

In this course, students will read various materials on Japanese language and culture, comparing with other cultures. Eventually they are expected to relativize the cultures of their own, and to deepen the understanding of other ones. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. The interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

LIN300LA

異文化コミュニケーション論 B 2017 年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的な参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ②「異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第 1・2 回目と第 10 回は対面授業。第 1・2 回目は、講義と教室内活動中心。
- ・第 3～13 回は、指定テキストの内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。
- ・オンライン授業は、Google Classroom と ZOOM を使って行う。
- 連絡や課題／試験の提示、リアクションペーパーも主に Google Classroom を使い、Hoppii は補助的な位置づけとなるので、履修が決定したら Google Classroom に登録すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回 (対面)	・オリエンテーション ・文化と異文化間コミュニケーション	(・授業運営の打ち合わせと受講者アンケート) ・異文化コミュニケーションの背景とその領域
第 2 回 (対面)	自分を知る	・対立管理スタイルと異文化適応力
第 3 回	ステレオタイプ	・プレゼンテーションの割り当て ・ステレオタイプとは ・ステレオタイプの生成、功罪、真偽。強化 ・ステレオタイプの流布 と強化など (学生発表と質疑応答。以下 13 回まで)
第 4 回	コミュニケーション・スタイル①	・コンテキスト
第 5 回	コミュニケーション・スタイル②	・ターンテーク ・パラ言語

第 6 回	言語コミュニケーション①	・ほめ方 ・しかり方 ・謝り方
第 7 回	言語コミュニケーション②	・自己紹介と自己開示 ・誘い方と断り方
第 8 回	非言語コミュニケーション①	・表情 ・アイコンタクト
第 9 回	非言語コミュニケーション②	・しぐさとジェスチャー ・タッチング
第 10 回 (対面)	非言語コミュニケーション③	空間と対人距離
第 11 回	非言語コミュニケーション④	時間感覚
第 12 回	価値観	・ことわざ、昔話などに見る基本的価値観 ・家族関係、道徳観などの基本的価値観
第 13 回	異文化コミュニケーションスキルと異文化適応	・異文化コミュニケーションスキル ・カルチャーショックと適応
第 14 回	期末試験	第 1 回～第 13 回までの内容についての筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・「自由討論」前は、テーマの設定、およびそのテーマに関する情報収集など。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

八代京子ほか（2001）『異文化コミュニケーションワークブック』三修社

【参考書】

- R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー
池田理知子 E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ
八代京子 他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
吉田暁・石井敏 他『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣
E. ホール『沈黙のことはば文化・行動・思考』南雲堂
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

- 授業参加度 20 %、発表 30 %、リアクションペーパー 20% 期末試験 40 %
・授業を 4 回以上欠席すると、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・一昨年に続き、グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的な授業参加と授業内活動の活性化を図りたい。
- ・グループ活動時にメンバー構成の調整方法を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

- ★インターネット接続可能な機器：PC/タブレット端末/スマホ
- ・ZOOM 授業内の発表には PC が好ましい。
- ・タブレット端末やスマートフォン使用の場合は、授業実施開始前に ZOOM のアプリをダウンロードしておくこと。

【その他の重要事項】

- ★受講希望者数によっては、第 1 回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ★授業の開始、休講、授業形態の変更などを法政大学学習支援システム Hoppii に掲示を行うので、頻りにチェックすること。
- ・履修が決定したら、Google Classroom に登録すること。

【Outline and objectives】

This course will provide students with basic knowledge of multicultural communication, such as stereotypes, verbal/non-verbal communication, values, etc. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. Interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

LIT300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：思想と文学

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学と周辺領域の学問を学びます。

現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題を考え、新たな視点を得ます。

春学期のテーマは他者論です。わたしにとって他者とはなにかについて学びます。

【到達目標】

現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題について、新たな視点を得ます。

春学期は他者とはなにかについての新たな視点を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

この授業はオンデマンドです。授業開始時刻に公開されるパワーポイントを視聴し、プリントを読み、各回の課題に答える形式で進めていきます。

教員の講義が中心になりますが、各自の問題意識に基づく自由かつ活発な研究を期待します。

各回、Google フォームで課題に答えてもらいます。締め切り後、受講生の回答をまとめて公開し、受講生同士で共有します（氏名などは伏せます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の授業計画の詳細および予備知識	ガイダンス
2	他者と自己	白樺派にとっての他者とはどういうものか
3	他者とはなにか	武者小路実篤『友情』
4	他者とはなにか	志賀直哉「城の崎にて」
5	「大導寺伸介の半生」 導入——芥川龍之介の生涯	「大導寺信輔の半生」
6	他者へのまなざし	「大導寺信輔の半生」
7	人工の翼と失墜	「大導寺信輔の半生」
8	芥川龍之介から太宰治へ	『人間失格』
9	他者へのまなざし	『人間失格』
10	自己意識と他者	『人間失格』
11	吉本隆明について——導入	『転位のための十篇』
12	他者へのまなざし	『転位のための十篇』
13	近代文学を貫く、他者への恐怖	『転位のための十篇』

- 14 他者論のアクチュア 半期の総ざらい・結論
 リー——他者と自己を
 どうとらえるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストは事前に熟読しなければなりません。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

武者小路実篤『友情』（新潮文庫 など当該作品の収録されているもの）

志賀直哉「城の崎にて」（『小僧の神様・城の崎にて』新潮文庫 など当該作品の収録されているもの）

芥川龍之介「大導寺伸介の半生」（『大導寺信輔の半生・手巾・湖南の扇 他十二篇』岩波文庫 など当該作品の収録されているもの）

太宰治『人間失格』新潮文庫ほか

吉本隆明『転位のための十篇』（『吉本隆明初期詩集』講談社文芸文庫 など当該作品の収録されているもの）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（Google フォームなどを利用した課題）50%、期末のレポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味に応じて授業計画の変更もあります。意見をメールで伝えてください。

【その他の重要事項】

※ 春学期の他者論と、秋学期のテロリズム論とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

※ 上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時限に、学習支援システム、Google Classroom など公開されます。

※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020 年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。

※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【Outline and objectives】

This course deals with Japanese modern literature and other studies.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：思想と文学

川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学と周辺領域の学問を学びます。

現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題を考え、新たな視点を得ます。

秋学期のテーマはテロリズム論です。テロリズムの原型、根底にあるものについて学びます。

【到達目標】

現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題について、新たな視点を得ます。

秋学期はテロリズムの原型、根底にあるものについての新たな視点を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

この授業はオンデマンドです。授業開始時刻に公開されるパワーポイントを視聴し、プリントを読み、各回の課題に答える形式で進めていきます。

教員の講義が中心になりますが、各自の問題意識に基づく自由かつ活発な研究を期待します。

各回、Google フォームで課題に答えてもらいます。締め切り後、受講生の回答をまとめて公開し、受講生同士で共有します（氏名などは伏せます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期の授業計画の詳細および予備知識	ガイダンス
2	導入	『供犠』
3	供犠とはなにか	『供犠』
4	放棄と交換	『供犠』
5	贈与とはなにか	『贈与論』
6	贈与と放棄と交換	『贈与論』
7	供犠とテロリズム	『贈与論』
8	宮澤賢治について——導入 1	「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
9	宮澤賢治について——導入 2	「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
10	常不軽菩薩と賢治	「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
11	賢治におけるデクノボーの意味	「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
12	〈ほんたうのさいはひ〉とはなにか	「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
13	他者論とテロリズム論	「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」

14 『供犠』のアクチュア 年間の総ざらい・結論
り——他者と自己を
どうとらえるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストは事前に熟読しなければなりません。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

モース／ユベール『供犠』法政大学出版局

モース『贈与論 他二篇』岩波文庫

宮澤賢治

「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」

『童話集 風の又三郎 他十八篇』岩波文庫 ほか

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（Google フォームなどを利用した課題）50%、期末のレポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味に応じて授業計画の変更もあります。意見をメールで伝えてください。

【その他の重要事項】

※ 春学期の他者論と、秋学期のテロリズム論とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

※ 上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時に、学習支援システム、Google Classroom などで公開されます。

※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020 年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。

※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【Outline and objectives】

This course deals with Japanese modern literature and other studies.

HIS300LA

イギリスと帝国 A

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18 世紀から 20 世紀にかけてのイギリスは、巨大な帝国であった。植民地支配の過去は、現在の世界にも影響を及ぼし続けている。21 世紀の世界における、英語の普及、地域間の経済格差、異人種・異文化間の対立といった問題の多くは、イギリス帝国の歴史を考えることなしに理解することはできない。イギリス帝国に着目して、イギリスとそれ以外の地域の関係、および、過去と現在の関係を考えること、これがこの授業の目的である。

【到達目標】

- ・イギリス帝国の歴史とその特徴についての基本事項を理解する。
- ・授業で学んだことを基礎にして、現代世界が直面するさまざまな問題をイギリス帝国史の視座から批判的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づく（英語の資料を使用する場合もある）ディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	20 世紀初頭までのイギリス帝国 1：アメリカ植民地の独立まで	18 世紀末までのイギリス帝国の展開を概観する。
第 3 回	20 世紀初頭までのイギリス帝国 2：南アフリカ戦争の時代まで	18 世紀末から 20 世紀初頭までのイギリス帝国の展開を概観する。
第 4 回	イギリス帝国と統治 1：統治体制	イギリスがどのように帝国を統治していたのかを学ぶ。
第 5 回	イギリス帝国と統治 2：帝国を統治した人々	帝国を統治した人々とそこで使用された技法を学ぶ。
第 6 回	イギリス帝国と経済 1：商業と金融	帝国の経済基盤を商業と金融の観点から学ぶ。
第 7 回	イギリス帝国と経済 2：移民と労働	帝国を支えた移民とその労働形態を学ぶ。
第 8 回	イギリス帝国と文化 1：支配の文化、文化の支配	イギリス人の支配者意識と文化を通じた支配について学ぶ。
第 9 回	イギリス帝国と文化 2：批判の文化	帝国支配を批判する文化とその同時代における意義を学ぶ。
第 10 回	帝国からコモンウェルスへ 1：コモンウェルスの成立と二つの大戦	コモンウェルスが成立する過程を学ぶ。

第 11 回 帝国からコモンウェルスへ 2：帝国＝コモンウェルスの変容と脱植民地化 脱植民地化を通じた帝国＝コモンウェルスの変容を学ぶ。

第 12 回 脱植民地化の時代 1：脱植民地化の諸相 脱植民地化の多様な形態とその影響を学ぶ。

第 13 回 脱植民地化の時代 2：植民地責任 現在のイギリスと旧植民地が帝国支配の過去をどうとらえているのかを学ぶ。

第 14 回 まとめ 授業の内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000 年

木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と 20 世紀』（全 5 巻）ミネルヴァ書房、2004～2009 年

秋田茂『イギリス帝国の歴史』（中公新書）中央公論新社、2012 年
小川浩之『英連邦—王冠への忠誠と自由な連合』中央公論新社、2012 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50 %

・期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

This course explores the history of the British empire from the 18th century through to the 21st century. It analyzes various aspects of British imperial history, considering how Britain constructed varied relationships with other regions and how the past of imperial rule has affected former colonies as well as Britain herself.

HIS300LA

イギリスと帝国 B

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

南アフリカ戦争（1899～1902）は、帝国主義戦争の典型ともいわれ、イギリス本国、南アフリカ、イギリス帝国全体に大きな影響を及ぼした。この授業では、南アフリカ戦争に焦点をあて、それをさまざまな角度から分析することを通じて、その歴史的意義を考察したい。そうすることで、イギリスとその帝国の歴史の一断面を、重層的な文脈に位置づけて理解することを目指す。

【到達目標】

・南アフリカ戦争という歴史的事象を、さまざまな歴史の文脈に照らして考察する歴史的思考力を身につける。
・具体的なテーマを素材に歴史学を「実践」することで、その方法や問題、意義などを体験的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づく（英語の資料を使用する場合もある）ディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。なお、春学期に開講する「イギリスと帝国 A」を事前に履修することを強く勧める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	南アフリカ戦争の概要	戦争の背景と展開を概観する。
第 3 回	南アフリカ戦争の起源：開戦の原因	開戦の原因とそれをめぐる論争について考える。
第 4 回	南アフリカ戦争の経験 1：兵士と帝国臣民	兵士と帝国の人々が戦争をどう経験したのかを学ぶ。
第 5 回	南アフリカ戦争の経験 2：女性たち	女性たちが戦争をどう経験したのかを学ぶ。
第 6 回	南アフリカ戦争の経験 3：アフリカ人	アフリカ人が戦争をどう経験したのかを学ぶ。
第 7 回	南アフリカ戦争とイギリス本国 1：帝国意識	イギリス本国の戦争支持の世論を帝国意識の観点から考える。
第 8 回	南アフリカ戦争とイギリス本国 2：親ボア派	イギリス本国の戦争批判の世論を親ボア派に着目して考える。
第 9 回	南アフリカ戦争の影響 1：イギリス	戦争がイギリス本国に与えた影響を学ぶ。
第 10 回	南アフリカ戦争の影響 2：南アフリカ	戦争が南アフリカに与えた影響を学ぶ。
第 11 回	南アフリカ戦争の影響 3：帝国	戦争がイギリス帝国と他の植民地に与えた影響を学ぶ。

第 12 回	世界史のなかの南アフリカ戦争	戦争を同時代の世界史の文脈に位置づけて考える。
第 13 回	南アフリカ戦争の歴史的意義	南アフリカ戦争の意義をさまざまな歴史的文脈に即して考える。
第 14 回	まとめ	授業の内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と 20 世紀』（全 5 巻）ミネルヴァ書房、2004～2009 年（とくに第 1 巻と第 2 巻）
前川一郎『イギリス帝国と南アフリカ—南アフリカ連邦の形成』ミネルヴァ書房、2006 年
歴史学研究会編『強者の論理—帝国主義の時代』（講座世界史 5）東京大学出版会、1995 年
木畑洋一『支配の代償—英帝国の崩壊と「帝国意識」』東京大学出版会、1987 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50 %
・期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

This course examines the South African War (1899-1902) from multiple perspectives. In doing so, it considers significance and impact of this great colonial war the British empire had even fought. It also aims to provide students with opportunities to experience practice of historical research first hand, through which they can learn methodology, problems, and importance of 'doing history'.

LAW300LA

法哲学 A

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「法とは何か」「正しい社会とはどういう社会か」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。具体的事例・課題の検討や主要理論の分析を通じて、法哲学の基礎知識や視点を学びながら、（単に知識を覚えるだけでなく）受講生の思考力・問題分析力を鍛錬することがねらいである。秋学期開講の「法哲学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学 B」も続けて履修すること。履修人数は 25 人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス後出「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

- ①法哲学の基礎的な理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②法哲学的な視点と考え方を身につけ、現代社会の具体的課題・問題に対して（表層にとどまらない）根源的観点からの検討と議論ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、個々の社会的問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行いつつ、状況に応じて Zoom 等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施上必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しながら行う。対面・オンライン・オンデマンドのいずれの場合も、授業の中で小論文作成等の課題を受講生に課し、その内容を授業の中で検討したり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。内容的には、法哲学の基礎知識・主要理論の解説をしながら、格差や差別といった現代社会の具体的問題を対象に、法哲学的観点から論点の検討と議論を行う。講義と並行して、受講生にコメント提示やレポート・小論文提出を課しながら論点の抽出と検討（討論）を行うので、受講生には、授業内外での十分な学習と討論への積極的な参加、レポート・小論文作成等を求める。受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明
第 2 回	法哲学を学ぶにあたって 1	法哲学とはどういう学問か、その特徴は何かの概説
第 3 回	法哲学を学ぶにあたって 2	「もしも法がなかったら？」を考える

第 4 回	法哲学を学ぶにあたって 3	「もしも法がなかったら？」に関する討論
第 5 回	格差・不平等問題 1	基礎知識と論点の解説
第 6 回	格差・不平等問題 2	論点と問題点の検討・討論
第 7 回	格差・不平等問題 3	理論的立場の整理
第 8 回	法と道徳 1	基礎知識と論点の解説
第 9 回	法と道徳 2	具体的事例の検討
第 10 回	復興増税 1	基礎知識と論点の解説
第 11 回	復興増税 2	論点と問題点の検討・討論
第 12 回	人工妊娠中絶 1	基礎知識と論点の解説
第 13 回	人工妊娠中絶 2	論点と問題点の検討・討論
第 14 回	人工妊娠中絶 3	出生前診断に関連する論点と問題点について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の授業内容を踏まえ、紹介された参考書を読むなどして自分の意見や疑問点を整理する。レポート・小論文の作成にあたっては、授業で取り上げた論点やその解説・検討を十分踏まえながら内容を整理して書くこと。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016 年、2500 円＋税）

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007 年）
 竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010 年）
 瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014 年）
 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論：パーシックスからフロンティアまで』（法律文化社、2019 年）
 森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015 年）
 森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016 年刊行予定）
 マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010 年）
 内藤淳『自然主義の人権論』（勁草書房、2007 年）
 内藤淳『進化倫理学入門』（光文社新書、2009 年）
 その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を中心に（評価割合 80 % 程度を予定）、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して（評価割合 20 % 程度を予定）、上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は 25 人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。秋学期開講の「法哲学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学 B」も続けて履修すること。（春学期の「法哲学 A」受講生には、秋学期の「法哲学 B」の履修を優先的に認める。）あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of legal philosophy. The main aim of this course is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, participants are expected to have their own opinions on social and legal issues and explain them rationally.

LAW300LA

法哲学 B

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「法とは何か」「正しい社会とはどのような社会か」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。具体的事例・課題の検討や主要理論の分析を通じて、法哲学の基礎知識や視点を学びながら、（単に知識を覚えるだけでなく）受講生の思考力・問題分析力を鍛錬することがねらいである。

この授業では、春学期（法哲学 A）・秋学期（法哲学 B）を通じて受講人数に 25 人の制限を設けており、春学期初回に受講者選抜を行っているところ、受講にあたっては、春学期の「法哲学 A」の受講者を優先する。「法哲学 A」を受講していない学生については、春学期の受講者に欠員が出た場合にのみ受講を認めるので、該当する受講希望者は初回授業に必ず出席し、教員の指示に従うこと（本シラバス後出「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

- ①法哲学の基礎的な理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②法哲学的な視点と考え方を身につけ、現代社会の具体的課題・問題に対して（表層にとどまらない）根源的観点からの検討と議論ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、個々の社会的問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行いつつ、状況に応じて Zoom 等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施上必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しながら行う。対面・オンライン・オンデマンドのいずれの場合も、授業の中で小論文作成等の課題を受講生に課し、その内容を授業の中で検討したり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。

内容的には、春学期の「法哲学 A」からの継続で、法哲学の基礎知識・主要理論の解説をしながら、婚姻制度や代理出産といった現代社会の具体的問題を対象に、法哲学的観点から論点の検討と議論を行う。講義と並行して、受講生にコメント提示やレポート・小論文提出を課しながら論点の抽出と検討（討論）を行うので、受講者には、授業内外での十分な学習と討論への積極的な参加、レポート・小論文作成等を求める。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明
第 2 回	臓器売買の是非 1	基礎知識と論点の解説
第 3 回	臓器売買の是非 2	理論的立場の整理

第 4 回 臓器売買の是非 3 論点と問題点の検討・討論

第 5 回 裁判員制度の法哲学的 基礎知識と論点の解説
検討 1

第 6 回 裁判員制度の法哲学的 理論的立場の整理
検討 2

第 7 回 裁判員制度の法哲学的 論点と問題点の検討・討論
検討 3

第 8 回 一夫一婦制と契約婚 1 基礎知識と論点の解説

第 9 回 一夫一婦制と契約婚 2 理論的立場の整理

第 10 回 一夫一婦制と契約婚 3 論点と問題点の検討・討論

第 11 回 代理出産規制の是非 1 基礎知識と論点の解説

第 12 回 代理出産規制の是非 2 理論的立場の整理

第 13 回 代理出産規制の是非 3 論点と問題点の検討・討論

第 14 回 総括 秋学期中の重要論点の補足解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の授業内容を踏まえ、紹介された参考書を読むなどして自分の意見や疑問点を整理する。レポート・小論文の作成にあたっては、授業で取り上げた論点やその解説・検討を十分踏まえながら内容を整理して書くこと。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英編『問いかけの法哲学』（法律文化社、2016 年、2500 円＋税）

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007 年）

竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010 年）

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014 年）

宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』（法律文化社、2019 年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015 年）

森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016 年刊行予定）

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010 年）

内藤淳『自然主義の人権論』（勁草書房、2007 年）

内藤淳『進化倫理学入門』（光文社新書、2009 年）

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を中心に（評価割合 80 % 程度を予定）、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して（評価割合 20 % 程度を予定）上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

この授業では、春学期（法哲学 A）・秋学期（法哲学 B）を通じて受講人数に 25 人の制限を設けており、春学期初回に受講者選抜を行っているところ、受講にあたっては、春学期の「法哲学 A」の受講者を優先する。「法哲学 A」を受講していない学生については、春学期の受講者に欠員が出た場合にのみ受講を認めるので、該当する受講希望者は初回授業に必ず出席し、教員の指示に従うこと。その点を含めて、初回授業にて受講者の確定を行うので、春学期の「法哲学 A」受講者を含めて、履修希望者は初回授業に必ず出席すること。人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of legal philosophy. The main aim of this course is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, participants are expected to have their own opinions on social and legal issues and explain them rationally.

POL300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：戦争と国家

木村 正俊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代国家と戦争の関係について歴史的に考察することを目的とする。

【到達目標】

基本的目標は次の通りである：

近代国家の発展と戦争の形態の変化に関する基本的な知識を得ること
 国家と戦争の歴史的変遷に関する基本的な知識を得ること
 将来の国家と戦争の変化、今後の両者の関係の変化について考察すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

演習形式で行います。

対面授業とオンライン授業のハイブリッドで行う予定です。

対面授業実施に関しては、受講生の皆さんと話し合いで行うかどうかを決めます。

参加人数によっては、一対一のチュートリアル方式で行いたいと思っています。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

課題に対するフィードバックは演習時に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
# 1	イントロダクション	ゼミの概要の確認と参加者の決定
# 2	文献講読と議論：近代国家	近代国家の形成と戦争との関係について扱う
#3	文献講読と議論：近代国家	近代的権力の特徴について扱う
#4	文献講読と議論：第一次軍事革命	第一次軍事革命の特徴について扱う
#5	文献講読と議論：第二次軍事革命と国家	第二次軍事革命と国家の関係について扱う
#6	文献講読と議論：フランス革命とナポレオン戦争	フランス革命とナポレオン戦争の特徴について扱う
#7	文献講読と議論：19 世紀のヨーロッパ国際政治	19 世紀のヨーロッパ国際政治における「平和」
#8	文献講読と議論：全体戦争としての第一次世界大戦	全体戦争としての第一次世界大戦について扱う
# 9	文献講読と議論：全体戦争としての第二次世界大戦	全体戦争としての第二次世界大戦について扱う
#10	文献講読と議論：冷戦と国家	冷戦の特徴と冷戦時代の国家について扱う
#11	文献講読と議論：ゲリラ戦争と革命（1）	中国革命と人民戦争論について扱う

#12 文献講読と議論：ゲリラ戦争と革命（2）

#13 文献講読と議論：冷戦後の紛争について扱う

14 総括 ゼミのまとめと提出されたレポートに対する講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に与えられた課題に対応すること、演習で扱う文献に必ず目を通すこと、新聞などメディアを通じて情報を得ること、そしてゼミ終了後にゼミにおける議論を振り返ることなどを 2 時間程度行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定する

【参考書】

必要に応じてゼミのときに紹介する

【成績評価の方法と基準】

毎回のゼミの内容の確認と復習を兼ねたペーパーの提出（50 %）；
 テーマに関する自己の考えを示す期末レポートの提出（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

アンケートなし

【その他の重要事項】

ゼミの内容・扱う文献に関しては、受講者の要望を最大限に尊重するつもりです。

シラバスに関して興味・疑問がある場合には以下の著作を参照してください。佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019 年）第 1 章 Syllabus とシラバスのあいだ

【Outline and objectives】

Theme: War and State

The fundamental aim of this seminar is to acquire a basic knowledge of interaction between war-making and state-making.

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：疫病、国家、宗教

木村 正俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウィリアム・マクニール著『疫病と世界史』を読んで、疫病と国家と宗教の関係を歴史的に考察することを目指す。
現代世界のパンデミックを過去のパンデミックと比較して考察することを目指す。

【到達目標】

基本的目標は次の通りである：
文明世界の誕生から現在に至る、疫病と国家（政治）と宗教の間の相互関係の歴史を学ぶことによって、感染症が人類の歴史に与えた影響と今後の展望について考えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

演習形式で行います。
対面授業とオンライン授業のハイブリッドで行う予定です。
対面授業実施に関しては、受講生の皆さんと話し合いで行うかどうかを決めます。
参加人数によっては、一対一のチュートリアル方式で行いたいと思っています。
課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。
課題に対するフィードバックは演習時に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
#1	イントロダクション	ゼミの概要の確認と参加者の決定
#2	文献講読と議論：3つの疫病	ミシェル・フーコーの3つの疫病モデルについて扱う
#3	文献講読と議論：人類の誕生と疫病	『疫病と世界史（上）』第1章
#4	文献講読と議論：都市の誕生と疫病	『疫病と世界史（上）』第2章の前半
#5	文献講読と議論：都市文明と疫病	『疫病と世界史（上）』第2章の後半
#6	文献講読と議論：4つの文明世界と疫病	『疫病と世界史（上）』第3章の前半
#7	文献講読と議論：疫病と宗教	『疫病と世界史（上）』第3章後半
#8	文献講読と議論：文明間の交流と疫病	『疫病と世界史（下）』第4章の前半
#9	文献講読と議論：モンゴル帝国の平和と黒死病	『疫病と世界史（下）』第4章の後半
#10	文献講読と議論：黒死病後の世界	『疫病と世界史（下）』第5章の前半
#11	文献講読と議論：新大陸における疫病	『疫病と世界史（下）』第5章の後半

- #12 文献講読と議論：科学の発展と疫病 半
#13 文献講読と議論：現代の疫病 半
#14 総括 ゼミのまとめと提出されたレポートに対する講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に与えられた課題に対応すること、演習で扱う文献に必ず目を通すこと、新聞などメディアを通じて情報を得ること、そしてゼミ終了後にゼミにおける議論を振り返ることなどを2時間程度行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ウィリアム・H・マクニール『疫病の世界史（上）（下）』（中公文庫、）

【参考書】

必要に応じてゼミのときに紹介する

【成績評価の方法と基準】

毎回のゼミの内容の確認と復習を兼ねたペーパーの提出（50 %）；
テーマに関する自己の考えを示す期末レポートの提出（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

ゼミの内容・扱う文献に関しては、受講者の要望を最大限に尊重するつもりです。
シラバスに関して興味・疑問がある場合には以下の著作を参照してください。佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019 年）第1章 Syllabus とシラバスのあいだ

【Outline and objectives】

Theme: Relations between Plague, State and Religion
The fundamental aim of this seminar is to consider the relations between plague, state and religion.

SOC300LA

福祉社会論 A

2017 年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書および授業時に配布するレジュメや文献などを用いて、社会福祉の基本的な考え方を学ぶとともに福祉の領域とされている社会問題、なかでも障害者にかかわる諸問題を取り上げ、講義形式で学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業期間中にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーの内容は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会福祉の概念を理解し、福祉的な社会とは何かを構想するとともに、社会による福祉とはどういったものなのか、政府以外の福祉の供給源、具体的には家族や企業などに目配りをしながら考察し、最終的には社会福祉をメタ的な視点から捉える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

状況の許す限り対面を考えているが、リアルタイムオンラインもしくはオンデマンド教材を配信する可能性もある。課題は毎回提出することを想定しているが、遠隔で講義を受ける学生がいる可能性やオンデマンド教材配信の場合も考慮して、システムからの提出を原則としたい。リアクションペーパーの全体講評は基本的に次の授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	福祉とは何か
2	必要の考え方と必要に基づく社会政策	必要と需要、貢献原則と必要原則
3	必要の基準と主体	必要判定、客観的な必要と主観的な必要
4	資源の供給と再分配	資源供給モデル、普遍主義と選別主義
5	官僚制と専門主義	官僚制の機能と逆機能、専門家の理念系
6	社会政策とその体系	公共政策の 3 分類
7	福祉の社会的分業	税制、企業の役割、福祉多元主義
8	福祉国家と社会変動	都市化、家族の失敗、高齢化
9	福祉国家の発展と展開	市民権の発達、福祉国家レジーム
10	福祉と科学技術	介護ロボット、身体能力の補完、エンハンスメント
11	障害の概念と社会制度	障害に関わる制度と多様な見方
12	障害者運動と生命倫理	優生思想、自立生活運動
13	障害者と学び	障害学生を取り巻く状況と当事者の語り
14	社会的包摂に向けて	ノーマライゼーション、アクティベーション、福祉国家と福祉社会の連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている次の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『福祉社会 包摂の社会政策（新版）』武川正吾 有斐閣アルマ（2011 年）2,300 円+税

【参考書】

『福祉社会学ハンドブック 現代を読み解く 98 の論点』福祉社会学会編集 中央法規（2013 年）、『社会福祉学』平岡絃一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人 有斐閣（2011 年）、DIPEX-Japan「障害学生の語り」<https://www.dipex-j.org/shougai/>

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー）50 %、期末レポート 50 %を成績の判定基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

100 分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていけることが重要だと感じた。

【Outline and objectives】

Using the textbook, resumes distributed at class, and literature, students will learn the basic concepts of social welfare and will take up social issues in the field of welfare, particularly those related to people with disabilities, and study them in a lecture format. In addition, students will be required to submit reaction papers in order to consolidate and apply what they have learned. The content of the submitted reaction papers will be fed back to the class as appropriate, keeping personal information in mind.

SOC300LA

福祉社会論 B

2017 年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書および授業時に配布するレジュメや文献などを用いて、社会福祉、とくに子ども家庭福祉について学ぶ。主に講義形式をとり、可能な限り対面を想定しているが、状況によっては一部もしくはすべての授業がオンデマンド形式になる可能性もある。学習内容の定着と応用を目的として、リアクションペーパーあるいは小課題を提出する。提出された課題は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、子どもにかかわる問題群を把握し、そうした問題に対して国家や社会はどのように取り組んでいるのか、基本的な知識を身につける。その上で、子ども家庭福祉の全体像を理解し、人間が育つ過程における社会福祉の役割と意義について考える、説明できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

状況の許す限り対面を考えているが、リアルタイムオンラインもしくはオンデマンド教材を配信する可能性もある。課題は毎回提出することを想定しているが、遠隔で講義を受ける学生がいる可能性やオンデマンド教材配信の場合も考慮して、システムからの提出を原則としたい。リアクションペーパーの全体講評は基本的に次の授業とする。すべてオンデマンドになった場合には、2020 年度と同様に 5 回の小課題を出すことも検討している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	子どもの福祉を考えるということ
2	子どもの福祉の歴史	前近代から現代、日本の子どもの福祉
3	子どもの権利・福祉・法制度	子どもの権利条約、児童福祉法
4	生命倫理と母子保健	母子保健の概要、優生保護法
5	少子化対策と子育て支援	子ども数の減少、子育て家庭への経済的支援、ネウボラ
6	現代における保育とは	保育・子育て支援ニーズ、社会福祉における保育
7	学齢期の子どもの教育と福祉	児童健全育成事業、外国籍の子どもと家族への対応
8	障害と子ども・家族	障害のある子どもと家族、ヤングケアラー
9	子ども虐待	子ども虐待に対応する制度、虐待予防
10	女性と福祉	ドメスティックバイオレンス、女性の貧困
11	社会的養護	社会的養護のかかわる施設、施設養護から家庭養護へ
12	子ども・家族の貧困	子育て家族の貧困とその背景、子どもの貧困対策法

- | | | |
|----|------------|---------------------------|
| 13 | ひとり親家族の福祉 | ひとり親家庭とその現状、子どもにとっての養育費施策 |
| 14 | 子ども家庭福祉の実践 | 子ども家庭福祉の専門職、ボランティア |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている次の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『子ども家庭福祉－子ども・家族・社会をどうとらえるか』垣内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ編（2020 年）2,200 円＋税

【参考書】

『福祉社会学ハンドブック 現代を読み解く 98 の論点』福祉社会学会編集 中央法規（2013 年）、『社会福祉学』平岡紘一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人 有斐閣（2011 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー）50 %、期末レポート 50 %を成績の判断基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

100 分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていくことが重要だと感じた。

【Outline and objectives】

This course will focus on social welfare, especially child and family welfare, using the textbook, resumes distributed in class, and literature. This course will be taught mainly in lecture format, with face-to-face interaction expected whenever possible, but some or all classes may be on-demand depending on circumstances. Students will be required to submit reaction papers or small assignments in order to consolidate and apply what they have learned. Submitted reaction papers or assignments will be fed back to the class as appropriate, keeping personal information in mind.

HUG300LA

人文地理学セミナー A

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「江戸東京」の各地域について、地図・写真・記録などの史資料を利用しながら学びます。テキスト『水都東京』『東京の歴史』を中心に輪読し、各地域を説明するうえでの重要な史資料についても取り扱っていきます。

【到達目標】

江戸東京を構成する基本的な地理的事象を理解し、江戸東京の地理を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『水都東京』および『東京の歴史』第 1 巻～第 3 巻の分担部分を発表してもらい、利用されている史資料や記述内容について議論します。資料類および発表用 PPT はすべて学習支援システム上で配信します（紙では配布しません）。プレゼンテーションや発表内容については授業内で教員がコメントします。ただし、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、グループ分け、テキストの分担の決定
第 2 回	江戸東京の地理の基礎	江戸時代から現代までの東京の変遷について講義します。
第 3 回	水都東京を読む①	第 1 章隅田川 第 2 章日本橋川
第 4 回	水都東京を読む②	第 3 章江東 第 4 章ベイエリア
第 5 回	水都東京を読む③	第 5 章皇居と濠 第 6 章山の手
第 6 回	水都東京を読む④	第 7 章杉並・成宗 第 8 章武蔵野 第 9 章多摩
第 7 回	東京の歴史第 1 巻を読む①	第 1 章地形と自然 第 2 章領域と地域
第 8 回	東京の歴史第 1 巻を読む②	第 3 章原始・古代・中世 第 4 章室町・戦国
第 9 回	東京の歴史第 2 巻を読む①	第 1 章江戸のインフラ 第 2 章拡張する江戸
第 10 回	東京の歴史第 2 巻を読む②	第 3 章成熟の江戸 第 4 章爛熟の江戸
第 11 回	東京の歴史第 3 巻を読む①	第 1 章インフラ基盤 第 2 章明治期
第 12 回	東京の歴史第 3 巻を読む②	第 3 章大正・昭和戦前期
第 13 回	東京の歴史第 3 巻を読む③	第 4 章戦後～二十世紀末
第 14 回	まとめ	江戸東京の地理についての学習内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業で紹介するテキストの分担部分を熟読し、レジュメとパワーポイントにまとめること、必要に応じて様々な史資料を探ること、現地調査の結果をレポートにまとめること、など。

【テキスト（教科書）】

(1) 陣内秀信『水都東京- 地形と歴史で読み解く 下町・山の手・郊外』ちくま新書

市ヶ谷図書館の指定図書です。できれば各自で購入してください。

(2) 『東京の歴史 通史編』第 1 巻～第 3 巻 吉川弘文館、2018 年 B T 12 階の地理学科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

【参考書】

必要に応じて、授業支援システムのなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点 50 %、プレゼンテーションやレポート内容 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

履修者が多く発表時間が長くなると、次の授業への移動に支障がでます。昨年度は全員受講の許可をしましたが、今年度は、履修希望者が多いようならば履修者を選抜する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配信を行います。学習に支障がないように、PC など機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

【Outline and objectives】

This course examines geographies of Edo-Tokyo areas by historical maps, pictures, documents.

HUG300LA

人文地理学セミナー B

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「江戸東京」の各地域について、地図・写真・記録などの史資料を利用しながら学びます。テキスト『東京の歴史 地帯編』のなかから、主要区部の巻を中心に輪読し、各地域を説明するうえでの重要な史資料についても取り扱っていきます。

【到達目標】

江戸東京を構成する基本的な地理的事象を理解し、江戸東京の地理を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『東京の歴史』第 4 巻～第 5 巻の分担部分を発表してもらい、利用されている史資料や記述内容について議論します。後半の回では、各地域に実際に赴いて、レポートして理解を深めます。授業資料類や発表 PPT は学習支援システムで配信を行います（紙での配布はしません）。プレゼンテーションや発表内容については授業内で教員がコメントします。ただし、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、グループ分け、テキストの分担の決定
第 2 回	江戸東京の地理の基礎	江戸時代から現代までの東京の変遷について講義します。
第 3 回	地帯編を読む①	千代田区
第 4 回	地帯編を読む②	新宿区
第 5 回	地帯編を読む③	文京区
第 6 回	地帯編を読む④	港区
第 7 回	地帯編を読む⑤	中央区
第 8 回	地帯編を読む⑥	台東区
第 9 回	地帯編を読む⑦	墨田区
第 10 回	地帯編を読む⑧	江東区
第 11 回	現地調査	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認する
第 12 回	現地調査の発表①	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認した結果を発表する
第 13 回	現地調査の発表②	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認した結果を発表する
第 14 回	まとめ	江戸東京の各地域についての学習内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業で紹介するテキストの分担部分を熟読し、レジュメとパワーポイントにまとめること、必要に応じて様々な史資料を探すこと、現地調査の結果をレポートにまとめること、など。

【テキスト（教科書）】

『東京の歴史第 4 巻地帯編 1 千代田区・港区・新宿区・文京区』吉川弘文館、2018 年
『東京の歴史第 5 巻地帯編 2 中央区・台東区・墨田区・江東区』吉川弘文館、2019 年
B T 12 階の地理学科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点 50 %、プレゼンテーションやレポート内容 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

履修者が多く発表時間が長くなるため、次の授業への移動に支障がでます。昨年度は全員受講の許可をしましたが、今年度は、もし履修希望者が多いようならば履修者を選抜する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配信をします。授業に参加できるように PC など機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

【Outline and objectives】

This course examines geographies of Edo-Tokyo areas by historical maps, pictures, documents.

CUA300LA

文化人類学方法論 B

2017 年度以降入学者

石森 大知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、観光に関するテーマを文化人類学的な視点から扱います。観光の現場では、ローカルな文化・環境・宗教などが新たな意味や価値をもつものとして資源化され、ナショナルおよびグローバルな文脈に位置づけられる現象が起っています。観光客を迎える人（＝ホスト）はいかに資源化をおこない、観光客（＝ゲスト）はそれをどのように経験するのでしょうか。また、ゲストとホストの双方にとってより良い観光とは何でしょうか。本授業では、これらの問いや疑問について考察します。

【到達目標】

- ・文化人類学、観光人類学の専門的な概念や理論を習得する。
- ・観光に関する国内外の事例を学ぶことを通して、グローバル化時代の観光現象を広い視野から理解する能力を身に付ける。
- ・文献の内容をただ理解するだけでなく、批判的な読み方をできるようにする。その作業を通して、自らの問題関心と関連付けて考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は【ハイブリッド型授業】で行う予定です（変更の場合は学習支援システムを通して事前に連絡します）。
- ・本授業では、基本的に毎回発表者を立てます（主に履修者による発表・輪読の形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる）。
- ・発表者はレジメに基づいて発表し、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。
- ・リアクションペーパーやレポート等における興味深いコメントや質問等を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、発表順の決定
第 2 回	観光の形態	観光 + 人類学とは何か
第 3 回	観光と文化	（文献の発表と討論）観光の現場で創られる文化
第 4 回	観光と開発	（文献の発表と討論）観光と地域開発の結びつき
第 5 回	日本人と海外観光	（文献の発表と討論）マストツーリズムの歴史
第 6 回	観光におけるホストとゲスト	（文献の発表と討論）ホスト／ゲスト論の再検討
第 7 回	楽園と観光	（文献の発表と討論）楽園イメージの創造
第 8 回	ふるさと／都市観光	（文献の発表と討論）日本観光の一断面
第 9 回	環境と観光	（文献の発表と討論）エコツーリズムとは何か

第 10 回	宗教と観光①	（文献の発表と討論）宗教と観光のはざま
第 11 回	宗教と観光②	（文献の発表と討論）宗教／巡礼ツーリズム
第 12 回	そのほかの観光①	（文献の発表と討論）世界遺産、ロングステイ
第 13 回	そのほかの観光②	（文献の発表と討論）テーマパーク、アニメ
第 14 回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・輪読に使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
- ・授業内で紹介する文化人類学や観光人類学の文献を読む。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

山下晋司『観光人類学の挑戦―「新しい地球」の生き方』講談社、2009 年。
橋本和也『地域文化観光論―新たな観光学への展望』ナカニシヤ出版、2018 年。
（以上の文献を使用しますが、必ずしも購入する必要はありません）

【参考書】

岡本亮輔『聖地巡礼』中公新書、2015 年。
山中弘編『宗教とツーリズム―聖なるものの変容と持続』世界思想社、2012 年。
綾部恒雄編『文化人類学 20 の理論』弘文堂、2006 年。
橋本和也ほか編『観光開発と文化―南からの問いかけ』世界思想社、2003 年。
（以上のほか、授業時に適宜紹介します）

【成績評価の方法と基準】

授業（オンラインを含む）の取り組みや各種課題を「平常点（70 %）」として重視するとともに、学期末に出す予定の「レポート（30 %）」を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

学期中にシラバスや授業計画の変更が余儀なくされた場合は学習支援システムで周知します。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of cultural anthropology, especially concerning on the tourism. The goals of this course are to obtain basic concepts and theories of the anthropology of tourism, and understand the impacts of tourism on the local culture, environment and society.

POL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：政治思想史古典精読 A

上村 剛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『ガリバー旅行記』を中心に、18 世紀アイルランド、イングランドで活躍した小説家ジョナサン・スウィフトの書いた文章を読む。当時のイングランドは二つの党派の対立と政治的腐敗が進行する政治状況であった。スウィフトが記した歴史論や『ガリバー旅行記』（これは児童文学ではなく、とても政治的な書物である）を読むことで、党派や腐敗といった政治状況に対してどのような議論が可能かを検討する。政治と文学の関係性も合わせて考える。

【到達目標】

- ・政治思想史の古典的なテキストを正確に理解する能力を身につける。
- ・現代の政治的事象を、歴史的な視点から相対化して推論する能力を身につける。
- ・党派対立、腐敗、専制といった政治概念について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面による少人数のゼミ形式で進める。参加者は毎週課題（多くの回は日本語 10 頁程度、ただし『ガリバー旅行記』の回は 1 回 50 頁程度）を読み、300 ～ 500 字を目安としたコメントペーパーを事前に送付する。（受講者の人数もよるが、）おおそ各回 1 人の報告者が報告する。その後、受講者全員でディスカッションを行う。教員は可能な限り発言を控えるため、学生の積極的な議論への参加が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	古典を読むとはどういう行為か、どのような意味があるかを考え、ゼミの意義を押さえる。自己紹介をする。
2	『アテネとローマにおける貴族・平民間の不和抗争』(1)	第 1 章を読み、混合政体について考え、議論する。
3	『アテネとローマにおける貴族・平民間の不和抗争』(2)	第 2 章を読み、アテネの事例について考え、議論する。
4	『アテネとローマにおける貴族・平民間の不和抗争』(3)	第 3 章を読み、ローマの事例について考え、議論する。
5	『アテネとローマにおける貴族・平民間の不和抗争』(4)	第 4 章を読み、アテネ・ローマについてのスウィフトの解釈について考え、議論する。
6	『アテネとローマにおける貴族・平民間の不和抗争』(5)	第 5 章を読み、スウィフトの現状の政治認識について考え、議論する。

7	「1710 年の政変に関する覚書き」(1)	冒頭 1/4 を読み、名誉革命体制におけるトーリーとウィッグの関係について考え、議論する。
8	「1710 年の政変に関する覚書き」(2)	前半まで読み進め、ハーリーやシンジョンといった当時の政治家の態度について考え、議論する。
9	「1710 年の政変に関する覚書き」(3)	3/4 まで読み、スウィフトの政治的な態度について考え、議論する。
10	「1710 年の政変に関する覚書き」(4)	最後まで読み、党派対立についてのスウィフトの政治思想について考え、議論する。
11	『ガリバー旅行記』(1)	第 1 話第 4 章まで読み、リリパット国の表象の意義について考え、議論する。
12	『ガリバー旅行記』(2)	第 1 話最後まで読み、リリパット国と当時のイングランドとの関係について考え、議論する。
13	『ガリバー旅行記』(3)	第 2 話第 4 章まで読み、プロブディンナグ国の表象の意義について考え、議論する。
14	『ガリバー旅行記』(4)、まとめ	第 2 話最後まで読み、プロブディンナグ国と当時のイングランドとの関係について考え、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。各回の予習範囲を予め読み、議論につなぐようなコメントペーパーを執筆することが求められる。また、自分が担当する報告の準備は、他の文献にあたることも求められるため、2 時間を大幅に超える予習時間が必要である。

【テキスト（教科書）】

角川文庫版のジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』（<https://www.kadokawa.co.jp/product/201009000096/>）を用いる。山田蘭訳、2011 年、704 円。事前に購入し、ゼミ初回に持参すること。『ガリバー旅行記』以外の課題文献についてはこちらで用意する。

【参考書】

イントロダクションで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告（20%）と毎回のコメントペーパー、議論への参加状況（80%）によって評価する。期末レポートは課さない。ただし、単位習得には、必ず最低 1 回は報告を行うことが求められる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

配布された PDF の資料をパソコンなどの電子機器で読めるようにすること。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「教養ゼミ II(Q6214)」とこのゼミは連続するため、あわせての履修を強く薦める（もちろん、他講義との都合もあるだろうから絶対に二つとも受講しなくてはならないわけではないが、そうしないと『ガリバー旅行記』が読み終わらないため）。

【Outline and objectives】

We are going to read Gulliver's Travels and some other texts written by Jonathan Swift. In Eighteenth-century Britain, corruption and discord between two political factions were important political problems. In this seminar, we will discuss how Swift tried to get over these difficulties by writing ancient historiography and a utopian novel.

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：政治思想史古典精読 B

上村 剛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『ガリバー旅行記』を中心に、18 世紀アイルランド、イングランドで活躍した小説家ジョナサン・スウィフトの書いた文章を読む。当時のイングランドは二つの党派の対立と政治的腐敗が進行する政治状況であった。スウィフトが記した歴史論や『ガリバー旅行記』（これは児童文学ではなく、とても政治的な書物である）を読むことで、党派や腐敗といった政治状況に対してどのような議論が可能かを検討する。政治と文学の関係性も合わせて考える。

【到達目標】

- ・政治思想史の古典的なテキストを正確に理解する能力を身につける。
- ・現代の政治的事象を、歴史的な視点から相対化して推論する能力を身につける。
- ・党派対立、腐敗、専制といった政治概念について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面による少人数のゼミ形式で進める。参加者は毎週課題（多くの回は日本語 10 頁程度、ただし『ガリバー旅行記』の回は 1 回 50 頁程度）を読み、300～500 字を目安としたコメントペーパーを事前に送付する。（受講者の人数もよるが、）おおそ各回 1 人の報告者が報告する。その後、受講者全員でディスカッションを行う。教員は可能な限り発言を控えるため、学生の積極的な議論への参加が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	古典を読むとはどういう行為か、どのような意味があるかを考え、ゼミの意義を押さえる。自己紹介をする。
2	『書物戦争』(1)	前半を読み、古代派と近代派の関係について考え、議論する。
3	『書物戦争』(2)	後半を読みスウィフトが古代と近代のどちらを評価していたかを考え、議論する。
4	『ドレイピア書簡』第 4 書簡 (1)	前半を読み、アイルランドに対する国王大権について考え、議論する。
5	『ドレイピア書簡』第 4 書簡 (2)	後半を読み、貨幣の流通についてどのようにスウィフトが考えていたかを考え、議論する。
6	「日本の宮廷および帝国について」(1)	スウィフトは『ガリバー旅行記』と同時期に日本論を書いていた。前半を読み、日本をスウィフトがどのように描いたかを考え、議論する。

7	「日本の宮廷および帝国について」(2)	後半を読み、スウィフトがどのように当時のイングランドと日本論を関係させたかを考え、議論する。
8	『ガリバー旅行記』(5)	第 3 話第 5 章までを読み、ラビュタ国の表象の意義について考え、議論する。
9	『ガリバー旅行記』(6)	第 3 話最後まで読み、ラビュタ国と当時のイングランドとの関係について考え、議論する。
10	『ガリバー旅行記』(7)	第 4 話第 6 章まで読み、フウイヌム国の表象の意義について考え、議論する。
11	『ガリバー旅行記』(8)	最後まで読み、フウイヌム国と当時のイングランドとの関係について考え、議論する。
12	「慎ましき提案」	スウィフトの最も悪名高い文章である「慎ましき提案」を読んで議論する。
13	ジョージ・オーウェル「政治対文学ー『ガリヴァー旅行記』論考」	『1984 年』で知られるオーウェルのスウィフト論を読み、全体主義について考え、議論する。
14	まとめの討論	1 年間のまとめとなる討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。各回の予習範囲を予め読み、議論につながりそうなコメントペーパーを執筆することが求められる。また、自分が担当する報告の準備は、他の文献にあたることも求められるため、2 時間を大幅に超える予習時間が必要である。

【テキスト（教科書）】

角川文庫版のジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』（<https://www.kadokawa.co.jp/product/201009000096/>）を用いる。山田蘭訳、2011 年、704 円。事前に購入し、ゼミ初回に持参すること。『ガリバー旅行記』以外の課題文献についてはこちらで用意する。

【参考書】

イントロダクションで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告（20%）と毎回のコメントペーパー、議論への参加状況（80%）によって評価する。期末レポートは課さない。ただし、単位習得には、必ず最低 1 回は報告を行うことが求められる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

配布された PDF の資料をパソコンなどの電子機器で読めるようにすること。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「教養ゼミⅡ(Q6213)」とこのゼミは連続するため、あわせての履修を強く薦める（もちろん、他講義との都合もあるだろうから絶対に二つとも受講しなくてはいけないわけではないが、『ガリバー旅行記』を途中から読むことになる）。

【Outline and objectives】

We are going to read Gulliver's Travels and some other texts written by Jonathan Swift. In Eighteenth-century Britain, corruption and discord between two political factions were important political problems. In this seminar, we will discuss how Swift tried to get over these difficulties by writing ancient historiography and a utopian novel.

PSY300LA

人間行動学 A

2017 年度以降入学者

海部 紀行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基盤科目の「心理学Ⅰ/Ⅱ」でアカデミックな心理学の基礎（ベーシック）を修め、リベラルアーツ科目の「心理学 LA/LB」で、より発展・応用的な心理学を学ぶことを前提とし、総合科目の「人間行動学」では、「行動」として表現される「こころ・いのち」を考えます。

【到達目標】

「臆病な自尊心と尊大な羞恥心」（from『山月記』by 中島敦）、『狂気の歴史』『性の歴史』（by M. フーコー）、『全体主義の起原』『人間の条件（活動的生）』『精神の生活』（by H. アレント）、『私の個人主義』（by 夏目漱石）、『この世は舞台（stage）、誰もが役者（player）』（from『As You Like It（お気に召すまま）』by シェイクスピア）…その他あれこれと『靈魂論』（by アリストテレス）以来の「心理学」、とりわけ「異常と正常」もしくは「マイノリティとマジョリティ」の繋がりが、絡みを学び合っています。

感染症も気候危機も明白な「人災」でしょうが、「自己責任」で押しつぶされるわけにいきません。もはや手垢にまみれた（？）「個性」だの「多様性」だの…についても突き詰め追いつめることができるでしょうか。

当然（？）、現実的・合理的で正しい（はずの）AI（人工知能）やロボット、サイボーグ、アンドロイド、レプリカント、あるいはクローンと、誤り・間違いだらけで、夢幻・観念・妄想・変態の沼にハマる（ハマらざるを得ない）ヒト（こころ・いのち）との差異をも感じ思います。

「心の性」や「心の病」とは何か。家族や友人その他さまざまな人たちとの交わり・もつれから生じることは何か。社会・文化、歴史・時代、対人関係のもと、状況・相互作用・関係性を通して、絶えず生成・変化・展開する（しかない）自転車操業の実存・ヒトの「こころ」や「いのち」の意味は分かるのか。ヒトは何故（why）・どのように（how）生きているのか。生きているということは、「こころ・いのち」と同じなのか否か。さて、「こころ・いのち」はどこにあるのか。「こころ・いのち」とは何か。改めて考えることが目標です。その都度の相対的な真理の追究こそが科学的な態度、との立場で、相互に「対話」を積み上げて検討し、参加者各々が感じ思い考え、それぞれが、そのときどきの答えを見出しにいけるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現下の事態で、大学の行動方針レベルが（1 のままでも）2 になったとしても、講義その他の形態は、履修登録を望みなさんの状況や意向に応じ、流動的に検討・対応していきます。可能な限り、教室での「対面」を追求しつつ、Zoom を用いた「議論・対話」を試みるかもしれません。春学期初回は（全学）オンライン・オンデマンドです。その後については、随時、学習支援システムの「お知らせ・アナウンス」で告知します。

参加者自らが設定したテーマについて（単独でも共同でも）調査や研究を進め、順次、報告・発表し、ディスカッションします。これまでの担当科目では、しばしばマンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画、SNS や動画サイトその他ソーシャルメディア、メディア情報リテラシーのあり方など、さまざまな側面・角度から「こころ・いのち」を考えてきました。「こころ・いのち」が、「行動」となって顕著に表（現）れているからです。

どうかすると、私（or 貴方）は幾らか狂っていたり、少なくとも狂いたかったりするのかもしれませんが。この世間・社会の文化だの常識だのが不可思議で疑わしすぎるとしたら、私（or 貴方）の「こころ・いのち」は、何かへんなのでしょうか。

良くも悪くもサロンのイメージで、それぞれが、それぞれに、言い放ち、切り返し…と連鎖を愉しめる協働を試みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者各々の興味・関心を持ち寄り、討論の素材（教材）について全体で協議
2	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
3	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
4	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
5	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
6	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
7	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
8	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
9	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
10	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
11	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
12	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
13	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
14	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分担した報告・発表に向けて準備します。報告・発表の前の回には、参加者全員分の素材や資料が行き渡るようにします。報告・発表担当でない場合、これらの素材や資料に前もって目を通しておきます。報告・発表担当であるかないかを問わず、報告・発表時のディスカッションを踏まえ、さらに吟味します。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料がテキストとなります。

【参考書】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料が参考書となります。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)：報告・発表とともに、ディスカッションなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

以下は、従来の内容です。

《発言やリアクションペーパー記述の紹介によって、各々が多種多様に理解を深めていく過程が明瞭でした。報告・発表やディスカッションのあり方など、相談しながら一緒に進めていきます。》

ところが昨年度は、学生が全く見ず知らずのままで、「授業改善アンケート」に寄せられた次の文面のとおりの雰囲気になってしまいました。

※オンラインであったことが原因だとは思いますが、もう少し他の受講者と活発なやり取りができることを期待していたのでその点は少々期待外れだった。Zoomなどを用いての討論会のようなことが実施出来たらよかったのかなとも感じた。

さて本年度の状況は想定しがたいながら、定員制(30名)の目一杯となれば、60名規模の教室に散らばって着席しながらの議論を工夫することになります。得手不得手に加え、通信(その他を含む)環境などにより、「Zoomを使うなら参加しない・できない」というケースがあることも念頭に置きつつ、試行錯誤していきます。

【その他の重要事項】

(1) 人間行動学 A(春学期)と人間行動学 B(秋学期)は連動するため、一体としての履修を望みます。

(2) 必須ではありませんが、海部が担当した「心理学 I/II」や「心理学 LA/LB」を履修した方の参加を見込みます。

(3) 当科目は定員制(30名)です。履修希望が多い場合、(秋学期のみ参加予定者も含め)春学期初回(遅くても第2回まで)に参加したなかから選抜します。

(4) 臨床心理士として、生きづらく悩み困っている and/or 悩ませ困らせている方々と接してきました。「心の痛み」や「心の傷」、「心の病気」、「心の性」、「心神喪失・耗弱(こうじゃく)」,「責任能力」の検証も必要でした。責任(responsibility)とは、反応する(response)能力(ability)です。性別を問わず、家庭・家族事情、少年院や刑務所、半グレやヤクザ、加害・被害、不登校、ひきこもり、派遣切り、就労苦、生活困窮、ホームレス、あるいはガールズバーやキャバクラ、援交・パパ活、ホストクラブ、風俗、売買春など、さまざまな体験があり、心身不穏や自傷、虚無・空白やトラウマ・トラブル、自家中毒・矛盾・煩悶(はんもん)を抱えた制御困難な誰もが、「自己責任」で片付けられては堪(たま)らない方ばかりです。「みんなちがって、みんないい」は絵空事? 「おかしい」と呼ばれやすい人々の「こころ・いのち(・人権)」が脅かされるのは、むしろ何かと「おかしい」世の中の「問題」ではないのか。そんなこんなを感じ思い考え続けています。

(5) オフィスアワー(お喋りタイム?)は、原則として木曜の4時限ないし5時限に設ける見込みです。同予約ほか、なんでもリクエスト・問い合わせは、「授業内掲示板」または kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

(6) 2020/19/18 年度は、次のようなテーマの報告・発表がありました。

続 お砂糖とスパイスなんかじゃない

罪悪感について

持続可能人間

身分差

手を差し伸べることがはばかれるという難解な社会

取っ掛かりとして

正直な話

肉壁

いつまでもハラスメントに苦しみ続ける私たち

きのこたけのこ戦争

“文化的先進”は人間を辞めることなのか?

お砂糖とスパイスなんかじゃない

常識とは何か

私以外の人間は皆ロボット説

他人を引きずり落とす世の中

どうせ見ていないでしょう?

「自粛」と「自由」

ドラえもん〜ん!!!

「女の子」と「学ぶこと」

ストレスとの向き合い方について

「女の子」についての質問

岡村(もうちょっとの間)頑張れ

絶対に生きたい話

台本にアレンジを加える役者

生きる意味とは

素朴で性悪(かもしれない)疑問

“狂いたがっている”かもしれないということ

いきる とは

SNS のような感覚です

誰しもが無敵の人になる可能性があるということ

匿名によるネットパッシング: これからのファンのあり方とは

何故、人は映画版ジャイアンに惚れてしまうのか

分人主義(dividualism)という生き方: 「本当の自分」という幻想

映画『パブリカ』に見られる夢表現について

暴力のない子どもへの教育をしていくために

優生学とその心理的要因

何故、人は容姿に拘るのか?

「認められたい」、その感情は顔ありきなのか?

社会・文化におけるヒロイン像の変遷

観光旅行における心理学

陰キャと陽キャに優劣はあるのか

練馬区女子大生の死体遺棄事件から見るストーキング殺人事件に関する分類について

Are You Righteous??

なぜアイドルの沼にハマるのか

あらゆる場面で嫉妬は害なのか?

『愛がなんだ』から見る恋愛依存

ADHD 型主人公の誕生と衰退

バーナム効果: 占いの必要性

「男」と「女」は別の生き物なのか

川崎登戸事件から見る拡大自殺・間接自殺の背景

漫画から読み解く行動心理学

日本における制度と行動規範の乖離: 労働環境に焦点を当てて

アスペルガー症候群の人には天才が多い!?

メンヘラカルチャーと「病みかわいい」

相模原障害者施設殺傷事件に見る現代社会の問題

ロボットに心はあるか

ツァイガルニク効果

自己成就予言効果

認知的不協和: 自分自身から逃げない勇気

「装う」ということ: アイデンティティと自己実現

「ネタばれ」は悪くない?

パーソナルスペース

承認欲求

犠牲と正義: 報復は正義になり得るのか

「君の NO は。」: 世界の歪みは誰のせい? 認知バイアスと認知の歪み

バーナム効果とは

「心の監禁」からの脱出

自己欺瞞

安楽死からみる自己決定権について

返報性について

優生思想について

なぜ人は周りからよく見られようとするのか

うつ病への理解

フェティシズムと犯罪者予備軍

「炎上」はなぜ起こるのか

SNS と自己顕示欲: 健全な自己顕示欲とは? また、その付き合い方

【Outline and objectives】

This subject is premised on the foundation course "Psychology I/ II" and the advanced applied course "Psychology LA/LB".

In the general course "Human behavior", we make a study of action as the mind is expressed.

PSY300LA

人間行動学 B

2017 年度以降入学者

海部 紀行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基盤科目の「心理学Ⅰ/Ⅱ」でアカデミックな心理学の基礎（ベーシック）を修め、リベラルアーツ科目の「心理学 LA/LB」で、より発展・応用的な心理学を学ぶことを前提とし、総合科目の「人間行動学」では、「行動」として表現される「こころ・いのち」を考えます。

【到達目標】

「臆病な自尊心と尊大な羞恥心」（from『山月記』by 中島敦）、『狂気の歴史』『性の歴史』（by M. フーコー）、『全体主義の起原』『人間の条件（活動的生）』『精神の生活』（by H. アレント）、『私の個人主義』（by 夏目漱石）、『この世は舞台（stage）、誰もが役者（player）』（from『As You Like It（お気に召すまま）』by シェイクスピア）…その他あれこれと『靈魂論』（by アリストテレス）以来の「心理学」、とりわけ「異常と正常」もしくは「マイノリティとマジョリティ」の繋がりが、絡みを学び合っています。

感染症も気候危機も明白な「人災」でしょうが、「自己責任」で押しつぶされるわけにいきません。もはや手垢にまみれた（？）「個性」だの「多様性」だの…についても突き詰め追いつめることができるのでしょうか。

当然（？）、現実的・合理的で正しい（はずの）AI（人工知能）やロボット、サイボーグ、アンドロイド、レプリカント、あるいはクローンと、誤り・間違いだらけで、夢幻・観念・妄想・変態の沼にハマる（ハマらざるを得ない）ヒト（こころ・いのち）との差異をも感じ思います。

「心の性」や「心の病」とは何か。家族や友人その他さまざまな人たちとの交わり・もつれから生じることは何か。社会・文化、歴史・時代、対人関係のもと、状況・相互作用・関係性を通して、絶えず生成・変化・展開する（しかない）自転車操業の実存・ヒトの「こころ」や「いのち」の意味は分かるのか。ヒトは何故（why）・どのように（how）生きているのか。生きているということは、「こころ・いのち」と同じなのか否か。さて、「こころ・いのち」はどこにあるのか。「こころ・いのち」とは何か。改めて考えることが目標です。その都度の相対的な真理の追究こそが科学的な態度、との立場で、相互に「対話」を積み上げて検討し、参加者々が感じ思い考え、それぞれが、そのときどきの答えを見出しにいけるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加者自らが設定したテーマについて（単独でも共同でも）調査や研究を進め、順次、報告・発表し、ディスカッションします。これまでの担当科目では、しばしばマンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画、SNS や動画サイトその他ソーシャルメディア、メディア情報リテラシーのあり方など、さまざまな側面・角度から「こころ・いのち」を考えてきました。「こころ・いのち」が、「行動」となって顕著に表（現）れているからです。どうかすると、私（or 貴方）は幾らか狂っていたり、少なくとも狂いたかったりするのかもしれませんが。この世間・社会の文化だの常識だのが不可思議で疑わしすぎるとしたら、私（or 貴方）の「こころ・いのち」は、何かヘンなのでしょう。良くも悪くもサロンのイメージで、それぞれが、それぞれに、言い放ち、切り返し…と連鎖を愉しめる協働を試みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者各々の興味・関心を持ち寄り、討論の素材（教材）について全体で協議
2	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
3	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
4	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
5	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
6	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
7	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
8	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
9	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
10	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
11	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
12	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
13	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
14	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分担した報告・発表に向けて準備します。報告・発表の前の回には、参加者全員分の素材や資料が行き渡るようにします。報告・発表担当でない場合、これらの素材や資料に前もって目を通しておきます。報告・発表担当であるかないかを問わず、報告・発表時のディスカッションを踏まえ、さらに吟味します。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料がテキストとなります。

【参考書】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料が参考書となります。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）：報告・発表とともに、ディスカッションなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

以下は、従来の内容です。《発言やリアクションペーパー記述の紹介によって、各々が多様な様に理解を深めていく過程が明瞭でした。報告・発表やディスカッションのあり方など、相談しながら一緒に進めていきます。》

ところが昨年度は、学生が全く見ず知らずのままで、「授業改善アンケート」に寄せられた次の文面のとおり雰囲気になってしまいました。

※オンラインであったことが原因だとは思いますが、もう少し他の受講者と活発なやり取りができることを期待していたのでその点は少々期待外れだった。Zoom などを用いての討論会のようなことが実施出来たらよかったのかなとも感じた。

さて本年度の状況は想定しがたいながら、定員制 (30 名) の目一杯となれば、60 名規模の教室に散らばって着席しながらの議論を工夫することになります。得手不得手に加え、通信 (その他を含む) 環境などにより、「Zoom を使うなら参加しない・できない」というケースがあることも念頭に置きつつ、試行錯誤していきます。

【その他の重要事項】

(1) 人間行動学 A (春学期) と人間行動学 B (秋学期) は連動するため、一体としての履修を望みます。

(2) 必須ではありませんが、海部が担当した「心理学 I/II」や「心理学 LA/LB」を履修した方の参加を見込みます。

(3) 当科目は定員制 (30 名) です。履修希望が多い場合、(秋学期のみ参加予定者も含め) 春学期初回 (遅くても第 2 回まで) に参加したなかから選抜します。

(4) 臨床心理士として、生きづらく悩んでいる and/or 悩ませ困らせている方々と接してきました。「心の痛み」や「心の傷」、「心の病気」、「心の性」、「心神喪失・耗弱 (こうじゃく)」、「責任能力」の検証も必要でした。責任 (responsibility) とは、反応する (response) 能力 (ability) です。性別を問わず、家庭・家族事情、少年院や刑務所、半グレやヤクザ、加害・被害、不登校、ひきこもり、派遣切り、就労苦、生活困窮、ホームレス、あるいはガールズバーやキャバクラ、援交・パパ活、ホストクラブ、風俗、売買春など、さまざまな体験があり、心身不穏や自傷、虚無・空白やトラウマ・トラブル、自家中毒・矛盾・煩悶 (はんもん) を抱えた制御困難な誰もが、「自己責任」で片付けられては堪 (たま) らない方ばかりです。「みんなちがって、みんないい」は絵空事? 「おかしい」と呼ばれやすい人々の「こころ・いのち (・人権)」が脅かされるのは、むしろ何かと「おかしい」世の中の「問題」ではないのか。そんなこんなを感じ思い考え続けています。

(5) オフィスアワー (お喋りタイム?) は、原則として木曜の 4 時間ないし 5 時間に設ける見込みです。同予約ほか、なんでもリクエスト・問い合わせは、「授業内掲示板」または kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

(6) 2020/19/18 年度は、次のようなテーマの報告・発表がありました。

続 お砂糖とスパイスなんかじゃない
罪悪感について
持続可能人間
身分差
手を差し伸べることがはばかれるという難解な社会
取っ掛かりとして
正直な話
肉壁
いつまでもハラスメントに苦しみ続ける私たち
きのことけの戦争
“文化的先進”は人間を辞めることなのか?
お砂糖とスパイスなんかじゃない
常識とは何か
私以外の人間は皆ロボット説
他人を引きずり落とす世の中
どうせ見ていないでしょう?
「自粛」と「自由」
ドラえもん〜ん!!!
「女の子」と「学ぶこと」
ストレスとの向き合い方について
「女の子」についての質問
岡村 (もうちょっとの間) 頑張れ
絶対に生きたい話
台本にアレンジを加える役者
生きる意味とは
素朴で性悪 (かもしれない) 疑問
“狂いたがっている”かもしれないということ
いきる とは
SNS のような感覚です
誰しもが無敵の人になる可能性があるということ

匿名によるネットバッシング：これからのファンのあり方とは
何故、人は映画版ジャイアンに惚れてしまうのか
分人主義 (dividualism) という生き方：「本当の自分」という幻想
映画『パプリカ』に見られる夢表現について
暴力のない子どもへの教育をしていくために
優生学とその心理的要因
何故、人は容姿に拘るのか?
「認められたい」、その感情は顔ありきなのか?
社会・文化におけるヒロイン像の変遷
観光旅行における心理学
陰キャと陽キャに優劣はあるのか
練馬区女子大生の死体遺棄事件から見るストーキング殺人事件に関する分類について

Are You Righteous??

なぜアイドルの沼にハマるのか
あらゆる場面で嫉妬は害なのか?
『愛がなんだ』から見る恋愛依存
ADHD 型主人公の誕生と衰退
バーナム効果：占いの必要性
「男」と「女」は別の生き物なのか
川崎登戸事件から見る拡大自殺・間接自殺の背景
漫画から読み解く行動心理学
日本における制度と行動規範の乖離：労働環境に焦点を当てて
アスペルガー症候群の人には天才が多い!?
メンヘラカルチャーと「病みかわいい」
相模原障害者施設殺傷事件に見る現代社会の問題
ロボットに心はあるか
ツァイガルニク効果
自己成就予言効果
認知的不協和：自分自身から逃げない勇気
「装う」ということ：アイデンティティと自己実現
「ネタばれ」は悪くない?
パーソナルスペース
承認欲求
犠牲と正義：報復は正義になり得るのか
「君の NO は。」：世界の歪みは誰のせい? 認知バイアスと認知の歪み
バーナム効果とは
「心の監禁」からの脱出
自己欺瞞
安楽死からみる自己決定権について
返報性について
優生思想について
なぜ人は周りからよく見られようとするのか
うつ病への理解
フェティシズムと犯罪者予備軍
「炎上」はなぜ起こるのか
SNS と自己顕示欲：健全な自己顕示欲とは? また、その付き合い方

【Outline and objectives】

This subject is premised on the foundation course "Psychology I/ II " and the advanced applied course "Psychology LA/LB".

In the general course "Human behavior", we make a study of action as the mind is expressed.

POL300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：憲法学入門A

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法の基本書を丹念に輪読し、質疑や議論を積み重ねることによって、憲法をより深く学んでいく。憲法条文そのものは、簡素で無機質な文字の羅列に過ぎないが、その土台となっている歴史や思想を踏まえて個々の条文を読み解くことによって、憲法が目指すべき社会像や国家像が見えてくる。この授業では、ゼミ形式による対話の中で、憲法の含意を明らかにしていく。なお、ゼミ形式の授業であるため、通常の講義科目とは異なり、参加者が自主的に調べ、報告し、議論することによって授業を進めていく。そのため、この授業では、憲法に関する知識を学ぶだけではなく、「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につけることも目的とする。

【到達目標】

- ①憲法の基礎をなす思想やその歴史的背景を理解する。
- ②日本国憲法の成立経緯を理解する。
- ③日本国憲法が保障する人権の内容について理解する。
- ④日本国憲法が定める国家機構について理解する。
- ⑤ゼミナールで必要となる「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本国憲法に関する基本書を輪読することによって、基礎的な知識を身につけた上で、さらに掘り下げて考察すべきテーマを設定し、報告者を指定して報告を求める。授業は原則として対面での実施を予定しているが、受講者の意向および感染状況によっては、ZOOMを用いたオンライン授業に変更する場合もある。いずれにしても、ゼミナール形式で行うため、受講者による報告と議論によって授業を進めていく。報告に対しては授業の中でコメントやアドバイスをフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について説明する。
第2回	近代立憲主義の成立①	基本文献の輪読
第3回	近代立憲主義の成立②	報告と討論
第4回	日本憲法史①	基本文献の輪読
第5回	日本憲法史②	報告と討論
第6回	天皇制①	基本文献の輪読
第7回	天皇制②	報告と討論
第8回	平和主義①	基本文献の輪読
第9回	平和主義②	報告と討論
第10回	人権総論①	基本文献の輪読
第11回	人権総論②	報告と討論
第12回	思想・良心の自由①	基本文献の輪読
第13回	思想・良心の自由②	報告と討論

第14回 全体のまとめ

全体のまとめと補充報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の輪読に当たっては、受講者全員が事前に指定された文献を読み、問題点や疑問点をまとめておく。報告に当たっては、報告者は報告の準備を行うとともに、他の参加者は報告に対する質問を準備する。毎回の授業の後には、自分なりの気づきや考えを整理しておく。なお、本授業の準備学習・復習時間に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長谷部恭男『憲法講話』（有斐閣、2020年）

毛利透『グラフィック憲法入門〔第2版〕』（新世社、2021年）

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容に対する評価（50％）と、授業中の発言頻度および発言内容に対する評価（50％）を合算して評価を行う。なお、学期末にレポートを課すことがある。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミに不慣れな1・2年生が受講者の大半を占めることを考慮し、文献の探し方やレジュメの作り方などの指導にも時間を割く予定である。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn about the Constitution of Japan by carefully reading the basic books of the Constitution and discussing it. The text of the Constitution itself is nothing more than a list of simple words, but by reading each text based on the history and ideas that underlie it, we can understand the social image that the Constitution would aim for. We will clarify the implications of the Constitution in a seminar-style dialogue.

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：憲法学入門 B

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、春学期の「教養ゼミⅠ：憲法学入門 A」に引き続き、憲法の基本書を丹念に輪読し、質疑や議論を積み重ねることによって、憲法をより深く学んでいく。憲法条文そのものは、簡素で無機質な文字の羅列に過ぎないが、その土台となっている歴史や思想を踏まえて個々の条文を読み解くことによって、憲法が目指すべき社会像や国家像が見えてくる。この授業では、ゼミ形式による対話の中で、憲法の含意を明らかにしていく。なお、ゼミ形式の授業であるため、通常の講義科目とは異なり、参加者が自主的に調べ、報告し、議論することによって授業を進めていく。そのため、この授業では、憲法に関する知識を学ぶだけではなく、「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につけることも目的とする。

【到達目標】

- ①憲法の基礎をなす思想やその歴史的背景を理解する。
- ②日本国憲法の成立経緯を理解する。
- ③日本国憲法が保障する人権の内容について理解する。
- ④日本国憲法が定める国家機構について理解する。
- ⑤ゼミナールで必要となる「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本国憲法に関する基本書を輪読することによって、基礎的な知識を身につけた上で、さらに掘り下げて考察すべきテーマを設定し、報告者を指定して報告を求める。授業は原則として対面での実施を予定しているが、受講者の意向および感染状況によっては、ZOOMを用いたオンライン授業に変更する場合もある。いずれにしても、ゼミナール形式で行うため、受講者による報告と議論によって授業を進めていく。報告に対しては授業の中でコメントやアドバイスをし、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について説明する。
第 2 回	表現の自由①	基本文献の輪読
第 3 回	表現の自由②	報告と討論
第 4 回	職業選択の自由①	基本文献の輪読
第 5 回	職業選択の自由②	報告と討論
第 6 回	包括的基本権①	基本文献の輪読
第 7 回	包括的基本権②	報告と討論
第 8 回	平等原則①	基本文献の輪読
第 9 回	平等原則②	報告と討論
第 10 回	国会・内閣①	基本文献の輪読
第 11 回	国会・内閣②	報告と討論
第 12 回	裁判所①	基本文献の輪読
第 13 回	裁判所②	報告と討論
第 14 回	全体のまとめ	全体のまとめと補充報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の輪読に当たっては、受講者全員が事前に指定された文献を読み、問題点や疑問点をまとめておく。報告に当たっては、報告者は報告の準備を行うとともに、他の参加者は報告に対する質問を準備する。毎回の授業の後には、自分なりの気づきや考えを整理しておく。なお、本授業の準備学習・復習時間に要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長谷部恭男『憲法講話』（有斐閣、2020 年）

毛利透『グラフィック憲法入門〔第 2 版〕』（新世社、2021 年）

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容に対する評価（50 %）と、授業中の発言頻度および発言内容に対する評価（50 %）を合算して評価を行う。なお、学期末にレポートを課すことがある。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミに不慣れな 1・2 年生が受講者の大半を占めることを考慮し、文献の探し方やレジュメの作り方などの指導にも時間を割く予定である。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn about the Constitution of Japan by carefully reading the basic books of the Constitution and discussing it. The text of the Constitution itself is nothing more than a list of simple words, but by reading each text based on the history and ideas that underlie it, we can understand the social image that the Constitution would aim for. We will clarify the implications of the Constitution in a seminar-style dialogue.

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌A 2017年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活に密着している自然環境のしくみを理解し、オゾン層の破壊、ヒートアイランドなど人為による気候とその対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により自然環境を理解する。
- ・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
- ・自然環境の変化による異常気象を把握する。
- ・自然環境変化の予測を考察する。
- ・人為によって気候変化した自然環境の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・課題論文をまとめることにより、論文を理解する力をつける。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また、前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。

授業の進め方は2部構成とし、第1に、地球規模から日本列島スケール、小規模までの自然環境変化を取り上げる。第2に、加速する様々な異常気象について説明する。

授業の方法は、気象学、気候学により自然環境に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストまたは課題論文のまとめを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、リアクションペーパーに記載された事項により授業内容を変更することがある。

また、第1回目の授業の際に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。この試験を受けないとその後の受講は認めないので、受講希望者は必ず第1回目の授業に出席し、試験を受けること。

なお、第1回目の授業はZoomによるオンラインで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、気象学・気候学の理解度を確認する。
2	東日本大震災と自然環境問題	甚大な被害をもたらした、10年目となった東日本大震災と自然環境問題の相互作用について考察する。
3	オゾンホール1（成因）	成層圏の気候からオゾンの生成と役割について説明し、オゾンホール成因のメカニズムについて検討する。

4	オゾンホール2（現状と課題）	オゾンホールの現状と今後の課題について考察する。
5	紫外線	オゾン層の減少に関連して、紫外線全般について説明するとともに、人体や動植物に与える影響についても検討する。
6	越境汚染1（酸性雨）	酸性雨の成因、影響及び現状について説明する。
7	越境汚染2（黄砂）	黄砂の飛来から日本における影響を検討し、予測と対策について説明する。
8	人為による気候の気候1（ヒートアイランド）	都市化によるヒートアイランドの成因と現状を説明し、その対応について議論する。
9	人為による気候の気候2（観光鍾乳洞の気候変化）	鍾乳洞が入場者数の増大によって受ける影響について考察する。また、観光鍾乳洞の保護に関するグループ討議を行なう。
10	異常気象1（エルニーニョ現象の成因）	世界的な異常気象をもたらすエルニーニョ現象の成因と観測体制について説明する。
11	異常気象2（エルニーニョ・ラニーニャ現象の影響と予測）	エルニーニョ・ラニーニャ現象が及ぼす影響と予測について解説する。
12	異常気象3（副振動）	急激な気圧変化によって発生するとされる潮位の変動について解説し、その原因を考察する。
13	異常気象4（竜巻・突風・雷）	竜巻・突風・雷、それに増加している急な雨について説明し、近年の状況について解説する。
14	南極の環境保全まとめ	地球環境のバロメーターである南極を説明し、環境保全対策を解説する。 また、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・異常気象を知りつくす本 佐藤典人著 インデックス・コミュニケーションズ
- ・異常気象と人類の選択 江守正多著 角川SSC新書
- ・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－ 吉野正敏著 古今書院
- ・新百万人の天気教室 白木正規著 成山堂書店

【成績評価の方法と基準】

試験は実施しない。評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：20%
- ・小テスト・課題論文：40%
- ・レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、一昨年度は学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、本年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は自然環境のしくみを理解し、その上で人間活動が与えた自然環境の変化について検討することを目的とする。そのため、春学期では自然環境変化と異常気象について説明し、秋学期では地球温暖化について考察する。人間活動による環境変化において、これらは密接に関連してため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとにして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline and objectives】

Understanding the mechanism of the natural environment that is closely related to our daily life, students will consider the artificial changes in the environment like the destruction of the ozone layer and the heat island phenomenon etc... and the solutions. Then students will be able to discuss changes in the natural environment created by human activities.

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌 B 2017 年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類が直面している危機である地球温暖化について理解し、現状を把握する。その上で地球温暖化に対する緩和策と適応策について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により地球温暖化を理解する。
- ・地球温暖化への人為のかかわりについて検討する。
- ・地球温暖化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した地球温暖化の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・地球温暖化の緩和策と適応策について把握し、検討することができる。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。更に、オフィスアワーで課題のレポートに対して、個別に講評する。

授業の進め方は、地球温暖化の実態・予測などを講義し、最後に受講者全員が地球温暖化の緩和策と適応策を発表し、集団討論を実施して各自の考えや意見により議論する。

授業の方法は、気象学、気候学により地球温暖化に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、受講生からの質問には必ず回答するとともに、質問事項により授業内容を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに アラル海とイースタ島	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、講義を始めるにあたり、20 世紀最大の環境破壊と言われたアラル海の状況と森林保護を行わなかったイースタ島の悲劇について紹介し、環境問題を検討する。
2	地球温暖化の概要	地球温暖化の基礎的な知識と対応について解説する。
3	長い時間スケールの気候変化	地球の誕生から現在までの気候の変化を説明する。
4	地球温暖化のしくみと 気温・温室効果ガスの 実態	温室効果、日傘効果から地球温暖化のしくみを説明する。また温室効果ガスとその変化について説明し、気温の長期変動を解説する。

5	高層大気への影響	高層気象観測を解説するとともに、温室効果ガスによる対流圏、成層圏への影響について説明する。
6	海洋の役割と影響	地球温暖化による海洋の役割と海面水位の上昇を説明する。また、海洋汚染についても解説する。
7	地球温暖化の実態（降水・積雪・氷河・海水）	降水・積雪の長期変動、および氷河の衰退、海水の減少について説明する。
8	北極域への影響	現在、最も温暖化が進んでいる北極域について説明し、対応を検討する。また、北極振動についても解説する。
9	南極の状況	地球温暖化により注目されている、南極の状況について説明する。
10	緩和策 1（国際的な取り組み）	IPCC、COP などによる国際的な取り組みを説明する。特に、今年公表される IPCC 第 6 次評価報告書について、詳細に説明する。また、現状の課題について、検討する。
11	緩和策 2（日本の取り組み）	国際情勢にかんがみ、昨年度、日本政府が宣言した脱炭素社会への取り組みを説明する。特に、温室効果ガス削減の実施状況、問題点について考察する。
12	適応策 1（産業分野）	地球温暖化に対する世界と日本の適応への取り組みを紹介する。特に、農業、漁業分野について検討する。
13	適応策 2（災害対応）	集中豪雨、豪雪、洪水、干ばつ、熱中症などに関する適応策の現状を解説する。
14	地球温暖化への対応（地球温暖化の緩和策と適応策の発表と集団討論）とまとめ	地球温暖化の緩和策と適応策について各自で検討してまとめる。また、グループごとに発表して意見交換を行う。更に、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
授業の全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

・地球温暖化時代の異常気象、吉野正敏著、成山堂書店
・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－、吉野正敏著、古今書院
・異常気象と地球温暖化、鬼頭昭雄著、岩波新書
・地球温暖化－そのメカニズムと不確実性－、日本気象学会 地球環境問題委員会編、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：20%
- ・小テスト：40%
- ・レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があり、大変参考になったので、今年度も実施して授業に反映する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は地球温暖化を理解し、その対策を検討することを目的としている。春学期では自然環境の変化と異常気象について説明し、これは地球温暖化と密接に関連している。そのため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline and objectives】

Students will understand that global warming is the crisis we are facing now, and grasp the current situation. In addition, students will be able to discuss mitigation and adaptation measures.

MAT300LA

計算と言語のしくみ

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで、コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され、我々の生活に深く関わっている。その一方で、多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり、その動作原理を身近に触れる機会が十分あるとは思われない。こうした背景を踏まえて、魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組みに焦点を当て、「コンピュータの箱の中がどのようなになっているか?」「そうした機械的な仕組みの上で、形式言語の命令を処理したり、自然言語の意味を分析できるのは何故か?」など数学的な視点を通して解説・実験する。

【到達目標】

本講義では「コンピュータの仕組みの概要を理解すること」を目標としている。（例えば、電卓と PC の本質的な違いを尋ねられた時、皆さんは直ちに説明できるでしょうか?）その上で、実験を通して「コンピュータ上で言語を処理する幾つかの手法を体験して、その有用性を理解すること」をもう一つの目標としている。（例えば、コンピュータに膨大な量の文章を学習させるだけで「東京-日本+フランス」の計算結果として「パリ」と答えるようになります。同様に「法政大学-東京+大阪」の計算結果としてコンピュータは何を答えるのでしょうか?）こうした「処理系の違いに依存しない普遍的な原理」を理解することは、実際にコンピュータを使用する上でも様々な場面で恩恵をもたらすこととなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し、状況によっては、より簡単な方向に修正する可能性がある。対面とオンラインのどちらの形式でも取り組めるようにする予定であるが、詳細は学習支援システムで提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	PC 上でプログラムが動作する様子を観察する。
第 02 回	計算機の歴史	汎用コンピュータの開発の歴史を解説する。
第 03 回	機械と形式言語 (1)	正規言語を処理する機械的な仕組みについて解説する。
第 04 回	機械と形式言語 (2)	文書編集で正規言語の選択構文の活用事例を学ぶ。
第 05 回	機械と形式言語 (3)	文書編集で正規言語の繰返し構文の活用事例を学ぶ。
第 06 回	計算機の理論 (1)	チューリング機械の仕組みと計算の動作を解説する。
第 07 回	計算機の理論 (2)	万能チューリング機械と現代計算機の関係を解説する。

第 08 回	現代計算機の構造 (1)	コンピュータの演算装置等の構造を説明する。
第 09 回	現代計算機の構造 (2)	2 進数, 10 進数, 16 進数による正整数の表現を説明する。
第 10 回	現代計算機の構造 (3)	2 の補数表現による負整数の表現方法を説明する。
第 11 回	機械学習と自然言語 (1)	Google Colab 上で Python プログラムの実行方法を学ぶ。
第 12 回	機械学習と自然言語 (2)	日本語の文章を品詞に分解する処理を学ぶ。
第 13 回	機械学習と自然言語 (3)	青空文庫の小説を使って機械学習の方法を学ぶ。
第 14 回	機械学習と自然言語 (4)	学習済みモデルを用いてシラバスの文章を分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題 (40%)、計算機実習 (50%) を行い、平常点 (10%) と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整（例えば、機械学習による自然言語処理の内容を多めにするなど）に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（これまでに余り触れたことがない内容だと思うので、高度で細かな部分には踏み込まずに、文系の学生にとって負担なく概要の理解・体験ができれば十分と思っています。実験についても、PC の電源を入れるところから確認しながら気軽に進める予定です。）

【Outline and objectives】

We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation for computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.

MAT300LA

コンピュータと数理の活用

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学で習得する様々な計算の原理自体は万能なものであるが、それらを実際に活用する段階になると手間がかかることが多い。（例えば、平均値を計算する方法自体は分かっているが、実際に 1000 人分のデータの平均値を手で計算する機会はない。）その一方で、身の回りには問題がはむしろ大規模になりがちであり、大きな問題こそ答を知りたいという現状がある。こうしたジレンマに対して、コンピュータによって人間の計算力を補い、実生活で直面するような大規模な問題の答を求める技術は重要である。そこで、講義では、様々な分野の中で「数学の原理」と「コンピュータの計算力」を同時に活用する経験を積むことを主な目的としている。

【到達目標】

講義では「プログラムの全てを自分で設計・作成すること」までは想定せず、あくまでも用意したプログラムを活用して「出来るだけ多くの事例に基づいて、コンピュータと数理を組み合わせた活用の勘を養うこと」を目標としている。各々の課題で扱う数学やアルゴリズムの内容は独立していて、利用するシステムも様々なものがある。（1 つの課題が理解できなくても、次の課題に影響を与えることが少ないことになります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し、状況によっては、より簡単な方向に修正する可能性がある。対面とオンラインのどちらの形式でも取り組めるようにする予定であるが、詳細は学習支援システムで提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入と準備	プログラムを用いた問題解決をデモンストレーションする。
第 02 回	計算機と数学 (1)	整数の理論を利用して、素数の分布を計算してみる。
第 03 回	計算機と数学 (2)	級数などを利用して、円周率を計算してみる。
第 04 回	計算機と数学 (3)	コンピュータを利用した統計的解析の応用事例を学ぶ。
第 05 回	行列計算の応用 (1)	基礎となる数学として、様々な行列の計算を学ぶ。
第 06 回	行列計算の応用 (2)	今後 100 年間の日本の世代人口の推移を予測する。
第 07 回	行列計算の応用 (3)	ランダムウォークに基づくシミュレーションを行う。
第 08 回	行列計算の応用 (4)	ディープラーニングへの応用事例を学ぶ。
第 09 回	線形計画法 (1)	線形計画法の例と図形的な解法を学ぶ。

第 10 回 線形計画法 (2)

シンプレックス法の解法とプログラムを紹介する。

第 11 回 線形計画法 (3)

プログラムを利用して経営計画の最適化を行う。

第 12 回 暗号の数理 (1)

基礎となる数学として、Euclid 互除法などの計算を学ぶ。

第 13 回 暗号の数理 (2)

公開鍵暗号の特徴とその計算原理を学ぶ。

第 14 回 暗号の数理 (3)

実際にプログラムを通して暗号通信の実験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題 (40%)、計算機実習 (50%) を行い、平常点 (10%) と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（これまでに余り触れたことがない内容だと思うので、高度で細かな部分には踏み込まずに、文系の学生にとって負担なく概要の理解・体験ができれば十分と思っています。実験についても、PC の電源を入れるところから確認しながら気軽に進める予定です。）

【Outline and objectives】

We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, a method to use computer programs is explained in this course. More specifically, the effectiveness of computer programs is observed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography.

MAT300LA

確率の世界 A

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思いついて入っている人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し、代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味をもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	確率の基礎 1	確率とは
第 3 回	確率の基礎 2	確率の性質
第 4 回	確率の基礎 3	確率空間とは
第 5 回	確率の基礎 4	事象の独立性
第 6 回	確率の基礎 5	確率変数の使い方
第 7 回	確率の基礎 6	期待値とは
第 8 回	確率の基礎 7	期待値の性質
第 9 回	確率の基礎 8	分散とは
第 10 回	確率分布 1	分散の性質
第 11 回	確率分布 2	二項分布とは
第 12 回	確率分布 3	二項分布の性質
第 13 回	確率分布 4	二項分布の期待値と分散
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and methods in probability.

MAT300LA

確率の世界 B

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思いついていない人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学習する。授業内で興味をもてるような題材に数多く接することで、より具体的な統計学の理解を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	様々な分布 1	離散分布とは
第 3 回	様々な分布 2	ポアソン分布とは
第 4 回	様々な分布 3	ポアソン分布の性質
第 5 回	様々な分布 4	ポアソン分布と二項分布
第 6 回	様々な分布 5	正規分布とは
第 7 回	様々な分布 6	正規分布の性質
第 8 回	様々な分布 7	正規分布と二項分布
第 9 回	推定と検定 1	標本の定義
第 10 回	推定と検定 2	標本平均と標本分散
第 11 回	推定と検定 3	点推定
第 12 回	推定と検定 4	区間推定
第 13 回	推定と検定 5	仮説と棄却
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「確率の世界 A」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and methods in statistics.

PHY300LA

相対性理論と宇宙 A

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とか SF の世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中には相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、特殊相対性理論の基本的な考え方を学び、現実の世界で何が起きているのか科学的な理解を深める。

【到達目標】

- ・特殊相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・特殊相対性理論の効果が顕著になるような光のスピードに近い速さで運動したりすることを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	運動に関する考察	天動説から地動説、ニュートンの運動法則、ガリレオの意味での相対性原理について
[3]	光に関する考察	光の速さや光で情報が伝わることについて
[4]	エーテル	エーテルとは何か理解し、エーテルの検出をしようとした実験とその結果の持つ意義について
[5]	同時とは	思考実験を通じて、同時であるということの意味を考える。
[6]	時間の遅れ	光時計を用いた思考実験を通じて、時間の遅れについて考える。
[7]	長さの収縮	物の長さ、あるいは2地点の距離を測る思考実験を通じて、長さ（距離）の収縮について考える。
[8]	時空図	時空の中で起きている現象（事象とも呼ぶ）を抽象的に表現する方法である時空図について

- | | | |
|------|-----------|---|
| [9] | 速度の合成則と質量 | 動いている観測者から見た物体の速さがどうなるのか考え、速度の合成則と質量の変化について |
| [10] | 質量とエネルギー | 公式 $E=mc^2$ の意味について考える。 |
| [11] | ミューオン | ミューオンという素粒子について、その性質と相対論との関係について学ぶ。 |
| [12] | 核融合反応 | 太陽の中で起こっている核融合反応について |
| [13] | 相対性理論の応用 | GPS や核融合と相対論との関係について |
| [14] | まとめ | 特殊相対性理論のまとめ |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。
- ・相対性理論は論理的に難しくない。ただ結論が日常経験とすごく離れているので、納得するには時間がかかる。簡単な演習問題などを課すので納得するまで反芻する習慣をつけること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回学習システムにより資料を配布する）

【参考書】

- 一般向けの相対性理論の解説書として：
 - ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）
 - ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、授業参加（20%）、期末レポート（40%）を基本とする。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of special theory of relativity, which becomes evident when one moves as fast as the speed of light.

PHY300LA

相対性理論と宇宙 B

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とか SF の世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中には相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、一般相対性理論の基本的な考え方を学び、我々の住んでいる宇宙に関する理解を深める。

【到達目標】

- ・一般相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・一般相対性理論の効果が顕著になるような非常に重力の強い場所に行くことなどを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	ニュートンのリングと月	万有引力の法則はどのように導かれたのか理解する。
[3]	加速度運動と慣性力	加速度運動をしている観測系における物体の運動について
[4]	重力と時間	時間の進み方に対する重力の影響について
[5]	重力と空間	空間が歪んでいるとはどういうことか、空間の幾何学について考える。
[6]	時空間の歪み	重力が作用しているときの光の進み方について
[7]	宇宙の広がり理解	我々は宇宙をどのように理解してきたか
[8]	宇宙の大きさと膨張宇宙	膨張宇宙の発見とビッグバン宇宙論について
[9]	星の誕生と死・元素合成	太陽のような星の一生と、我々を形作っている元素の歴史について
[10]	アインシュタイン方程式	一般相対論の基礎であるアインシュタイン方程式が、何を意味しているのかについて学ぶ。
[11]	膨張宇宙論	我々の住んでいる宇宙はどうなっているのか、そしてどうなっているのかを考える。

- [12] ブラックホール（1） ブラックホールとは何なのか、そして、その観測方法について学ぶ。
- [13] ブラックホール（2） 銀河系の中心に存在する巨大ブラックホールについて
- [14] 重力波 重力波とは何か、重力波の観測について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。
- ・相対性理論は論理的に難しくない。ただ結論が日常経験とすごく離れているので、納得するには時間がかかる。簡単な演習問題などを課すので納得するまで反芻する習慣をつけること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回授業支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

一般向けの相対性理論の解説書として：

・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著

（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）

・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論

（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）

（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、授業参加（20%）、レポート（40%）を基本とする。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of general theory of relativity, which becomes evident when one is close to a place of very strong gravity field.

PHY300LA

現代の錬金術 A

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。

本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。
- ・元素について、個々の元素の化学的性質や物理的性質だけでなく、社会における利用例などを含めて多角的な観点から理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は資料配布型オンデマンド授業として実施し、資料は学習支援システムにより配布する。配布資料では、高校で物理や化学を履修しなくても理解できるよう、平易に説明する。毎回、授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第 2 回	原子は存在するのか？（1）	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第 3 回	原子は存在するのか？（2）	気体の法則と分子運動論について
第 4 回	原子は存在するのか？（3）	分子運動論から統計力学への発展について概観する
第 5 回	原子は構造を持つのか？（1）	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第 6 回	原子は構造を持つのか？（2）	第 5 回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する
第 7 回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について

第 8 回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子構造の理解について
第 9 回	原子構造（1）	電子配置と元素の周期性、化学結合のしくみについて解説する
第 10 回	原子構造（2）	磁性など、量子力学により説明可能な物質の性質について解説する
第 11 回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第 12 回	原子核と放射線	原子核の性質や放射線について
第 13 回	春学期のまとめ（1）	春学期授業のまとめを行う。また、春学期の授業内容に関連する話題を紹介する
第 14 回	春学期のまとめ（2）	第 13 回までに実施した小テストの講評や解説を中心に、春学期の授業内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明と資料作りを心がけます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of the fundamental modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain attempts of the alchemy in the ancient and middle ages
- ・ Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
- ・ Discuss the evidences that indicates the existence of atoms in scientific laws
- ・ Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
- ・ Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit

PHY300LA

現代の錬金術 B

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金（元素）を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。

本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素が何かを学ぶと同時に、それに基づき、宇宙において物質がどのように誕生し、進化してきたのかを学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。特に、物質の最小単位が何で、それによって身の回りの物質がどのように構成されているのか、それらは宇宙の中でどのように形成されたのかを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は資料配布型オンデマンド授業として実施し、資料は学習支援システムにより配布する。配布資料では、高校で物理や化学を履修しなくても理解できるよう、平易に説明する。毎回、授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	20 世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第 2 回	核力	原子核を結び付けている力（核力）とそのしくみについて
第 3 回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第 4 回	原子核の反応	原子核の崩壊を含め核反応や質量エネルギーについて解説する
第 5 回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第 6 回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第 7 回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する

第 8 回 標準模型

第 9 回 加速器

第 10 回 宇宙における元素合成（1）

第 11 回 宇宙における元素合成（2）

第 12 回 宇宙における元素合成（3）

第 13 回 現代の錬金術

第 14 回 まとめ

第 7 回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する

加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験を解説するとともに、加速器のそれ以外の分野での利用例を紹介する

元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり（ビッグバン）と元素合成についても解説する。

恒星の一生と恒星内部での元素合成について

恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について

これまでの授業内容を踏まえ、人工的に元素を生成・変換する方法について解説する

秋学期授業のまとめを行う。第 13 回までに実施した小テストの講評や解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明と資料作りを心がけます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of the fundamental modern physics. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
- ・ Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
- ・ Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
- ・ Describe the importance of accelerators in modern physics
- ・ Explain the nucleosynthesis in the universe
- ・ Discuss the method to produce gold from the other elements based on the knowledge of the modern physics

PHY300LA

原子核と素粒子 A

2017 年度以降入学者

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この宇宙において元素はどのようにして誕生したのか、ということを理解するために、この授業では、この宇宙には（最近命名された原子番号 113 番ニホニウムなどを含めて）どのような元素がどれくらいの割合で存在するのかということからスタートし、元素の物理学的な実体である原子についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。また元素の存在比や原子の構造を理解することによって、「原子核と素粒子 B」での原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義の全体的な紹介する。
第 2 回	元素の周期律表	周期律表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第 3 回	元素の存在比（地球）	地球上の生物は、どのような元素からできているのか。
第 4 回	元素の存在比（宇宙）	地球以外の天体は、どのような元素からできているのか（最新研究も含めて）
第 5 回	結晶構造	物体は 3 次元的に規則正しい立体的構造をもっている。それはなぜなのか。
第 6 回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質の研究について、解説する。
第 7 回	原子のスペクトル	原子からはどのような光（電磁波）が放出されるのか、解説する。
第 8 回	原子の構造（電子の発見）	電子はどのようにして発見されたのか、紹介する。
第 9 回	原子の構造（原子核の発見）	原子核発見に関する研究について、紹介する。

第 10 回	原子の構造（前期量子論）	ボーアによる原子構造研究について、紹介する。
第 11 回	原子の構造（電子配置）	第 5 回の内容に関して、物体が立体的構造をもつメカニズムについて、解説する。
第 12 回	ミクロの世界の不思議	ミクロの世界における不思議な現象について解説する。
第 13 回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第 14 回	まとめ	まとめを行う。更に「原子核と素粒子 B」についての紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」からの課題 70%と期末試験の成績 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline and objectives】

This course teaches the elementary particle physics, such as the abundance ratio of elements in the universe and the structure of atom and so on. It is the aim of this course to help students understand the element and atom.

PHY300LA

原子核と素粒子 B

2017 年度以降入学者

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この授業では、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はといったどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義全体の説明と共に、20 世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第 2 回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第 3 回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊等に伴うエネルギーについて、解説する。
第 4 回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について解説する。
第 5 回	核分裂反応の応用	原子炉等について紹介する。
第 6 回	核融合反応の応用	熱核融合炉等について紹介する。
第 7 回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について、解説する。
第 8 回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて、解説する。
第 9 回	太陽ニュートリノ問題、ニュートリノ振動	スーパーカミオカンデ等で行われている、ニュートリノ研究について紹介する。
第 10 回	素粒子（クォークとレプトン）	現在までに判明している素粒子の種類や分類について、紹介する。
第 11 回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について、紹介する。
第 12 回	宇宙の進化	ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について、解説する。

第 13 回 宇宙の大規模構造と宇宙 最新の研究について紹介する。
宇宙論

第 14 回 まとめ 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」からの課題 70%と期末試験の成績 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline and objectives】

This course teaches the elementary particle physics, such as the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei, the evolution of star, the elementary particle and the universe and so on. It is the aim of this course to help students understand not only elementary particle and the universe but also the nucleosynthesis in the universe.

BIO300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

島野 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域を訪れ、とびきりの自然に触れ、実際に様々な調査、実習を通して、自然と私達の関係を見つめ直す。生物としての人間の生活も考える。地球における自然と、それを知るための考え方や方法とは何か。生命とは何か。自然と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついている。現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか、人間は他の生物とどのように異なる存在であるのかといった問題を考える。

【到達目標】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に討議、授業およびゼミ形式で行う。夏休みに沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域の現地に訪れ、3泊4日での現地調査、あるいは実習、ディスカッション等をおこなう。再び、事後には討議、授業およびゼミ形式で論文形式にまとめる。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を「論文」にまとめ、論文集を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域で行うフィールドワークについて： パソコンの使い方： 調査の進め方
第2回	南西諸島の自然	南西諸島の自然について
第3回	南西諸島の歴史	南西諸島の歴史について
第4回	生物地理学とは	生物地理学概論
第5回	博物学・学名	博物学について、生物の名前の付け方。
第6回	グループワーク（1）	沖縄県の抱える問題（1）
第7回	グループワーク（2）	沖縄県の抱える問題（2）
第8回	グループワーク（3）	沖縄県の抱える問題（3）
第9回	グループ調査（1）	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第10回	グループ調査（2）	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第11回	グループ調査（3）	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第12回	発表（1）	事前調査の発表（1）
第13回	発表（2）	事前調査の発表（2）

第14回 まとめ、

各自の発表に基づいたまとめ、
フィールドワークのガイダンス、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。
また、レポートを課すので、授業の内容に沿って作成するようにして下さい。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能ですので行わないように。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う実験についてのレポート（50%）および授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（50%）を主たる評価とします。試験は行いません。

※オンライン開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

当然ながら、現地にフィールドワークに行きたいという意見が多いが、コロナ禍の状況をみて判断したいと思います。
メール添付などを用いて、フィードバックを行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント資料の作成をおこなってもらいます。適宜パソコンを使用できるようにしておいて下さい。

【その他の重要事項】

- 1) 現地調査のための、交通費宿泊代が必要です（約 70,000 円ガイド料宿泊料交通量など+保険料 金額は前後することがあります。）。ガイダンスに必ず出席して下さい。
- 2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合にも、再度、選抜を行います。
- 3) 2017 年度以降入学生：【半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」として履修する学生】半期のみの履修登録が可能となる方、教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。
※どちらか一方だけの授業は履修できません。
- 4) 2016 年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学4（自然史）」として履修する方、年間科目として履修する方は、9 月または 2 月のフィールドワークへの参加が可能です。ことを前提とし、履修登録を行う
- 5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、10 分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。
- 6) 9 月の初・中旬に沖縄でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、翌年 2 月に再スケジュールとする。

【Outline and objectives】

We consider the relationship between the biodiversity and culture of human being in Okinawa region, Southern Japan.

BIO300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

島野 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域を訪れ、とびきりの自然に触れ、実際に様々な調査、実習を通して、自然と私達の関係を見つめ直す。生物としての人間の生活も考える。地球における自然と、それを知るための考え方や方法とは何か。生命とは何か。自然と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついている。現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか、人間は他の生物とどのように異なる存在であるのかといった問題を考える。

【到達目標】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、フィールドワーク（1）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域で行うフィールドワークについて；
第 2 回	ガイダンス、フィールドワーク（2）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域概説
第 3 回	ガイダンス、フィールドワーク（3）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域概説
第 4 回	ガイダンス、フィールドワーク（4）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	森林ツアー、森林の生物多様性

第 5 回	ガイダンス、フィールドワーク（5）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	森林ツアー、湿地の生物多様性
第 6 回	ガイダンス、フィールドワーク（6）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	森林ツアー、夜の森林の生物多様性
第 7 回	ガイダンス、フィールドワーク（7）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	奥集落での共同体とは
第 8 回	ガイダンス、フィールドワーク（8）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	奥集落での共同体とは
第 9 回	ガイダンス、フィールドワーク（9）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	イノリの生物多様性
第 10 回	ガイダンス、フィールドワーク（10）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	ヤンバルの森林保護
第 11 回	討議（1）【現地フィールドワーク】	世界遺産指定について、
第 12 回	討議（2）【現地フィールドワーク】	エコツーリズムについて
第 13 回	発表【現地フィールドワーク】	各自で調べたテーマについて発表と討議をおこなう。
第 14 回	まとめとガイダンス【現地フィールドワーク】	発表のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。受け身の姿勢では、学習をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。また、レポートを課すので、授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能です。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う実験についてのレポート（50%）および授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（50%）を主たる評価とします。試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

当然ながら、現地にフィールドワークに行きたいという意見が多いが、コロナ禍の状況をみて判断したいと思います。メール添付などを用いて、フィードバックを行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント資料の作成をおこなってもらいます。適宜パソコンを使用できるようにしておいて下さい。

【その他の重要事項】

- 1) 現地調査のための、交通費宿泊代が必要です（約 70,000 円ガイド料宿泊料交通量など+保険料 金額は前後することがあります.）。ガイダンスに必ず出席して下さい。
- 2) 受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合には、選抜を行いますので、最初の授業には必ず出席して下さい。
- 3) [半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」として履修する学生] 半期のみの履修登録が可能となる方。
教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。 ※どちらか一方だけの授業は履修できません。
- 4) 年間科目「自然史」または哲学専攻科目「人間学Ⅳ（自然史）」として履修する方。
年間科目として履修する方は、9 月または 2 月のフィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行う
- 5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10 分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード 2 枚で 1 回欠席となります。
- 6) 9 月の初・中旬に沖縄でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、翌年 2 月に再スケジュールとする。

【Outline and objectives】

We consider the relationship between the biodiversity and culture of human being in Okinawa region, Southern Japan.

CHM300LA

イオンの科学 A

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義と実験を行います。授業ごとに簡単な実験を行い、ミニレポートを課します。高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識します。実験回で提出する小レポートについて、次回はじめに解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	原子の構造	原子の構造と性質
第 3 回	砂糖と塩	イオンと有機化合物の違いについて
第 4 回	塩の溶解	水に溶けやすい塩と溶けにくい塩について
第 5 回	電子の配置	イオンになりやすい原子について
第 6 回	炎色反応	各種原子固有の光について
第 7 回	ホウ砂球反応	各種イオンを含む水溶液の色について
第 8 回	3d 遷移金属	電子の軌道について
第 9 回	水と酸塩基	水中のイオンの構造について
第 10 回	イオンの化学反応	イオンと化学物質の結びつきについて
第 11 回	金属イオンの分離 1	イオンの沈殿反応について
第 12 回	金属イオンの分離 2	沈殿生成によるイオンの分離
第 13 回	金属イオンの定性分析	未知試料に含まれる金属イオンの検出
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

実験回に課すレポートで平常点 (配分 70%) を評価し、学期末試験 (配分 30%) とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行われます。
席に限りがあることや、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。
受講希望者が 20 名以上の場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行います。

【Outline and objectives】

This course introduces the fundamental principles of ions. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM300LA

イオンの科学 B

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義と実験を行います。授業ごとに簡単な実験を行い、ミニレポートを課します。高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識します。実験回で提出する小レポートについて、次回ははじめに解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	溶液の濃度	溶液中に含まれる分子、イオンの数について
第 3 回	中和反応と pH の変化	中和反応における pH 変化の測定
第 4 回	弱酸と解離定数	物質としての酸、塩基の強弱を表す指標について
第 5 回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて
第 6 回	ボルタの電池と標準電位	電池における電解質の役割について
第 7 回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験
第 8 回	亜鉛めっきと合金	金属銅への亜鉛めっきとその合金の作成
第 9 回	無電解めっき	めっきの歴史と電気を使わないめっきについて
第 10 回	自己触媒型無電解めっき	めっきされた金属が触媒となって進行するめっき反応について
第 11 回	フォトレジスト	光化学反応による構造変化によって溶解度が変わる仕組みについて
第 12 回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止するための方法について
第 13 回	イオン液体	イオンのみからなる液体とその応用について
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

実験回に課す小レポートを平常点 (配分 70%) とし、学期末試験 (配分 30%) とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行います。

席に限りがあることや、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。

受講希望者が 20 名以上の場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行います。

ただし、「イオンの科学 A,B」通年履修者を優先しているため、抽選を行わず、履修を受け付けない場合があります。

【Outline and objectives】

This course introduces the fundamental principles of ions. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM300LA

光と色の科学 A

2017 年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

人間の目がどうやって色を認識するのが理解できます。ろうそくの炎、蛍光灯、LED などが光る仕組みと違いを学ぶ。自然界にある色、あるいは人工的に作り出された色と光の関係を科学的に理解する。分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実験室での対面授業を基本とします。講義が主体ですが、できるだけ実際に見たり、触れたりしながら授業を進めたいので、いろいろな道具を使ったり、簡単な実験も行う予定です。講義の最後に、毎回、簡単な課題を出して、理解度を確認します。課題の解説は原則、翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	1 年間分の講義の中身についてどのようなものか紹介します。
第 2 回	光と色の混色	光を混ぜ合わせた時と色素を混ぜ合わせた時の違いについて学びます。
第 3 回	視覚と色覚	目の構造と色覚についてその仕組みを学びます。
第 4 回	色覚の変遷と色覚異常	色覚異常の仕組みと視覚、色覚の進化について解説します。
第 5 回	電磁波と光	光は電磁波の一種です。大きな範囲の電磁波について学びます。
第 6 回	光の利用	身の回りにおける光や電波の利用について解説します。
第 7 回	光源の種類と発光の仕組み その 1（放電管・蛍光灯・電球）	ネオンサインと蛍光灯、電球の発光原理の違いについて学びます。
第 8 回	光源の種類と発光の仕組み その 2（電球と LED）	LED の発光原理を解説します。同じ電気で発光しているのに電球や蛍光灯ともまた違った原理で光っています。

第 9 回	オーロラ	オーロラの発光原理を学びます。
第 10 回	生物発光	ホタルや夜光虫、オワンクラゲの発光原理とその応用を学びます。
第 11 回	化学発光（実験）	ルミノール発光は血痕鑑定という犯罪捜査に利用されていますが、その仕組みを実験を通じて学びます。
第 12 回	屈折と散乱	屈折や散乱の仕組みを学び、虹や空の色を理解する。
第 13 回	干渉と偏光	干渉や偏光の仕組みを学び関連する身の回りの現象や応用例を理解する。
第 14 回	まとめ	春学期の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心をもち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.
江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回科す課題への取り組み（30 %）と期末試験の結果（70 %）を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっており、理科が不得手な人にはちょっと難しい内容となっているようです。基本的なところから解説していますが、同じことを繰り返して説明する時間的余裕はありません。欠席しがちな人は履修しても理解できずに終わるものと思いますので、確実に出席できる方の履修を希望します。20 年度は実験室での対面授業ができず、道具を使つての実験や観察ができませんでした。21 年度はコロナ対応のもと、実験室での対面授業とし、実験や観察も授業内に取り入れる予定です。

【その他の重要事項】

いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員（24 名）を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず初回の授業に出席してください。定員を超えた場合はその中から選抜を行います。A と B、両方の受講が望ましいので、秋学期の B についても春学期の初回で選抜を行います。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course “A” deals with behavior of light, correlation between light and color, systems of light emitting and mechanism of visual perception.

CHM300LA

光と色の科学 B

2017 年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

顔料と染料の違い、特徴を理解する。
色のあるものとならないものの違いが何に起因するのか理解できる。
色が条件によって変化する仕組みを理解する。
色を表現する方法、染色する技法について学ぶ。
分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

実験室での対面授業を基本とします。講義が主体ですが、できるだけ実際に見たり、触れたりしながら授業を進めたいので、いろいろな道具を使ったり、簡単な実験も行う予定です。講義の最後に、毎回、簡単な課題を出して、理解度を確認します。課題の解説は原則、翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	光と色の関係	光の 3 原色と色素の 3 原色の関係を人間の視覚とともに解説します。
第 2 回	伝統色名と表色系	基本色や伝統色名の語源や、色を伝える方法を学びます。
第 3 回	古代の色素	高松塚古墳の壁画や、古代に使用された染色材料など、古代の人々が利用した色材について解説します。
第 4 回	顔料と染料	顔料と染料の違いを学びます。
第 5 回	遷移金属イオンの色	電子配置と色の関係を金属イオンをもとに解説します。
第 6 回	宝石の色	宝石を題材に、顔料が光を吸収する仕組みを学びます。
第 7 回	有機化合物の構造と結合	化学結合の仕組みと多様な有機化合物の反応性を学習します。
第 8 回	染料分子の構造	染料分子の光吸収の仕組みを解説します。
第 9 回	自然界の色	自然界で利用されているいろいろな色素の種類と構造を学びます。

第 10 回	光合成と呼吸	光合成と呼吸の仕組みを学び、合わせて関連する分子の類似点を学びます。
第 11 回	染色の方法と種類	伝統的な染色の技法を学びます。
第 12 回	染色実験	草木染を実際に行います。
第 13 回	身の回りの色	銀塩写真やボラロイド、温度で色の変わるグッズの仕組みについて学びます。
第 14 回	まとめ	授業の内容の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心をもち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.

江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回科す課題への取り組み (30 %) と期末試験の結果 (70 %) を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっており、理科が不得手な人にはちょっと難しい内容となっているようです。基本的なところから解説していますが、同じことを繰り返し説明する時間的余裕はありません。欠席しがちな人は履修しても理解できずに終わるものと思いますので、確実に出席できる方の履修を希望します。20 年度は実験室での対面授業ができず、道具を使つての実験や観察ができませんでした。21 年度はコロナ対応のもと、実験室での対面授業とし、実験や観察も授業内に取り入れる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員 (24 名) を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず春学期の「光と色の科学 A」の初回の授業に出席してください。定員を超えた場合はその中から選抜を行います。A と B、両方の受講が望ましいので、秋学期の B についても春学期の初回で選抜を行います。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course “B” deals with characteristic of pigment and dye, correlation between color and molecular structure, how to dye cloth, and color coordination system.

CHM300LA

物質の科学 A

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮いたします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom 等を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第 1 回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。毎回の授業では、まず、学習支援システム（HOPPII）からプリント教材をダウンロードして各自で印刷します。そのプリント教材をよく読んでから授業に臨んでください。各テーマごとに講義、演習、および、実験を取り入れた授業を行います。基本的には、講義や演習はオンライン授業で、実験は対面授業にて行う予定です。実験日は、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。各テーマごとに課題として演習問題や実験レポートの作成・提出を行います。完成した課題は HOPPII をとおして提出します。提出していただいた課題については次回の授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第 2 回	化学実験入門 (1)	安全に化学実験を行うための注意事項やノートの取り方について講義します。
第 3 回	化学実験入門 (2)	実験器具や試薬類の取り扱い方法を学習します。
第 4 回	レジンアートの解説	レジンアートに関連する化学について学習し、実際の作成に備えます。

第 5 回	ドライフラワーの作成	シリカゲルを使用してドライフラワーを作成し、シリカゲルの構造や性質について理解します。
第 6 回	シリコン樹脂の合成	二液混合型の透明シリコン樹脂を合成します。その際、第 5 回で作成したドライフラワーの入った型に樹脂を流し込み、レジンアートを作成します。
第 7 回	化学基本事項の説明 (1)	物質の基本単位である分子について概要を講義します。
第 8 回	化学基本事項の説明 (2)	分子の立体的な構造がどのように決まるのかを学習します。
第 9 回	化学基本事項の説明 (3)	簡単な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第 10 回	化学基本事項の説明 (4)	石けんなどの複雑な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第 11 回	香料の精製と分析	水蒸気蒸留およびクロマトグラフィーについて原理を学習します。
第 12 回	香料 (ラベンダー) の精製	水蒸気蒸留によってラベンダーのつばみから精油を取り出します。
第 13 回	香料 (ラベンダー) の分析 (1)	薄層クロマトグラフィーの原理を学習し、薄層プレートやキャピラリの準備を行います。
第 14 回	香料 (ラベンダー) の分析 (2)	ラベンダー精油について薄層クロマトグラフィーを行い、成分の分析を行います。なお、残ったラベンダー精油は、物質の科学 B (秋学期開講) で合成する石鹸の香料として使用します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行って課題やレポート作成をおこなってください。

【テキスト (教科書)】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、出席 (25 %)、各テーマ毎に提出するレポート (25 %)、および、平常点 (50 %) によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「物質の科学 B」も引き続き受講してください。受講希望者が定員 (24 名) を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生は第 1 回目の授業に必ず出席してください。また、本授業の直後、すなわち、水曜日 4 時限に「教養ゼミ I・II」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに HOPPII の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline and objectives】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and chemical technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances seem to have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, we experience chemical analyses as well as syntheses. Understanding chemistry in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture.

CHM300LA

物質の科学 B

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮いたします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom 等を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第1回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。毎回の授業では、まず、学習支援システム（HOPPII）からプリント教材をダウンロードして各自で印刷します。そのプリント教材をよく読んでから授業に臨んでください。各テーマごとに講義、演習、および、実験を取り入れた授業を行います。基本的には、講義や演習はオンライン授業で、実験は対面授業にて行う予定です。実験日は、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。各テーマごとに課題として演習問題や実験レポートの作成・提出を行います。完成した課題は HOPPII をとおして提出します。提出していただいた課題については次回授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第 2 回	水の硬度	石けんの泡立ちに関係する水の硬度について概要と測定方法を解説します。
第 3 回	定量分析 (1)	水道水や天然水のカルシウムイオン濃度を測定します。
第 4 回	定量分析 (2)	水道水や天然水の硬度を測定します。
第 5 回	油脂の構造と種類	石けんの原料である油脂について分子構造と種類を学習します。

第 6 回	けん化価 (1)	中和滴定によりけん化価を測定します。2 回にわたって測定し精度を確保します。(第 1 回)
第 7 回	けん化価の測定 (1)	物質の基本単位である分子について概要を講義します。
第 8 回	けん化価の測定 (2)	中和滴定によりけん化価を測定します。2 回にわたって測定し精度を確保します。(第 2 回)
第 9 回	けん化価 (2)	測定したけん化価から、石けんを合成する際に必要な水酸化ナトリウムの量がどのように計算されるか学習します。
第 10 回	オリーブ油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、オリーブ油石けんを合成します。
第 11 回	やし油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、やし油石けんを合成します。
第 12 回	透明石けんの合成	測定したけん化価を利用して、透明石けんを合成します。
第 13 回	蒸留・比重	蒸留・比重など物質に関する基本概念を学習し実験方法を解説します。
第 14 回	アルコール濃度の測定	蒸留前・蒸留後の酒類のアルコール濃度を比重測定を通して決定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行って課題やレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、出席（25 %）、各テーマ毎に提出するレポート（25 %）、および、平常点（50 %）によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「物質の科学 A」から連続して受講してください。受講希望者が定員（24 名）を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生は春学期の「物質の科学 A」の第 1 回目の授業に必ず出席してください。

また、本授業の直後、すなわち、水曜日 4 時限に「教養ゼミ I・II」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

【Outline and objectives】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and chemical technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances seem to have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, we experience chemical analyses as well as syntheses. Understanding chemistry in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture.

PRI300LA

I T リテラシー

2017 年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術（Information Communication Technology）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期は、コンピュータの基礎（ソフトウェア・ハードウェア）からネットワーク、プログラミング言語等、コンピュータ科学に関する話題について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第 2 回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第 3 回	2 進数、8 進数、16 進数（1）	2 進数について基礎的な概念を学び、応用である 8 進数、16 進数について学ぶ。
第 4 回	2 進数、8 進数、16 進数（2）	2 進数の計算から、8 進数、16 進数の計算について学ぶ。
第 5 回	2 進数、8 進数、16 進数（3）	2 進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第 6 回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第 7 回	情報システム（1）	CMS（Contents Management System）を中心とした情報システムについて学ぶ。
第 8 回	情報システム（2）	LMS、SNS を中心とした情報システムについて学ぶ。
第 9 回	情報セキュリティ（1）	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第 10 回	情報セキュリティ（2）	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第 11 回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。

第 12 回 ハードウェアの応用 ハードウェアの応用について学ぶ。

第 13 回 インダストリー 4.0 最近話題となっている新しい技術革新について解説する。

第 14 回 まとめ 本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料（PDF）をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

春学期ウェブ試験と平常点において合計が 50%、出席点が 50% で評価する。

【補足】

オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場がある。具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に PC の画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers.

PRI300LA

コンピュータ科学

2017 年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータ科学（Computer Science）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は情報学を中心に応用事例について学ぶ。具体的には、システム開発における要求分析、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第 2 回	ネットワーク（1）	ネットワークの基礎について学ぶ。
第 3 回	ネットワーク（2）	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第 4 回	ネットワーク（3）	ネットワークの応用について学ぶ。
第 5 回	オペレーティング・システム（1）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 6 回	オペレーティング・システム（2）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 7 回	データベース	データベースについて学ぶ。
第 8 回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第 9 回	ソフトウェア工学（2）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第 10 回	人工知能（1）	人工知能の基礎について学ぶ。
第 11 回	人工知能（2）	人工知能の応用について学ぶ。
第 12 回	コンパイラ（1）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。
第 13 回	コンパイラ（2）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を各 2 時間行うことを標準とします。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期期末試験と平常点の合計が 70%、出席点が 30% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に PC の画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course for students is to learn the basics of Computer Science. Students will learn a wide range of theoretical and engineering aspects of computers, including the basics, science, and applied technology.

BIO300LA

人間と地球環境

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、国連の持続可能な開発目標（SDGs）が注目され日本も含め、世界各地で様々な取り組みがされています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワード、人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎に加え社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。そうすることで、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持てるようになると思います。

【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1）種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2）環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3）各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講座では「持続可能性」の観点から様々な話題にふれますが、大まかに二部に分けられます。第一に、私たちの暮らしの場をつくり様々な資源の供給源となる自然環境について、生態系・生物多様性の基本的特徴について学習します。第二に、私たちの生活に欠かさない食糧供給や自然資源の利用に目を向け、農業や資源管理に関連する環境問題や社会的問題について学習します。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、グループワークの機会も設ける予定です。また「学習支援システム（Hoppii）」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則として zoom によるオンライン形式で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境科学と持続可能性	導入として、持続可能性の概念および生態系の基本的特徴について学びます。
第2回	大気の変化と生態系	地球環境における大気の組成、その変化にともなう影響を考えます。
第3回	水の循環と水資源利用	生態系や生命の維持に重要な物質である水の観点から物質の循環や資源の問題を考えます。
第4回	エネルギーの供給	生態系におけるエネルギーの供給と人間社会におけるエネルギーの供給について考えます。

第5回	「土」というもの	日頃目を向けない「足元の世界」に目を向け、土の成り立ちや関連する環境問題について考えます。
第6回	生物多様性はなぜ重要か？	生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の重要性を学びます。
第7回	持続可能な資源利用のための応用生態学	これまでの授業内容の振り返りと資源管理における問題解決へ応用を目的としたグループワークを行います。
第8回	近代農業の功罪	近代農業の成果と環境負荷について解説します。
第9回	食糧生産と環境保全	食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組みについて、事例に基づいて学びます。
第10回	資源開発は持続可能か？	鉱物資源に注目しつつ、自然資源に対する需要・供給に関わる問題を解説します。
第11回	「望まれぬ開発」という問題	発展途上国における「開発」がもたらす環境・社会問題を、現在起きている現場の状況を見ながら考えます。
第12回	多角的問題解決への挑戦	異なる立場の「当事者」の視点を考察しつつ、グローバル経済・開発をテーマとしたグループワークを行います。
第13回	持続可能な社会へ向けて	グローバル社会におけるオルタナティブな発展モデルについて、事例に基づいて考えます。
第14回	地球環境の現状とこれから	学習内容のまとめ。持続可能性の観点から見た現状と将来的展望を含めた全体像の把握を試みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時には Hoppi 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】

授業中に適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1、2）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。総合成績で60%以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。今後も参加型の授業形態について検討していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスの確保。
zoom でのリモート授業になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline and objectives】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective. relationships. In order to do so, students will learn the basic aspects of environmental and social problems.

BIO300LA

Human Impact on the Global Environment 2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

【到達目標】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems, 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course, and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Although this course deals with various topics from the perspective of "sustainability", the course is divided roughly into two parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem and biodiversity, that is to say, the natural world that surrounds us and provides us with essential resources. The second part will focus on environmental and social problems related to agriculture (food production) and use of other natural resources in order to explore our personal involvement in these issues.

The course will be taught mainly in lecture-style classes, however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group activities and discussion. In addition to in-class interactions, students will utilize the learning assistance system (Hoppii) to express their opinions/reactions and to submit questions regarding the materials presented in each class so as to help the instructor to grasp students' progress as well as to address their concerns, as needed. Note that, if the university's action policy level is set to 2, in principle, this class will be taught online via zoom. Details will be announced via the "Hosei portal to pick up information (Hoppii)".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.
Week 3	Water cycle and the use of water resource	Water will be focused as an essential matter for sustaining life and ecosystem, and the water cycle and use of water resource will be discussed.
Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is resource development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system as needed. Standard amount of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40 %), a final assignment (40 %), and participation (20%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course material by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】

Although it is not always possible to strike a good balance between lecture and active student participation, additional efforts will be made to make the course more participatory.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to secure access to Hoppii.
Students will also need to be able to participate in online class, as needed.

【Outline and objectives】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

BIO300LA

ボルボックス生物論 A

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物の進化、特に単細胞生物から多細胞生物への進化を研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた観察・実験とその検討までを、実際に、もしくはオンラインで体験していただきます。それを通じて、対象物を正確に観察する能力、問題解決能力、実験の結果や考察を記述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・毎回、板書を基本とする講義と、テーマに沿った観察・実験を行いながら進めていきます。
- ・授業の説明に従って観察結果をノートに記録したり、課題に取り組んだりしていただきます。それらに対して、授業内で適宜フィードバックを行います。
- ・質問は Zoom のチャット欄や Hoppii の「テスト/アンケート」で受け付け、授業内で回答します。
- ・具体的な授業参加方法については、Hoppii の「お知らせ」をご覧ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	進化のモデル生物としてのボルボックス	授業の概略を説明します。
第 2 回	ボルボックスの観察①	レーウエンフック顕微鏡と同じ原理でボルボックスを見てみましょう。
第 3 回	ボルボックスの観察②	光学顕微鏡の原理を学び、明視野・暗視野で観察します。
第 4 回	ボルボックスの観察③	ボルボックスが回転しながら泳ぐようすや、周りの水流を観察します。
第 5 回	淡水産プランクトンの観察①	池や川の水を顕微鏡で観察し、どのような生き物がいるか調べます。
第 6 回	淡水産プランクトンの観察②	一週間培養した後の野外採集サンプルを観察します。
第 7 回	淡水産プランクトンの観察③	観察結果のまとめを行い、形態や運動性の多様性を理解します。
第 8 回	プラナリアの再生①	高い再生能力を持つ扁形動物プラナリアを切断する実験を行います。
第 9 回	プラナリアの再生②	切断したプラナリアの一週間後のようすを観察・記録します。
第 10 回	プラナリアの再生③	プラナリア再生実験のまとめと考察を行います。

第 11 回	走光性一眼点と鞭毛のはたらき①	光を使ってボルボックスを一箇所に集合させてみましょう。
第 12 回	走光性一眼点と鞭毛のはたらき②	ボルボックスが作り出す水流が、光に対してどのように変化するかを調べます。
第 13 回	走光性一眼点と鞭毛のはたらき③	光を感知する眼点と呼ばれる構造を観察し、走光性のしくみを考察します。
第 14 回	まとめ	第 13 回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 50%（Zoom 出席時にチャットで学生番号を投稿してもらいます。また、課題への取り組みやアンケート参加率も評価します。）
- ・授業ノート 50%（授業の説明に従って記録し、毎回 Hoppii からオンラインで提出していただきます。）
- ・試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はオンラインで実験の様子や顕微鏡像をリアルタイムで見せる形になりましたが、じっくり観察できるなど良い面も多かったようです。また、チャットや反応機能を活用することで授業に参加している雰囲気を感じることができたという意見や、考えたり予想したりする過程・他の学生の発想や疑問点を知ることを通じて学びを得たという感想をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】

- ・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

The green alga *Volvox* is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using *Volvox* and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.

BIO300LA

ボルボックス生物論 B

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物の進化、特に単細胞生物から多細胞生物への進化を研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた観察・実験とその検討までを、実際に、もしくはオンラインで体験していただきます。それを通じて、対象物を正確に観察する能力、問題解決能力、実験の結果や考察を記述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・毎回、板書を基本とする講義と、テーマに沿った観察・実験を行いながら進めていきます。
- ・授業の説明に従って観察結果をノートに記録したり、課題に取り組んだりしていただきます。それらに対して、授業内で適宜フィードバックを行います。
- ・質問は Zoom のチャット欄や Hoppii の「テスト/アンケート」で受け付け、授業内で回答します。
- ・具体的な授業参加方法については、Hoppii の「お知らせ」をご覧ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	進化における多細胞化	授業の概略を説明します。
第 2 回	生活環と形態形成①	ボルボックスの丸い形の形成過程「インバージョン」について学びます。
第 3 回	生活環と形態形成②	インバージョンの過程をタイムラプス撮影します。
第 4 回	生活環と形態形成③	インバージョンの観察結果から、生物の形づくりのしくみと進化について考えます。
第 5 回	有性生殖とその進化①	ボルボックスの有性生殖個体と無性生殖個体を観察して比較します。
第 6 回	有性生殖とその進化②	ボルボックスに近縁の単細胞生物クラミドモナスの有性生殖（接合）の過程を観察します。
第 7 回	有性生殖とその進化③	生物の有性生殖が同形配偶から異形配偶を経て卵生殖へと進化してきた道筋を学びます。
第 8 回	粘菌の行動①	アメーバ状単細胞生物である真性粘菌の探餌行動を調べる実験を行います。
第 9 回	粘菌の行動②	粘菌が移動するようすをタイムラプス撮影し、解析します。
第 10 回	粘菌の行動③	粘菌内部の原形質が往復流動する様子を顕微鏡で観察します。

第 11 回	突然変異体の研究への利用①	突然変異体を利用した生物の研究 方法について学びます。
第 12 回	突然変異体の研究への利用②	単細胞生物クラミドモナスの様々な突然変異体を観察し、特徴を調べます。
第 13 回	突然変異体の研究への利用③	突然変異体解析による研究の実例を示します。
第 14 回	まとめ	第 13 回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 50%（Zoom 出席時にチャットで学生番号を投稿してもらいます。また、課題への取り組みやアンケート参加率も評価します。）
- ・授業ノート 50%（授業の説明に従って記録し、毎回 Hoppii からオンラインで提出していただきます。）
- ・試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はオンラインで実験の様子や顕微鏡像をリアルタイムで見せる形になりましたが、じっくり観察できるなど良い面も多かったようです。また、チャットや反応機能を活用することで授業に参加している雰囲気を感じることができたという意見や、考えたり予想したりする過程・他の学生の発想や疑問点を知ることを通じて学びを得たという感想をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】

- ・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

The green alga *Volvox* is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using *Volvox* and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.

CHM300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：持続可能社会のための化学

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】

持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかがわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための化学を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom 等を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第 1 回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。毎回の授業では、あらかじめ教科書の割り当て部分を読みます。その内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、学習ノート（レジュメ）にまとめます。完成したレジュメは、授業の前日までに課題として学習支援システム（HOPPII）を通して提出します。授業では、各回の担当者が内容の発表を行い、その後の質疑応答を通して理解を深めます。また、提出していただいた課題や発表内容についてのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明をおこないます。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第 2 回	第一章_異なる世界観のはざまで	「異なる世界観のはざまで」を学習する。
第 3 回	第二章_ハバートのベルカーブを滑り落ちる (1)	「数字のまやかし」～「実際の数字は？」を学習する。
第 4 回	第二章_ハバートのベルカーブを滑り落ちる (2)	「悲観論 VS 楽観論」～「最後の石油」を学習する。
第 5 回	第三章_エネルギーと文明の興亡 (1)	「文化の発展とエネルギー」～「熱力学の法則」を学習する。
第 6 回	第三章_エネルギーと文明の興亡 (2)	「経済発展の再考」～「大文明が崩壊する理由」を学習する。
第 7 回	第三章_エネルギーと文明の興亡 (3)	「ローマ帝国の熱力学」を学習する。
第 8 回	第四章_化石燃料時代 (1)	「歴史の真相」～「石油時代の幕開け」を学習する。

第 9 回	第四章_化石燃料時代 (2)	「新たな機動性」～「商業の再構築」を学習する。
第 10 回	第五章_イスラム教という波乱の要素 (1)	「ムハンマドの描いたビジョン」～「西洋の影響」を学習する。
第 11 回	第五章_イスラム教という波乱の要素 (2)	「イスラム化」～「サウジアラビア」を学習する。
第 12 回	第五章_イスラム教という波乱の要素 (3)	「民主主義はいずこへ」～「石油を政治の道具に」を学習する。
第 13 回	第六章_世界の破綻 (1)	「天然ガスでしのぐ」～「重油と気温上昇」を学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成や発表資料作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する予定です。

書籍名：水素エコノミー --- エネルギー・ウェブの時代

著者名：ジェレミー・リフキン

訳者名：柴田裕之

出版社：NHK 出版

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度、ディスカッションへの参加度等を総合的に考慮した平常点によって評価します。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

エネルギーに関する授業内容は好評であったため、引き続き、同様の内容で開講します。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミ I」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミ II」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員（30 名）を超える場合は抽選をおこないます。

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom 等を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第 1 回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。

本授業は、ゼミ形式での授業であり、受講生の皆様のご希望も取り入れながら開講していきたいと思います。取り上げる内容については第 1 回の授業にて確定しますので、それまで教科書は購入しないでください。

本授業に関する質問等は、学習支援システム（HOPPII）を通して受付けます。また、各回の学習範囲やレポート課題についても、HOPPII によって指示いたします。

第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに HOPPII の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline and objectives】

Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as raw materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. In addition, they are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, we will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry.

CHM300LA

教養ゼミ II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：持続可能社会のための化学

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】

持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかがわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための化学を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom 等を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第 1 回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。毎回の授業では、あらかじめ教科書の割り当て部分を読みます。その内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、学習ノート（レジュメ）にまとめます。完成したレジュメは、授業の前日までに課題として学習支援システム（HOPPII）を通して提出します。授業では、各回の担当者が内容の発表を行い、その後の質疑応答を通して理解を深めます。また、提出していただいた課題や発表内容についてのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明をおこないます。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第 2 回	第六章_世界の破綻 (2)	「工業化時代のエントロピーのつけ」～「もっと悪いシナリオ」を学習する。
第 3 回	第七章_現代社会の弱点 (1)	「バイオテロリズム」～「弱点」を学習する。
第 4 回	第七章_現代社会の弱点 (2)	「石油あつての食料生産」を学習する。
第 5 回	第七章_現代社会の弱点 (3)	「電気が停まったとき」～「危地にたつ国家」を学習する。
第 6 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (1)	「脱炭素化」～「エネルギーの錬金術」を学習する。
第 7 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (2)	「水素エネルギーの生産」～「燃料電池 --- ミニ発電所」を学習する。
第 8 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (3)	「分散型電源」～「水素エネルギー・ウェブ（HEW）」を学習する。

- 第 9 回 第八章_水素エコノミー 「車を発電所に」を学習する。
の夜明け (4)
- 第 10 回 第九章_ボトムアップに 「ワールド・ワイド・ウェブの教訓」
による新しいグローバル ～「共有財産としての水素」を学習
化 (1) する。
- 第 11 回 第九章_ボトムアップに 「エネルギーの民主化」～「理論か
による新しいグローバル ら実践へ」を学習する。
化 (2)
- 第 12 回 第九章_ボトムアップに 「貧しい人びとにパワーを」～「[安
による新しいグローバル 心」を見直す」を学習する。
化 (3)
- 第 13 回 第九章_ボトムアップに 「地政学に基づく政治から生物圏に
による新しいグローバル 基づく政治へ」を学習する。
化 (4)
- 第 14 回 まとめ 本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成や発表資料作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する予定です。

書籍名：水素エコノミー ― エネルギー・ウェブの時代

著者名：ジェレミー・リフキン

訳者名：柴田裕之

出版社：NHK 出版

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度、ディスカッションへの参加度等を総合的に考慮した平常点によって評価します。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

エネルギーに関する授業内容は好評であったため、引き続き、同様の内容で開講します。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミ I」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミ II」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員（30 名）を超える場合は抽選をおこないます。

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom 等を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第 1 回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。

本授業は、ゼミ形式での授業であり、受講生の皆様のご希望も取り入れながら開講していきたいと思ひます。取り上げる内容については第 1 回の授業にて確定しますので、それまで教科書は購入しないでください。

本授業に関する質問等は、学習支援システム（HOPPII）を通して受付けます。また、各回の学習範囲やレポート課題についても、HOPPII によって指示いたします。

【Outline and objectives】

Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as raw materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. In addition, they are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, we will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry.

LANe300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Issues in Modern Japanese Society

LASSEGARD JAMES

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced English course examines various aspects of Japanese society (such as system of education, the political economy, foreign immigrants, gender and sexuality, etc.) Most materials will be created by non-Japanese writers.

【到達目標】

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English. Students will be able to improve their speaking and writing skills as a result of participation in this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper and magazine articles) on Japan written by mostly foreign writers, as well as other media, will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, comprehension check, small and large group discussions. Students will participate in debating various topics, will give final presentations and write a term paper.

Most course feedback will be provided in class or through Google Classroom or another online system. Students may also contact the instructor through e-mail correspondence.

NOTE: For the month of April, all classes will be conducted ONLINE.

After the Golden Week Holiday, we will change to an in-person, face-to-face classroom format. Instructions will be provided for students who need to continue to take classes online from May.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction: Defining Quality of Life and Happiness	Self-introductions, course explanation, placement test
2	Japanese university education and student ability	Reading and discussion
3	The economy, careers and the job hunting of University Students	Reading and discussion

4	Gender issues: exploring the low birthrate in Jaapn	Reading and discussion
5	Gender Part II: the role of women in Japanese society	Reading,discussion and debate
6	Multicultural Japan: accepting foreign immigrants	Reading and discussion
7	Immigration in Japan (II)	Reading and discussion, and debate
8	Mid-semester Review	Midterm Essay due.
9	School education related Issues	Review of writing assignments
10	Educational Issues Pt II: School Conformity and Ijime	Readings and discussion
11	School education: the struggle for foreign language aquisition	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students presentations and feedback
13	Nationalism in Japan	Final papers submitted
14	Course wrap up: Pursuit of happiness and life satisfaction	Return final papers

【Outline and objectives】

The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that may affect them, and to give students the opportunity to discuss them in English.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Readings must be done prior to class sessions. Students are responsible for looking up unfamiliar vocabulary and preparing short answers for discussion questions, which are usually posted beforehand. Students will prepare to give a presentation and must submit a final paper for credit. Students will likely need approximately two hours or preparation time for each class session.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. Reading materials will be provided by the instructor.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary either in paper or electronic format to use both in and outside of class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated based their willingness to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm essay and Final report: 50%

Presentation: 20%

【学生の意見等からの気づき】

Students should have some prior experience writing essays and/or reports in English, Students may do short debates in pairs or groups.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences. One more absence may be permitted if verification is provided (For job hunting, etc)

In general, auditing the course (聴講) is not allowed and students must register for course credit. However, students may choose to audit the course after receiving approval from the instructor.

International (ESOP) Students are also welcome to enroll in this course if they have sufficient English proficiency.

LANe300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

LASSEGARD JAMES

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

【到達目標】

Students will be able to improve their academic speaking and writing skills as a result of participation in this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper articles, etc) from mostly foreign writers will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, small and big group discussions, occasional debates and final presentations by students. Readings and topics may change somewhat based on the preference and convenience of class members.

Course feedback will be provided in class and on written assignments, as well as through Google Classroom or another system. Students may correspond with the instructor via e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction: How to affect societal change with creation and revision of policy	Reading and discussion
2	How Japan is viewed overseas	Reading and discussion
3	Japan as viewed overseas (II)	Reading, video, & discussion
4	Nationalism in Japan: defining xenophobia	Reading, discussion & debate
5	Nationalism in Japan(II): the so-called "insular" student	Reading, discussion & debate
6	The declining birthrate: youth trends in Japan	Midterm reflection paper due

7	Youth trends (II): the decline of marriage	Return midterm essay; lecture on improving writing
8	Japanese belief systems: Where do values come from?	Reading and discussion
9	Belief systems (II): Spirituality and organized religion	Readings, discussion and debate
10	Death by Overwork: Made in Japan?	Lecture, readings, video & discussion
11	Overwork Suicide: A National Crisis	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students' individual presentations and class feedback
13	Is Japan's Economy getting worse? The Declinist Debate	Final papers(reports) due
14	Healthy life-work balance: A review	Return final reports & Semester Wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students must come prepared to class by doing the assigned readings, looking up unfamiliar vocabulary words, etc. Students are expected to already know how to write a simple essay, including paragraph writing, introduction, body and conclusion. Approximately two hours each week will be necessary for out of class study time.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. Instructor will provide reading materials each week.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary, either paper or electronic and bring it to class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on their understanding of the material as well as their ability to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm and Final Papers: 50%

Presentation: 20%

【学生の意見等からの気づき】

More opportunities for student debate will be incorporated into classroom activities.

【その他の重要事項】

Attendance is very important. Students who have more than 3 unexcused absences may not receive credit for this course. One additional excused absence may be permitted if proper verification is provided (for job hunting, etc).

Students should have some experience in writing essays or reports in English.

Students may enroll in this course only for fall semester if they wish.

International students (ESOP) are welcome to enroll in this course.

Students wishing to audit the course may do so with the permission of the instructor.

【Outline and objectives】

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan

and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 A 2017 年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。
発音の基礎から始め、ドイツ語での表現の基本を学んでゆきます。
ドイツ語は単語や仕組みが英語とも近く、学びやすい言語です。簡単な練習をとおして一步一步確認しながら進めます。ドイツとヨーロッパについての基礎的な情報も適宜伝えてゆきます。

【到達目標】

ドイツ語による表現のための基礎的な文法事項を習得し、場面に応じたドイツ語の基礎的な表現と語彙を身につける。ドイツとヨーロッパの現在についての基礎的な情報をえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

アルファベット・発音の基礎から始め、ドイツ語の基本的な、しかし必要十分な文法と基本的な表現を学びます。はじめて学ぶ言語なので、わかりやすい、丁寧な説明をしていきます。受講者の理解によって進度も適宜、対応させていきます。学習内容の復習のための課題を出し、「学習支援システム」を通してフィードバックします。授業は当面、Zoom でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス アルファベット	授業の進め方、ねらい。成績評価について。 ドイツ語の基本的な特徴とアルファベット。以下の進捗はおおよそ目安です。
2 回	Lektion0 ドイツ語の発音	前回の復習。 ドイツ語の発音の仕方を学ぶ。
3 回	Lektion1 出会いと自己紹介－動詞の現在人称変化（1）	ドイツ語の人称代名詞と現在人称変化の基本を学びます。
4 回	Lektion1 出会いと自己紹介－動詞の現在人称変化（2）	前回学習した内容をふまえ、練習問題によって自己紹介の基本表現を学びます。
5 回	Lektion1 出会いと自己紹介－動詞の現在人称変化（3）	教科書の対話スケッチによって、自己紹介の基本表現を学びます。
6 回	Lektion2 家族について尋ねる－名詞の性/冠詞の格変化（1）	名詞の性と冠詞の格変化の基本を学びます。
7 回	Lektion2 家族について尋ねる－名詞の性/冠詞の格変化（2）	練習問題によって、名詞の性と冠詞の格変化を用いた表現を学びます。

8 回	Lektion2 家族について尋ねる－名詞の性/冠詞の格変化（3）	対話スケッチによって、名詞の性と冠詞の格変化を用いた会話表現と家族についての語彙を学びます。
9 回	Lektion3 明日の予定を尋ねる－不規則変化動詞/命令形（1）	不規則変化動詞と命令形の基本を学びます。
10 回	Lektion3 明日の予定を尋ねる－不規則変化動詞/命令形（2）	練習問題によって、不規則変化動詞と命令形を用いた表現を学びます。
11 回	Lektion3 明日の予定を尋ねる－不規則変化動詞/命令形（3）	対話スケッチによって、不規則変化動詞と命令形を用いた会話表現を学びます。
12 回	Lektion4 買い物に行く〈1〉－定冠詞類・不定冠詞類（1）	定冠詞類と不定冠詞類の基本を学びます。
13 回	Lektion4 買い物に行く〈1〉－定冠詞類・不定冠詞類（2）	練習問題によって、定冠詞類と不定冠詞類を用いた表現を学びます。
14 回	まとめ	春学期の学習内容をまとめ、まとめの課題を出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容を確実に身につけるためには復習が必要です。

あらかじめ次回の授業の箇所を読んでおきましょう。

また、課題にもかならず取り組みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上野成利・本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』白水社。

【参考書】

電子辞書を含む市販の独和辞典。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加と授業ごとの課題への取り組みを重視します。

春学期の終わりにまとめの課題を出します。

平常点・課題への取り組み 70 %、まとめの課題 30 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な説明を基本とし、参加者の理解を確認しながら、学習内容の復習と進捗とのバランスを取りながら進めてゆく。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能な機器が必要である。

【その他の重要事項】

ドイツ語の既修者、および 1 年次にドイツ語を選択必修言語として学んでいる学生は履修できません。

【Outline and objectives】

German as third foreign language. Key words: grasping grammatical structure of the German language; basic vocabulary and speaking skill; basic knowledge of Germany and Europe today.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 B 2017 年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。春学期に学んだことを復習しながら、後半の基本的な文法事項を学び、ドイツ語の基本的な表現を身につけます。簡単な練習をとおして一步一步確認しながら進めます。ドイツとヨーロッパについての基礎的な情報も適宜伝えてゆきます。

【到達目標】

春学期に学んだことを復習しながら、ドイツ語の基本的な文法と場面に応じた基礎的な表現と語彙を身につける。ドイツとヨーロッパの現在についての基礎的な情報をえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期に引き続いて、ドイツ語の仕組みや表現をわかりやすく、丁寧に説明していきます。練習問題も丁寧に学びます。毎回、学習内容の復習のための課題を出し、「学習支援システム」を通してフィードバックします。授業は当面、Zoom でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Lektion5 買い物に行く〈2〉-複 数形/人称代名詞 (1)	授業の進め方、ねらい。成績評価について。春学期の内容の振り返り。 ドイツ語の名詞の複数形と人称代名詞の基本を学びます。
2 回	Lektion5 買い物に行く〈2〉-複 数形/人称代名詞 (2)	練習問題によって、名詞の複数形と人称代名詞を用いた表現を学びます。
3 回	Lektion5 買い物に行く〈2〉-複 数形/人称代名詞 (3)	対話スケッチによって、名詞の複数形と人称代名詞を用いた会話表現を学びます。
4 回	Lektion6 週末の予定を尋ねる- 前置詞の格支配 (1)	前置詞の使い方の基本を学びます。
5 回	Lektion6 週末の予定を尋ねる- 前置詞の格支配 (2)	練習問題によって、前置詞を用いた表現を学びます。
6 回	Lektion6 週末の予定を尋ねる- 前置詞の格支配 (3)	対話スケッチによって、前置詞を用いた会話表現を学びます。
7 回	Lektion7 趣味について尋ねる- 形容詞の格変化 (1)	形容詞の格変化の基本を学びます。
8 回	Lektion7 趣味について尋ねる- 形容詞の格変化 (2)	練習問題によって、形容詞の格変化を用いた表現を学びます。
9 回	Lektion7 趣味について尋ねる- 形容詞の格変化 (3)	対話スケッチによって、形容詞の格変化を用いた会話表現を学びます。

10 回	Lektion8 昼食を食べに行く- 話 法の助動詞/未来形 (1)	話法の助動詞と未来形の用法の基本を学びます。
11 回	Lektion8 昼食を食べに行く- 話 法の助動詞/未来形 (2)	練習問題によって、話法の助動詞と未来形を用いた表現を学びます。
12 回	Lektion9 駅の窓口で尋ねる- 分 離動詞/接続詞と複文 (1)	分離動詞と接続詞の用法の基礎を学びます。
13 回	Lektion9 駅の窓口で尋ねる- 分 離動詞/接続詞と複文 (1)	練習問題によって、分離動詞と接続詞を用いた表現を学びます。
14 回	まとめ	秋学期の学習内容をまとめ、まとめの課題を出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容を確実に身につけるためには復習が必要です。あらかじめ次回の授業の箇所を読んでおきましょう。また、課題にもかならず取り組みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上野成利・本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』白水社。

【参考書】

電子辞書を含む市販の独和辞典。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加と授業ごとの課題への取り組みを重視します。秋学期の終わりにまとめの課題を出します。平常点・課題への取り組み 70 %。まとめの課題 30 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な説明を基本とし、参加者の理解を確認しながら、学習内容の復習と進捗とのバランスを取りながら進めてゆく。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能な機器が必要である。

【その他の重要事項】

ドイツ語の既修者、および 1 年次にドイツ語を選択必修言語として学んでいる学生は履修できません。

【Outline and objectives】

German as third foreign language. Key words: grasping grammatical structure of the German language; basic vocabulary and speaking skill; basic knowledge of Germany and Europe today.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 2017 年度以降入学者
A

Annette Gruber

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で行う。すべての回を Zoom で実施する。

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることに伴って、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	erste kommunikative Phrasen
2	Begrueßung, Befinden 1	sich begrüßen/ verabschieden
3	Begrueßung, Befinden 2	nach dem Befinden fragen, sich und andere vorstellen
4	Angaben zur Person	ueber den Beruf und Persoenliches sprechen
5	Berufe	Verbkonjugation Singular/ Plural
		Negation
6	Familie 1	Ja/ Nein-Fragen
		Possessivartikel
7	Familie 2	Verben mit Vokalwechsel
8	Einkaufen	Beratungsgespraech, Hilfe anbieten
9	Moebel	Artikel, Personalpronomen
10	Gegenstaende, Produkte 1	um Wiederholung bitten, etwas beschreiben
11	Gegenstaende, Produkte 2	sich bedanken, ein Formular ausfuellen
12	Buero	Telefongespraech
13	Technik 1	Singular/ Plural
14	Technik 2	E-Mail/ SMS

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行う。宿題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

章末ごとくの小テストかレポート (60%), 授業参加（オンライン上でのパフォーマンス）(40%)

これらの観点を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom での授業を行うため、接続可能な機器が必要となる。大学で Zoom 授業を受ける場合は、マイク付きヘッドセットが必要となる。

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 B 2017 年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で行う。すべての回を Zoom で実施する

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Wiederholung
2	Freizeit 1	ueber Hobbys, Faehigkeiten sprechen
3	Freizeit 2	Modalverb koennen
4	Komplimente	Komplimente machen, um etwas bitten, sich bedanken
5	Verabredungen 1	einen Vorschlag machen und darauf reagieren
6	Verabredungen 2	temporale Praepositionen: am, um
7	Essen 1	ueber Essgewohnheiten sprechen
8	Essen 2	Konversationen beim Essen
9	Einladung zu Hause	Konjugation moegen, Wortbildung Nomen + Nomen
10	Reisen	sich informieren, ein Telefonat beenden
11	Verkehrsmittel	trennbare Verben
12	Tagesablauf	temporale Praepositionen: von ... bis, ab
13	Vergangenes	Perfekt mit haben
14	Feste, Vergangenes	Perfekt mit sein temporale Praeposition: im

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行う。宿題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

章末ごと小テストかレポート (60%), 授業参加（オンライン上でのパフォーマンス）(40%)

これらの観点を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom での授業を行うため、接続可能な機器が必要となる。大学で Zoom 授業を受ける場合は、マイク付きヘッドセットが必要となる。

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：独仏文化論

辻 英史、竹本 研史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ・フランス文化交流史

ドイツとフランスはヨーロッパ大陸の中央に位置する隣国同士であり、古くから影響を与えあい、ときには競合したり、激しく対立する関係にあった。このような歴史の経緯から、両国の文化はある部分は共通の要素をもっている一方で、別のある部分はいたって対照的な要素をもっている。

この二国のように共通点と差異を同時に持つ多様な文化が地域のなかに共存していることは、現代ヨーロッパの特徴でもある。この授業では、ドイツとフランスの交流関係の長い歴史の里程標をたどることで、ヨーロッパの文化的な豊かさを知ることとする。ドイツとフランスの歴史や文化に興味があり、訪問の予定がある人には最適な授業である。

なお、ここで言うドイツにはドイツ語圏のオーストリア、スイスの一部などが、フランスにはその海外県や旧植民地だった地域、スイスやベルギーの一部、ルクセンブルクなどが、それぞれ含まれる。

【到達目標】

文化や芸術作品を通じて、ドイツとフランスの相互の文化的な影響関係を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回テーマを設定し、その枠内でドイツとフランスを専門とする 2 名の教員（辻英史・竹本研史）が両国の芸術作品やその背景を紹介したのち、参加者の関心や質問に応じてさらに追加説明を加えたり、議論を広げていく。画像や映像のほか、音楽や文学作品などを取り扱う。

春学期は中世から 19 世紀までの前近代の時期を扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ ドイツとフランス——「宿敵」か？「盟友」か？	ドイツとフランスの歴史概説。
第 2 回	Part 1 中世のドイツとフランス	ローマ帝国のアルプス以北地域への影響と、中世という時代の特徴について。
第 3 回	Part 1 中世のドイツとフランス中世キリスト教文化にみるドイツとフランス	「ロマネスク」芸術と「ゴシック」芸術の両国での普及と発展。
第 4 回	Part 1 中世のドイツとフランス	中世における移動する人びと（巡礼や職人遍歴）について。
第 5 回	Part 2 宮廷社会とバロック	ルネサンス・宗教改革と絶対主義君主政の出現について。

第 6 回	Part 2 宮廷社会とバロック絶対王政とバロック芸術	フランス・ブルボン家の宮廷社会と文化について（絵画や建築、演劇にバロックと古典主義の展開）。
第 7 回	Part 2 宮廷社会とバロック	ドイツ語圏諸領邦の宮廷文化（バロック・ロココの建築）について。
第 8 回	Part 3 アンシャンレジームと 18 世紀市民社会	啓蒙主義の出現とそのヨーロッパへの影響。ドイツ語圏における啓蒙絶対主義君主の登場。
第 9 回	Part 3 アンシャンレジームと 18 世紀市民社会	18 世紀ドイツ語圏の都市音楽文化について（バロックから古典主義へ）。
第 10 回	Part 3 アンシャンレジームと 18 世紀市民社会	文学にみる 18 世紀市民文化の発展。
第 11 回	Part 4 フランス革命とナポレオン戦争	フランス革命の経緯とその政治文化の形成、ドイツ語圏への影響について論じる。
第 12 回	Part 4 フランス革命とナポレオン戦争	神聖ローマ帝国の崩壊とドイツのナショナリズムの目覚めについて。
第 13 回	Part 4 フランス革命とナポレオン戦争	皇帝ナポレオンによる統治と、同時代の芸術について。
第 14 回	まとめ	独仏関係から近代以前のヨーロッパ文化について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業の内容にもとづき、質問や感想を記したリアクションペーパーを作成して提出してもらう。毎回の授業でその前回のフィードバックをおこなう。また授業中は自分の関心にそって積極的に発言・質問して欲しい。

【テキスト（教科書）】

授業中にプリントを配布するほか、モニター・画面で映像・画像を見せる。

【参考書】

授業中に適宜指示するが、山川出版社やミネルヴァ書房から出ている概説書を読んでおくことを勧める。
『新版各国世界史』（山川出版社）
ドイツ（木村靖二編）2001 年。
フランス（福井憲彦編）2001 年。
『世界歴史大系』（山川出版社）
ドイツ（成瀬治／山田欣吾／木村靖二編）全 3 巻、1997 年。
フランス（柴田三千雄／樺山紘一／福井憲彦編）全 3 巻、1995 年。
『世界文化シリーズ』（ミネルヴァ書房）
ドイツ（宮田眞治／島山寛／濱中春編著）2015 年。
フランス（朝比奈美知子／横山安由美編著）2011 年。
『初めて学ぶ〇〇の歴史と文化』（ミネルヴァ書房）
ドイツ（南直人／谷口健治／北村昌史／進藤修一編著）2020 年。
フランス（上垣豊編著）2020 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（15 %）、リアクションペーパー（25 %）、レポート（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

出席皆無の場合、たとえレポートを提出しても単位は認めない。

【学生が準備すべき機器他】

状況によりオンライン授業を実施します。自宅で Zoom に接続して授業を受けることができる環境を準備してください。
教室で授業をする場合も、場合により Zoom に接続してもらうことがあります。そのときはノート PC やタブレットを大学に持ってきてください。

【Outline and objectives】

History of the cultural transfer between France and Germany

LANd300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：独仏文化論

辻 英史、竹本 研史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代におけるドイツとフランスの文化

ドイツとフランスは、長い歴史のなかで相互に交流や対立の関係を結びつつ、それぞれ独特な文化を発展させてきた。とくに 19 世紀以降には、両国の活動はヨーロッパを越えて世界のさまざまな地域に広がり、そのなかには日本も含まれていくことになる。これらの交渉の過程を通じて両国の文化には外部からの影響が深く刻み込まれることになり、その一方でいわゆる「ドイツらしさ」「フランスらしさ」と呼ばれるような、世界中である程度共通する両国のイメージもまた作り上げられてきたのである。

この授業では、19 世紀から 20 世紀にかけてドイツとフランスがどのような文化をつくりあげ、それをヨーロッパと世界に向けて発信し、どのような影響を外部から受けてきたのかを、いくつかの事例を取りあげて検討する。ドイツとフランスに興味を持ち、両国の文化や芸術について学びたい人、またヨーロッパと世界の関係について学びたい人に最適の授業である。

なお、ここで言うドイツにはドイツ語圏のオーストリア、スイスの一部などが、フランスにはその海外県や旧植民地だった地域、そしてスイス、ベルギーの一部やルクセンブルクなどが、それぞれ含まれる。

【到達目標】

文化や芸術作品を通じて、19 世紀以降のドイツとフランスの社会の特徴と、ヨーロッパや世界に対して与えてきた影響がどのようなものであったかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回テーマを設定し、その枠内でドイツとフランスを専門とする 2 名の教員（辻英史・竹本研史）が両国の芸術作品やその社会背景を紹介したのち、参加者の関心や質問に応じてさらに追加説明を加えたり、議論を広げていく。画像や映像のほか、音楽や文学作品などを取り扱う。

秋学期は 19 世紀から 20 世紀後半までの近代・ポスト近代の時期を扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	近代のドイツとフランスヨーロッパの台風の目
第 2 回	Part 1	市民文化の隆盛
第 3 回	Part 1	市民文化の隆盛

第 4 回	Part 1	市民文化の隆盛	独仏両国における産業社会の発展と、市民文化と労働者文化との対抗関係について。
第 5 回	Part 2	自然への回帰	19 世紀から 20 世紀にかけて、人間と自然の関係がいかに変化してきたのかを芸術作品を例に解説する。
第 6 回	Part 2	自然への回帰	19 世紀末以降出現した、表現主義やアール・ヌーヴォーなど新しい芸術運動を扱う。
第 7 回	Part 2	自然への回帰	ヴァンダーフォージェル、素食主義、裸体主義など世紀転換期に現れた生活改革運動について。
第 8 回	Part 3	帝国主義と植民地文化	社会ダーウィニズムと人種主義を軸に、19 世紀の両国における非ヨーロッパ地域に対する眼差しや姿勢度を明らかにする。
第 9 回	Part 3	帝国主義と植民地文化	ユダヤ人問題・反ユダヤ主義の歴史を文化・芸術の観点から辿る。共生と迫害の歴史から生まれた芸術作品を紹介する。
第 10 回	Part 3	帝国主義と植民地文化	両国における「オリエンタリズム」の展開と人種差別について。ポストコロニアルの時代についても触れる。
第 11 回	Part 4	工業化と芸術	アール・デコ、ドイツ工作連盟、バウハウス説いた 20 世紀初頭の芸術潮流について。
第 12 回	Part 4	工業化と芸術	ル・コルビュジェ、ブルーノ・タウト、ペーター・ベーレンスらに代表されるモダニズム建築と都市計画について。
第 13 回	Part 4	工業化と芸術	映画、写真、ラジオといった複製技術時代の芸術作品を概観する。
第 14 回	まとめ		ドイツとフランスの発展をふりかえり、近代という時代について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業の内容にもとづき、質問や感想を記したリアクションペーパーを作成して提出してもらい。毎回の授業でその前回のフィードバックをおこなう。また授業中は自分の関心にそって積極的に発言・質問して欲しい。

【テキスト（教科書）】

授業中にプリントを配布するほか、モニター・画面で映像・画像を見せる。

【参考書】

授業中に適宜指示するが、山川出版社やミネルヴァ書房から出ている概説書を読んでおくことを勧める。
『新版各国世界史』（山川出版社）
ドイツ（木村靖二編）2001 年。
フランス（福井憲彦編）2001 年。
『世界歴史大系』（山川出版社）
ドイツ（成瀬治／山田欣吾／木村靖二編）全 3 巻、1997 年。
フランス（柴田三千雄／樺山紘一／福井憲彦編）全 3 巻、1995 年。
『世界文化シリーズ』（ミネルヴァ書房）
ドイツ（宮田真治／畠山寛／濱中春編著）2015 年。
フランス（朝比奈美知子／横山安由美編著）2011 年。
『初めて学ぶ〇〇の歴史と文化』（ミネルヴァ書房）
ドイツ（南直人／谷口健治／北村昌史／進藤修一編著）2020 年。
フランス（上垣豊編著）2020 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（15 %）、リアクションペーパー（25 %）、レポート（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

出席皆無の場合、たとえレポートを提出しても単位は認めない。

【学生が準備すべき機器他】

状況によりオンライン授業を実施します。自宅で Zoom に接続して授業を受けることができる環境を準備してください。

教室で授業をする場合も、場合により **Zoom** に接続してもらうことがあります。そのときはノート PC やタブレットを大学に持ってきてください。

【Outline and objectives】

This course deals with the cultural interaction between France/Germany and other countries of the world from the Late Antiquity to the present day.

PHL300LA

ドイツの思想 A

2017 年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニーチェ入門をテーマとする授業です。

不確実な現代を生き、考えてゆくうえで見落とすことのできない思想家ニーチェを取り上げ、基礎的な知識を押さえながら、彼の思想世界をとらえてゆきます。また、現代思想・哲学、芸術に与えた影響にもふれてゆきます。

毎回、導入的なレクチャーをおこなった後、ニーチェの作品から読みやすい箇所を選んで、その言葉に直接ふれながら進めます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

春学期の内容は、初期のニーチェを中心としますが、中期・後期のニーチェも視野に入れます。

授業を通して、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点にふれ、捉えることを目指します。

【到達目標】

初期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテキストにふれることによって、ニーチェ思想への理解を深める。現代思想・哲学、芸術に与えた影響を捉える。概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

導入的な話の後、ニーチェの言葉にふれながら進めてゆきます。一方通行にならないよう、毎回リアクション・ペーパーの提出を求め、リアクション・ペーパーに示された感想や質問に回答しながら進めます。毎時間、テーマごとのレクチャー 40 %、言葉にふれること 40 %、質疑応答 20 % の割合で進めてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

授業は当面、**Zoom** でおこないます。リアクション・ペーパーは学習支援システムでの提出となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方。授業のねらい。ニーチェはどのような哲学者か。以下の進度はおおよその目安です。
第 2 回	ニーチェの生涯と思想。	ニーチェの生涯と代表作について、導入的なレクチャーをおこないます。
第 3 回	『悲劇の誕生』（1）	初期ニーチェの代表作『悲劇の誕生』について、基本的な内容をとらえます。

第4回	『悲劇の誕生』(2)	『悲劇の誕生』の中心概念である「ディオニュソスのもの」と「アポロ的のもの」とを捉え、ギリシア悲劇はどのようなものか、その特徴をとらえ、ニーチェとの関係を考えます。
第5回	『悲劇の誕生』(3)	『悲劇の誕生』におけるソクラテス批判をとらえ、その意義を考えます。
第6回	『悲劇の誕生』(4)	『悲劇の誕生』執筆の際に影響を受けた哲学者ショーペンハウアーに焦点を当て、ニーチェとの接点と違いについて考えます。
第7回	ニーチェとショーペンハウアー	『悲劇の誕生』執筆の際に影響を受けた哲学者ショーペンハウアーに焦点を当て、ニーチェとの接点と違いについて考えます。
第8回	ニーチェとワーグナー	『悲劇の誕生』執筆の際に影響を受けた芸術家ワーグナーに焦点を当て、若きニーチェがなぜワーグナーに傾倒したのかを音楽作品にふれながら考えます。
第9回	ニーチェと芸術	『悲劇の誕生』の基礎にあるニーチェの芸術と音楽についての考えを紹介し、その影響と意義について考えます。
第10回	『反時代的考察』	『悲劇の誕生』とならぶ初期ニーチェの代表作である『反時代的考察』をとりあげ、基本的な論点と時代背景をとらえます。
第11回	初期ニーチェと現代哲学・思想(1)	初期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響をドイツ系の哲学者・思想家を中心にして紹介します。
第12回	初期ニーチェと現代哲学・思想(2)	初期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響をドイツ系の哲学者・思想家を中心にして紹介します。
第13回	初期ニーチェから中期・後期のニーチェへ	ニーチェがワーグナーとショーペンハウアーを批判するに至る経緯をたどり、中期・後期ニーチェ思想の方向性を展望します。
第14回	まとめ	春学期の授業の内容をまとめ、まとめの課題を提示します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートと配布のプリントによって授業の内容の整理をおこない、次の授業にそなえてください。授業の内容について、学習支援システム上でのリアクションを求めた場合には、期限内に提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントでそのつと配布します。

【参考書】

『ニーチェ全集』ちくま学芸文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』世界思想社。渡邊二郎/西尾幹二編『ニーチェを知る事典』ちくま学芸文庫。高辻知義『ワーグナー』岩波新書。ビヒト（青木隆嘉訳）『ニーチェ』法政大学出版局。笠原賢介「ニーチェとプラトン」『法政大学文学部紀要』第79号。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパーを重視します。授業最終日に内容理解の確認のために課題を出します。到達目標を基準にして、平常点と課題を総合して評価します。平常点60%、課題40%。

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・ペーパーへの積極的な記入を心がけてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

Zoomで接続可能な機器が必要である。

【Outline and objectives】

Introduction to the philosophy of the early Nietzsche. Key words: The Birth of Tragedy, Nietzsche as classical philologist, the music of Richard Wagner, Schopenhauer's philosophy, Nietzsche's confrontation with the Platonic tradition, Nietzsche's influence to modern thoughts.

PHL300LA

ドイツの思想B

2017年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニーチェ入門をテーマとする授業です。

ニーチェの中期・後期思想を中心としますが、春学期に取り上げた初期のニーチェ思想も視野に入れてゆきます。

毎回、テーマに関連したレクチャーをおこない、ニーチェの作品から重要な箇所を選んで、ニーチェの言葉に直接ふれてゆきます。ニーチェが現代哲学・思想、芸術に与えた影響についてもふれてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

授業を通して、図式的、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を取り出し、考えることを目指します。

【到達目標】

中期および後期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテキストにふれることによって、ニーチェ思想への理解を深める。現代哲学・思想、芸術への影響をとらえる。ニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

導入的な話の後、ニーチェの言葉にふれてゆきます。一方通行にならないよう、毎回リアクション・ペーパーの提出を求め、リアクション・ペーパーに示された質問や感想に回答しながら進めます。毎時間、テーマごとのレクチャー50%、言葉にふれること40%、質疑応答10%の割合で進めてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

授業は、当面Zoomでおこないます。リアクション・ペーパーは学習支援システムでの提出となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、ねらい。ニーチェはどのような哲学者か。以下の進度はおおよその目安です。
第2回	初期ニーチェ思想と中期・後期ニーチェ思想の違いと連続性	春学期の内容と中・後期ニーチェの著作を概観しながら、初期ニーチェ思想と中・後期ニーチェ思想の違いと連続性を捉え、全体的な見通しを立てます。
第3回	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』—アフォリズム的思考(1)	中期の作品『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』によってニーチェのアフォリズム的な思考の特徴をとらえます。
第4回	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』—アフォリズム的思考(2)	前回の授業の内容を踏まえ、ニーチェのアフォリズム的な思考の特徴を掘り下げます。

第 5 回	『悦ばしき知恵』 — 〈神の死〉	『悦ばしき知恵』によって〈神の死〉をめぐるニーチェの思索を取り出します。
第 6 回	『ツァラトゥストラ』 (1) — 〈身体〉と〈心〉をめぐる	代表作『ツァラトゥストラ』によって〈身体〉と〈心〉をめぐるニーチェの思索をとらえ、考えます。
第 7 回	『ツァラトゥストラ』 (2) — 〈力への意志〉をめぐる	『ツァラトゥストラ』とニーチェの遺稿によって〈力への意志〉をめぐるニーチェの思索をとらえ、考えます。
第 8 回	『ツァラトゥストラ』 (3) — 〈時間〉をめぐる思索	『ツァラトゥストラ』によって〈瞬間〉〈永遠回帰〉をめぐるニーチェの思索をとらえ、考えます。
第 9 回	『道徳の系譜』 — 〈道徳〉への批判	『道徳の系譜』によって、ニーチェがなぜ道徳を批判したのか、論点をときほぐして考えます。
第 10 回	ニーチェと西洋哲学の伝統	これまでの授業をふまえて、ニーチェと彼以前の哲学者との違いと接点を捉えます。
第 11 回	ニーチェと現代の哲学・思想	中・後期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響について、ドイツ系思想家、哲学者を中心に要点をとらえます。
第 12 回	ニーチェと芸術 (1)	ニーチェの近・現代芸術への影響について、絵画を中心に紹介します。
第 13 回	ニーチェと芸術 (2)	ニーチェの近・現代芸術への影響について、音楽を中心に紹介します。
第 14 回	まとめ	秋学期の授業の内容をまとめ、まとめの課題を示します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートと配布のプリントによって授業の内容の整理をおこない、次の授業にそなえてください。授業の内容について、学習支援システム上でのリアクションを求めた場合には、期限内に提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントでそのつど配布します。

【参考書】

『ニーチェ全集』ちくま学芸文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』世界思想社。渡邊二郎/西尾幹二編『ニーチェを知る事典』ちくま学芸文庫。氷上英廣『ニーチェの顔』岩波文庫。ビヒト（青木隆嘉訳）『ニーチェ』法政大学出版局。笠原賢介「ニーチェとプラトン」『法政大学文学部紀要』第 79 号。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパーを重視します。授業最終日に内容理解の確認のための試験をおこないます。到達目標を基準にして、平常点とまとめの課題を総合して評価します。平常点 60 %、まとめの課題 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・ペーパーへの積極的な記入を心がけてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能な機器が必要である。

【Outline and objectives】

Introduction to Nietzsche's Philosophy. Key words: Human- all too Human, Daybreak, The Gay Science, Thus Spoke Zarathustra, On the Genealogy of Morals, Nietzsche's confrontation with the western philosophical tradition, Nietzsche and the art of fin de siecle, Nietzsche's influence to modern thoughts.

LIT300LA

ドイツ語圏の文学 A

2017 年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【小説とその映画化で学ぶ戦後ドイツ】

この授業では、ドイツ語圏の文学作品を、それが原作となった映画と比較・対照しながら読んでいきたいと思います。〈テキスト〉によって作られた文学作品が、〈映像〉というまったく異なるメディアで構成された映画に〈翻訳〉されることは、そもそも可能なのでしょうか？ この〈越境〉によって、何が失われ、何が新たに付け加わっているのでしょうか？

こうした問いを考えるために、春学期の授業では、ドイツの現代史をテーマとする小説と、これを原作として製作された映画をあつかいます。文学とその映画化を読み／観ながら、今日のドイツ社会を作り上げた戦後ドイツの歩みについても学んでいきましょう。

【到達目標】

ドイツ語圏の文学作品を手掛かりに、テキストの内容を的確に理解し、その内容を相手にわかるように表現することができる。文学と映画のメディア的差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。ドイツ語圏の文学史・映画史・現代史に対する関心や理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的・メディア的越境についてお話しします（講義形式）。

また、文学作品と映画作品の表現の違いについて受講生のみなさんにグループで議論してもらい、その結果を発表してもらう時間も設けたいと思います（演習形式）。

文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要について紹介（「ドイツ語圏」とは？ なぜ〈映画化された文学作品〉をあつかうのか？ など）
第 2 回	合わせ鏡としての〈文学〉と〈映画〉？ — ディケンズ、グリフィス、カフカ	〈文学〉と〈映画〉という異なるメディアのあいだで行なわれる翻訳について
第 3 回	「第三帝国」期の日常 (1)	グラス『ブリキの太鼓』とその映画化について
第 4 回	「第三帝国」期の日常 (2)	「映画化は原作への冒瀆」？ — 〈文学作品の映画化〉論について
第 5 回	〈ホロコースト〉を語る (1)	ベッカー『ぼらふきヤーコフ』と映画『聖なる嘘つき』
第 6 回	〈ホロコースト〉を語る (2)	ホロコーストの文学史／映画史について様々な例とともに解説

第7回	愛する人が〈ナチ〉 だったら？（1）	シュリンク『朗読者』とその映画 化『愛を読むひと』
第8回	愛する人が〈ナチ〉 だったら？（2）	戦後世代の「ナチスの過去」との 対決について
第9回	ヒトラーで笑っていい かしら？（1）	ヴェルメシュ『帰ってきたヒト ラー』とその映画化について
第10回	ヒトラーで笑っていい かしら？（2）	〈ナチス〉映画の系譜——〈悪魔〉 から〈凡人〉へ
第11回	旧東ドイツでかすかな 潮騒に耳を澄ます （1）	マイヤー「通路にて」とその映画 化『希望の灯り』
第12回	旧東ドイツでかすかな 潮騒に耳を澄ます （2）	東西ドイツ分裂と再統一をめぐる 文学史／映画史
第13回	「脱原発」への序章 （1）	パウゼヴァング『みえない雲』と その映画化について
第14回	「脱原発」への序章 （2）	ドイツの環境保護運動と文化との かわりについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業であつた文学作品については該当する箇所を日本語（場合によっては英語）で配布するので、事前に目を通しておいください。授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひDVDレンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60％
学期末レポート：40％（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、念のためPCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。
授業の進度により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline and objectives】

Postwar Germany in Novels and Film Adaptations
In this class, we will read literary works from German-speaking countries, comparing and contrasting them with films based on them. In this semester, we will focus on novels about contemporary German history and films based on these novels.

LIT300LA

ドイツ語圏の文学 B

2017 年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**【映画化とともに読むドイツ文学の名作】**

この授業では、ドイツ語圏の文学作品を、それが原作となった映画と比較・対照しながら読んでいきたいと思います。〈テキスト〉によって作られた文学作品が、〈映像〉というまったく異なるメディアで構成された映画に〈翻訳〉されることは、そもそも可能なのでしょうか？ この〈越境〉によって、何が失われ、何が新たに付け加わっているのでしょうか？

こうした問いを考えるために、秋学期の授業では、ドイツ語圏文学の名作といわれる小説と、これを原作として製作された映画をあつかいます。文学とその映画化を読み／観ながら、近現代ドイツ語圏文学史の概要について学んでいきましょう。

【到達目標】

ドイツ語圏の文学作品を手掛かりに、テキストの内容を的確に理解し、その内容を相手にわかるように表現することができる。
文学と映画のメディア的差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。
ドイツ語圏の文学史・映画史・現代史に対する関心や理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的・メディア的越境についてお話しします（講義形式）。また、文学作品と映画作品の表現の違いについて受講生のみなさんにグループで議論してもらい、その結果を発表してもらい時間も設けたいと思います（演習形式）。文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の振り返りと秋学期の予定について
第2回	ゲーテ『ファウスト』と映画（1）	大作『ファウスト』、その成立背景と概要
第3回	ゲーテ『ファウスト』と映画（2）	度重なる映像化をつうじたその変遷をたどる
第4回	ハインリヒ・マン『ウンラート教授』と映画『嘆きの天使』（1）	〈教養〉の失墜と〈新しい女〉の登場：世紀転換期（原作）とヴァイマル期（映画化）のあいだ
第5回	ハインリヒ・マン『ウンラート教授』と映画『嘆きの天使』（2）	トーキー映画が文学作品の映画化に与えた影響
第6回	トーマス・マン『ヴェニスに死す』とその映画化（1）	原作小説の成立背景と概要：「芸術家小説」というジャンル

第7回	トーマス・マン『ヴェニスに死す』とその映画化（2）	テキストと映像のメディア的差異、あるいは：〈美少年〉は映画化可能か？
第8回	テア・フォン・ハルプ『メトロポリス』と映画（1）	名作映画の知られざる（？）原作小説：その成立プロセス
第9回	テア・フォン・ハルプ『メトロポリス』と映画（2）	文学・映画と隣接する芸術領域（モダン建築、モダンダンス……）との比較芸術的關係
第10回	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』『点子ちゃんとアントン』と映画（1）	子供向け小説と映画：「映画は子供の眼で世界を見る」？
第11回	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』『点子ちゃんとアントン』と映画（2）	映画化された状況が物語に与える差異——文脈が物語を変容させる？
第12回	アルフレート・デブリン『ベルリン・アレクサンダー広場』と映画（1）	「映画文体」で書かれた小説が映画化される——文学が映画に学ぶとき
第13回	アルフレート・デブリン『ベルリン・アレクサンダー広場』と映画（2）	1980年のテレビドラマシリーズと「ニュー・ジャーマン・シネマ」の神話
第14回	講義内容のまとめ	〈文学作品とその映画化〉をめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業であつかう文学作品については該当する箇所を日本語（場合によっては英語）で配布するので、事前に目を通しておいください。授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひDVDレンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返しながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60％
学期末レポート：40％（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、念のためPCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。
授業の進度により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline and objectives】

Masterpieces of German Literature Read Along with the Film Adaptations
In this class, we will read literary works from German-speaking countries, comparing and contrasting them with films based on them. In this semester, we will focus on masterpieces of modern German literature and films based on these novels.

ARSk300LA

比較文化 A

2017年度以降入学者

DIETMAR HEIDENREICH

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

法文営国環キ 2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食、メディアと現代文化

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

この授業はオンライン・オンデマンド型での実施となります。参照：【授業の進め方と方法】【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【学生が準備すべき機器他】

【到達目標】

- ・異文化・自文化理解力を深めること。
- ・固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- ・海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。

基本的にさまざまなアプローチメディアを配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	予備考察（1）	「人間とは食べる場所のものがある」とは？ 食文化と人間
②	予備考察（2）	団体主義社会と個人主義社会 「ステレオタイプ」、「偏見」とは？ 良い比較の例、悪い比較の例
③	日本の「食の思想」の特色	和食と「イデオロギー」
④	西洋の「食の思想」の特色	キリスト教の食の思想、近代ヨーロッパの食の思想
⑤	食物タブーと文化	日本のタブーと西洋のタブー
⑥	食と性差	性差と食の嗜好
⑦	国際化の中の食文化（1）	現代日本の食の状況
⑧	国際化の中の食文化（2）	現代ヨーロッパの食の状況
⑨	食とコミュニケーション	食と人間関係
⑩	文学と映画における食文化（1）	<i>Foodfilm</i> とは何か
⑪	文学と映画における食文化（2）	伊丹十三『タンポポ』などについて

- ⑫ 文学と映画における食文化（3） 小説『バベットの晩餐会』について
- ⑬ 文学と映画における食文化（4） 映画『バベットの晩餐会』について
- ⑭ 総復習 総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

川上睦子：『いま、なぜ食の思想か』社会評論社 2015 年。

I. ディーネセン：『バベットの晩餐会』ちくま文庫 1992 年。

【成績評価の方法と基準】

数回提出してもらう課題と、授業での練習問題に取り組む態度（平常点）を総合して評価する。

課題提出等：60%

平常点：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム「Hoppii」を介した方法のみで授業を行うため特殊な機材（Zoom など接続可能な機器）を用意する必要はありませんが、課題用紙を含めて教員から提示される文字資料は基本的に PDF ファイルになりますので、PDF フォームへの文字の入力方法などについてお持ちの PC を確認することを勧めます。

【Outline and objectives】

Food, Media and Contemporary Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will compare mainly Japanese and European representations of food in various visual and printed media.

ARSk300LA

比較文化 B

2017 年度以降入学者

DIETMAR HEIDENREICH

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「神話とメルヘンにおけるシンボル動物」をテーマに、この授業では諸文化間の動物観とそれらのシンボリック意味を比べ、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高める。

この授業はオンライン・オンデマンド型での実施となりました。参照：【授業の進め方と方法】【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【学生が準備すべき機器他】

【到達目標】

- ・人間と動物の関係についての異文化理解を深めること。
- ・固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- ・海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。

基本的にさまざまなアップロードメディアを配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは？	授業の内容と進め方の説明
②	日本の狐と西欧の狐（1）	女性のイメージ対悪魔のイメージ
③	日本の狐と西欧の狐（2）	民話『狐ラインケ』からゲーテ『きつねのライネッケ』へ、課題、ディスカッション
④	日本の変身童話と西欧の変身童話（1）	『日本の昔ばなし』と『グリム童話』の比較
⑤	日本の変身童話と西欧の変身童話（2）	課題、ディスカッション
⑥	宗教と動物（1）	キリスト教のシンボル動物について
⑦	宗教と動物（2）	仏教のシンボル動物について、課題、ディスカッション
⑧	ギリシャ・ローマ神話と動物（1）	イルカ、馬について
⑨	ギリシャ・ローマ神話と動物（2）	動物の犠牲について
⑩	北欧神話と動物（1）	課題、ディスカッション
⑪	北欧神話と動物（2）	課題、ディスカッション
⑫	詩人と白鳥（1）	「レダと白鳥」について
⑬	詩人と白鳥（2）	ワグナー『ローエングリン』について
⑭	総復習	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

数回提出してもらう課題と、授業での練習問題に取り組む態度（平常点）を総合して評価する。

課題提出等：60%

平常点：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム「Hoppii」を介した方法のみで授業を行うため特殊な機材（Zoom など接続可能な機器）を用意する必要はありませんが、課題用紙を含めて教員から提示される文字資料は基本的に PDF ファイルになりますので、PDF フォームへの文字の入力方法などについてお持ちの PC を確認することを勧めます。

【Outline and objectives】

What similarities and differences exist in the concept of animals and their symbols among cultures? This course is designed to allow students to explore the relationship between humans and animals with an emphasis on mythology, religious tradition and literature.

ART300LA

ドイツ語圏の芸術 A

2017 年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語圏の芸術」と聞いて何が思い浮かびますか。「ドイツ語圏」っぽい芸術って一体どんな芸術なのでしょうね、ってそもそも「ドイツ語圏」ってどこでしたっけ？

18 世紀から 19 世紀にかけて、中部ヨーロッパ（当時のドイツ、オーストリアとその周辺）には、「ドイツっぽい（deutsch）」や「ドイツ人（Deutsche）」の正体を、他でもない芸術を通じて追究しようとする人々が現われました。この授業では、秋学期開講の「ドイツ語圏の芸術 B」と併せて、近代ドイツ語圏の造形芸術（建築、デザイン）、音楽を概観することで、「ドイツ語圏の芸術」とカテゴライズされるもののさまざまな内実に迫ります。願わくばこの授業が、みなさんの一生の友となりうる魅力的な創造力との出会いとなりますように。

【到達目標】

第一の目標は、近代のドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイスを中心とする）の文化・芸術に関する理解を深め、概念を通じた知識を習得するとともに、芸術・文化一般に対する知的なアプローチの仕方を学ぶことです。「芸術＝天才・エキセントリックなもの」という今日の世間一般に流布するイメージの成立には、19 世紀の欧州、とりわけドイツ語圏の芸術が決定的に影響したと言っても過言ではありません。

二つめの目標は、造形芸術や音楽の形式分析を通じ、抽象的な議論に慣れることです。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけではなく、21 世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。

三つめの目標は、「ドイツっぽい」というナショナルな表象（とそれに対する抵抗）を概観することで、アイデンティティの実体や困難について思考することです。「ドイツっぽい」の不確かさと同程度には、「日本ならでは…」という言い方もあやしいものかもしれません。当たり前を疑うことの面白さを、ドイツ語圏の芸術の話題を通じて楽しく味わうとともに、その価値について自ら考えてみて欲しいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

造形芸術、舞台芸術、建築、デザイン、音楽などの諸芸術のうち、今学期は 18 世紀末～20 世紀初頭の音楽と造形芸術を時系列に沿って扱います。個別の作品分析とともに、作り手（芸術家）や時代背景、作品受容とその影響について確認する作業が中心です。

・各回、基本的に担当者による解説やテキストの講読を中心とする講義形式で行いますが、適宜ペアワーク、グループワークによる議論の時間を設け、「ここまでの内容・解説についてどう理解しようと思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深められる機会とします。各回の議論でなされたコメントには即時相互のフィードバックが得られます。

・法政大学の 2021 年度授業方針に従い、「対面授業」で行います。初回授業はハイフレックス型（対面＋リアルタイム型オンライン授業）となる可能性が高いです。

・各回授業後には提出課題（小レポート）を書き提出してもらいます。・Hoppii のほか、Zoom と Google Classroom をツールとして使用します。

・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業について（オリエンテーション）、「ドイツ語圏」ってどこ？
第 2 回	ルネサンスから北方ルネサンスへー アルプス山脈を超えてみました	デューラー『野うさぎ』（1502 年）、『メランコリア I』（1514 年）ほか
第 3 回	仕事が欲しい音楽家ー「音楽の国ドイツ」の誕生？！	モーツァルト『弦楽四重奏曲第 1 番ト長調 K.80 (73f)「ローディ」』（1770-1773 年）ほか
第 4 回	ドイツ語で歌うオペラを作りたいー言語と芸術の優劣？	モーツァルト『後宮からの誘拐』（1782 年）『ドン・ジョヴァンニ』（1787 年）『魔笛』（1791 年）
第 5 回	ナポレオン後の世界と 1824 年の衝撃ー真理を「聴く」ための交響曲	ベートーヴェン『交響曲第五番ハ短調作品 67「運命」』（1808 年）『交響曲第九番ハ短調作品 125「合唱付」』（1824 年）
第 6 回	若者たちの憂いー「ドイツリート」の誕生	シューベルト『糸を紡ぐグレートヒェン』（1814 年）とゲーテ『ファウスト（悲劇第一部）』（1808 年）
第 7 回	反動と啓蒙の時代ー合唱と「ドイツ」を讃える歌	「フィルハーモニー」の誕生、「ジング・アカデミー」とゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』（1829 年）
第 8 回	「国歌」を歌ってみたい？ー「ドイツ人としての誇り」	ハイドン『弦楽四重奏曲第 77 番ハ長調「皇帝」』／「神よ、皇帝フランツを守り給え」（1797 年）／H. v. ファーラーズレーベン「ドイツの歌」（1841 年）
第 9 回	歴史を伝える絵画ー都市化するベルリンとドイツ帝国の誕生	メンツェル『ベルリン～ポツダム鉄道』（1947 年）『サンサーシ宮殿でのフリードリヒ大王のフルートコンサート』（1850 年）『鉄匠延機工場』（1872-1875 年）
第 10 回	戦うオーストリアーウィーンのワルツ・ビジネス	J. シュトラウスとその息子との確執、J. シュトラウス 2 世『青き美しきドナウ』（1867 年）『ウィーン気質』（1873 年）ほか
第 11 回	終わりの始まりー権威への思慕と反動のせめぎ合い	ウィーン工房とウィーン分離派（O. ヴァーグナー、J・ホフマンなど）
第 12 回	オワコンなブルジョワの本音ーウィーン世紀末の光と影	クリムト『アデーレ・ブロッホ＝バウアーの肖像』（1907 年）ほか
第 13 回	「新たな時代の生き方」ー「ブリュッケ」（表現主義）	O. ミュラー『水浴する風景』（1906 年）、キルヒナー『ノレンドルフ広場』（1912 年）『ポツダム広場』（1914 年）
第 14 回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業資料に再度目を通すこと。
・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品のカatalogを見る、音楽を聴くなどでできればなお良いです。
・コンサート・ライブや観劇、展覧会訪問などの体験は素晴らしいことです。2020 年以降オンラインの催しは劇的に増え、無料配信のものも数多くあります。「コロナ」ゆえの様々な変化をうまく楽しんでもらえたらと思います。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布します。

【参考書】

宮田真治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015 年）

石多正男『歌曲と絵画で学ぶドイツ文化史 中世・ルネサンスから現代まで』（慶応義塾大学出版会、2014 年）
神林恒道編『ドイツ表現主義の世界 美術と音楽をめぐって』（法律文化社、1995 年）
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

・授業への積極的な参加と議論への貢献（30%）
・授業後の提出課題（40%）
・学期末レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

ハイレックス型の授業となる可能性が高いです。
・Wi-Fi が利用可能なデジタルガジェット（PC ないしスマートフォン、タブレット）
・イヤホン（ヘッドセット／ヘッドフォンマイク）

【その他の重要事項】

・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
・扱われる作品や順序は変更される場合があります。
・ハイレックス型授業が必要な状況で、かつ機能しない場合はまた手段を考えます。随時メールと LMS (Hoppii, Google Classroom) を確認するようにしてください。

【Outline and objectives】

This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the Renaissance to the end of 19. century: It deals with mainly fine arts (including architecture and handcrafts-design) and music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. Our works in this course would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

ART300LA

ドイツ語圏の芸術 B

2017 年度以降入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語圏の芸術」と聞いて何が思い浮かびますか？「ドイツ語圏」っぽい芸術って一体どんな芸術なんだろうね、ってそもそも「ドイツ語圏」ってどこでしたっけ？

20 世紀、「ドイツ語圏」と呼ばれる地域は、二度の大戦を通じて国境線を幾度となく書きかえていきます。芸術家たちがいかに歴史に翻弄され、またそれに抗おうとしたのか？ この授業では、春学期開講の「ドイツ語圏の芸術 A」と併せて、近代ドイツ語圏の芸術（造形芸術、身体・舞台芸術）、建築（デザイン）、音楽を概観すること、で、「ドイツ語圏の芸術」とカテゴライズされるもののさまざまな内実に迫ります。願わくばこの授業が、みなさんの一生の友となりうる魅力的な創造力との出会いとなりますように。

【到達目標】

第一の目標は、近現代のドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイスを中心とする）の文化・芸術に関する理解を深め、概念を通じた知識を習得するとともに、芸術・文化一般に対する知的なアプローチの仕方を学ぶことです。

二つめの目標は、造形芸術や音楽の形式分析等を通じて、抽象的な議論に慣れることです。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけではなく、21 世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。

三つめの目標は、「ドイツっぽい」というナショナルな表象（とそれに対する抵抗）を概観することで、アイデンティティの実体や困難について思考することです。「ドイツっぽい」ものの不確かさと同程度には、「日本ならでは…」という言い方もあやしいものかもしれません。当たり前を疑うことの面白さを、ドイツ語圏の芸術の話題を通じて楽しく味わうとともに、その価値について自ら考えてみて欲しいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

今学期は、20 世紀のドイツ語圏から発信された造形芸術、舞台芸術、建築、デザイン、音楽などの諸芸術を幅広く、おおよそ時系列に沿って扱います。個別の作品分析とともに、作り手（芸術家）や時代背景、作品受容とその影響について確認する作業が中心です。・法政大学の 2021 年度授業方針に従い、「対面授業」で行います。初回授業はハイフレックス型（対面＋リアルタイム型オンライン授業）となる可能性が高いです。

・各回授業後には提出課題（小レポート）を書き提出してもらいます。・Hoppii のほか、Zoom と Google Classroom をツールとして使用します。・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業について（オリエンテーション）、春学期の復習、第一次世界大戦が社会・芸術にもたらした変化
第 2 回	言葉と音の大胆な融合 — 国際都市チューリヒの「反芸術」	H. バル『ダダ宣言』（1916 年）、T. ツァラのチューリヒ・ダダと「キャバレー・ヴォルテールの夕べ」ほか
第 3 回	モダニズムのパラダイム — 混乱と「カラー・ジュ」と「モンター・ジュ」	H. ベルリン・ダダ（R. ハウスマン、H. ヘーヒほか）、K. シュヴィッタース『メルツ絵画』（1919 年）ほか
第 4 回	美と労働と生活の結合 — 田園都市ヘレラウの実験	「デザイン」の時代の到来、ドイツ工作連盟とドイツ工芸工房、教育と芸術の融合、第一次世界大戦と生活改革運動の限界
第 5 回	身体に「リズム」を取り戻す — モダンダンスの革命・女性の時代	ヘレラウ生まれのリトミック、R. ラバンの身体教育構想、M. ヴィグマンの舞踊教育施設ほか
第 6 回	「全ては建築に収束する」 — バウハウスの誕生	W. グロピウス『バウハウス宣言』（1919 年）、表現主義と機能主義の混合、O. シュレンマーの舞台工房と『トリアディック・パレエ』（1922 年）ほか
第 7 回	審美的な芸術から機能主義へ — マイアーと M・v・d・ローエのバウハウス	バウハウス・デッサウ（1925 年）、「皆が平等に豊かな」生活と商業活動のための芸術
第 8 回	ハイパーインフレと虚無の後 — 機械の時代の芸術	O. グロス『大都会』（1927/28 年）、C. シャート『ソーニャ』（1929 年）など
第 9 回	ナチスの権力掌握と芸術 — 「大ドイツ芸術展」と「退廃芸術展」	ナチスによるバウハウスの駆逐、ナチスの権力掌握と焚書（1933 年）
第 10 回	ベルリン・フィルの運命 — 追われるユダヤ系芸術家	フルトヴェングラーのオーケストラ、近衛秀麿の見たベルリン・フィル
第 11 回	「アウシュヴィッツの後、詩を書くことは野蛮である」 — 「ドクメンタ」の誕生	ドイツにモダニズム芸術を取り戻す（第 1 回ドクメンタ）、芸術の意味の多様化、60 年代運動と「芸術家の生き方」（第 5 回ドクメンタ）
第 12 回	社会主義リアリズム — 観てはいけない映画、聴いてはいけない音楽	Th. ブルスイヒ『太陽通り』（1999 年）
第 13 回	電子音楽とクラブカルチャー — ミュジック・コンクレート、テクノ、そして「ラオプ」へ	クラフトワークから「ラブ・パレード」へ、「移民国家」のアイデンティティと NY からやってきたヒップホップ
第 14 回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業資料に再度目を通すこと。
・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品のカタログを見る、音楽を聴くなどでできればなお良いです。
・コンサート・ライブや観劇、展覧会訪問などの体験は素晴らしいことです。2020 年以降オンラインの催しは劇的に増え、無料配信のものも数多くあります。「コロナ」ゆえの様々な変化をうまく楽しんでもらえたらと思います。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布します。

【参考書】

・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015 年）
・W. ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』ちくま学芸文庫、1995 年/1996 年所収）
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業への積極的な参加と議論への貢献（30%）
- ・授業後の提出課題（40%）
- ・学期末レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ハイフレックス型の授業となる可能性が高いです。
- ・WiFi が利用可能なデジタルガジェット（PC ないしスマートフォン、タブレット）
- ・イヤホン（ヘッドセット／ヘッドフォンマイク）

【その他の重要事項】

- ・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
- ・扱われる作品や順序は変更される場合があります。
- ・ハイフレックス型授業が必要な状況で、かつ機能しない場合はまた手段を考えます。随時メールと LMS（Hoppii、Google Classroom）を確認するようにしてください。

【Outline and objectives】

This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the end of 19. century(modernism) to the present era(contemporary art): It deals with mainly fine arts (including architecture and handcrafts-design), theatrical arts as well as classical and popular music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might feel got understand but actually could hardly understand without reflection. The works in the classes would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を6回、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と抗議の回数に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う。基本的に、対面形式での授業実施のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内靴が必要となるので用意すること。授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	レクリエーションスポーツ	・インディアカ・ソフトバレー
3	ラケット種目	・バドミントン シングルス・ダブルス
4	講義予定	・有酸素運動＝エアロビクス 運動について
5	有酸素運動	・ダイエットについて ・ウォーキング 時間と歩数の関係と消費カロリーを知る
6	講義予定	・応急手当てについて RICE 処置・熱中症・脳震盪・コロナウイルス感染症
7	ネットスポーツ 1	・バレーボールの理論と実習

8	ボールゲーム	・バスケットボールの理論と実習
9	講義予定	・自宅でできる筋力トレーニング
10	講義予定	・健康チェックとコンディショニングについて サルコペニア、利き手利き足利き目バランス能力柔軟性
11	講義予定	・バランスチェックとストレッチング
12	ネットスポーツ 2	・卓球シングルの理論と実習
13	ネットスポーツ 3	・卓球ダブルスの理論と実習
14	まとめ	授業のまとめ (レポート課題あり)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。
適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、
 - 2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。
男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。
一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。
新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】

This class aim to study Japanese sport culture.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を6回、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と抗議の回数に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う。基本的に、対面形式での授業実施のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内靴が必要となるので用意すること。授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	授業概要についての説明
2 回目	レクリエーションス	・インディアカ
授業	ボーツ	・ソフトバレー
3 回目	ラケット種目	・バドミントン
授業		・シングルス・ダブルス
4 回目	講義予定 有酸素	・有酸素運動=エアロビクス運動について
授業		・ダイエットについて
5 回目	有酸素運動 有酸素運動の具体例	・ウォーキング 時間と歩数の関係と消費カロリーを知る

6 回目 講義予定 応急手当て	・応急手当てについて RICE 処置・熱中症・脳震盪・ コロナウイルス感染症
7 回目 ネットスポーツ 1	・バレーボール
8 回目 ボールゲーム	・バスケットボール
9 回目 講義予定 筋力トレー	・自宅でできる筋力トレーニング
10 回目 講義予定 健康につい	・健康チェックとコンディショニ
11 回目 講義予定 コンディ	・バランスチェックとストレッチ
12 回目 ネットスポーツ 2	・卓球
13 回目 ネットスポーツ 3	・卓球
14 回目 まとめ	授業のまとめ (レポート課題あり)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %、期末レポート 20 %、授業への参画状況 20 % の配分で評価する。なお欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること

【Outline and objectives】

This course aims to study Japanese sports culture.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・連帯感などの充実に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持増進、体力向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】

本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることをもくきとする。実技においては、最終的に歴史とルールを理解して、ダブルス・シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークを習得していく、同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期・・・リモートにより「知識を知り」「意識をもって」実技で実行すること。基本となるフットワーク・ストローク技術の習得を中心にバドミントンの概要を学ぶ。同時にルールやゲーム方法も学んでいく。

実技においては、最終的にダブルス、シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にゲームの組み立てなどを動画を観戦させながら知識としても理解を深めていく。バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましく、秋学期の授業に関しては、春学期の授業を受講した者のみ受講を認めることとする。

本授業は 1 回目リモート、2 回目・3 回目は対面授業を繰り返しておこないます。

1 回目のリモートの課題を対面授業のときにフィードバック（説明・質疑応答・授業内容の説明）をします。1 4 回目の授業では理解力テストと感想・反省をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（本授業の説明）	対面によりバドミントン授業の説明（場所・内容・評価方法等）次回レポート提出（歴史とルール）
2	バドミントン	歴史とルールのテスト。ラケットとシャトルに慣れる練習と半面シングルス
3	バドミントンシングルのイメージアップ	リモートにより「歴史とルールを理解」、奥原望（リオデジャネイロシングルス銅メダル）の動画を観てイメージアップと課題提出

4	バドミントン	基本ストローク練習（サービス・ドロップ・スマッシュ・レシーブ等）半面シングルス
5	バドミントン	基本練習とシングルスゲーム
6	バドミントンダブルスのイメージアップ	リモートにより「歴史とルールを理解、高橋・松友（リオデジャネイロダブルス大逆転金メダル）の動画を観て」イメージアップと課題提出
7	バドミントン	基本ストローク練習（サービス・ドロップ・スマッシュ・レシーブ等）ダブルス練習
8	バドミントン	基本ストロークとダブルスゲーム
9	バドミントンのトリプルのイメージアップ	リモートにより「歴史とルールを理解、トリプルの動画を観て」イメージアップと課題提出
10	バドミントン	基本ストロークの練習とトリプルスゲーム
11	バドミントン	シングルスゲーム
12	バドミントンのミックスダブルスのイメージアップ	リモートにより「渡辺・東野のミックスダブルスを観て」イメージアップと課題提出
13	バドミントン	ダブルスゲーム
14	総括	歴史とルールの理解力テスト・反省・感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントン技術習得方法として重要な、予習と復習の反復練習は大切な要素です。授業内だけではなく、授業外で地域のスポーツセンター等を活用して、予習・復習することが望ましい。（2時間以上）動画を観てイメージアップを図ること（2時間以上）怪我防止のため軽い運動を行うこと。

【テキスト（教科書）】

資料はその都度配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

個人競技であるため春学期は実技点（60点）とレポート得点（20点）と歴史とルールのテスト得点（20点）

【学生の意見等からの気づき】

授業により（練習・ダブルス等）コミュニケーションを図り、積極的に友達作りをさせること。
昨年同様に授業内で全員に最低1回以上の声掛けを行い、積極的にコミュニケーションづくりをすること。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴。

【その他の重要事項】

怪我防止のために、軽い運動やトレーニングをすること。

【Outline and objectives】

In addition to responding to the essential human desire to move the body, sports provide a sense of exhilaration, accomplishment, and solidarity, as well as maintenance and promotion of health, which is the basis of a prosperous life, improvement of physical strength, and human formation of young people.

It is positioned as an extremely important act that plays an immeasurable role in

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・連帯感などの充実に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持増進、体力向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】

本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることをもくてきとする。実技においては、最終的に歴史とルールを理解して、ダブルス・シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークを習得していく、同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期・・・リモートにより「知識を知り」「意識をもって」実技で実行すること。基本となるフットワーク・ストローク技術の習得を中心にバドミントンの概要を学ぶ。同時にルールやゲーム方法も学んでいく。

実技においては、最終的にダブルス、シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にゲームの組み立てなどを動画を観戦させながら知識としても理解を深めていく。バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましく、秋学期の授業に関しては、春学期の授業を受講した者のみ受講を認めることとする。

本授業は1回目リモート、2回目・3回目は対面授業を繰り返しておこないます。

1回目のリモートの課題を対面授業のときにフィードバック（説明・質疑応答・授業内容の説明）をします。14回目の授業では理解力テストと感想・反省をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（本授業の説明）	対面によりバドミントン授業の説明（場所・内容・評価方法等）次回レポート提出（歴史とルール）
2	バドミントン	歴史とルールのテスト。ラケットとシャトルに慣れる練習と半面シングルス
3	バドミントンシングルのイメージアップ	リモートにより「歴史とルールを理解」、奥原望（リオデジャネイロシングルス銅メダル）の動画を観てイメージアップと課題提出

4	バドミントン	基本ストローク練習（サービス・ドロップ・スマッシュ・レシーブ等）半面シングルス
5	バドミントン	基本練習とシングルスゲーム
6	バドミントンダブルスのイメージアップ	リモートにより「歴史とルールを理解、高橋・松友（リオデジャネイロダブルス大逆転金メダル）の動画を観て」イメージアップと課題提出
7	バドミントン	基本ストローク練習（サービス・ドロップ・スマッシュ・レシーブ等）ダブルス練習
8	バドミントン	基本ストロークとダブルスゲーム
9	バドミントンのトリプルのイメージアップ	リモートにより「歴史とルールを理解、トリプルの動画を観て」イメージアップと課題提出
10	バドミントン	基本ストロークの練習とトリプルスゲーム
11	バドミントン	シングルスゲーム
12	バドミントンのミックスダブルスのイメージアップ	リモートにより「渡辺・東野のミックスダブルスを観て」イメージアップと課題提出
13	バドミントン	ダブルスゲーム
14	総括	歴史とルールの理解力テスト・反省・感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントン技術習得方法として重要な、予習と復習の反復練習は大切な要素です。授業内だけではなく、授業外で地域のスポーツセンター等を活用して、予習・復習することが望ましい。（2時間以上）動画を観てイメージアップを図ること（2時間以上）怪我防止のため軽い運動を行うこと。

【テキスト（教科書）】

資料はその都度配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

個人競技であるため春学期は実技点（60点）とレポート得点（20点）と歴史とルールのテスト得点（20点）

【学生の意見等からの気づき】

授業により（練習・ダブルス等）コミュニケーションを図り、積極的に友達作りをさせること。
昨年同様に授業内で全員に最低1回以上の声掛けを行い、積極的にコミュニケーションづくりをすること。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴。

【その他の重要事項】

怪我防止のために、軽い運動やトレーニングをすること。

【Outline and objectives】

In addition to responding to the essential human desire to move the body, sports provide a sense of exhilaration, accomplishment, and solidarity, as well as maintenance and promotion of health, which is the basis of a prosperous life, improvement of physical strength, and human formation of young people.

It is positioned as an extremely important act that plays an immeasurable role in

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

前原 千佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について 様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	運動と健康について	自身の生活習慣の振り返り 運動と心身の関係
3	食事と健康について	生活習慣病とは BMI 値 五大栄養素について
4	飲酒、喫煙、薬物と健康	それぞれによる身体への影響
5	実技 ：バドミントン①	ストレッチ・体操（フィットネス） バドミントンの基本的技術とルール
6	実技 ：バドミントン②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
7	実技 ：ターゲット型①	ストレッチ・体操（フィットネス） ユニカール、クロリティーの基本的技術とルール

8	近代オリンピックにつ	オリビズムとは
9	いて	
10	パラリンピックの歴史	障がい者スポーツの一例を紹介
11	近代オリンピックをめぐ	ボイコット、商業主義、環境問
12	る諸問題について	題、ドーピング、ジェンダー等
13	実技	ストレッチ・体操（フィットネス）
14	：ターゲット型②	ボッチャ、バタングの基本的技術とルール
15	実技	ストレッチ・体操（フィットネス）
16	：その他の種目①	ドッジボール、フリスビー、ユニ
17	実技	ホッケーの基本技術とルール
18	：その他の種目②	ストレッチ・体操（フィットネス）
19	フットサル、カバディ、3on3（ス	
20	トリートバスケットボール）の基	
21	本的技術とルール	
22	授業の総括	これまでの授業の振り返り
23		自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まることがある。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から新規に授業を担当するため特になし

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること

3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする

4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること。

5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

前原 千佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について 様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業は対面による実技とオンラインによる講義で実施する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	運動と健康について	自身の生活習慣の振り返り 運動と心身の関係
3	筋の構造と特性について	筋の収縮メカニズム 筋の分類
4	トレーニングの原理について	過負荷の原理 超回復とは
5	実技 ：卓球①	ストレッチ・体操（フィットネス） 卓球の基本的技術とルール
6	実技 ：卓球②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
7	実技 ：バレーボール型①	ストレッチ・体操（フィットネス） バレーボールの基本的技術とルール
8	救命救急と応急措置	胸部圧迫と AED の役割について 心肺蘇生法の手順について

9	食事と健康について	生活習慣病とは BMI 値 五大栄養素について
10	メンタルヘルスについて	メンタルチェック リラクゼーション法について
11	実技 ：バレーボール型②	ストレッチ・体操（フィットネス） バレーボールの基本的技術と戦術
12	実技 ：バドミントン①	ストレッチ・体操（フィットネス） バドミントンの基本的技術とルール
13	実技 ：バドミントン②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まる。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から新規に授業を担当するため特になし

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする。

4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

朝比奈 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気の関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツ・ウォーキングについて説明できる。
3. スポーツ・ウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツ・ウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概要し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分におこない、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムをつうじて周知する。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	スポーツ・ウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。

5	スポーツ・ウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
6	ヨガの起源とアーサナー (講義および実習)	ヨガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。 単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
7	ヨガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
8	スポーツ・ウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツ・ウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。 走り型にならないように注意する。
10	ヨガと呼吸 (講義および実習)	ヨガの呼吸法を身に付ける。 呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
11	スポーツ・ウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨガと健康 (講義および実習)	ヨガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。 基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨガとして実践する。
14	まとめ	スポーツ・ウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。

心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。

なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど） 60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
- 3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することがのぞましい。それと同時に通信機器及び通信環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日 15 時～16 時 30 分の 1.5 時間を設ける。

オフィスアワーを利用する場合は、メールを通じて事前に連絡をとることがのぞましい。

【Outline and objectives】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

朝比奈 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨーガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨーガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツ・ウォーキングについて説明できる。
3. スポーツ・ウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツ・ウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概要し、実践することができる。
9. ヨーガの考え方を取り入れたストレッチングが理解できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分におこない、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムをつづいて周知する。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力と健康 (講義および実習)	文部科学省新体力テストの意義や方法を説明する。 体力の概要について、行動体力、防衛体力について説明する。また健康に関わる要素について説明する。
3	身体運動と健康 (講義)	厚生労働省による資料を用いて、生活習慣病と身体活動との関係を明らかにし、運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりを理解する。

4	スポーツ・ウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。
5	スポーツ・ウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
6	ヨーガ思想と歴史 (講義および実習)	ヨーガ思想の起源や歴史について概説し、原始ヨーガ、古典ヨーガ、後期ヨーガなどを理解する。
7	ヨーガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。 アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
8	スポーツ・ウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツ・ウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
10	ヨーガと呼吸 (講義および実習)	ヨーガの呼吸法を理解し実践する。 呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
11	スポーツ・ウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨーガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 (講義および実習)	ヨーガニードラについて説明し、実践を通じて、身体的、精神的変化を感じる。 またヨーガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
14	まとめ	スポーツ・ウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。
心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。
なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
- 3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することがのぞましい。それと同時に通信機器及び通信環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日15時～16時30分の1.5時間を設ける。

オフィスアワーを利用する場合は、メールを通じて事前に連絡をとることがのぞましい。

【Outline and objectives】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツ総合演習

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期・・・リモートにより「知識を知り」、「意識をもって」実技で実行すること。春学期の復讐と応用をおこないます。

経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましい。

本授業は2回のリモート、1回の対面授業を繰り返しておこないます。

2回のリモートの課題を対面授業のときにフィードバック（説明・質疑応答・授業内容の説明）をします。14回目の授業では理解力テストと感想・反省をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	リモートにより「授業の説明（内容・場所等）」
2	バドミントンを知る	リモートにより「バドミントンの歴史とルールを知り」課題を提出
3	バドミントンのイメージアップ	リモートにより「バドミントンの歴史とルールを理解したうえで、高橋・松友リオデジャネイロ大逆転金メダルの動画を観る」課題を提出
4	バドミントンを体感しよう	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・シングルスゲーム」
5	バレーボールを知る	リモートにより「バレーボールの歴史とルールを知る」課題を提出
6	バレーボールのイメージアップ	リモートにより「バレーボールの歴史とルールを理解したうえで、動画を観る」課題を提出
7	バレーボール	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」

8	バスケットを知る	リモートにより「バスケットボールの歴史とルールを知り」課題を提出
9	バスケットボールのイメージアップ	リモートにより「バスケットボールの歴史とルールを理解したうえで、動画を観る」課題を提出
10	バスケットボール	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
11	卓球を知る	リモートにより「卓球の歴史とルールを知る」課題を提出
12	卓球のイメージトレーニング	リモートにより「卓球の歴史とルールを理解したうえで、動画を観る」課題を提出
13	卓球	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
14	総括	総括として「歴史とルールの理解度テスト・反省・感想」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
動画を観てイメージアップをすること。（2時間以上）
地域の体育館等の一般開放で運動を行う（2時間以上）

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。
「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。
この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内の練習等により、積極的にチームワークとコミュニケーションづくりをさせ、友達を多くつくらせる。
昨年同様に授業内で最低一人1回以上の声掛けをして、積極的にコミュニケーションをはかります。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、軽い運動とトレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】

Acquisition and the attitude of the basic knowledge which deepens the understanding about the significance and the role of the body activity and contributes to body-like mental social healthy maintenance increase and self management through a lifetime are brought up through a lecture and a training.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツ総合演習

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期・・・リモートにより「知識を知り」、「意識をもって」実技で実行すること。春学期の復讐と応用をおこないます。

経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましい。

本授業は2回のリモート、1回の対面授業を繰り返しておこないます。

2回のリモートの課題を対面授業のときにフィードバック（説明・質疑応答・授業内容の説明）をします。14回目の授業では理解力テストと感想・反省をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	リモートにより「授業の説明（内容・場所等）」
2	バドミントンを知る	リモートにより「バドミントンの歴史とルールを知り」課題を提出
3	バドミントンのイメージアップ	リモートにより「バドミントンの歴史とルールを理解したうえで、高橋・松友リオデジャネイロ大逆転金メダルの動画を観る」課題を提出
4	バドミントンを体感しよう	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・シングルスゲーム」
5	バレーボールを知る	リモートにより「バレーボールの歴史とルールを知る」課題を提出
6	バレーボールのイメージアップ	リモートにより「バレーボールの歴史とルールを理解したうえで、動画を観る」課題を提出
7	バレーボール	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」

8	バスケットを知る	リモートにより「バスケットボールの歴史とルールを知り」課題を提出
9	バスケットボールのイメージアップ	リモートにより「バスケットボールの歴史とルールを理解したうえで、動画を観る」課題を提出
10	バスケットボール	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
11	卓球を知る	リモートにより「卓球の歴史とルールを知る」課題を提出
12	卓球のイメージトレーニング	リモートにより「卓球の歴史とルールを理解したうえで、動画を観る」課題を提出
13	卓球	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
14	総括	総括として「歴史とルールの理解度テスト・反省・感想」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
動画を観てイメージアップすること。（2時間以上）
地域の体育館等の一般開放で運動を行う（2時間以上）

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。
「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。
この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内の練習等により、積極的にチームワークとコミュニケーションづくりをさせ、友達を多くつくらせる。
昨年同様に授業内で最低一人1回以上の声掛けをして、積極的にコミュニケーションをはかります。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、軽い運動とトレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】

Acquisition and the attitude of the basic knowledge which deepens the understanding about the significance and the role of the body activity and contributes to body-like mental social healthy maintenance increase and self management through a lifetime are brought up through a lecture and a training.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めしていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は 2 年生以上を対象としており、A・B 連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	基本技術・パスの技術習得（実習&講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 3 回	バレーボールの歴史について（講義）	バレーボールの歴史について資料を配布し説明する。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	バレーボールのルールについて・競技場や用具（講義）	バレーボールの競技場や用具に関するルールについて資料を配布し説明する。
第 7 回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	バレーボールのルールについて・ゲームの仕方（講義）	バレーボールのゲームの仕方に関するルールについて資料を配布し説明する。
第 10 回	集団的技術（三段攻撃使用）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（三段攻撃をン用いる）を立ててゲームを行う。
第 11 回	集団的技術（チームコミュニケーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（チームコミュニケーション）を立ててゲームを行う。
第 12 回	バレーボールのルールについて・反則を含めたゲームの仕方（講義）	バレーボールの反則を含めたゲームの仕方に関するルールについて資料を配布し説明する。

第 13 回	集团的技術（総合）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。
第 14 回	授業総括と筆記試験	授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（60 %）を主な基準として、筆記試験（40%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。
・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline and objectives】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、春学期 A で習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業（スポーツ科学 B）は 2 年生以上を対象としており、スポーツ科学 A を受講した学生の連続受講が望ましい。

また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、新規受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、新規の受講希望者には志望理由を記入してもらう。
第 2 回	基本技術、集团的技術の復習（実習&講義）	スポーツ科学 A で行った基本的技術や集团的技術を復習する。
第 3 回	バレーボールのポジションとその役割について（講義）	各ポジションの名称と役割について資料を配布し説明する。
第 4 回	各技術の応用（実習&講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第 5 回	集团的技術・基礎（実習&講義）	スポーツ科学 A とは違うチーム分けをし、チームごとにポジション決定させてゲームを行う。
第 6 回	バレーボールのトレーニングについて・体力測定の意義（講義）	バレーボールに必要な体力要素を理解し、体力測定の意義について講義する。
第 7 回	集团的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 8 回	集团的技術（レセプション戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レセプション）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 9 回	ビーチバレーの歴史について（講義）	ビーチバレーの歴史について資料を配布し説明する。
第 10 回	集团的技術（ディグ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ディグ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 11 回	集团的技術（スパイク戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（スパイク）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 12 回	ビーチバレーのルールについて（講義）	ビーチバレーのルールについて資料を配布し説明する。

第 13 回	集团的技術（ブロック戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ブロック）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 14 回	授業総括とレポート作成、提出	授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い、競技に必要な体力要素などを調べる、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（70%）を主な基準として、レポート（30%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。
・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline and objectives】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：パラスポーツ

秋本 成晴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動・スポーツ全般に関する基礎的知識の獲得とともに、パラスポーツ（障害者スポーツ）に関する理論と実践にふれることで、その社会的意義並びに役割を学ぶ。

【到達目標】

- ①自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③パラスポーツ（障害者スポーツ）について理解を深め、パラスポーツ実践に必要な動きを身につける。
- ④パラスポーツ（障害者スポーツ）実践を通して、他者とのより良いコミュニケーション能力の育成を図る。
- ⑤パラスポーツ（障害者スポーツ）やアダプテーションの必要性和役割について学び、これからの社会づくりに生かせる考え方を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を 6 回程度、教室での講義を 8 回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講を対応する。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

また、本授業では、パラスポーツ（障害者スポーツ）に関する内容への理解を深めるためにも、運動・スポーツに関する基礎的な知識（栄養学やトレーニング理論）を併せて学んでいく。なお、各種理論について講義を通して学び、実習形式の授業を通して運動・（パラ）スポーツの理解を深めることを図る。なお、授業内容については、受講生の数や受講者の様子、理解度や昨今のコロナウイルス感染症に関連する大学方針などを考慮し一部変更することがある。

また、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	ウォーキングストレッチ（講義および実習）	ウォーキングとストレッチについて、その理論と実践を通して学ぶ。
3	スポーツ栄養学（1）（講義）	健康的な生活を送るために必要な栄養学の基礎知識を習得する。

4	スポーツ栄養学（2） （講義）	第3回の内容を踏まえた上で、スポーツ実践や体づくりを目指すための栄養学の知識を習得し、実践できる力を身につける。
5	体づくりとトレーニング（1） （講義）	体づくりを目指す際に必要なトレーニングの基礎知識を習得する。
6	卓球の基礎 （講義および実習）	卓球の基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う
7	卓球の応用 サウンドテーブルテニス （講義および実習）	卓球のテクニック・試合について学び、視覚を制限した状態で行う卓球について学ぶ。
8	体づくりとトレーニング（2） （講義）	第5回で学んだ内容を踏まえ、トレーニング理論に関する応用的な内容を学ぶとともに、実践につながる知識の獲得を目指す。
9	パラリンピックとパラスポーツ （講義）	パラリンピックの競技種目を観戦しながら、障害のある人のスポーツ参加の方法について学ぶ。
10	パラリンピック競技と工夫 （講義）	パラリンピックの競技種目に見られる工夫について学ぶ。
11	フットサル ボッチャ （講義および実習）	授業の前半ではフットサルの基礎について学び、後半ではパラリンピック競技の1つであるボッチャという競技について学ぶ。
12	バレーボール シッティングバレーボール （講義および実習）	バレーボールの基本について学ぶとともに、パラリンピック競技の1つであるシッティングバレーボールという競技について学ぶ。
13	パラスポーツと我々の生活 （講義）	パラスポーツが抱える困難について、我々の生活レベルに落とし込んで考えてみる。
14	総括 （講義）	これまでの授業を振り返り、互いに意見を交換を行い、授業全体の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%

2) 課題レポート 40%

の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義の開始時にその日の授業構成並びに授業のねらいを示すことで、学生の学びを促すようにする。
- ・学生の興味や関心に応じて授業内容を柔軟に変化させ、より学生の状況に合わせた学びを提供する。
- ・授業の終わりに、次回の授業で行う内容について伝えることで、学生が次回の授業のために準備できるようにする。

【その他の重要事項】

- ・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。
- ・受講者数、教場並びに昨今の新型コロナウイルスに伴う大学方針によって、授業計画の順序等が変更になることがある。
- ・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】

Learning about Para-sports (disability sports) and their significance in society as well as learning the basic principles of exercises and sports.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：パラスポーツ

秋本 成晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動・スポーツ全般に関する基礎的知識の獲得とともに、パラスポーツ（障害者スポーツ）に関する理論と実践にふれることで、その社会的意義並びに役割を学ぶ。

【到達目標】

- ①自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③パラスポーツ（障害者スポーツ）について理解を深め、パラスポーツ実践に必要な動きを身につける。
- ④パラスポーツ（障害者スポーツ）実践を通して、他者とのより良いコミュニケーション能力の育成を図る。
- ⑤パラスポーツ（障害者スポーツ）やアダプテーションの必要性和役割について学び、これからの社会づくりに生かせる考え方を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を6回程度、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講を対応する。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

また、本授業では、パラスポーツ（障害者スポーツ）に関する内容への理解を深めるためにも、運動・スポーツに関する基礎的な知識（栄養学やトレーニング理論）を併せて学んでいく。なお、各種理論について講義を通して学び、実習形式の授業を通して運動・（パラ）スポーツの理解を深めることを図る。なお、授業内容については、受講生の数や受講者の様子、理解度や昨今のコロナウイルス感染症に関連する大学方針などを考慮し一部変更することがある。

また、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	ウォーキングストレッチ（講義および実習）	ウォーキングとストレッチについて、その理論と実践を通して学ぶ。
3	スポーツ栄養学（1）（講義）	健康的な生活を送るために必要な栄養学の基礎知識を習得する。

4	スポーツ栄養学（2）（講義）	第3回の内容を踏まえた上で、スポーツ実践や体づくりを目指すための栄養学の知識を習得し、実践できる力を身につける。
5	体づくりとトレーニング（1）（講義）	体づくりを目指す際に必要なトレーニングの基礎知識を習得する。
6	卓球の基礎（講義および実習）	卓球の基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う
7	卓球の応用（講義および実習）	卓球のテクニック・試合について学び、視覚を制限した状態で行う卓球について学ぶ。
8	体づくりとトレーニング（2）（講義）	第5回で学んだ内容を踏まえ、トレーニング理論に関する応用的な内容を学ぶとともに、実践につながる知識の獲得を目指す。
9	パラリンピックとパラスポーツ（講義）	パラリンピックの競技種目を観戦しながら、障害のある人のスポーツ参加の方法について学ぶ。
10	パラリンピック競技と工夫（講義）	パラリンピックの競技種目に見られる工夫について学ぶ。
11	フットサルボッチャ（講義および実習）	授業の前半ではフットサルの基礎について学び、後半ではパラリンピック競技の1つであるボッチャという競技について学ぶ。
12	バレーボールシッティングバレーボール（講義および実習）	バレーボールの基本について学ぶとともに、パラリンピック競技の1つであるシッティングバレーボールという競技について学ぶ。
13	パラスポーツと我々の生活（講義）	パラスポーツが抱える困難について、我々の生活レベルに落とし込んで考えてみる。
14	総括（講義）	これまでの授業を振り返り、互いに意見を交換を行い、授業全体の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%
 - 2) 課題レポート 40%
- の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義の開始時にその日の授業構成並びに授業のねらいを示すことで、学生の学びを促すようにする。
- ・学生の興味や関心に応じて授業内容を柔軟に変化させ、より学生の状況に合わせた学びを提供する。
- ・授業の終わりに、次の授業で行う内容について伝えることで、学生が次の授業のために準備できるようにする。

【その他の重要事項】

- ・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。
- ・受講者数、教場並びに昨今の新型コロナウイルスに伴う大学方針によって、授業計画の順序等が変更になることがある。
- ・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】

Learning about Para-sports (disability sports) and their significance in society as well as learning the basic principles of exercises and sports.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングの理論と実践 I

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 各自の目標達成に資する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践できる。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する基礎的な理論と実践方法について理解を深める。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する知識の幅を広げる。各授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、各自が考案した基礎的なトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。リアクションペーパー等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	トレーニングに関する専門的な学びに向けた授業概要について理解する。また、募集定員を超過した場合は受講者の決定を目的とした抽選を行う。（講義）
2	安全講習と機器の使用法	トレーニング施設使用に向けた安全講習および各種機器の使用法について学ぶ（講義及び実習）
3	トレーニングの原理・原則	トレーニングの原理・原則について学ぶ（講義）
4	トレーニング目標とプログラムの設定	トレーニング理論を踏まえたトレーニングの目標と計画を設定する（講義及び実習）
5	トレーニングと体組成	トレーニングと体組成の関係について学ぶ（講義及び実習）
6	トレーニングと栄養	トレーニング効果を高める食事とサプリメントの摂取の仕方について学ぶ（講義及び実習）

7	チームビルディングⅠ	「ジョハリの窓」を用いたグループワークを通じて自己理解を促進する（講義）
8	無酸素運動	基礎的な無酸素運動の実践方法と効果について学ぶ（講義及び実習）
9	有酸素運動	基礎的な有酸素運動の実践方法と効果について学ぶ（講義及び実習）
10	チームビルディングⅡ	グループワークを通して「他者から見た私」を知る（講義）
11	体幹のトレーニング	腹部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
12	上肢のトレーニング	基礎的な上肢のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
13	下肢のトレーニング	基礎的な下肢のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
14	レポート課題・まとめ	トレーニング計画に基づき実施したトレーニングの成果および今後の課題に関するレポートを作成する（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上であり、その具体的な取り組み内容は次の通りです。

1. 本授業は講義およびトレーニングの実践を通じて設定した目標の達成を目指すため、日々トレーニングを実践し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。
2. 日頃からトレーニングに関する資料を講読してください。
3. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終授業時に課すレポート課題： 50 %。
2. 各授業で取り組みアクションペーパー： 25 %
3. 授業への参画状況： 25 %

※レポート課題では、授業の内容を踏まえた上で適切なトレーニングが実践できたか、その効果は得られたか、また今後の課題およびその改善方法が記述されているかについて評価します。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

※原則として欠席 3 回までを評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に 20 名の受講者を決定します。当選した場合、必ず受講する方のみ抽選に参加してください。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館 3 階・柔道場の予定です。
3. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。
5. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。

6. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、前述の理由で欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles and methods of physical training. Students understand that training initiatives that primarily contribute to physical health also contribute to psychological and social health.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングの理論と実践 II

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ科学 A での学びの発展を目的とし、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を知り、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. 実践的なトレーニングの理論と方法を知り得る。
2. 各自の目標達成に資する効果的かつ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践できる。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を知り得ることができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する実践的かつ効果的な理論と方法について理解を深める。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深め、スポーツ科学 A において考案したトレーニングプログラムを発展させる。各授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、各自が考案した実践的なトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。リアクションペーパー等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	より実践的なトレーニングプログラムを考案するため、これまでのトレーニング内容について再考するとともに授業概要について理解する（講義及び実習）
2	安全講習と機器の使用法の確認	安全講習および各種機器の使用法について再確認する（講義及び実習）
3	アイスブレイク	アイスブレイクを用いた自己理解の促進（講義）
4	トレーニング目標の設定	春学期に導出した課題克服に資するトレーニング目標を設定する（講義及び実習）
5	トレーニングプログラムの設定	春学期に導出した課題克服に資するトレーニングプログラムを設定する（講義及び実習）

6	胸部のトレーニング	胸部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
7	チームビルディング I	「描画法」を用いたグループワークを通じて自己理解を促進する（講義）
8	背部のトレーニング	背部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
9	肩部のトレーニング	肩部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
10	健康の科学	飲酒、喫煙、HIV・AIDS について学ぶ（講義）
11	腕部のトレーニング	腕部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
12	大腿のトレーニング	大腿のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
13	下腿のトレーニング	下腿のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
14	レポート課題・まとめ	トレーニング計画に基づき実践したトレーニングの成果および今後の課題に関するレポートを作成する（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上であり、その具体的な取り組み内容は次の通りです。

1. 本授業は講義およびトレーニングの実践を通じて設定した目標の達成を目指すため、日々トレーニングを実践し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。
2. 日頃からトレーニングに関する資料を講読してください。
3. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終授業時に課すレポート課題：50 %
 2. 各授業で取り組むリアクションペーパー：25 %
 3. 授業への参画状況：25 %
- ※レポート課題では、授業の内容を踏まえた上で適切なトレーニングが実践できたか、その効果は得られたか、また今後の課題およびその改善方法が記述されているかについて評価します。
- ※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。
- ※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
- ※原則として欠席 3 回までを評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 春学期の初回授業時にスポーツ科学 A・B の受講者を決定します。なお、スポーツ科学 A・B の通年履修を推奨する観点から、春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
3. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

5. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。

6. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、前述の理由で欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【Outline and objectives】

With the aim of developing learning in sports science A, students will learn practical theories and methods of physical training that will help them achieve their goals, such as performance improvement, body makeup, dieting, and maintaining and improving their health, and develop their own training programs. In addition, students understand that training initiatives that primarily contribute to physical health also contribute to psychological and social health.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

笠井 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③卒業後の実社会において活躍する上で、重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず2年生以上が履修可能であるが、受講者数に制限があるため、第1回目のガイダンスにおいて履修可能者が決定される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、毎回の授業においてリアクションペーパーを提出する。次回の授業初めにいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についてのガイダンス及び履修者確定
2	講義及び体力測定	体力測定及びウォーミングアップの重要性についての講義及び測定の実施
3	講義「体力について」	体力について講義を行う
4	講義「トレーニング理論について」	トレーニングの理論について講義を行う
5	講義「ウォーミングアップとクーリングダウンについて」	ウォーミングアップ及びクーリングダウンの重要性について講義を行う
6	講義及び実技（ソフトバレーボール）	チームワーク、リーダーの役割についての講義及びソフトバレーボールの実習
7	講義及び実技（バドミントン）	運動の効果についての講義及びバドミントンの実習
8	講義及び実技（卓球）	コミュニケーションについての講義及び卓球の実習
9	講義「筋力トレーニングについて」	筋力トレーニングについて講義を行う
10	講義「健康のための運動について」	健康のための運動について講義を行う

11	講義「メンタルヘルスケアについて」	メンタルヘルスケアについて講義を行う
12	講義及び実技（フットサル）	休養と健康についての講義及びフットサルの実習 レポート課題の提示
13	講義及び実技（アルティメット）	栄養と健康についての講義及びアルティメットの実習
14	授業の総括及び実技（卓球）	授業の総括及び卓球の実習レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いように、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、その都度指示をする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①授業の活動に対する参画状況60%

②課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この成績評価は原則的なものであり、特別な理由がある場合、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の主体性を考慮した授業を展開したい。

【その他の重要事項】

教場等、場合により変更の可能性もあります。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore,students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical,mental and social heaith necessary throughout the students'future of life.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。

健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合、授業1回目のガイダンス時に決定する。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成される。

毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次の授業の初めにいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。

授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容等についてのガイダンス 受講者確定
2	講義及び体力測定	体力測定についての講義及び測定の実施
3	講義「体力について」	体力について講義を行う
4	講義「トレーニング理論について」	トレーニング理論について 講義を行う
5	講義「ウォーミングアップ、クーリングダウンについて」	ウォーミングアップ、クーリングダウンについて講義を行う
6	講義及び実技（ソフトバレーボール）	チームワーク、リーダーの役割についての講義及びソフトバレーボールの実習
7	講義及び実技（バドミントン）	運動の効果についての講義及びバドミントンの実習
8	講義及び実技（卓球）	コミュニケーションについての講義及び卓球の実習
9	講義「筋力トレーニングについて」	筋力トレーニングについて講義を行う
10	講義「健康のための運動について」	健康のための運動について講義を行う
11	講義「メンタルヘルスケアについて」	メンタルヘルスケアについて講義を行う

12	講義及び実技（フットサル）	休養と健康についての講義及びフットサルの実習
13	講義及び実技（アルティメット）	栄養と健康についての講義及びアルティメットの実習
14	授業の総括及び実技（卓球）	授業の総括を行う及び卓球の実習レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします
授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40% の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに沿った内容の提供に心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

自分の健康管理を十分に行い、常に良好な状態で履修することが望ましい。
教場等、計画通りに進行できないこともある。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングを科学する・Basic course

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】

この授業は 2 年生以上が対象です。

トレーニング理論を包括したコンディショニングの一環であるストレングス（筋力）トレーニングについて、各自の目的に応じたトレーニング方法に着目した研究を計画し、その効果を検証していくゼミナールです。

履修者自ら作成したトレーニング・プログラムを実践していくアクティブラーニング型の授業であり、履修者が主体となり能動的に進めます。

【到達目標】

- 1：トレーニング器材を安全に使用できる
- 2：トレーニング器材を応用した各種測定方法を利用できる
- 3：測定結果からトレーニング効果を評価できる
- 4：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 5：トレーニングの結果を正しく記録できる
- 6：トレーニング効果を検証した学修過程を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14 回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	＜教室＞ ①シラバスの確認（授業概要と到達目標の説明） ②授業の進め方およびルールと評価方法 ③授業計画 ④受講者の決定 ⑤使用する施設・器材についての解説 ⑥授業支援システムへのメールアドレス登録と Google フォームの実施

2	課題検討期Ⅰ・測定	<トレセン> ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定し、その分析・評価を行う ②筋力を把握するための測定と分析・評価を行う	13	計画実行・効果検証期	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
3	課題検討期Ⅱ・測定結果の評価	<教室> ①グループワークを行う ②前回の測定結果を分析する ③テーマのヒントを探る	14	反省改善期・発表・総括	<教室> ①春学期に取り組んだ学修過程を発表する ②秋学期の課題を検討する ③春学期を総括する
4	課題検討期Ⅲ・トレーニング方法	<教室> ①グループワークを行う ②トレーニングの方法と効果を整理する ③テーマに適したトレーニング方法を検討する	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。 トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。 特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも 自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。 【テキスト（教科書）】 必要に応じて資料等を配布します。 【参考書】 必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。 1. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院 2. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『ブリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス 3. プレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス 4. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社 5. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書 6. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社 7. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社 8. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版 9. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書 10. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社 【成績評価の方法と基準】 単位認定は到達目標に示した5項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。 1. 授業で提示した課題のレポート： 30 % 2. 授業におけるリアクションペーパー： 30 % 3. 成果発表（作成した資料、発表態度など）： 40 % 【学生の意見等からの気づき】 例年の傾向を振り返ると、本科目は小人数制の授業であるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になっていると思います。 他方では、履修者の多くが先輩や知人から紹介されて受講したようで、2017 年度および2018 年度の履修者は25 名以上となり、授業中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。そこで、2019 年度の授業においては、少人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的な授業にしました。 しかしながら、2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンラインのリアルタイム双方向授業となりました。この授業を履修した皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は非常に良かった印象です。自分のペースでゼミ活動に取り組めた、他学部他学年との交流が進んだ、各自の研究時間が十分確保できたなど、オンライン授業の方が効率的であったという意見ばかりでした。半面、大学での実験や対面で意見交換やゼミ会をしたかったなどの意見も寄せられました。 2021 年度は 2020 年度の新たなゼミの在り方に挑戦する年だと思っています。 【学生が準備すべき機器他】 トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウェアやシューズ		
5	課題決定期	<教室> ①ゼミで取り組む課題を明確にする ②トレーニング記録方法を確認する			
6	計画立案期Ⅰ・トレーニングマシンの基本操作	<トレセン> ①トレーニングマシンの操作方法の確認 ②効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に大きな筋を刺激する種目）を検討する ③検討したトレーニング方法を記録する			
7	計画立案期Ⅱ・トレーニングプログラム作成	<トレセン> ①効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に小さな筋を刺激する種目）を検討する ②決定したトレーニング方法を記録する ③トレーニングプログラムを作成する			
8	計画実行期Ⅰ・トレーニング種目の仮決定	<トレセン> ①決定したトレーニング種目のプログラム一覧を提出 ②作成したトレーニングプログラムの実践と見直し（主に運動種目の配置・組み合わせ） ③実施したトレーニングを記録する			
9	計画実行期Ⅱ・トレーニングプログラム種目の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（時間内に達成できる種目の順序を考える） ②実施したトレーニングを記録する			
10	計画実行期Ⅲ・トレーニング強度の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（適切な運動強度の決定） ②実施したトレーニングを記録する			
11	計画実行期Ⅳ・トレーニング方法の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（セット法またはピラミッド法の検討） ②実施したトレーニングを記録する			
12	計画実行期Ⅳ・トレーニング方法の決定	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの方法を決定し実践する ②実施したトレーニングを記録する			

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が10名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 1を踏まえ、教養ゼミⅡまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. 教養ゼミⅠの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期の教養ゼミⅡの受講を認めません。

4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

【Outline and objectives】

The subject is over 2nd grade.

In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.

Students must create their own training programs and verify their effectiveness.

Students have to take active acts in class.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングを科学する・Advanced course

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミⅡは、「教養ゼミⅠ・トレーニングを科学する（Basic course）：月曜日3限」の応用科目です。そのため、本ゼミの基礎科目である教養ゼミⅠの単位取得者が履修できます。

基本的な授業形式は教養ゼミⅠと同様ですが、各自のトレーニング方法に着目したトレーニング・プログラムを積極的に実践して検証することを主とします。授業は履修者が主体となり能動的に進め、その検証結果を総括しゼミ内で共有します。

【到達目標】

- 1：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 2：目標達成に資する段階的な計画表を作成できる
- 3：段階的な計画を実行できる
- 4：一定期間実践したトレーニング効果を検証できる
- 5：検証したトレーニング効果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

計画では、ゼミ活動の1回目は体育館B1Fトレーニングセンター（以下、トレセン）です。

ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。課題などの提出・フィードバックに関してもHoppiiを通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

教養ゼミⅡでは、教養ゼミⅠの反省改善期に検討した課題を解決するためのトレーニングプログラムを作成し、トレーニングを積極的に行う（履修者は授業に自主的・能動的に参加）ことを目指します。そのため、ゼミの1回目からトレセンを使用し、秋学期を以下のように3期に分けて進めていきます。

1. 課題・計画を決める期間

自分自身の筋力測定と分析・評価を通じて、「夏季休暇前後の比較」を行った上で、教養ゼミⅡで取り組む課題を明確にします。

2. 実行と検証の期間

計画したトレーニングを実行する期間であり、実施した内容を正確に記録するとともに、随時その結果を自己分析し次回のゼミ活動に活かします。

3. 発表・共有の期間

トレーニング効果を総括した結果を発表し、ゼミ内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 課題・計画の検討期 Ⅰ・測定	＜トレセン＞ ①シラバスの確認（授業概要と目標の説明） ② Inbody による身体組成の分析（春学期との比較） ③教養ゼミⅠで作成したプログラムの実践 ④リアクションペーパー作成
2	課題・計画の検討期 Ⅱ・教養ゼミⅠで検証した項目の測定	＜トレセン＞ ①教養ゼミⅠで検証した項目の測定 ②測定結果について、夏季休暇の前後で比較し、新たなトレーニングプログラムを模索する
3	課題・計画の検討期 Ⅲ・測定結果の評価	＜教室＞ ①グループワーク ②授業の1回目および2回目の測定結果を分析し、共有する ③教養ゼミⅡで取り組む課題を検討する ④リアクションペーパー作成
4	課題・計画の決定期 Ⅰ・測定結果の共有	＜教室＞ ①グループワーク ②前回授業の分析内容を発表する ③リアクションペーパー作成
5	課題・計画の決定期 Ⅱ・トレーニング方法の再検討	＜教室＞ ①グループワーク ②取り組む課題解決により有効なトレーニングプログラムを再考する ③リアクションペーパー作成
6	実行期Ⅰ・新トレーニングプログラムの試作	＜トレセン＞ ①トレーニングプログラムを試作するために、トレーニング種目を見直し適宜修正する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
7	実行期Ⅱ・新トレーニングプログラム強度の再検討	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムを実行し運動強度を見直し適宜修正する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
8	実行期Ⅲ・新トレーニングプログラムの仮決定	＜トレセン＞ ①トレーニング法を決め、プログラムを確定する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
9	実行期Ⅳ・新トレーニングプログラムの種目の改修	＜トレセン＞ ①トレーニングプログラムを実行し運動強度を調整する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
10	実行期Ⅴ・新トレーニングプログラムの強度の改修	＜トレセン＞ ①トレーニングプログラムを実行する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する

11	実行期Ⅵ・新トレーニングプログラムの決定	＜トレセン＞ ①トレーニングプログラムを実行するとともに効果を検証する方法を検討する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
12	実行期Ⅶ・新トレーニングプログラムの実践と効果検証	＜トレセン＞ ①グループワーク ②作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ③測定結果を分析・評価する ④リアクションペーパー作成
13	発表・共有期Ⅰ・新トレーニングプログラムの効果検証と分析	＜トレセン＞ ①グループワーク ②測定結果を考察し、ゼミ内で共有するためのレポートを作成する ③リアクションペーパー作成
14	発表・共有期Ⅱ、総括	＜教室＞ ①グループワーク ②トレーニング効果の検証結果を発表する ③リアクションペーパー作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とします。

トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
2. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
3. プレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
4. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
5. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
6. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
7. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
8. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
9. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
10. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した5項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業で提示した課題のレポート：30%
2. 授業におけるリアクションペーパー：30%
3. 成果発表（作成した資料、発表態度など）：40%

【学生の意見等からの気づき】

例年の傾向を振り返ると、本科目は小人数制の授業であるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になっていると思います。

他方では、履修者の多くが先輩や知人から紹介されて受講したように、2017年度および2018年度の履修者は25名以上となり、授業中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。そこで、2019年度の授業においては、小人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的な授業にしました。

しかしながら、2020年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンラインのリアルタイム双方向授業となりました。この授業を履修した皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は非常に良かった印象です。自分のペースでゼミ活動に取り組み、他学部他学年との交流が進んだ、各自の研究時間が十分確保できたなど、オンライン授業の方が効率的であったという意見ばかりでした。半面、大学での実験や対面で意見交換やゼミ会をしたかったなどの意見も寄せられました。

2021年度は2020年度の新たなゼミの在り方に挑戦する年だと思います。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウェアやシューズ

【その他の重要事項】

1. 教養ゼミⅠを履修せずに、教養ゼミⅡのみを履修することは認めません。

基本的に教養ゼミⅠの単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、教養ゼミⅠの単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。

2. 授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline and objectives】

The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester.

In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.

Students must to make a more sophisticated training program compared with class 1 and verify the effect.

Students have to take active acts in class.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を6回、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と抗議の回数に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う。基本的に、対面形式での授業実施のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内靴が必要となるので用意すること。授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	レクリエーションスポーツ	・インディアカ・ソフトバレー
3	ラケット種目	・バドミントン シングルス・ダブルス
4	講義予定	・有酸素運動=エアロビクス 運動について
5	有酸素運動	・ダイエットについて ・ウォーキング 時間と歩数の関係と消費カロリーを知る
6	講義予定	・応急手当について RICE 処置・熱中症・脳震盪・コロナウイルス感染症
7	ネットスポーツ 1	・バレーボールの理論と実習

8	ボールゲーム	・バスケットボールの理論と実習
9	講義予定	・自宅でできる筋力トレーニング
10	講義予定	・健康チェックとコンディショニングについて サルコペニア、利き手利き足利き目バランス能力柔軟性
11	講義予定	・バランスチェックとストレッチング
12	ネットスポーツ 2	・卓球シングルの理論と実習
13	ネットスポーツ 3	・卓球ダブルスの理論と実習
14	まとめ	授業のまとめ (レポート課題あり)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。
適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、
 - 2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】

This class aim to study Japanese sport culture.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を 6 回、教室での講義を 8 回程度おこなう。感染の状況によっては実技と抗議の回数に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う。基本的に、対面形式での授業実施のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内靴が必要となるので用意すること。授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	授業概要についての説明
2 回目	レクリエーションス	・インディアカ
授業	ボーツ	・ソフトバレー
3 回目	ラケット種目	・バドミントン
授業		・シングルス・ダブルス
4 回目	講義予定 有酸素	・有酸素運動=エアロビクス運動について
授業		・ダイエットについて
5 回目	有酸素運動 有酸素運動の具体例	・ウォーキング
授業		時間と歩数の関係と消費カロリーを知る

6 回目	講義予定	応急手当て	・応急手当てについて
授業			RICE 処置・熱中症・脳震盪・ コロナウイルス感染症
7 回目	ネットスポーツ 1		・バレーボール
授業			
8 回目	ボールゲーム		・バスケットボール
授業			
9 回目	講義予定	筋力トレー	・自宅でできる筋力トレーニング
授業		ニング	
10 回目	講義予定	健康につい	・健康チェックとコンディショニ
授業		て	ングについて
			サルコペニア、利き手利き足利
			き目バランス能力柔軟性
11 回目	講義予定	コンディ	・バランスチェックとストレッチ
授業		ショニング運動	ング
12 回目	ネットスポーツ 2		・卓球
授業			シングルス
13 回目	ネットスポーツ 3		・卓球
授業			ダブルス
14 回目	まとめ		授業のまとめ (レポート課題あり)
授業			

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えようとして授業に臨むこと。

また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート 20%、授業への参画状況 20% の配分で評価する。なお欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること

【Outline and objectives】

This course aims to study Japanese sports culture.

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：身体活動による心身の変化と健康（1）

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「身体活動による生理学的効果」、「身体活動の心理的効果」、「健康関連情報の取捨選択」、「身体活動と健康」の 4 つをテーマに学習を進めていきます。

【到達目標】

- ・身体活動による生理的および心理的効果についてエビデンスに基づく知識・情報を学ぶ
- ・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。
- ・現在の自らの身体状態や運動を含む生活習慣を適切に把握・評価できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。

その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し、授業のディスカッションやリアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお、身体活動の実践に向けた計画や、個人の考え・意見をまとめたプレゼンテーションを求め、評価の一部とします。

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、身体活動によって得られる効果のエビデンスを学ぶ
第 2 回	身体活動に対する先行研究のまとめと活動内容の発表	自身が探索したい身体活動による効果（筋量の増大、筋パワーの向上、減量等）について報告する（プレゼンテーション）
第 3 回	身体活動によって変化する生理的要因 1	身体活動によって生じる体脂肪や骨格筋の変化について学ぶ
第 4 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 1	身体組成（体脂肪量・骨格筋量）の測定方法とその原理を学ぶ（演習）
第 5 回	身体活動によって変化する生理的要因 2	骨格筋の役割とトレーニングによる変化について学ぶ
第 6 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 2	骨格筋の増大に向けたトレーニング法の実践について学ぶ（演習）

第 7 回	身体活動によって変化する生理的要因 3	有酸素性運動時の生理的状態と効果について学ぶ
第 8 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 3	有酸素性運動時の循環器系機能の実際および自覚の運動強度について学ぶ（演習）
第 9 回	身体活動によって変化する生理的要因 4	身体活動時の運動強度・種目に依存したエネルギー消費について学ぶ
第 10 回	身体活動に影響するエネルギー摂取の影響	身体の変化に影響を及ぼす栄養学的要因（食事）について学ぶ
第 11 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 1	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少に向けた身体活動案を提案する（プレゼンテーション）
第 12 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 2	学んだ知識や情報に基づき、グループで骨格筋量増大に向けた身体活動案を提案する（プレゼンテーション）
第 13 回	身体活動に関する心理的要因 1	健康行動を発生・継続させるための心理的要因を各自で調べ、グループで討論する。
第 14 回	身体活動に関する心理的要因 2	健康行動を発生・継続させるための心理的要因について学び、自らの生活に照らして達成を目指した計画を提案する（プレゼンテーション）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめてから次回の授業に出席することを求めます。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】

1) 授業参画の状況と理解度（授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価）：80%、2) 各回のプレゼンテーションの内容：20%、の配分で総合評価する。

※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は、すべてオンラインでの授業となってしまう、当初計画していた種々の測定や演習が出来ない状況でした。そのため、履修学生の皆さんには、実際に測定を行わない状況での様々なプレゼンや課題に取り組んでもらうことになってしまいました。2021 年度は、対面での授業を実施する予定ですので、健康や身体活動に関わる様々な知識の習得だけでなく、実際に自らの身体を測定し評価することを通じた学びを提供できるようにしていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】

本授業は、授業目的を達成する活動に際して教場等の制限があるため、履修者を最大 20 名とします。第 1 回目の授業時において履修希望者が 20 名を超えた場合には、履修人数の制限を行います。そのため、第 1 回目の授業には必ず出席してください。体調不良等どうしても出席できない場合には、事前に市ヶ谷保健体育センターに履修希望を届け出た学生のみ履修の可能性を有することとします。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的にしています。そのため、授業を通じて運動やトレーニングの実践のみを希望する者の履修は認めません。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to understand the physiological and psychological benefits accompany physical activity, sift through the evidence the health-related information, and the understanding of the relationship between physical activity and health.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：身体活動による心身の変化と健康（2）

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、目的や対象に合わせた身体活動が実践できるようになることを目的に内容を構成しています。単に体重の減量・体脂肪の減少、骨格筋の増大のための方法を学ぶだけでなく、健康や QoL の本質を理解した上で受講者自身が身体活動を実践でき、他者へも適切な助言ができるための知識や情報を学び、それらを取捨選択できる能力の獲得を目指します。

【到達目標】

- ・目的に応じて身体活動の内容を適切に構築することができる。
- ・対象者に合わせた身体活動実践の助言ができる。
- ・適切な分析方法や表現を用いて身体活動に関するエビデンスを報告できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視します。

授業はリアルタイム動画やオンデマンド動画による講義、オンラインでの受講者間のディスカッション、数種目の自宅等での身体活動および受講者自身の調査活動等から構成されます。毎回の授業は、原則時間割に設定された曜日・時限に合わせて行います。

また、授業後半においては、受講者自身が行う身体活動の実践状況、実践を通じた感想、考えや意見などのプレゼンテーションなどを行い、最終的な結果を文章として提出を求めます。

なお、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、情報選択の基礎的な考え方と健康づくりに向けたエビデンスを学ぶ
第 2 回	様々な対象における健康の考え方 1	肥満や痩せに関連する生理的・心理的要因について学ぶ
第 3 回	様々な対象における健康の考え方 2	青年期の健康と身体活動について学ぶ
第 4 回	身体活動のプログラム作成の実際 1	目的に応じて身体活動プログラムを作成して討論し、実践する（演習）
第 5 回	身体活動のプログラム作成の実際 2	前回作成した内容の実践結果を踏まえて身体活動プログラムを修正し、実践する（演習）

第 6 回	健康関連情報の取捨選択 1	日本人の健康状態と新たな健康づくりを学ぶ
第 7 回	健康関連情報の取捨選択 2	今日の健康における様々な社会問題の関与を学ぶ
第 8 回	身体活動と心身の健康	生活習慣病の成因と身体活動との関係を学ぶ
第 9 回	身体活動と心身の健康 2	痩身志向の要因と過度な痩身による生理的状态を学ぶ
第 10 回	身体活動や健康に関する情報のアウトプット	関連分野におけるエビデンスとして必要となる情報や表現・表記方法を学ぶ（演習）
第 11 回	身体活動の効果を測定・評価するための手法 1	身体活動の効果を測定するために必要な生理的・心理的手法を学ぶ（演習）
第 12 回	身体活動の効果を測定・評価するための手法 2	身体活動の効果を評価するために必要な分析方法を学ぶ（演習）
第 13 回	身体活動実践結果の報告	実践した身体活動の効果について客観的情報を踏まえて報告する（プレゼンテーション）
第 14 回	各自の身体活動に関する論議と授業のまとめ	各自が実践した内容を論議し、対象者目的に応じた身体活動に必要な知識や情報を学ぶ（演習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、授業ごとに内容を復習して個人の考え・意見をまとめた上で次の授業に出席することを求めます。さらに、第 6 ～ 12 回においては、各自の身体活動の状況や結果の報告を求めますので、これらの回においては関連のデータをまとめる作業を行ってください。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】

各授業で課した授業内学習としての課題それぞれを 100 点満点で評価した上で合計し、それをすべての課題によって獲得可能な最大得点を母数とした相対値に変換する以下の式で評価を行います。
評価得点 = 【すべての課題の「得点」の総和】 / 【すべての課題で「獲得可能な最高点」（課題数 × 100）】 × 100

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は、すべてオンライン授業となってしまう、当初予定していた演習などが予定通りに進まず、受講生の皆さんの要望に答えられない部分もありました。ただ、結果として最終的にグループで作成した論文については、学内の研究センターの発行する雑誌へ投稿することができ、一定の評価を得ることができました。
2021 年度も、受講生と相談しながら学んだ成果を発表することを念頭に、その過程における文章の執筆方法、データの集約方法などについてもしっかりと指導し、教養ゼミとして充実した活動となるように工夫して行く予定です。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備してください。

【その他の重要事項】

本授業は、同一副題の教養ゼミⅠの単位を取得していることを履修の条件とします。

ただし、第 1 回目の授業において、履修希望者が定員（20 名）を下回っている条件下においてのみ、担当教員との面談により教養ゼミⅠの単位取得者と同等の知識・情報を有していると判断された場合には履修を認めます。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的にしています。そのため、授業を通じて運動やトレーニングの実践のみを希望する者の履修は認めません。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to make it become able to practice physical activities tailored to targets for achievements and physical and mental individuality of the subjects. Besides, students aim at learning knowledge and information about the nature of health and QoL and acquire the ability to be able to provide appropriate advice to others about exercise, not simply learning the methods of how to weight and body-fat loss and skeletal muscle reinforcing.

LANf300LA

第三外国語としてのフランス語 A 2017 年度以降入学者

コルペイユ スティープ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。4 技能（聞く・話す・読む・書く）を総合的に学習しながらフランス語でのコミュニケーション能力を高める。また、フランスの文化や習慣についても理解を深める。

*** この科目はオンラインで実施。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級～5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎に加えて、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Leçon 1	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベットの読み方 ・挨拶表現 ・数字 1～10 ・不定冠詞（1）
2	Leçon 2	・職業や国籍を言う ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞 être
3	Leçon 3	・話せる言語を言う ・定冠詞 le, la, les ・名詞の複数形 ・動詞-er(1)
4	Leçon 4	・住んでいる国や都市を言う ・国名 /都市の前の前置詞 ・否定形
5	Leçon 5	・年齢を言う ・不定詞 (2) ・il y a ・不定の de ・動詞 avoir
6	Leçon 6	・行き先を言う ・前置詞 à と定冠詞の縮約 ・動詞 faire, aller
7	Leçon 7	・人や物を描写する ・形容詞の性、数、位置

8	中間試験	筆記試験または課題提出
9	Leçon 8	・指示形容詞 <i>ce, cette, ces</i> ・直接目的補語人称代名詞 <i>le, la, les</i> ・動詞 <i>vouloir, prendre</i>
10	Leçon 9	・食料品を買う ・部分冠詞 <i>du, de la</i> ・中性代名詞 <i>en</i>
11	Leçon 10	・位置関係を言う ・前置詞 <i>de</i> と定冠詞の縮約
12	Leçon 11	・命令をする ・命令形 ・中性代名詞 <i>y</i>
13	Leçon 12	・質問をする ・疑問文の作り方 ・近接未来
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Kitamura Ayako, Durrenberger Vincent（著）『Maestro 1 マエストロ 実践フランス語 初級』朝日出版者 2020 年

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズのものでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003 年。

西村牧夫他編訳、『ロバール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011 年。

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

【当面の間、オンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更することになります。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に「学習支援システム」上で公開しますので、ご確認ください。

なお、以下の評価は、対面授業の実施を前提とした従来の評価方法であるので、ご注意ください。】

平常点 10 %、中間試験 30 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に会話部分）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of French to students learning it as the third language. Students will also learn about French society and culture.

LANf300LA

第三外国語としてのフランス語 B 2017 年度以降入学者

コルベユ ステイーブ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。4 技能（聞く・話す・読む・書く）を総合的に学習しながらフランス語でのコミュニケーション能力を高める。また、フランスの文化や習慣についても理解を深める。

*** この科目はオンラインで実施。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級～5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎だけでなく、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	・前期の復習 ・ Bilan
2	Leçon 13	・天気について話す ・時刻を言う ・非人称構文
3	Leçon 14	・自分の 1 日を語る ・代名動詞
4	Leçon 15	・今していることを言う ・進行形 ・近接過去
5	Leçon 16	・過去の行為や出来事を語る（1）
6	Leçon 17	・過去の行為や出来事を語る（2） ・複合過去（2）
7	Leçon 18	・過去の行為や出来事を語る（3） ・代名動詞の複合過去
8	Leçon 19	・比較する ・比較級
9	中間試験	筆記試験
10	Leçon 20	・過去の状態、習慣、感想を言う ・半過去 ・複合過去と半過去
11	Leçon 21	・実践するスポーツを言う ・ faire du/de la+ スポーツ
12	Leçon 22	・身体の状態を伝える ・ avoir mal à+ 身体語彙 ・条件法（1）

13	Leçon 23	・誘う ・tu pourrais/vous pourriez ・条件法（2）
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Kitamura Ayako, Durrenberger Vincent（著）『Maestro 1 マエストロ 実践フランス語 初級』朝日出版者 2020 年

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズのものでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003 年

西村牧夫他編訳、『ロバール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011 年

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

【当面の間、オンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更することになります。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に「学習支援システム」上で公開しますので、ご確認ください。

なお、以下の評価は、対面授業の実施を前提とした従来の評価方法であるので、ご注意ください。】

平常点 10 %、中間試験 30 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に会話部分）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of French to students learning it as the third language. Students will also learn about French society and culture.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：移民社会とポピュリズム

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界規模における経済的な相互依存が進むなかで、グローバル化への反発をその構成要素として含むポピュリズムが世界各国の政治をゆるがせています。このゼミでは、西ヨーロッパを中心に、東ヨーロッパや南北アメリカ、オセアニアを含む、欧米地域におけるいわゆる移民社会への反発と、「多数派」の有権者によるポピュリズム支持に焦点をあてながら、バイデン米大統領の就任によって特徴づけられる 2021 年の国際社会について考察します。

【到達目標】

- ・必ずしも現代の西ヨーロッパについて専門的に学んだことのない方をふくめ、これからの時代を生きていく人びとに必要な民主主義にかんする教養（市民性の意味における **citizenship**）を身につける。
- ・【言語】使用言語は日本語とする。英語、フランス語などの言語の運用能力の習得はこの授業の到達目標に入らない（※）。
- ・【教科書】「ポピュリズム」や「移民社会」といった概念の多義性や、言語・地域による用法の違いを認識する。
- ・【学生からの話題提供】時事問題など今日的な話題と教科書で得た知識を関連づけられるようにする。
- ・【情報リテラシー】毎回の話題提供をつうじ、あなたが作成した Google スライドや Google ドキュメントを他の授業参加者と共有する方法や、Zoom の画面共有機能を用いたプレゼンテーションをつうじ、あなたの考えや思いをオンライン上で的確に伝える方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

（ア）この科目「教養ゼミ」はハイブリッド授業（Zoom を用いたリアルタイム・オンライン授業と、教室での対面授業の混合）が予定されています。2021 年 1 月のシラバス執筆時点では、2021 年 4-7 月期の感染拡大状況を予測することは困難であるため、オンライン授業と教室での対面授業の構成比率は、履修する学生の皆さんの意見を踏まえて決定していきます。

（イ）対面、オンライン、いずれの授業形態においても、毎週の授業の内容に関係のある、簡単な話題提供を学生の皆さんにお願いしています。

（ウ）（イ）に加え、教科書の内容にかんする学生の報告と、報告を受けての他の学生からの意見や疑問点の提示、ディスカッション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	参考書などからの話題提供（教員）→ 討論	学生はとくに準備の必要なし → 掲示板への書き込み
3	ポピュリズムとは何か ①	学生による話題提供（の開始）→ 教科書 7-23 頁の講読 → 掲示板への書き込み

4	ポピュリズムとは何か②	学生による話題提供 → 教科書 23-35 頁の講読 → 掲示板への書き込み
5	世界中のポピュリズム①	学生による話題提供 → 教科書 37-53 頁の講読 → 掲示板への書き込み
6	世界中のポピュリズム②	学生による話題提供 → 教科書 53-65 頁の講読 → 掲示板への書き込み
7	ポピュリズムと動員①	学生による話題提供 → 教科書 67-79 頁の講読 → 掲示板への書き込み
8	ポピュリズムと動員②	学生による話題提供 → 教科書 79-93 頁の講読 → 掲示板への書き込み
9	ポピュリズムの指導者①	学生による話題提供 → 教科書 95-107 頁の講読 → 掲示板への書き込み
10	ポピュリズムの指導者②	学生による話題提供 → 教科書 107-119 頁の講読 → 掲示板への書き込み
11	ポピュリズムとデモクラシー①	学生による話題提供 → 教科書 121-132 頁の講読 → 掲示板への書き込み
12	ポピュリズムとデモクラシー②	学生による話題提供 → 教科書 132-143 頁の講読 → 掲示板への書き込み
13	原因と対応	学生による話題提供 → 教科書 145-176 頁の講読 → 掲示板への書き込み
14	まとめ	シラバス第 13 回までの内容がこなせなかった場合には予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（ア）教科書の次の範囲を予習してきてください。

（イ）指定する LMS（学習支援システム-Hoppii か Google Classroom）の場所に、話題提供や教科書報告用のリンクと資料、文章を授業開始時刻より前に貼り付けてください。

（ウ）この授業の準備や復習に必要な学習時間は、上記（ア）（イ）を行うのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修する授業であるため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みた場合、2 単位の講義及び演習の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

カス・ミュデ&クリストバル・ロビラ・カルトワッセル『ポピュリズム デモクラシーの友と敵』永井大輔&高山裕二訳、白水社、2018 年。

この教科書は法政大学図書館に所蔵があるが、山手線コンソーシアムに参加する近隣の他大学図書館にも複数の所蔵がある。Cf. <http://opac.lib.hosei.ac.jp/hybrid/>

また、都道府県や市区町村が運営する公立図書館にも所蔵がある。どの公立図書館にこの教科書が所蔵されているかについては、日本図書館協会のサイトなどを利用することにより都道府県ごとに横断検索できる。Cf. <http://www.jla.or.jp/link/link/tabid/167/Default.aspx#sogo>

【参考書】

Dominique Reynié, Populismes : la pente fatale, Plon, 2011.
Raphaël Doan, Quand Rome inventait le populisme, Les éditions du Cerf, 2019.

【成績評価の方法と基準】

1. 学生による発表（話題提供 1 回 3 点、教科書発表 1 回 10 点満点）55%
2. 授業参加の積極性（担当範囲外での発言など）30%
3. その他（授業運営への協力など）15%

【学生の意見等からの気づき】

（ア）法政大学が提供している LMS（学習支援システム-Hoppii や Google Classroom）を、Zoom と併用しますが、中華人民共和国など Google への接続が困難な国から接続せざるをえない履修者がいた場合は、配慮いたします。

（イ）2020 年度は、G Suite を活用した文書共有に加え、Hoppii の「OATube」機能を使い、PressReader の使い方を説明するために作った動画を掲載することも行いました。

（ウ）就職活動などによる欠席者のために、Zoom の授業録画などを、履修者のみのあいだで、一般には非公開のかたちで共有する予定です。

（エ）2020 年度にリアルタイム・オンライン授業に初めて挑戦しましたが、教室における対面授業に劣らず、オンラインでも、学生間のコミュニケーションはとれていたのではないかと思います。教員も努力しますが、履修学生の皆さんも、できれば Web カメラを ON にするなどして（強制はしません）、活発な雰囲気づくりにご協力ください。

【学生が準備すべき機器他】

①資料の配布や学生からの成果物の提出、その他さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（学習支援システム-Hoppii 等）で行ないます。

②パソコン、タブレット等を用いたプレゼンテーションを行って頂きます。Zoom 上での画面共有をもちいたプレゼンテーションをしたことがない方は、法政大学から配布済みの Zoom のアカウントをもちい、練習をしておいてください。

③学外から法政大学図書館のオンラインデータベース（JapanKnowledge や PressReader の利用を推奨しています）が利用できるよう、VPN 接続の使い方をマスターしてください。

④法政大学が提供している VPN 接続の使用方法については「全学ネットワークシステムユーザ支援 WEB サイト／VPN サービス」を検索、参照してください。

【その他の重要事項】

①市ヶ谷キャンパスの法政大学各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、千代田コンソーシアムの近隣大学の学生の履修を歓迎します。

②学外の方でこの科目への参加を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。

③参考書にはフランス語の文献があげてありますが、履修にあたりフランス語の能力は要求していません。

（※）この「教養ゼミⅠ」における使用言語は日本語ですが、時事的な内容を扱い、かつ、フランス語を授業内の使用言語とする科目に「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。

【Outline and objectives】

This seminar is an introduction to the multiple facets of French culture, history, and society. Open to students with little or no previous instruction in French, this seminar will enable students to attain a basic understanding of Mainland France and its terroirs.

ARSa300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：移民社会とポピュリズム

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界規模における経済的な相互依存が進むなかで、グローバル化への反発をその構成要素として含むポピュリズムが世界各国の政治をゆるがせています。このゼミでは、西ヨーロッパを中心に、東ヨーロッパや南北アメリカ、オセアニアを含む、欧米地域におけるいわゆる移民社会への反発と、「多数派」の有権者によるポピュリズム支持に焦点をあてながら、バイデン米大統領の就任によって特徴づけられる 2021 年の国際社会について考察します。

【到達目標】

・必ずしも現代の西ヨーロッパについて専門的に学んだことのない方をふくめ、これからの時代を生きていく人びとに必要な民主主義にかんする教養（市民性の意味における **citizenship**）を身につける。
 ・【言語】 使用言語は日本語とする。英語、フランス語などの言語の運用能力の習得はこの授業の到達目標に入らない（※）。
 ・【教科書】「ポピュリズム」や「移民社会」といった概念の多義性や、言語・地域による用法の違いを認識する。
 ・【学生からの話題提供】 時事問題など今日的な話題と教科書で得た知識を関連づけられるようにする。
 ・【情報リテラシー】 毎回の話題提供をつうじ、あなたが作成した Google スライドや Google ドキュメントを他の授業参加者と共有する方法や、Zoom の画面共有機能を用いたプレゼンテーションをつうじ、あなたの考えや思いをオンライン上での確に伝える方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

（ア）この科目「教養ゼミ」はハイブリッド授業（Zoom を用いたリアルタイム・オンライン授業と、教室での対面授業の混合）が予定されています。2021 年 1 月のシラバス執筆時点では、2021 年 9 月-2022 年 1 月期の感染拡大状況を予測することは困難であるため、オンライン授業と教室での対面授業の構成比率は、履修する学生の皆さんの意見を踏まえて決定していきます。

（イ）対面、オンライン、いずれの授業形態においても、毎週の授業の内容に関係のある、簡単な話題提供を学生の皆さんにお願いしています。

（ウ）（イ）に加え、教科書の内容にかんする学生の報告と、報告を受けての他の学生からの意見や疑問点の提示、ディスカッション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	参考書などからの話題提供（教員）→ 討論	学生はとくに準備の必要なし → 掲示板への書き込み
3	現代政治の歴史的文脈における「保守主義型福祉国家」の成立	学生による話題提供（の開始）→ 教科書 1-27 頁の講読 → 掲示板への書き込み

4	中間団体政治の形成と展開／大陸型福祉国家の隘路	学生による話題提供 → 教科書 28-57 頁の講読 → 掲示板への書き込み
5	福祉国家改革の開始／パートタイム社会オランダ	学生による話題提供 → 教科書 57-100 頁の講読 → 掲示板への書き込み
6	ポスト近代社会の到来とオランダモデル	学生による話題提供 → 教科書 100-111 頁の講読 → 掲示板への書き込み
7	移民問題とフォルティン	学生による話題提供 → 教科書 113-139 頁の講読 → 掲示板への書き込み
8	フォルティン党の躍進とフォルティン殺害	学生による話題提供 → 教科書 139-165 頁の講読 → 掲示板への書き込み
9	バルケネンデ政権と政策転換	学生による話題提供 → 教科書 165-182 頁の講読 → 掲示板への書き込み
10	ファン・ゴッホ殺害事件	学生による話題提供 → 教科書 182-193 頁の講読 → 掲示板への書き込み
11	ウィンデルス自由党の躍進	学生による話題提供 → 教科書 193-212 頁の講読 → 掲示板への書き込み
12	福祉国家改革と移民	学生による話題提供 → 教科書 214-227 頁の講読 → 掲示板への書き込み
13	脱工業社会における言語・文化とシティズンシップ	学生による話題提供 → 教科書 227-243 頁の講読 → 掲示板への書き込み
14	まとめ	シラバス第 13 回までの内容がこなせなかった場合には予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（ア）教科書の次の範囲を予習してきてください。
 （イ）指定する LMS（学習支援システム-Hoppii か Google Classroom）の場所に、話題提供や教科書報告用のリンクと資料、文章を授業開始時刻より前に貼り付けてください。
 （ウ）この授業の準備や復習に必要な学習時間は、上記（ア）（イ）を行うのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修する授業であるため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みた場合、2 単位の講義及び演習の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

水島治郎『反転する福祉国家 オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019 年。

※図書館からの貸し出しを利用する場合は、下記を参考にしてください。

この教科書は法政大学図書館に所蔵があるが、山手線コンソーシアムに参加する近隣の他大学図書館にも複数の所蔵がある。Cf. <http://opac.lib.hosei.ac.jp/hybrid/>

また、都道府県や市区町村が運営する公立図書館にも所蔵がある。どの公立図書館にこの教科書が所蔵されているかについては、日本図書館協会のサイトなどを利用することにより都道府県ごとに横断検索できる。Cf. <http://www.jla.or.jp/link/link/tabid/167/Default.aspx?sogo>

【参考書】

ギュスターヴ・ル・ボン『群衆心理』櫻井成夫訳、講談社学術文庫、1993 年。
 エリアス・カネッティ『群衆と権力』（上・下）岩田行一訳、法政大学出版局、1971 年。

【成績評価の方法と基準】

1. 学生による発表（話題提供 1 回 3 点、教科書発表 1 回 10 点満点）55%
2. 授業参加の積極性（担当範囲外での発言など）30%
3. その他（授業運営への協力など）15%

【学生の意見等からの気づき】

(ア) 法政大学が提供している LMS (学習支援システム-Hoppii や Google Classroom) を、Zoom と併用しますが、中華人民共和国など Google への接続が困難な国から接続せざるをえない履修者がいた場合は、配慮いたします。

(イ) 2020 年度は、G Suite を活用した文書共有に加え、Hoppii の「OATube」機能を用い、PressReader の使い方を説明するために作った動画を掲載することも行いました。

(ウ) 就職活動などによる欠席者のために、Zoom の授業録画などを、履修者のみのあいだで、一般には非公開のかたちで共有する予定です。

(エ) 2020 年度にリアルタイム・オンライン授業に初めて挑戦しましたが、教室における対面授業に劣らず、オンラインでも、学生間のコミュニケーションはとれていたのではないかと思います。教員も努力しますが、履修学生の皆さんも、できれば Web カメラを ON にするなどして (強制はしません)、活発な雰囲気づくりにご協力ください。

【学生が準備すべき機器他】

(ア) 資料の配布や学生からの成果物の提出、その他さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上 (学習支援システム-Hoppii 等) で行ないます。

(イ) パソコン、タブレット等を用いたプレゼンテーションを行って頂きます。Zoom 上での画面共有をもちいたプレゼンテーションをしたことがない方は、法政大学から配布済みの Zoom のアカウントを使って練習をしてください。

(ウ) 学外から法政大学図書館のオンラインデータベース (JapanKnowledge や PressReader の利用を推奨しています) が利用できるよう、VPN 接続の使い方をマスターしてください。

(エ) 法政大学が提供している VPN 接続の使用方法については「全学ネットワークシステムユーザ支援 WEB サイト / VPN サービス」を検索、参照してください。

【その他の重要事項】

①市ヶ谷キャンパスの法政大学各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、千代田コンソーシアムの近隣大学の学生の履修を歓迎します。

②学外の方でこの科目への参加を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。

③参考書にはフランス語の文献があげてありますが、履修にあたりフランス語の能力は要求していません。

(※) この「教養ゼミ I」における使用言語は日本語ですが、時事的な内容を扱い、かつ、フランス語を授業内の使用言語とする科目に「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。

【Outline and objectives】

This seminar is an introduction to the multiple facets of French culture, history, and society. Open to students with little or no previous instruction in French, this seminar will enable students to attain a basic understanding of Mainland France and its terroirs.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランス語圏文化への招待

PHILIPPE JORDY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Au premier semestre, les étudiants, individuellement ou en petits groupes, présentent un thème social, culturel ou historique sur un ou plusieurs pays de la francophonie. Chaque thème continue ensuite d'être étudié sur quelques séances pour permettre un débat constructif entre tous les étudiants.

Quelques exemples de thèmes possibles : aires francophones (Europe francophone, Amérique francophone, Afrique francophone, France d'outre-mer); colonisation ; immigration ; identité nationale et langue ; cultures populaires francophones ; cinéma ou chanson francophone ; etc.

【到達目標】

Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Ce cours prépare directement à un séjour en université francophone (cf. méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau B1+) ou "kentei-shiken".

(この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Ce séminaire se déroule en français même si le japonais ou l'anglais peuvent être utilisés pour une analyse ou des documents précis.

Après la présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants, toute la classe continue ensuite l'étude de ce thème pendant une ou deux séances (lectures et comptes-rendus, débat, approfondissement de questions, résumé-synthèse). Ce travail de recherche en commun permet d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites, grâce à la pratique des moyens de recherche suivants :

- résumé écrit ou oral.
- note de synthèse.
- commentaire de texte.
- dissertation (technique de plan, développement, rédaction).

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le premier semestre - choix des thèmes - attribution des premiers exposés
②	Thème 1 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants

③	Thème 1 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
④	Thème 1 (3)	Discussion et synthèse générales
⑤	Thème 2 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑥	Thème 2 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑦	Thème 2 (3)	Discussion et synthèse générales
⑧	Thème 3 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑨	Thème 3 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑩	Thème 3 (3)	Discussion et synthèse générales
⑪	Thème 4 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑫	Thème 4 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑬	Thème 4 (3)	Discussion et synthèse générales
⑭	Récapitulatif des thèmes vus en cours ; ouverture à de nouvelles problématiques	Dissertation personnelle rendue à ce dernier cours

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une préparation et une participation très régulières. Chaque étudiant doit se préparer à intervenir, à l'oral comme à l'écrit, à chaque séance.

(予習・復習・積極性厳守。本授業の準備・復習時間は2～4時間を標準とします。)

【テキスト（教科書）】

Il n'y a pas de manuel mais des photocopies, souvent distribués. (プリント配布)

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà. (仏仏辞典の持参が望ましい)

Des ouvrages de référence peuvent être proposés selon les thèmes abordés.

【成績評価の方法と基準】

40% = participation (prise de parole, résumés, mini-tests, etc.) (積極性)

30% = exposé personnel de présentation (個人発表)

30% = devoir final (dissertation ou compte-rendu de lecture) (レポート)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faut apprendre, retenir et réemployer les expressions et mots nouveaux.

Le travail par groupes est organisé en fonction du nombre des étudiants.

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL. Mais les étudiants sont libres d'apporter ordinateur ou smartphone pour utilisation en cours (recherches sur internet, enregistrement de son ou d'image, etc.).

【その他の重要事項】

En principe, ce cours de printemps se déroule en présentiel mais une partie des cours pourront encore avoir lieu en ligne (distanciel).

【Prerequisite】

Un niveau A2/B1 est nécessaire pour suivre ce cours de type séminaire.

【Outline and objectives】

During this first semester, students present - individually or in small groups - a social, cultural or historical theme on one or more countries of the French-speaking world. Each theme then continues to be studied over several sessions to allow for joint research and constructive debate among all students.

Some examples of possible themes: French-speaking areas (French-speaking Europe, French-speaking America, French-speaking Africa, overseas France, etc.); colonization; immigration; national identity and language; French-speaking popular cultures; French-speaking cinema or songs; etc.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランスの現代社会

PHILIPPE JORDY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Pendant ce second semestre, les étudiants, individuellement ou en petits groupes, présentent un thème social, culturel ou historique sur la France. Chaque thème continue ensuite d'être étudié pendant plusieurs séances pour permettre une recherche commune et un débat constructif entre tous les étudiants.

Quelques exemples de thèmes possibles : la crise sociale (les oppositions populaires aux "réformes"); histoire de la Ve République ; l'immigration ; la France dans l'Union Européenne ; les atouts de la France ; la gestion de la crise Covid ; etc.

【到達目標】

Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Ce cours prépare directement à un séjour en université francophone (cf. la méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau B1+) ou "kentei-shiken"(à partir du niveau 2). (この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Ce séminaire se déroule en français même si le japonais ou l'anglais peuvent être utilisés pour une analyse ou des documents précis.

Après la présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants, toute la classe continue ensuite l'étude de ce thème pendant une ou deux séances (lectures et comptes-rendus, débat, approfondissement de questions, résumé-synthèse). Ce travail de recherche en commun permet d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites, grâce à la pratique des moyens de recherche suivants :

- résumé écrit ou oral.
- compte-rendu de lecture ou de débat.
- commentaire de texte.
- dissertation (technique de plan, développement, rédaction), etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le premier semestre - choix des thèmes portant sur la France contemporaine - attribution des premiers exposés

②	Thème 1 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
③	Thème 1 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
④	Thème 1 (3)	Discussion et synthèse générales
⑤	Thème 2 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑥	Thème 2 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑦	Thème 2 (3)	Discussion et synthèse générales
⑧	Thème 3 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑨	Thème 3 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑩	Thème 3 (3)	Discussion et synthèse générales
⑪	Thème 4 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑫	Thème 4 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑬	Thème 4 (3)	Discussion et synthèse générales
⑭	Récapitulatif des thèmes vus en cours ; ouverture à de nouvelles problématiques	Dissertation individuelle rendue à ce dernier cours

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une présence, une préparation et une participation très régulières. Chaque étudiant doit se préparer à intervenir, à l'oral comme à l'écrit, à chaque séance.

(予習・復習・積極性厳守。本授業の準備・復習時間は2～4時間を標準とします。)

【テキスト（教科書）】

Des photocopies seront distribués (プリント配布).

Une liste d'ouvrages, adaptés aux thèmes retenus, sera aussi distribuée pour des lectures recommandées.

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.

(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

40% = participation (prise de parole, résumés, mini-tests, etc.) (積極性)

30% = exposé personnel de présentation (個人発表)

30% = devoir final (dissertation ou compte-rendu de lecture) (レポート)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faudra apprendre et réemployer les expressions et mots nouveaux (mini-tests de contrôle possibles).

Le travail par groupes sera organisé en fonction du nombre d'inscrits à ce cours.

【学生が準備すべき機器他】

Ce cours se déroule dans une classe LL. Les étudiants sont libres d'utiliser ordinateur personnel ou smartphone (recherches sur internet, enregistrement de sons ou d'images, etc.).

【その他の重要事項】

En principe, ce cours de printemps se déroule en présenciel mais une partie des cours pourront encore avoir lieu en ligne (distanciel).

【Prerequisite】

Un niveau A2/B1 est nécessaire pour suivre ce cours de type séminaire.

【Outline and objectives】

During this second semester, students, individually or in small groups, will present a social, cultural or historical theme about France. Each theme then continues to be studied over several sessions to allow for joint research and constructive debate among all students.

Some examples of possible themes: the social crisis (popular oppositions to "reforms"); history of the Fifth Republic; immigration; France in the European Union; the assets of France; Covid crisis in France; etc.

This is a seminar aimed at developing academic skills.

Intermediate and advanced level in French (B1/B2).

LANf300LA

フランス語コミュニケーション 2017年度以降入学者
(中・上級) A

PHILIPPE JORDY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants de niveau A1 (2 ou 3 semestres de français déjà effectués). Lire, comprendre, parler, écrire, ces 4 compétences sont activement travaillées. Ce cours présente aussi des éléments de la société et de la culture françaises.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants de niveau A1 de progresser méthodiquement vers un niveau A2 complet. C'est donc une préparation directe aux examens DELF A2 ou "kentei shiken" (仏検準2級・2級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Le manuel Édito A2 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier de travailler l'écrit ni d'étudier la grammaire et le vocabulaire de niveau intermédiaire. L'étudiant progresse avec confiance avec cette méthode complète et graduée. Elle permet aussi à l'étudiant de progresser seul en dehors des cours (révisions, compléments, périodes de vacances) grâce aux compléments du livre et aux ressources internet (site Didier).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Faisons connaissance ! Présentation de la méthode Édito et de l'unité 1 (pp.1-13)
2	Unité 1 : C'est la vie (1)	pp.14-17 : se présenter, parler de sa vie ; le passé composé
3	Unité 1 : C'est la vie (2)	pp.18-21 : sorties et loisirs ; la phrase négative
4	Unité 1 : C'est la vie (3)	pp.22-26 : le temps libre ; quizz
5	Unité 2 : Souvenirs, souvenirs (1)	pp.27-31 : le(s) souvenir(s) ; l'imparfait
6	Unité 2 : Souvenirs, souvenirs (2)	pp.32-35 : souvenirs de vacances ; pronoms de lieu "y" et "en"
7	Unité 2 : Souvenirs, souvenirs (3)	pp.36-40 : souvenirs de lieux ; préparation au DELF A2 (compréhension des écrits)
8	Unité 3 : À la recherche d'un toit (1)	pp.41-45 : le logement ; les pronoms relatifs
9	Unité 3 : À la recherche d'un toit (2)	pp.46-49 : se loger à Montréal ou à Paris ; la comparaison

10	Unité 3 : À la recherche d'un toit (3)	pp.50-54 : logements insolites ou futuristes ; les pronoms possessifs
11	Unité 4 : On n'arrête pas le progrès (1)	pp.55-59 : les innovations des sciences et techniques ; le futur simple
12	Unité 4 : On n'arrête pas le progrès (2)	pp.60-63 : smartphone et technologies de la communication ; la condition avec "si"
13	Unité 4 : On n'arrête pas le progrès (3)	pp.64-68 : internet ; le pronom "on"
14	Récapitulatif du 1er semestre	Préparation du DELF A2 (la production écrite) Test final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est exigée. A la fin de chaque cours, des exercices ou devoirs thématiques sont donnés à préparer pour le cours suivant (2 à 4 heures de préparation).

【テキスト（教科書）】

Édito niveau A2 ; Heu, Abou-Samra, Braud, Brunelle ; Éditions Didier ; ISBN : 978-2-278-08319-0

【参考書】

「かんたんフランス文法小辞典」、鈴木豊、他、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

Participation en classe : 40%

Tests et devoirs : 60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

Rythme de progression ralenti.

Importance du vocabulaire et de la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL mais les étudiants sont libres d'utiliser leur ordinateur personnel ou leur smartphone pour faire des recherches internet, utiliser le dictionnaire ou enregistrer des sons ou images.

【その他の重要事項】

Le cours se déroule en classe (présentiel) mais quelques séances peuvent encore se tenir en distanciel ("online").

【Prerequisite】

Un niveau A1 en français est indispensable pour participer à ce cours.

【Outline and objectives】

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically develop their oral and written communication, thus improving their overall communication skills up to the A2 level. Students general knowledge about french society or culture will also be extended.

LANf300LA

フランス語コミュニケーション 2017 年度以降入学者
(中・上級) B

PHILIPPE JORDY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau A1 très complet (3 à 4 semestres de français déjà effectués). Lire, comprendre, parler, écrire, ces 4 compétences sont activement travaillées. Ce cours présente aussi des éléments de la société et de la culture françaises.

【到達目標】

Ce cours, dont c'est le second semestre, permet aux étudiants de se rapprocher d'un niveau A2 complet. Il constitue donc une préparation directe aux examens DELF A2 ou "kentei shiken" (仏検準 2 級・2 級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Le manuel Édito A2 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier de travailler l'écrit ni d'étudier la grammaire et le vocabulaire de niveau intermédiaire. L'étudiant progresse avec confiance avec cette méthode graduée. Elle permet aussi à l'étudiant de progresser seul en dehors des cours (révisions, compléments, périodes de vacances) grâce aux compléments du livre et aux ressources internet (site Didier).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation Unité 5 : En forme ? (1)	Présentation du cours au 2nd semestre pp.69-72 : avoir la forme ; l'obligation et l'interdiction
2	Unité 5 : En forme ? (2)	pp.73-75 : le corps et la santé ; le subjonctif présent
3	Unité 5 : En forme ? (3)	pp.76-79 : la santé et la médecine ; verbes irréguliers au subjonctif
4	Unité 6 : Côté cuisine (1)	pp.83-87 : les aliments ; le pronom "en" de quantité
5	Unité 6 : Côté cuisine (2)	pp.88-91 : dîner au restaurant ; le superlatif
6	Unité 6 : Côté cuisine (3)	pp.92-96 : les saveurs ; l'adverbe en "-ment" ; préparation au DELF A2 (la production écrite)
7	Unité 7 : Qui se ressemble, s'assemble (1)	pp.97-100 : noms et prénoms ; les pronoms interrogatifs
8	Unité 7 : Qui se ressemble, s'assemble (2)	pp.101-103 : le caractère ; les adjectifs indéfinis

9	Unité 7 : Qui se ressemble, s'assemble (3)	pp.104-108 : le physique ; l'expression des sentiments
10	Unité 8 : L'actu en direct (1)	pp.111-117 : les supports de l'info ; la cause et la conséquence
11	Unité 8 : L'actu en direct (2)	pp.118-122 : séries télévisées, médias, radios et télé ; l'impératif (complément)
12	Unité 11 : On recrute (1)	pp.153-157 : les études ; la mise en relief
13	Unité 11 : On recrute (2)	pp.158-163 : le monde professionnel, votre CV ; le discours rapporté
14	Récapitulatif du 2nd semestre	Préparation du DELF A2 (p.124 : compréhension de l'oral et p.152 : la production orale) Test final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est exigée. A la fin de chaque cours, des exercices ou devoirs thématiques sont donnés à préparer pour le cours suivant (2 à 4 heures de préparation).

【テキスト（教科書）】

Édito niveau A2 ; Heu, Abou-Samra, Braud, Brunelle ; Éditions Didier ; ISBN : 978-2-278-08319-0

【参考書】

「かんたんフランス文法小辞典」、鈴木豊、他、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

Participation en classe : 40%

Tests et devoirs : 60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする

【学生の意見等からの気づき】

Rythme de progression ralenti.

Importance du vocabulaire et de la prononciation.

Plus de données culturelles.

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL mais les étudiants sont libres d'utiliser leur ordinateur personnel ou leur smartphone pour faire des recherches internet, utiliser le dictionnaire ou enregistrer des sons ou images.

【その他の重要事項】

Le cours se déroule en classe (présentiel) mais quelques séances peuvent encore se tenir en distanciel ("online").

【Prerequisite】

Un bon niveau A1 en français est indispensable pour participer à ce cours.

【Outline and objectives】

This course (second semester) is for intermediate students with a full A1 level in French. Students will methodically develop their oral and written communication, thus improving their overall communication skills up to the A2 level. Students general knowledge about french society or culture will also be extended.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 A 2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法。ロシア文字とその発音、最も基礎的な文法を 3 か月で学ぶ。ロシア語の学習は、文法の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指す。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を読んだり書いたりすることができる。簡単なロシア語の会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。

ポイントは以下の 4 点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。これらのポイントを、全部で 12 課のみのコンパクトな教科書を用いて順次学んでいきます。

文法の学習が中心ですので、文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。

例年 3・4 年生の履修者が多いことに配慮し、学習支援システムを活用することで、授業時間外での学習を行いやすいように工夫します。学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音 1	アルファベットとその発音
第 2 回	文字と発音 2	単語の発音
第 3 回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第 4 回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第 5 回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第 6 回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第 7 回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第 8 回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第 9 回	「（何々）の」、「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第 10 回	「（何々）に・へ」、「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第 11 回	「（何々）で・によつて」、「（何々）に取り組む」	名詞の造格、с я 動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化
第 12 回	「している／しおえる」	動詞の体（完了体／完了体）

- 第13回 形容詞、関係代名詞 形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化
- 第14回 期末試験、まとめと解説 文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

朝妻恵里子、クセーニヤ・ゴロウィナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021年、2000円＋税。
辞書は必要ありません。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社、2009年。
東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題、小テスト）20％、期末試験80％。
ロシア語は、学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするようにする。

【Outline and objectives】

Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語B 2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2単位

法文営国環キ 2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法。ロシア文字とその発音、最も基礎的な文法を3か月で学ぶ。ロシア語の学習は、文法の後、会話や文章に向かうのが効率的な言語であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指す。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を読んだり書いたりすることができる。簡単なロシア語の会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。
ポイントは以下の4点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。これらのポイントを、全部で12課のみのコンパクトな教科書を用いて順次学んでいきます。
文法の学習が中心ですので、文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。
例年3・4年生の履修者が多いことに配慮し、学習支援システムを活用することで、授業時間外での学習を行いやすいように工夫します。学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音1	アルファベットとその発音
第2回	文字と発音2	単語の発音
第3回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第4回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第5回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第6回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第7回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第8回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第9回	「（何々）の」、「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第10回	「（何々）に・へ」、「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第11回	「（何々）で・によつて」、「（何々）に取り組む」	名詞の造格、ся動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化
第12回	「している／しおえる」	動詞の体（完了体／完了体）

第13回 形容詞、関係代名詞 形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化

第14回 期末試験、まとめと解説 文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

朝妻恵里子、クセーニヤ・ゴロウィナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021年、2000円＋税。

辞書は必要ありません。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社、2009年。

東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994年。

【成績評価の方法と基準】

宿題 20%、期末試験 80%。

ロシア語は、学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするようにする。

【Outline and objectives】

Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 A

2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2単位

法文営国環キ 2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法の学習を終えた学生を対象とする解読と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。単語・文法（構文中心）の練習、文章作成の練習を行い、ロシア語の表現力を本格的に身につけます。

【到達目標】

社会・文化に関する中級ロシア語の文書をロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。読んだ文書に関する質疑応答ができること。

この授業はロシア語能力検定試験 3級、ロシア語能力試験（T P K II）A2レベルの受験勉強にも役立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

読みやすくてももしろい現代文学のテキストを解読し、単語・文法練習、聞き取り練習、文章作成の練習、会話練習を行います。授業への積極的な参加は、語学力アップにつながります。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援支援システム経由や提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

本授業はリアルタイムオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テキスト「インターネットのお陰で」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
2	テキスト「ボルシチ」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
3	テキスト「ロシア語が簡単」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
4	テキスト「女友達たち」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
5	テキスト「30年前のロシア」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
6	テキスト「ロシア語の体系」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
7	テキスト「バレエのチケット」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
8	テキスト「レストラン予約」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
9	テキスト「実践のための会話」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
10	テキスト「メール」	テキストの聴解、解読、質疑応答
11	テキスト「何故ですか」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
12	テキスト「悪い言葉」	テキストの聴解、解読、質疑応答
13	復習	試験対策
14	期末試験	筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題提出や単語学習などはオンラインで行います。そのために学習支援システムや自習ができるオンライン学習アプリケーションを使います。

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて読解プリントを配布します。ロシア語の音声ファイルの配布も学習支援システムで行います。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、小テスト、宿題、授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業を記録し、学習支援システムにて配信を行います。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PC など）、プリント、インターネット環境。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることができます。

【Outline and objectives】

This is a text reading and grammar-centered class for the students who have completed elementary Russian grammar. The students will read text related to Russian society and culture and learn intermediate grammar firmly.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 2017 年度以降入学者 B

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法の学習を終えた学生を対象とする読解と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。単語・文法（構文中心）の練習、文章作成の練習を行い、ロシア語の表現力を本格的に身につけます。

【到達目標】

社会・文化に関する中級ロシア語の文書をロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。読んだ文書に関する質疑応答ができること。

この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験（T P K II）A2 レベルの受験勉強にも役立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

読みやすくても面白い現代文学のテキストを解説し、単語・文法練習、聞き取り練習、文章作成の練習、会話練習を行います。授業への積極的な参加は、語学力アップにつながります。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

本授業は対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型授業ですが、具体的なスケジュールは学習支援システムでご参照ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テキスト「ロシア料理の歴史」前半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
2	テキスト「ロシア料理の歴史」後半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
3	テキスト「ロシアの天才たち」前半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
4	テキスト「ロシアの天才たち」後半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
5	テキスト「リコフ家」前半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
6	テキスト「リコフ家」後半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
7	テキスト「友達の作り方」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
8	テキスト「テレモク」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
9	テキスト「銀行員」前半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
10	テキスト「銀行員」後半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
11	テキスト「パヴェル・デュロフ」前半	テキストの読解、質疑応答、文法練習

12	テキスト「パヴェル・ テキストの聴解、解読、質疑応答 デュロフ」後半	
13	復習	試験対策
14	期末試験	筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題提出や単語学習などはオンラインで行います。そのために学習支援システムや自習ができるオンライン学習アプリケーションを使います。

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時におよび学習支援システムにて読解プリントを配布します。ロシア語の音声ファイルの配布は学習支援システムで行います。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、小テスト、宿題、授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業になった場合は授業を記録し、学習支援システムにて配信を行います。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PC など）、プリント、インターネット環境。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることができます。

【Outline and objectives】

This is a text reading and grammar-centered class for the students who have completed elementary Russian grammar. The students will read text related to Russian society and culture and learn intermediate grammar firmly.

LANr300LA

実用ロシア語 A

2017 年度以降入学者

エレーナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 1（ТРКИ-1、B1）を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験 1 級（ТРКИ-1）受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。音声データは授業支援システム経由でダウンロードできます。

本授業はオンライン授業になります。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介	リスニング、会話練習
2	家族の話	リスニング、会話練習
3	趣味の話	リスニング、会話練習
4	履歴の話	リスニング、会話練習
5	ロシア伝統	リスニング、会話練習
6	お祝い、プレゼント	リスニング、会話練習
7	お買い物、化粧品	リスニング、会話練習
8	お買い物、食料品	リスニング、会話練習
9	お買い物、洋服	リスニング、会話練習
10	休暇の話	リスニング、会話練習
11	ホテルの予約	リスニング、会話練習
12	どこに行きたい	リスニング、会話練習
13	総合復習	1～12 の復習
14	期末試験	筆記テスト・その解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声データを使った宿題があります。宿題提出や単語学習などはオンラインで行います。そのために学習支援システムや自習ができるオンライン学習アプリケーションを使います。

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムでプリント教材を配布します。

【参考書】

「大学のロシア語Ⅰ・基礎力養成テキスト」沼野恭子他（著） 東京外国語大学出版会

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50 % 宿題・授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業を記録し、学習支援システムにて配信を行います。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PC など）、プリント、インターネット環境。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や学生の能力に応じて授業内容は変更できます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr300LA

実用ロシア語 B

2017 年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 1（ТРКИ-1、B1）を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験 1 級（ТРКИ-1）受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。音声データは授業支援システム経由でダウンロードできます。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由で提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

本授業は対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型授業ですが、具体的なスケジュールは学習支援システムでご参照ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	リスニング、会話練習
2	家の話	リスニング、会話練習
3	部屋の話	リスニング、会話練習
4	家事	リスニング、会話練習
5	夢のキャリア	リスニング、会話練習
6	電話のエチケット	リスニング、会話練習
7	メールのエチケット	リスニング、会話練習
8	映画の話	リスニング、会話練習
9	いつも通うところ	リスニング、会話練習
10	ロシアの見物	リスニング、会話練習
11	街を歩く	リスニング、会話練習
12	空港にて	リスニング、会話練習
13	総合復習	1～12 の復習
14	期末試験	筆記テスト・その解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声データを使った宿題があります。宿題提出や単語学習などはオンラインで行います。そのために学習支援システムや自習ができるオンライン学習アプリケーションを使います。

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時および学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

「大学のロシア語Ⅰ・基礎力養成テキスト」沼野恭子他（著） 東京外国語大学出版会

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50 % 宿題・授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業になった場合は授業を記録し、学習支援システムにて配信を行います。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PC など）、プリント、インターネット環境。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や学生の能力に応じて授業内容は変更します。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr300LA

ロシア語講読 A

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。

基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	基礎練習（その 1）副動詞	不完了体副動詞と完了体副動詞の作り方と用法
2	基礎練習（その 2）能動形容動詞	能動形容動詞現在と能動形容動詞過去の作り方と用法
3	基礎練習（その 3）受動形容動詞	受動形容動詞現在と受動形容動詞過去の作り方と用法
4	文章講読（その 1）歴史	19 世紀
5	文章講読（その 2）文学	19 世紀
6	文章講読（その 3）思想	19 世紀
7	文章講読（その 4）政治・経済	19 世紀
8	文章講読（その 5）社会	19 世紀
9	文章講読（その 1）歴史	20 世紀ないし現代
10	文章講読（その 2）文学	20 世紀ないし現代
11	文章講読（その 3）思想	20 世紀ないし現代
12	文章講読（その 4）政治・経済	20 世紀ないし現代
13	文章講読（その 5）社会	20 世紀ないし現代
14	期末試験	露文和訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。授業中に小さなテキストが配られ、その場で訳する場合もある。

本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。
辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（訳文提出など）40 %、期末試験 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当。

【Outline and objectives】

This is an intermediate course for students who want to improve their reading skills. Students will read texts written with various themes. Basically they will translate them from Russian to Japanese, but also have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

LANr300LA

ロシア語講読 B

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。
様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。
基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います、複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	基礎練習（その 1）副動詞	不完了体副動詞と完了体副動詞の作り方と用法
2	基礎練習（その 2）能動形容動詞	能動形容動詞現在と能動形容動詞過去の作り方と用法
3	基礎練習（その 3）受動形容動詞	受動形容動詞現在と受動形容動詞過去の作り方と用法
4	文章講読（その 1）歴史	19 世紀
5	文章講読（その 2）文学	19 世紀
6	文章講読（その 3）思想	19 世紀
7	文章講読（その 4）政治・経済	19 世紀
8	文章講読（その 5）社会	19 世紀
9	文章講読（その 1）歴史	20 世紀ないし現代
10	文章講読（その 2）文学	20 世紀ないし現代
11	文章講読（その 3）思想	20 世紀ないし現代
12	文章講読（その 4）政治・経済	20 世紀ないし現代
13	文章講読（その 5）社会	20 世紀ないし現代
14	期末試験	露文和訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。授業中に小さなテキストが配られ、その場で訳する場合もある。

本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。
辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（訳文提出など）40 %、期末試験 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当。

【Outline and objectives】

This is an intermediate course for students who want to improve their reading skills. Students will read texts written with various themes. Basically they will translate them from Russian to Japanese, but also have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

LANr300LA

時事ロシア語 A

2017 年度以降入学者

油本 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。

【到達目標】

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的な文章の訳読を中心とする。語彙・文法事項の確認に加え、記事の内容についてのディスカッションも行う。講読する文章は受講者の関心に合わせて選定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	内政①	新聞記事の講読およびディスカッション
3	内政②	新聞記事の講読およびディスカッション
4	外交①	新聞記事の講読およびディスカッション
5	外交②	新聞記事の講読およびディスカッション
6	宗教①	新聞記事の講読およびディスカッション
7	宗教②	新聞記事の講読およびディスカッション
8	文化①	新聞記事の講読およびディスカッション
9	文化②	新聞記事の講読およびディスカッション
10	ビジネス①	新聞記事の講読およびディスカッション
11	ビジネス②	新聞記事の講読およびディスカッション
12	テクノロジー①	新聞記事の講読およびディスカッション
13	テクノロジー②	新聞記事の講読およびディスカッション
14	まとめ	半期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストの該当箇所を読み、単語の意味や文法事項を確認しながら日本語訳を準備する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、課題の取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】

各回のテーマは受講者の関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian. The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

LANr300LA

時事ロシア語 B

2017 年度以降入学者

油本 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。

【到達目標】

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的な文章の訳読を中心とする。語彙・文法事項の確認に加え、記事の内容についてのディスカッションも行う。講読する文章は受講者の関心に合わせて選定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	社会①	新聞記事の講読およびディスカッション
3	社会②	新聞記事の講読およびディスカッション
4	司法①	新聞記事の講読およびディスカッション
5	司法②	新聞記事の講読およびディスカッション
6	経済①	新聞記事の講読およびディスカッション
7	経済②	新聞記事の講読およびディスカッション
8	環境①	新聞記事の講読およびディスカッション
9	環境②	新聞記事の講読およびディスカッション
10	スポーツ①	新聞記事の講読およびディスカッション
11	スポーツ②	新聞記事の講読およびディスカッション
12	ナショナリズム①	新聞記事の講読およびディスカッション
13	ナショナリズム②	新聞記事の講読およびディスカッション
14	まとめ	半期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストの該当箇所を読み、単語の意味や文法事項を確認しながら日本語訳を準備する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、課題の取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】

各回のテーマは受講者の関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian. The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

LANc300LA

第三外国語としての中国語 A

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。秋学期「第三外国語としての中国語 B」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、小テストを行います。テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、初級の文法を理解し、初歩的な会話ができるようになることを目指します。授業中に小テストや授業の質問に対するフィードバックを適宜行います。

※本授業は対面とオンライン両方に対応します（ハイフレックス型）。

※第 1 週目（初回授業）はオンラインです。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」「発音 3」	「発音の基本」ピンインの「発音 3」
3	「発音 3」「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」「動詞述語文」
6	「第 7 課」「第 8 課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」
7	「第 9 課」「第 10 課」	「主述述語文」「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」「第 12 課」	「補語」「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」「第 14 課」	「動詞述語文 2」「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」「第 16 課」	「動詞述語文 4」「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」「第 18 課」	「動詞述語文 6」「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」「第 20 課」	「完了態」「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	まとめ	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など

そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 予習・復習状況（「e 宿題」） 20 %
- ② 小テスト・授業への参加度 40 %
- ③ 期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。授業形態はハイフレックス型に対応しますので、各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc300LA

第三外国語としての中国語 B

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。春学期「第三外国語としての中国語 A」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、小テストを行います。テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、初級の文法を理解し、初歩的な会話ができるようになることを目指します。授業中に小テストや授業の質問に対するフィードバックを適宜行います。

※本授業は対面とオンライン両方に対応します（ハイフレックス型）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」「第 22 課」	「経験態」「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」「第 24 課」	「形容詞述語文」
4	「第 25 課」「第 26 課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」1 課
5	「第 27 課」「第 28 課」	「名詞述語文」2 課
6	「第 29 課」「第 30 課」	「連体修飾語」「連用修飾語」
7	「第 31 課」「第 32 課」	「程度補語」「数量補語」
8	「第 33 課」「第 34 課」	「結果補語」「方向補語」
9	「第 35 課」「第 36 課」	「可能補語」「助動詞」
10	「第 37 課」「第 38 課」	「兼語文」「受け身表現」
11	「第 39 課」「第 40 課」	「把構文」「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	まとめ	「第 21 課から第 40 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 予習・復習状況（「e 宿題」） 20 %
- ② 小テスト・授業への参加度 40 %
- ③ 期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。授業形態はハイフレックス型に対応しますので、各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級 A 2017 年度以降入学者**周 重雷**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

構文をしっかりと覚える。

発音を正確にする。

日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルを確認した上、様々な会話パターンを作って練習していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	シラバスの配布と説明。
第 2 回	あいさつ	あいさつなどの日常用語を練習する
第 3 回	実力テスト	リスニングのテストを行う
第 4 回	会話（1）	自己紹介の練習をする
第 5 回	授業内発表（1）	自己紹介を発表する
第 6 回	基本構文（1） 自由会話	1、主語・述語・目的語 2、疑問文
第 7 回	基本構文（2） 自由会話	1、連体修飾語 2、連用修飾語
第 8 回	基本構文（3）	補語
第 9 回	会話（2）	食事する時の会話
第 10 回	授業内発表（2）	講師と一対一で食事の時の会話を する
第 11 回	会話（3）	買い物する時の会話パターン
第 12 回	授業内発表（3）	講師と一対一で買い物のシミュレーションをする
第 13 回	復習	文法の復習をする
第 14 回	まとめ	口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や発表の準備など、毎回 4 時間ほどの復習をする。

また、HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

発表：40 %

【学生の意見等からの気づき】

それぞれのレベルの差に配慮をする。

基本は対面授業ですが、参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS 等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級 B 2017 年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

「読む、書く、聞く、話す」を全体的にスキルアップを図る。
日常の中国語のコミュニケーションが取れるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルに合わせ、文法を復習しつつ、会話の練習を強化していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	自由会話	夏休みの出来事を話す
第 2 回	文法（1） 自由会話	複文のさまざまな
第 3 回	文法（2） 自由会話	プリントにある文法に関する問題を解く
第 4 回	会話（1）	落とし物に関する会話
第 5 回	授業内発表（1）	落とし物に関する会話を発表
第 6 回	会話（2）	病院での会話パターン
第 7 回	授業内発表（2）	講師と一対一で病院でのやり取りを練習する
第 8 回	会話（3）	道を尋ねる/教える
第 9 回	授業内発表（3）	講師と一対一で道順に関するやり取りをする
第 10 回	会話（4）	スピーチやものの語り方
第 11 回	授業内発表（4）	スピーチ/ものを語る
第 12 回	作文	作文の練習
第 13 回	授業内発表（5）	作文の発表
第 14 回	まとめ	口頭による試験を行う まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週 4 時間を目途に復習する。
単語を調べて、オリジナルの長文及び会話文を作る。
また、HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

発表：40 %

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 A

2017 年度以降入学者

薬 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、参加者が中国語の基礎的な翻訳、通訳のトレーニングを行うことにより、観光やビジネス及び日常生活に関わる場面で、日本人と中国人の簡単な交流を仲介する初歩的な翻訳・通訳能力を身につけることです。特に日本語から中国語への訳に重点が置かれます。

【到達目標】

参加者が簡単なメール文、ニュース、観光案内、ビジネス文書の初歩的な翻訳能力、観光、買い物、交通、キャンパスライフなど日常生活の場面での日本語表現を比較的流暢に通訳できるレベルへの到達すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態はハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業の組み合わせ）となります。『学習支援システム』において、各授業日における学習内容（テキスト及び説明（音声））は、『課題』フォルダで授業日別に提示し、学習終了後に課題が必要です。翻訳課題の模範解答は、課題提出締切後に次週課題に添付される形で提供します。対面授業では、課題の要点解説や文法事項の詳細な解釈及び質疑応答を行います。

学習内容については、ネットで取得可能なニュース、観光案内、ビジネス文書の翻訳練習、テーマ別に設定した、日常生活の場面での通訳練習を行い、簡単な内容から入り、次第に深化していくようにします。

課題等へのフィードバックは以下ようになります。

- (1) 対面授業時に説明します。
 - (2) 「授業内掲示板」で随時受け付けして回答します。
 - (3) 個別相談等は shin.yaku.56@hosei.ac.jp で随時受け付けして回答します。
- 付け。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方などに関する説明
2	図書館の紹介	翻訳・通訳練習
3	バイト先の紹介	翻訳・通訳練習
4	食堂の紹介	翻訳・通訳練習
5	交通案内	翻訳・通訳練習
6	高速道路の紹介	翻訳・通訳練習
7	お正月の紹介	翻訳・通訳練習
8	空港と航空会社	翻訳・通訳練習
9	ネット事情の紹介	翻訳・通訳練習
10	携帯電話の紹介	翻訳・通訳練習
11	法政大学の紹介	翻訳・通訳練習
12	音楽の紹介	翻訳・通訳練習
13	日本の温泉の紹介	翻訳・通訳練習
14	主な翻訳・通訳技法の定着と応用	総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々起こる出来事に注目し、中国文化への関心を持つことが、「訳す力」の基礎になりますので、とにかく日常的に意欲的に中国情報に接すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。各授業日に使用されるテキストは『課題』の授業日別フォルダに記載または添付します。

【参考書】

辞書類

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 65 %、最終課題 35 %とする。

1) 平常点について（1 回～13 回）

オンラインで提出する課題を対象に次の採点基準を採用します。

- ①提出期限内に提出し、必要な項目をすべて解答した場合の得点：満点
 - ②提出期限内に提出したが、解答していない必要な項目があった場合：配点の 6 割程度
 - ③提出期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、必要な項目をすべて解答した場合の得点：配点の 5 割程度
 - ④提出期限切れて（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、解答していない必要な項目があった場合の得点：配点の 2.5 割程度
- *対面授業または zoom によるオンライン授業に出席した場合、その日に設定される課題の提出はしなくても結構です。

2) 最終課題（14 回目）

当日提出、35 点分。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な作文練習をより多く取り入れます。

【Outline and objectives】

This lesson will conduct basic translation of Chinese and interpretation training. The aim is to acquire elementary translation and interpreting abilities corresponding to scenes related to sightseeing, business and everyday life. Especially emphasis is placed on translation from Japanese to Chinese.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 B

2017 年度以降入学者

薬 進

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、参加者が中国語の基礎的な翻訳、通訳のトレーニングを行うことにより、観光やビジネス及び日常生活に関わる場面で、日本人と中国人の簡単な交流を仲介する初歩的な翻訳・通訳能力を身につけることです。特に日本語から中国語への訳に重点が置かれます。

【到達目標】

簡単なメール文、ニュース、観光案内、ビジネス文書の初歩的な翻訳能力、観光、買い物、交通、キャンパスライフなど日常生活の場面での日本語表現を比較的流暢に通訳できるレベルへ到達すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態はハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業の組み合わせ）となります。『学習支援システム』において、各授業日における学習内容（テキスト及び説明（音声））は、『課題』フォルダで授業日別に提示し、学習終了後に課題が必要です。翻訳課題の模範解答は、課題提出締切後に、次週課題に添付される形で提供します。対面授業では、課題の要点解説や文法事項の詳細な解釈及び質疑応答を行います。

学習内容については、ネットで取得可能なニュース、観光案内、ビジネス文書の翻訳練習、テーマ別に設定した、日常生活の場面での通訳練習を行い、簡単な内容から入り、次第に深化していくようにします。

課題等へのフィードバックは以下のようにになります。

- (1) 対面授業時に説明します。
- (2) 「授業内掲示板」で随時受け付けして回答します。
- (3) 個別相談等は shin.yaku.56@hosei.ac.jp で随時受け付けして回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コンビニの紹介	翻訳・通訳練習
2	スーパーと百貨店の紹介	翻訳・通訳練習
3	新聞とテレビの紹介	翻訳・通訳練習
4	東京の名所の紹介	翻訳・通訳練習
5	京都の名所の紹介	翻訳・通訳練習
6	家電製品の話	翻訳・通訳練習
7	留学生との交流	翻訳・通訳練習
8	日本の会社について	翻訳・通訳練習
9	和食の紹介	翻訳・通訳練習
10	居酒屋の紹介	翻訳・通訳練習
11	日本の政治について	翻訳・通訳練習
12	日本の経済状況について	翻訳・通訳練習
13	日中関係について	翻訳・通訳練習
14	主な翻訳・通訳技法の定着と応用	総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々起こる出来事に注目し、中国文化への関心を持つことが、「訳す力」の基礎になりますので、とにかく日常的に意欲的に中国情報に接すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。各授業日に使用されるテキストは『課題』の授業日別フォルダに記載または添付します。

【参考書】

辞書類

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 65 %、最終課題 35 %とする。

1) 平常点について（1 回～13 回）

オンラインで提出する課題を対象に次の採点基準を採用します。

①提出期限内に提出し、必要な項目をすべて解答した場合の得点：満点

②提出期限内に提出したが、解答していない必要な項目があった場合：配点の 6 割程度

③提出期限切れて（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、必要な項目をすべて解答した場合の得点：配点の 5 割程度

④提出期限切れて（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、解答していない必要な項目があった場合の得点：配点の 2.5 割程度

*対面授業または zoom によるオンライン授業に出席した場合、その日に設定される課題の提出はしなくても結構です。

2) 最終課題（14 回目）

当日提出、35 点分。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な作文練習をより多く取り入れます。

【Outline and objectives】

This lesson will conduct basic translation of Chinese and interpretation training. The aim is to acquire elementary translation and interpreting abilities corresponding to scenes related to sightseeing, business and everyday life. Especially emphasis is placed on translation from Japanese to Chinese.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 C

2017 年度以降入学者

高田 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳 1 慣用句・略語・背景知識の重要性を学ぶ	L 1 北京案内 リプロダクション サイトトランスレーション 音読確認
3	翻訳 1 同形語 難訳単語・四字成語・慣用句	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳 2 役職名、敬称、ビジネスシーンの通訳心得	L 1 逐次通訳演習 L 3 企業内通訳 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳 2 省略するスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳 3 フォーマルな表現、定型文	L 3 逐次通訳演習 L 4 宴会挨拶 リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳 3 文章記号と表記ルール	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳

8	通訳3 数字、固有名詞、リサーチ	L 4 逐次通訳演習 L 5 中国事情 リプロダクション サイトトランスレーション
9	翻訳3 適訳の選択 補って訳すスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
10	通訳4 スピードを求められる通訳、報道の表現、専門用語	L 5 逐次通訳演習 L 7 気象 リプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳4 時事翻訳1	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ）
12	通訳5 講演の定型表現、現場での対応	L 7 逐次通訳演習 L 1 2 中国のIT市場
13	翻訳5 時事翻訳2	最新時事関連の応用翻訳（経済関連テーマ）
14	翻訳・通訳 総復習	既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。
通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材

通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % 期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書（スマートフォンの辞書アプリも可）

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Through lectures, reading comprehensions and translation exercises, students will learn translation theory and techniques, and improve their ability to use both Japanese and Chinese. In the process of translation practice, knowledge of the history, culture and social situation of Japan and China, as well as comparative language studies, will also be examined. Interpreting is a means of cross-cultural communication, and lectures based on interpreting theory are combined with practical interpreting training and exercises. In addition, the processes of listening, understanding, analysing, remembering and translating are examined through practice.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 D

2017 年度以降入学者

高田 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳1 日中間の制度の違い、教育関連用語	L 8 教育 リプロダクション サイトトランスレーション
3	翻訳1 日本語表現の工夫	テーマの要素を含む短文の翻訳 コロケーション
4	通訳2 パブリックスピーキング、敬語	L 8 逐次通訳演習 L 9 友好都市交流 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳2 訳す順序	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳3 目的語の省略、外来語	L 9 逐次通訳演習 L 10 ファッション リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳3 時事翻訳1	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ～1）
8	通訳4 要点の把握、聞き手への対応	L 10 逐次通訳演習 L 13 対中投資 リプロダクション サイトトランスレーション

9	翻訳 4 時事翻訳 2	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ～2）
10	通訳 5 司会進行、文語的表現	L 1 3 逐次通訳演習 L 1 4 環境問題（1） リプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳 5 時事翻訳 3	最新時事関連の応用翻訳（経済関連～1）
12	通訳 6	L 1 4 環境問題（2） 逐次通訳演習
13	翻訳 6 時事翻訳 4	最新時事関連の応用翻訳（経済関連～2）
14	翻訳・通訳 総復習	既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。
通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材

通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % 期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書（スマートフォンの辞書アプリも可）

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Through lectures, reading comprehensions and translation exercises, students will learn translation theory and techniques, and improve their ability to use both Japanese and Chinese. In the process of translation practice, knowledge of the history, culture and social situation of Japan and China, as well as comparative language studies, will also be examined. Interpreting is a means of cross-cultural communication, and lectures based on interpreting theory are combined with practical interpreting training and exercises. In addition, the processes of listening, understanding, analysing, remembering and translating are examined through practice.

LANc300LA

中国語講読 A

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）対策のための授業です。春学期は HSK 3, 4 級の読解を中心に扱います。読解には語彙力が必須です。そのため毎回授業で扱う本文の単語テストを行います。また本文に音声があれば、時間がある時に音声を聴き、リスニングに慣れる練習もする予定です。HSK 試験問題（閲読）に慣れておきたい方、ひとりで勉強するのが苦手な方、読解に苦手意識のある方、語彙力を増やしたい方はぜひ受講してください。

【到達目標】

中国語文の精読と速読を通して、HSK 3, 4 級レベルの読解力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

①単語テスト、②練習問題の答案作成、③答え合わせと翻訳・内容理解・文法の解説、④仕上げて本文の速読の練習を中心に授業を進めます。受講生の様子を見ながら無理なく進めていく予定です。また、授業中に適宜単語テストや授業の質問に対するフィードバックを行います。
※本授業は対面とオンライン両方に対応します（ハイフレックス型）。
※第 1 週目（初回授業）はオンラインです。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認を行います。
2	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題①	単語テスト（1） HSK 3, 4 級閲読練習問題①の答案作成・翻訳と解説
3	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題②	単語テスト（2） HSK 3, 4 級閲読練習問題②の答案作成・翻訳と解説
4	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題③	単語テスト（3） HSK 3, 4 級閲読練習問題③の答案作成・翻訳と解説
5	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題④	単語テスト（4） HSK 3, 4 級閲読練習問題④の答案作成・翻訳と解説
6	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題⑤	単語テスト（5） HSK 3, 4 級閲読練習問題⑤の答案作成・翻訳と解説
7	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題⑥	単語テスト（6） HSK 3, 4 級閲読練習問題⑥の答案作成・翻訳と解説
8	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題⑦	単語テスト（7） HSK 3, 4 級閲読練習問題⑦の答案作成・翻訳と解説

9	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題⑧	単語テスト（8） HSK 3, 4 級閲読練習問題⑧の 答案作成・翻訳と解説
10	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題⑨	単語テスト（9） HSK 3, 4 級閲読練習問題⑨の 答案作成・翻訳と解説
11	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題⑩	単語テスト（10） HSK 3, 4 級閲読練習問題⑩の 答案作成・翻訳と解説
12	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題⑪	単語テスト（11） HSK 3, 4 級閲読練習問題⑪の 答案作成・翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	単語テスト（12） HSK 3, 4 級閲読練習問題①～ ⑪の復習
14	まとめ	HSK 3, 4 級閲読練習問題①～ ⑪のまとめの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。事前に配布した単語を覚えてきてください。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 単語テスト 30 %
- ② 授業参加度 30 %
- ③ まとめの試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業形態はハイフレックス型に対応しますので、希望者は PC の機器の準備、インターネットができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

LANc300LA

中国語講読 B

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）対策のための授業です。秋学期は HSK 4, 5 級の閲読を中心に扱います。読解には語彙力が必須です。そのため毎回授業で扱う本文の単語テストを行います。また本文に音声があれば、時間がある時に音声を聴き、リスニングに慣れる練習もする予定です。HSK 試験問題（閲読）に慣れておきたい方、ひとりで勉強するのが苦手な方、読解に苦手意識のある方、語彙力を増やしたい方はぜひ受講してください。

【到達目標】

中国語文の精読と速読を通して、HSK 4, 5 級レベルの読解力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

①単語テスト、②練習問題の答案作成、③答え合わせと翻訳・内容理解・文法の解説、④仕上げて本文の速読の練習を中心に授業を進めます。受講生の様子を見ながら無理なく進めていく予定です。また、授業中に適宜単語テストや授業の質問に対するフィードバックを行います。

※本授業は対面とオンライン両方に対応します（ハイフレックス型）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認を行います。
2	HSK 4, 5 級閲読対策：練習問題①	単語テスト（1） HSK 4, 5 級閲読練習問題①の 答案作成・翻訳と解説
3	HSK 4, 5 級閲読対策：練習問題②	単語テスト（2） HSK 4, 5 級閲読練習問題②の 答案作成・翻訳と解説
4	HSK 4, 5 級閲読対策：練習問題③	単語テスト（3） HSK 4, 5 級閲読練習問題③の 答案作成・翻訳と解説
5	HSK 4, 5 級閲読対策：練習問題④	単語テスト（4） HSK 4, 5 級閲読練習問題④の 答案作成・翻訳と解説
6	HSK 4, 5 級閲読対策：練習問題⑤	単語テスト（5） HSK 4, 5 級閲読練習問題⑤の 答案作成・翻訳と解説
7	HSK 4, 5 級閲読対策：練習問題⑥	単語テスト（6） HSK 4, 5 級閲読練習問題⑥の 答案作成・翻訳と解説
8	HSK 4, 5 級閲読対策：練習問題⑦	単語テスト（7） HSK 4, 5 級閲読練習問題⑦の 答案作成・翻訳と解説

9	HSK 4, 5 級閲読対策：練習問題⑧	単語テスト (8) HSK 4, 5 級閲読練習問題⑧の 答案作成・翻訳と解説
10	HSK 4, 5 級級閲読対策：練習問題⑨	単語テスト (9) HSK 4, 5 級級閲読練習問題⑨ の答案作成・翻訳と解説
11	HSK 4, 5 級級閲読対策：練習問題⑩	単語テスト (10) HSK 4, 5 級級閲読練習問題⑩ の答案作成・翻訳と解説
12	HSK 4, 5 級級閲読対策：練習問題⑪	単語テスト (11) HSK 4, 5 級級閲読練習問題⑪ の答案作成・翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	単語テスト (12) HSK 4, 5 級級閲読練習問題① ～⑪の復習
14	まとめ	HSK 4, 5 級級閲読練習問題① ～⑪のまとめの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。事前に配布した単語を覚えてきてください。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 単語テスト 30 %
- ② 授業参加度 30 %
- ③ まとめの試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業形態はハイフレックス型に対応しますので、希望者は PC の機器の準備、インターネットができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 5th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

LANc300LA

資格中国語中級 A

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の 3 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 3 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK3 級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK3 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

※ [2021.03.17 追記] 大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達するので、必ず確認してください。

授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3 級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]
- ②リスニング問題の解説 [約 50 分]
- ③各種練習問題を通じたトレーニング [約 30 分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK3 級リスニング対策①	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (1-5) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK3 級リスニング対策②	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (6-10) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

4	HSK3 級リスニング対策③	HSK3 級リスニング問題の第二部分（11-15）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
5	HSK3 級リスニング対策④	HSK3 級リスニング問題の第二部分（16-20）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK3 級リスニング対策⑤	HSK3 級リスニング問題の第三部分（21-25）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK3 級リスニング対策⑥	HSK3 級リスニング問題の第三部分（26-30）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK3 級リスニング対策⑦	HSK3 級リスニング問題の第四部分（31-35）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK3 級リスニング対策⑧	HSK3 級リスニング問題の第四部分（36-40）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK3 級読解対策①	HSK3 級読解問題の第一部分（41-50）及び第二部分（51-55）の解説
11	HSK3 級読解対策②	HSK3 級読解問題の第二部分（56-60）及び第三部分（61-70）の解説
12	HSK3 級作文対策	HSK3 級作文問題（71-80）の解説
13	HSK3 級模擬試験と解説	HSK3 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	春学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSK リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあげておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしく くわしい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。

- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 3rd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

LANc300LA

資格中国語中級 B

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の 4 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 4 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK4 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK4 級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK4 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

※ [2021.03.17 追記] 大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達するので、必ず確認してください。

授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3 級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]

②リスニング問題の解説 [約 50 分]

③各種練習問題を通じたトレーニング [約 30 分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK4 級リスニング対策①	HSK4 級リスニング問題の第一部分 (1-5) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK4 級リスニング対策②	HSK4 級リスニング問題の第一部分 (6-10) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

4	HSK4 級リスニング対策③	HSK4 級リスニング問題の第二部分 (11-15) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
5	HSK4 級リスニング対策④	HSK4 級リスニング問題の第二部分 (16-20) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK4 級リスニング対策⑤	HSK4 級リスニング問題の第二部分 (21-25) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK4 級リスニング対策⑥	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (26-30) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK4 級リスニング対策⑦	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (31-35) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK4 級リスニング対策⑧	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (36-40) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK4 級リスニング対策⑨	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (41-45) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
11	HSK4 級読解対策	HSK4 級読解問題 (46-85) の解説
12	HSK4 級作文対策	HSK4 級作文問題 (86-100) の解説
13	HSK4 級模擬試験と解説	HSK4 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSK リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 %評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。

- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

LANc300LA

資格中国語上級 A

2017 年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力、翻訳力、作文力の向上を図ります。そして言葉の使い分け、日本語と中国語の違いを理解してもらいます。

【到達目標】

学校生活や日常生活に必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを基本にして読解力、翻訳力を高めます。そして作文の書き方を指導します。事前に用意してもらい、授業中みなさんの作文をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。授業開始前、授業中、授業後、時間があれば、ご質問に答えます。社会情勢に合わせてオンデマンドとオンライン授業（リアルタイム）を実施する場合があります。課題を提出して、問題点を説明します。個別にも指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	レベルチェック
2 回	第一課	方向補語など 目的語になる動詞句と主述句など
3 回	第一課	「的」の使い方のまとめ
4 回	第二課	比較の表現 逆接の表現など
5 回	第二課	振込み用紙の書き方など
6 回	第三課	結果補語 二重目的語など
7 回	第三課	動詞述語文用法のまとめ
8 回	第四課	可能補語 慣用形など
9 回	第四課	会話練習 葉書の書き方
10 回	第五課	連用修飾語 前置詞など
11 回	第五課	主語になる動詞句 お金のいい方 慣用形など
12 回	第六課	作文の練習
13 回	第六課	作文の校正
14 回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業に使うプリントの内容をしっかりと理解し、発音できると単文をちゃんと訳して用意しておくこと。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書を用意すること

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60点）、試験（40点）により総合評価します。

オンライン授業の場合、評価方法を変更する可能性があります。その時、お知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生に高く評価されていました。続けてこのやり方でやります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するため通信環境・PCの準備をしてください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

LANc300LA

資格中国語上級 B

2017 年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力、翻訳力、作文力の向上を図ります。

【到達目標】

学校生活や日常生活で必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回ちょっとしたスピーチをしてもらいます。その後翻訳の練習など。訳す力を高めると同時に、作文の書き方を指導します。事前に用意してもらい、授業中みなさんの作文をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

社会情勢に合わせてオンデマンドとオンライン授業（リアルタイム）を実施する場合があります。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	翻訳	形容詞など
2 回	翻訳	助動詞
3 回	翻訳	副詞・接続詞など
4 回	作文練習	文章記号と原稿用紙の使い方など
5 回	作文練習	作文指導
6 回	翻訳	予定・計画、願望・意志など
7 回	翻訳	推測、仮定、因果関係など
8 回	作文練習	作文指導
9 回	翻訳	伝聞、条件、選択など
10 回	翻訳	禁止、程度、複文など
11 回	作文練習	作文指導
12 回	翻訳	期待、要請、可能性など
13 回	作文の練習	作文指導
14 回	総復習	総まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業に使うプリントの内容をしっかりと理解し、発音できることと単文をちゃんと訳して用意しておくこと。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書を必ず用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60点）、試験（40点）により総合評価します。

オンライン授業の場合、評価方法を変更する可能性があります。その時、お知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生が高く評価してくれました。続けてこのやり方でやります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するため通信環境・PCの準備をしてください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

ARSe300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中国の食文化

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国において地理的な条件、気候風土、生活習慣などが人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー番組『舌尖上的中国』を教材として用いながら、地域の伝統的な食文化の伝承について理解を深めます。

【到達目標】

- ・映像資料の鑑賞・文献の翻訳を通して、中国語運用能力の向上を目指す。
- ・中国の地理、地域の特色、食材、調理方法、年中行事、生活習慣などへの調査を通して、多角的に食文化への理解を深める。
- ・各自で中華料理店を訪れ、地域の特色のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『舌尖上的中国』の内容に関するスクリプト（簡体字・ピンイン付）を毎回事前に配布しますので、各自で予習をしてきてください。授業では番組を鑑賞しながらスクリプトの翻訳を行います。中国語が不慣れな方も歓迎しますので、とくに読解と解説に重点を置いて授業を進めます。また、毎回授業の終わりに翻訳とリアクションペーパーを提出してもらいます。翌週の授業内でリアクションペーパー等に対するフィードバックを行います。

※本授業は対面とオンライン両方に対応します（ハイフレックス型）。※履修希望者数が定員（教室収容定員）を超えた場合、初回に抽選を行いますので、授業開始前までに仮登録を済ませてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明・確認
2	中国各地の三食（1）	天津の「煎ⓧ果子」：紅さんの露店にまつわる物語
3	中国各地の三食（2）	天津の「煎ⓧ果子」：紅さんの煎ⓧ果子の秘訣
4	中国各地の三食（3）	天津の「煎ⓧ果子」：地域に愛される紅さんの露店
5	中国各地の三食（4）	広州の点心：陳勛がつくる「叉焼包」
6	中国各地の三食（5）	広州の点心：陳勛がつくる「叉焼包」と点心四天王
7	中国各地の三食（6）	広州の「早茶」習慣と働く若者の朝食事情
8	中国各地の三食（7）	深圳の工場に働く若者と社食
9	中国各地の三食（8）	深圳の企業で働く湖南出身の夫婦と食

10	中国各地の三食（9）	上海音楽学院に通う娘を支える母手製の「紅焼肉」
11	中国各地の三食（10）	上海音楽学院に通う娘を支える母手製の「紅焼肉」（続）
12	中国各地の三食（11）	「高考（大学統一入学試験）」に挑む親子と食：「 ☐ 椒蒸 ☐ 」「蒿子 ☐ 」
13	中国各地の三食（12）	「高考（大学統一入学試験）」に挑む親子と食：「 ☐ 干子 ☐ 肉」
14	まとめ	春学期のふりかえり・レポートの発表と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場で配布します。

【参考書】

中央☐台☐道☐『舌尖上的中国』など

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 60 %（毎回のスクリプトの日本語訳の提出状況、リアクションペーパーの提出状況）
- ・レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業形態はハイフレックス型に対応しますので、希望者は PC の機器の準備、インターネットができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

ARSe300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中国の食文化

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国において地理的な条件、気候風土、生活習慣などが人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー番組『舌尖上的中国』を教材として用いながら、地域の伝統的な食文化の伝承について理解を深めます。

【到達目標】

- ・映像資料の鑑賞・文献の翻訳を通して、中国語運用能力の向上を目指す。
- ・中国の地理、地域の特色、食材、調理方法、年中行事、生活習慣などへの調査を通して、多角的に食文化への理解を深める。
- ・各自で中華料理店を訪れ、地域の特色のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『舌尖上的中国』の内容に関するスクリプト（簡体字・ピンイン付）を毎回事前に配布しますので、各自で予習をしてきてください。授業では番組を鑑賞しながらスクリプトの翻訳を行います。中国語が不慣れな方も歓迎しますので、とくに読解と解説に重点を置いて授業を進めます。また、毎回の授業前に担当箇所の仮訳を提出してもらい、授業の終わりに正しい翻訳とリアクションペーパーを提出してもらいます。翌週の授業内でリアクションペーパー等に対するフィードバックを行います。

※本授業は対面とオンライン両方に対応します（ハイフレックス型）。※履修希望者数が定員（教室収容定員）を超えた場合、初回に抽選を行いますので、授業開始前までに仮登録を済ませてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明・確認
2	中国各地の三食（1）	五穀の概念
3	中国各地の三食（2）	米食と広州の「河粉」
4	中国各地の三食（3）	陝西省西安名物の「肉夹 ☐ 」
5	中国各地の三食（4）	甘肅省蘭州の「蘭州拉麵」と広東省広州の「竹昇麵」
6	中国各地の三食（5）	陝西省岐山の「岐山臊子麵」
7	中国各地の三食（6）	蘇州の「楓鎮大肉麵」、武漢の「麵 ☐ 」「三鮮豆皮」「熱乾麵」
8	中国各地の三食（7）	蘇州の「楓鎮大肉麵」、武漢の「麵 ☐ 」「三鮮豆皮」「熱乾麵」（続）
9	中国各地の三食（8）	重慶の「牛肉麵」
10	中国各地の三食（9）	四川省樂山の周大姐が営む「麻辣 ☐ 」店
11	中国各地の三食（10）	四川省樂山の周大姐が営む「麻辣 ☐ 」店と「串串香」

発行日：2021/5/1

12	中国各地の三食（1）	ハルビンの孔さん自家製「酸菜」
13	中国各地の三食（2）	孔さんの息子が科学技術で作る「酸菜」
14	まとめ	秋学期のふりかえり・レポートの発表と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場で配布します。

【参考書】

中央×台×道×『舌尖上的中国』など

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 60 %（毎回のスクリプトの日本語訳の提出状況、リアクションペーパーの提出状況）
- ・レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業形態はハイフレックス型に対応しますので、希望者は PC の機器の準備、インターネットができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 A 2017 年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。
自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。
スペイン語が話されている国の概要を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合は Zoom によるリアルタイム双方向式で行う。講師が文法事項を説明し、履修生は音声聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。グループアクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習方法、スペイン語の特徴
2	挨拶	アルファベット、発音、アクセント、数詞 0～10
3	自己紹介	リスニングと会話練習、スペイン語圏の名前
4	職業	名詞の性数、冠詞、数詞 11～20
5	曜日	リスニングと会話練習、スペインのバル
6	スペイン語圏諸国	数詞 21～30、形容詞、主格人称代名詞、動詞 ser
7	人や物の描写	リスニングと会話練習、市場での買い物
8	小テスト、頻度表現	数詞 31～100、直説法現在規則動詞
9	習慣	リスニングと会話練習
10	服装・持ち物	指示詞、所有詞
11	日付、時刻	リスニングと会話練習、年中行事
12	場所を表す表現	動詞 ser, estar, hay
13	方角	リスニングと会話練習、道順、住居の問取り
14	期末試験、ふりかえり	春学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻博子／野村明衣『彩りスペイン語』朝日出版社、2021 年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）、小テスト（10 %）、期末試験（40 %）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

他の学生の発言や質問から学ぶことも多いので、対面でグループアクティビティも取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業ができなくなった場合、パソコンと安定したインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお薦めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 B 2017 年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

動詞の現在時制の活用と用法を覚える。
簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようにする。
スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合は Zoom によるリアルタイム双方向式で行う。講師が文法事項を説明し、履修生は音声聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。グループアクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日常生活	数詞 101～、直説法現在不規則動詞、直接目的格人称代名詞
2	旅行	リスニングと会話練習、スペイン語圏の世界遺産
3	買い物	語幹母音変化動詞、間接目的格人称代名詞
4	依頼、許可の表現	リスニングと会話練習、
5	義務の表現	動詞 tener, oír, decir, venir, ir
6	趣味	gustar 型動詞、前置詞格人称代名詞
7	体調	リスニングと会話練習
8	小テスト 天候	不定語・否定語、天候の表現
9	スペイン語圏の気候と自然	比較・最上級、リスニングと会話練習
10	一日のスケジュール	再帰動詞
11	道順	無人称文、序数
12	料理のレシピ	数量表現、動詞の復習
13	クリスマスと新年	お祝いのメッセージの書き方
14	期末試験、ふりかえり	秋学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻博子／野村明衣『彩りスペイン語』朝日出版社、2021 年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
 高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
 西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
 小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
 その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）、小テスト（10％）、期末試験（40％）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

他の学生の発言や質問から学ぶことも多いので、対面でグループアクティビティも取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業ができなくなった場合、パソコンと安定したインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。
 家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお薦めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

LANs300LA

スペイン語上級 A

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン S A 修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語で書かれた多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。

【到達目標】

DELE(B2) 程度のレベルを目指す。

具体的な目標は二つ①新聞や小説などの文章が理解できるようになる。②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

あらかじめ配布された講読資料をもとに、内容について詳しく見ていく。指名された学生は、スペイン語の文章の和訳を行なう。それについて、討議などを通じて全員で議論し、内容理解に努める。また、会話については、あらかじめ決められたテーマに沿って順番に発表してもらう。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。 教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	直説法現在形を中心とした文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	直説法現在進行形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	関係代名詞を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	再帰代名詞を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	過去完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	直説法点過去形を用いた文章の読解。

9	講読 8 ディスカッション (習慣)	直説法線過去形を用いた文章の読解。
10	講読 9 ディスカッション (文学)	現在分詞を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション (テクノロジー)	時の経過を表す表現を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション (移民)	感嘆文を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	直説法未来形を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	春学期授業のふりかえり。まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の授業で指定された資料にあらかじめ目を通しておくこと。わからない点については、事前に十分な予習をして授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他学生の発表の時の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の積極的な発言を促しながら授業を展開します。

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面形式で行われるが、場合によってはオンライン形式へ変更となることがある。その場合は「学習支援システム」上で通知するので、こまめなチェックを怠らないこと。

【Outline and objectives】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

LANs300LA

スペイン語上級 B

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン S A 修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語による多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。

【到達目標】

DELE(B2) 程度のレベルを目指す。

具体的な目標は二つ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

あらかじめ配布された講読資料をもとに、内容について詳しく見ていく。指名された学生は、スペイン語の文章の和訳を行なう。それについて、討議などを通じて全員で議論し、内容理解に努める。また、会話については、あらかじめ決められたテーマに沿って順番に発表してもらう。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。 教員による授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	テーマに関するディスカッション。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	直説法過去未来形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	分詞構文を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	直説法過去未来完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	感覚・使役の動詞を用いた文章の読解。

9	講読 8 ディスカッション (習慣)	接続法現在形を用いた文章の読解。
10	講読 9 ディスカッション (文学)	接続法現在完了形を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション (自由テーマ)	接続法過去形を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション (時事問題)	接続法過去完了形を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	願望文を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	秋学期のふりかえり。まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の授業で指定された資料にあらかじめ目を通しておくこと。わからない点については、事前に十分な予習をして授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他学生の発表の時の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面形式で行われるが、場合によってはオンライン形式へ変更となることがある。その場合は「学習支援システム」上で通知するので、こまめなチェックを怠らないこと。

【Outline and objectives】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.
The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.
Conducted in Spanish.

LANs300LA
スペイン語コミュニケーション中 2017 年度以降入学者級 A

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座はオンラインで実施する。Zoom を通じてリアルタイムで行う。この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行う。

【到達目標】

スペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回最初に Break Out Room を使って仲間同士で決まった 10 個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後、前回の復習をしてから、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。本授業には課題がない。期末には「日本の結婚式」についてスペイン語でレポートを書く必要がある。添削してからフィードバックは Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	10 個の質問 1 スペインの結婚式 1	スペイン語 1 結婚式の時間
2	10 個の質問 2 スペインの結婚式 2	スペイン語 2 セレモニーの後
3	10 個の質問 3 スペインの結婚式 3	自分の家 1 披露宴の進行
4	10 個の質問 4 スペインの結婚式 4	自分の家 2 披露宴での配置
5	10 個の質問 5 スペインの結婚式 5	趣味 1 踊りの時間 1
6	10 個の質問 6 スペインの結婚式 6	趣味 2 踊りの時間 2
7	10 個の質問 7 スペインの結婚式 7	趣味 3 踊りの時間 3
8	10 個の質問 8 スペインの結婚式 8	趣味 4 二次会
9	10 個の質問 9 スペインの結婚式 9	食べ物 1 ご祝儀 1
10	10 個の質問 10 スペインの結婚式 10	食べ物 2 ご祝儀 2
11	10 個の質問 11 スペインの結婚式 11	仕事 1 カトリック式結婚
12	10 個の質問 12 スペインの結婚式 12	仕事 2 民事婚
13	10 個の質問 13 スペインのカップル	買い物 1 信頼度
1		

14 10 個の質問 14 買い物 2
スペインのカップル トラブル
2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習はあらかじめ毎週お送りする PDF のお新しい語彙を覚えることと仲間同士で練習する 10 個の質問の答えを言えるように練習しておくことである。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通しておくこと。本授業の予習と復習時間は合わせて 60 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。
出席点ではありません → 60 %
2. 期末のレポートに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【その他の重要事項】

Se requiere un nivel medio de comprensión para tomar esta clase. La lengua básica empleada será el japonés, no obstante, se empleará el español en muchas ocasiones.

【Outline and objectives】

This course will be conducted online in real time through Zoom. In this course, you will try to improve vocabulary in order to get a better communication with others.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中級 B 2017 年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座はオンラインで実施する。Zoom を通じてリアルタイムで行う。この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行う。

【到達目標】

スペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回最初に Break Out Room を使って仲間同士で決まった 10 個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後前回の復習をしてから、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。本授業には課題がない。期末には「日本のクリスマス」についてスペイン語でレポートを書く必要がある。添削してからフィードバックは Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	10 個の質問 1 スペインのクリスマス	過ぎたこと 1 12 月 22 日
2	10 個の質問 2 スペインのクリスマス	過ぎたこと 2 クリスマス宝くじ
3	10 個の質問 3 スペインのクリスマス	子供の時 1 クリスマスイブ
4	10 個の質問 4 スペインのクリスマス	子供の時 2 クリスマスの飾り
5	10 個の質問 5 スペインのクリスマス	携帯電話 1 プレゼントをもらう日
6	10 個の質問 6 スペインのクリスマス	携帯電話 2 大晦日
7	10 個の質問 7 スペインのクリスマス	経験 1 年の越し方
8	10 個の質問 8 スペインのクリスマス	経験 2 運をもたらす服
9	10 個の質問 9 スペインのクリスマス	なぜ？ 1 お正月
10	10 個の質問 10 スペインのクリスマス	なぜ？ 2 1 月 5 日

- 11 10 個の質問 11 いつ？ 1
スペインのクリスマス 1月6日
- 12 10 個の質問 12 いつ？ 2
スペインのクリスマス 学校の始まり
- 13 10 個の質問 13 日本の習慣 1
スペインのクリスマス スペインの休暇
- 14 10 個の質問 14 日本の習慣 2
スペインの若者 失業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習はあらかじめ毎週お送りする PDF のお新しい語彙を覚えることとペア練習で使う 10 個の質問の答えを言えるように練習しておくことである。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通してくる必要がある。本授業の予習と復習時間は合わせて 60 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。出席点ではありません → 60 %
2. 期末レポートに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【その他の重要事項】

Se requiere un nivel medio de comprensión para tomar esta clase. La lengua básica empleada será el japonés, no obstante, se empleará el español en muchas ocasiones.

【Outline and objectives】

This course will be conducted online in real time through Zoom. In this course, you will try to improve vocabulary in order to get a better communication with others.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スペイン語圏の文化と社会を読み解く：スペイン前近代史編

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ゼミ形式でスペイン（およびスペイン国家形成以前のイベリア半島）の歴史を学ぶ。春学期は前近代（古代～近世）の通史を主軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、文化史や宗教史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】

- (1) スペイン前近代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の (1)、(2) に関する各自の考えを、プレゼンテーションとディベート、そして学期末レポートにおいて言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読と、それに基づく受講生のプレゼンテーションおよびディベートを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	先史時代のイベリア半島	先史時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
3	ローマ属州ヒスパニア	ローマ属州の時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
4	西ゴート王国	ローマ支配後のスペイン（イベリア）古代史について学ぶ。
5	スペイン史と三宗教	スペイン史とキリスト教、イスラーム、ユダヤ教との関係について学ぶ。
6	アル・アンダルス	イスラーム治下のスペイン（イベリア）中世史について学ぶ。
7	カスティーリャ王国	カスティーリャ中世史について学ぶ。
8	アラゴン連合王国	アラゴン中世史について学ぶ。
9	地中海世界と大西洋世界	二つの大洋にわたるスペイン史の広がりについて学ぶ。
10	カトリック両王の時代	近世初期のスペイン史について学ぶ。
11	スペイン帝国の「繁栄」と「衰退」	16、17 世紀のスペイン史について学ぶ。
12	絶対王政と啓蒙	18 世紀のスペイン史について学ぶ。

- 13 スペインの世界遺産 世界遺産を題材として、スペイン史への理解を深める。
- 14 春学期のまとめ スペイン（イベリア）前近代史を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、ISBN97847503441157、本体価格 2,000 円。

【参考書】

資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は教場にて適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014 年、ISBN 9784750340326、本体価格 5,800 円。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション：30 %、ディベートへの参加度：30 %、学期末レポート：40 %。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでスライドを使用する場合には、接続用の PC とアダプターは各自が用意すること。

【その他の重要事項】

スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide the students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading, presentation and discussion.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スペイン語圏の文化と社会を読み解く：スペイン近現代史編

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ゼミ形式でスペインの歴史を学ぶ。秋学期は近現代の通史を主軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、思想史や法制史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】

- (1) スペイン近現代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の (1)、(2) に関する各自の考えを、プレゼンテーションとディベート、そして学期末レポートにおいて言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読と、それに基づく受講生のプレゼンテーションおよびディベートを行う。課題等に対するフィードバックは授業内でいい、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足場めを行う。
2	旧体制の揺動	18 世紀末から 19 世紀初頭にかけてのスペイン史について学ぶ。
3	自由主義の芽生え	19 世紀前半のスペイン史について学ぶ。
4	第一共和政と王政復古体制	19 世紀後半のスペイン史について学ぶ。
5	近現代の政治思想と社会運動	政治と社会をめぐる思潮のスペインでの展開について学ぶ。
6	プリモ・デ・リベラ独裁	20 世紀初頭のスペイン史について学ぶ。
7	第二共和政	スペイン第二共和政について学ぶ。
8	内戦	スペイン内戦について学ぶ。
9	二つの世界大戦と国際政治	20 世紀スペインの国際関係史について学ぶ。
10	フランコ体制	フランコ体制の確立と展開について学ぶ。
11	民主化への道	フランコ体制の崩壊と民主化への過程について学ぶ。
12	自治州国家体制	現行制度でもあるスペインの自治州国家体制について学ぶ。
13	スペインの憲法	歴史的諸憲法を題材として、スペイン近現代史を総括する。

14 秋学期のまとめ 歴史的な理解をもとに、現在のスペインにおける諸問題を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、ISBN9784750344157、本体価格 2,000 円。

【参考書】

資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は授業内で適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014 年、ISBN 9784750340326、本体価格 5,800 円。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション：30 %、ディベートへの参加度：30 %、学期末レポート：40 %。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の再開後、プレゼンテーションでスライドを使用する場合には、接続用の PC とアダプターは各自が用意すること。

【その他の重要事項】

スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide the students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading, presentation and discussion.

LANs300LA

スペイン語講読 A

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、さまざまな時代や場所を舞台とするいくつかの物語を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれたいくつかの物語を、語彙、文法、表現等の観点から読み解いていく。課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

感染拡大予防措置を講じながら教室内での対面授業を行うことが困難であることから、本授業の形態は Zoom を通じたリアルタイムでのオンライン形式とする。授業形態の詳細や注意点は、学期開始に先立って学習支援システム上で公開するので、初回授業の前に必ず目を通しておくこと。

ただし以下の点は特に重要であるため、予め留意すること。

【下記の「授業計画」のうち、8 回目に予定している中間テスト、及び 14 回目に予定している期末テストについては、感染拡大予防措置を十分に講じること（マスクまたはフェイスシールドの着用徹底、教室内での会話の禁止等）を前提として、教室内での筆記試験を実施する。従って 8 回目及び 14 回のみ、教室に来て受験することを必須とし、他の形での受験は認めない。】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 語彙	教科書第 1 課の語彙確認
3	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 表現	教科書第 1 課の表現確認
4	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 文法	教科書第 1 課の文法復習
5	「私のビスケット」(Mis galletas) : 語彙	教科書第 2 課の語彙確認
6	「私のビスケット」(Mis galletas) : 表現	教科書第 2 課の表現確認
7	「私のビスケット」(Mis galletas) : 文法	教科書第 2 課の文法復習

8	中間テスト 「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares)：語彙	今学期の中間テストを実施 教科書第 3 課の語彙確認
9	「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares)：表現	教科書第 3 課の表現確認
10	「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares)：文法	教科書第 3 課の文法復習
11	「最後の仕事」(El último trabajo)：語彙	教科書第 4 課の語彙確認
12	「最後の仕事」(El último trabajo)：表現	教科書第 4 課の表現確認
13	「最後の仕事」(El último trabajo)：文法	教科書第 4 課の文法復習
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べるなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

サンティアゴ・フェラン、青木利夫『クエンタメ：スペイン語を学びながら楽しむ 8 つの物語-中級-』朝日出版社、2017 年、ISBN: 978-255-55087-9

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 %として総合的に評価する。

ただし新型コロナウイルスの感染状況の推移によっては、中間テスト及び期末テストを教室内での筆記形式で実施することが不可能となる場合も考えられるため、成績評価方法も変更の可能性がある。変更の場合は学習支援システムで速やかに通知するので、こまめに確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

本授業はリアルタイムでのオンライン形式で実施するので、パソコンおよびインターネット環境を必須とする。

【Outline and objectives】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

LANs300LA

スペイン語講読 B

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、さまざまな時代や場所を舞台とするいくつかの物語を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれたいくつかの物語を、語彙、文法、表現等の観点から読み解いていく。課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

感染拡大予防措置を講じながら教室内での対面授業を行うことが困難であることから、本授業の形態は Zoom を通じたリアルタイムでのオンライン形式とする。授業形態の詳細や注意点は、学期開始に先立って学習支援システム上で公開するので、初回授業の前に必ず目を通しておくこと。

ただし以下の点は特に重要であるため、予め留意すること。

【下記の「授業計画」のうち、8 回目に予定している中間テスト、及び 14 回目に予定している期末テストについては、感染拡大予防措置を十分に講じること（マスクまたはフェイスシールドの着用徹底、教室内での会話の禁止等）を前提として、教室内での筆記試験を実施する。従って 8 回目及び 14 回のみ、教室に来て受験することを必須とし、他の形での受験は認めない。】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha)：語彙	教科書第 5 課の語彙確認
3	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha)：表現	教科書第 5 課の表現確認
4	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha)：文法	教科書第 5 課の文法復習
5	「腸詰め」(La morcilla)：語彙	教科書第 6 課の語彙確認
6	「腸詰め」(La morcilla)：表現	教科書第 6 課の表現確認
7	「腸詰め」(La morcilla)：文法	教科書第 6 課の文法復習

- | | | |
|----|--|-------------------------------|
| 8 | 中間テスト
「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha)：語彙 | 今学期の中間テストを実施
教科書第 7 課の語彙確認 |
| 9 | 「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha)：表現 | 教科書第 7 課の表現確認 |
| 10 | 「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha)：文法 | 教科書第 7 課の文法復習 |
| 11 | 「ラビ」(El rabino)：語彙 | 教科書第 8 課の語彙確認 |
| 12 | 「ラビ」(El rabino)：表現 | 教科書第 8 課の表現確認 |
| 13 | 「ラビ」(El rabino)：文法 | 教科書第 8 課の文法復習 |
| 14 | 試験・まとめと解説 | 今学期の期末テストを実施
まとめと振り返りを行う |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

サンティアゴ・フェラン、青木利夫『クエンタメ：スペイン語を学びながら楽しむ 8 つの物語-中級-』朝日出版社、2017 年、ISBN: 978-255-55087-9

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 %として総合的に評価する。

ただし新型コロナウイルスの感染状況の推移によっては、中間テスト及び期末テストを教室内での筆記形式で実施することが不可能となる場合も考えられるため、成績評価方法も変更の可能性がある。変更の場合は学習支援システムで速やかに通知するので、こまめに確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

本授業はリアルタイムでのオンライン形式で実施するので、パソコンおよびインターネット環境を必須とする。

【Outline and objectives】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

